

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(20)

県道鹿屋環状線改修工事に伴う発掘調査報告書

神 野 牧 遺 跡

1997年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序 文

今回発掘調査報告書を刊行いたしました神野牧遺跡は、鹿屋市に所在します。鹿屋市は昔より多くの人々が生活を営み、文化を育んできた場所でもあります。その結果、多くの有形・無形の文化財が残され、埋蔵文化財につきましても数多くの遺跡が確認されています。また、発掘調査もこれまでに何回となく実施され、大きな成果を上げています。国道220号バイパス関係の発掘調査では、弥生時代の集落の発見で当時話題となった王子遺跡を始め、飯盛ヶ岡遺跡・榎崎遺跡・西丸尾遺跡等々記憶に新しいところです。

神野牧遺跡は県道鹿屋環状線改修工事に伴い、平成元年に鹿屋市教育委員会が確認調査を実施し、平成6年に当センターが緊急発掘調査を実施した遺跡です。その結果、縄文時代早期及び前期の集石遺構が検出され、また、縄文時代前期の曾畑式土器を中心に、縄文時代早期から晩期にかけて多くの遺物が出土しました。本書はこの発掘調査で得られた新たな成果をまとめたものですが、県民の皆様を始め多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、鹿屋市教育委員会をはじめ文化財保護の趣旨をご理解いただき本遺跡の発掘調査に多大なるご協力をいただきました地元の方々に心より感謝の意を表します。

平成9年3月

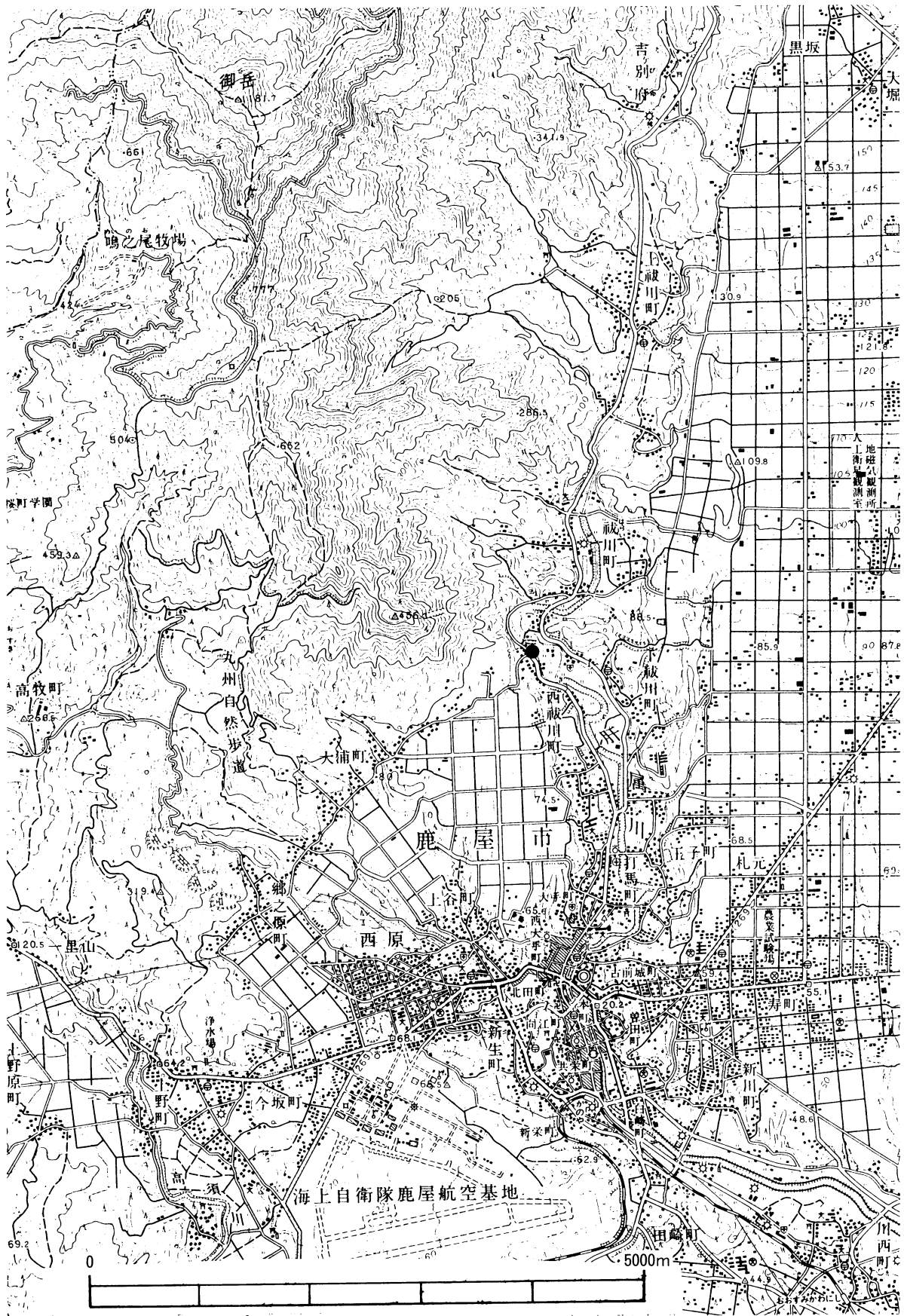
鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長 吉元正幸

報告書抄録

ふりがな	しんのまきいせき
書名	神野牧遺跡
副書名	県道鹿屋環状線改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	20
編著者名	倉元良文・中原一成
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-56 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL 0995-65-8787
発行年月日	西暦1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんのまきいせき 神野牧遺跡	鹿児島県鹿屋市 祓川神野牧	462039	12-35	31°24'40"	130°51'	1996.05.23 ~1996.09.14	1,030.5	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神野牧遺跡	包含地	縄文時代早期 〃 前期 〃 後期 〃 晩期	集石 16基 集石 3基	桑ノ丸Ⅲ類 押型文土器 塞ノ神式土器 轟式土器 曾畑式土器 深浦式土器 条痕文土器 市来式土器 指宿式土器	



第1図 遺跡位置図

例 言

- 1 本書は、鹿児島県鹿屋市祓川地区の県道鹿屋環状線改修に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は鹿児島県土木部の依頼を受け、鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本書の遺物番号は、集石内遺物・土器・石器ごとに付した。
- 4 発掘調査における測量・実測・写真撮影は、井ノ上・倉元・湯之前・中原が行った。
- 5 本書の実測及び浄書の分担は次のとおりである。

遺構・土器	～	倉元
石器	～	中原、立神
- 6 本書の遺物写真撮影については埋文センター文化財主事鶴田静彦（石器）と倉元（土器）が行った。
- 7 本書の執筆分担は次のとおりである。

第Ⅰ章～第Ⅴ章	～	倉元
第Ⅵ章	～	中原
第Ⅶ章	～	倉元・中原
- 8 発掘調査及び遺物に関する指導・助言は、河口貞徳氏に依頼した。

石器石材の鑑定は、県立博物館成尾英仁学芸主事に依頼した。
- 9 本遺跡の出土遺物・図面・写真は鹿児島県立埋蔵文化財センターが、保管・活用する

目 次

序 文	
報告書抄録	
遺跡位置図	
例 言	
目 次	
第I章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第II章 遺跡の位置及び環境	4
第III章 調査の概要	7
第1節 調査の概要	7
第2節 土 層	7
第IV章 遺 構	13
第1節 縄文時代早期の集石遺構	13
第2節 縄文時代前期の集石遺構	15
第V章 遺物（土器）	41
第1節 Ⅷ層の土器	41
第2節 Ⅴ層の土器	41
第3節 Ⅳ層の土器	73
第4節 Ⅲ層の土器	78
第VI章 遺物（石器）	90
第1節 Ⅷ層の石器	90
第2節 Ⅴ層の石器	95
第3節 Ⅳ層の石器	129
第VII章 まとめ	169

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	第36図 V層出土土器(9) …………… 54
第2図 周辺遺跡図 …………… 5	第37図 V層出土土器(10) …………… 55
第3図 基本土層図 …………… 8	第38図 V層出土土器(11) …………… 56
第4図 周辺地形図及び道路工事施行図 … 9	第39図 V層出土土器(12) …………… 57
第5図 グリッド配置図及び調査区域図 … 10	第40図 V層出土土器(13) …………… 58
第6図 土層断面図 …………… 11	第41図 V層出土土器(14) …………… 59
第7図 VII層地形図及び早期集石配置図 … 17	第42図 V層出土土器(15) …………… 60
第8図 V層地形図及び前期集石配置図 … 18	第43図 V層出土土器(16) …………… 61
第9図 早期1・2号集石 …………… 19	第44図 V層出土土器(17) …………… 62
第10図 早期3・4号集石 …………… 20	第45図 V層出土土器(18) …………… 63
第11図 早期5・6号集石 …………… 21	第46図 V層出土土器(19) …………… 64
第12図 早期7・8号集石 …………… 22	第47図 V層出土土器(20) …………… 65
第13図 早期9・10号集石 …………… 23	第48図 V層出土土器(21) …………… 66
第14図 早期11号集石 …………… 24	第49図 V層出土土器(22) …………… 67
第15図 早期12・13・14号集石 …………… 25	第50図 V層出土土器(23) …………… 68
第16図 早期15・16号集石 …………… 26	第51図 V層出土土器(24) …………… 69
第17図 前期1・2・3号集石 …………… 27	第52図 V層出土土器(25) …………… 70
第18図 集石内遺物(1) …………… 28	第53図 V層出土土器(26) …………… 71
第19図 集石内遺物(2) …………… 29	第54図 V層出土土器(27) …………… 72
第20図 集石内遺物(3) …………… 30	第55図 V層出土土器(28) …………… 74
第21図 VIII層土器出土状況 …………… 31	第56図 IV層出土土器(1) …………… 75
第22図 V層土器出土状況(1) …………… 33	第57図 IV層出土土器(2) …………… 76
第23図 V層土器出土状況(2) …………… 35	第58図 IV層出土土器(3) …………… 77
第24図 IV層土器出土状況 …………… 37	第59図 III層出土土器 …………… 78
第25図 III層土器出土状況 …………… 39	第60図 VIII層石器出土状況 …………… 91
第26図 VIII層出土土器(1) …………… 42	第61図 VIII層出土石器(1) …………… 93
第27図 VIII層出土土器(2) …………… 43	第62図 VIII層出土石器(2) …………… 94
第28図 V層出土土器(1) …………… 44	第63図 VIII層出土石器(3) …………… 95
第29図 V層出土土器(2) …………… 47	第64図 V層石器出土状況(1) …………… 97
第30図 V層出土土器(3) …………… 48	第65図 V層石器出土状況(2) …………… 99
第31図 V層出土土器(4) …………… 49	第66図 V層出土石器(1) …………… 109
第32図 V層出土土器(5) …………… 50	第67図 V層出土石器(2) …………… 110
第33図 V層出土土器(6) …………… 51	第68図 V層出土石器(3) …………… 111
第34図 V層出土土器(7) …………… 52	第69図 V層出土石器(4) …………… 112
第35図 V層出土土器(8) …………… 53	第70図 V層出土石器(5) …………… 113

第71圖	V層出土石器(6)	114
第72圖	V層出土石器(7)	115
第73圖	V層出土石器(8)	116
第74圖	V層出土石器(9)	117
第75圖	V層出土石器(10)	118
第76圖	V層出土石器(11)	119
第77圖	V層出土石器(12)	120
第78圖	V層出土石器(13)	121
第79圖	V層出土石器(14)	122
第80圖	V層出土石器(15)	123
第81圖	V層出土石器(16)	124
第82圖	V層出土石器(17)	125
第83圖	V層出土石器(18)	126
第84圖	V層出土石器(19)	127
第85圖	V層出土石器(20)	128
第86圖	V層出土石器(21)	129
第87圖	IV層石器出土狀況(1)	131

第88圖	IV層石器出土狀況(2)	133
第89圖	IV層出土石器(1)	138
第90圖	IV層出土石器(2)	139
第91圖	IV層出土石器(3)	140
第92圖	IV層出土石器(4)	141
第93圖	IV層出土石器(5)	142
第94圖	IV層出土石器(6)	143
第95圖	IV層出土石器(7)	144
第96圖	IV層出土石器(8)	145
第97圖	IV層出土石器(9)	146
第98圖	IV層出土石器(10)	147
第99圖	IV層出土石器(11)	148
第100圖	IV層出土石器(12)	149
第101圖	IV層出土石器(13)	150
第102圖	IV層出土石器(14)	151
第103圖	III層出土石器(1)	152
第104圖	III層出土石器(2)	153

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覽表	6
第2表	集石一覽表	15
第3表	集石内遺物(土器)一覽表	16
第4表	集石内遺物(石器)一覽表	16
第5表	土器觀察表(1)	79
第6表	土器觀察表(2)	80
第7表	土器觀察表(3)	81
第8表	土器觀察表(4)	82
第9表	土器觀察表(5)	83
第10表	土器觀察表(6)	84
第11表	土器觀察表(7)	85
第12表	土器觀察表(8)	86
第13表	土器觀察表(9)	87
第14表	土器觀察表(10)	88
第15表	土器觀察表(11)	89

第16表	石器觀察表(1)	154
第17表	石器觀察表(2)	155
第18表	石器觀察表(3)	156
第19表	石器觀察表(4)	157
第20表	石器觀察表(5)	158
第21表	石器觀察表(6)	159
第22表	石器觀察表(7)	160
第23表	石器觀察表(8)	161
第24表	石器觀察表(9)	162
第25表	石器觀察表(10)	163
第26表	石器觀察表(11)	164
第27表	石器觀察表(12)	165
第28表	石器觀察表(13)	166
第29表	石器觀察表(14)	167

図 版 目 次

図版 1	遺跡遠景他	175	図版 19	出土土器(10)	193
図版 2	早期 1・3号集石他	176	図版 20	出土土器(11)	194
図版 3	早期 4～6号集石	177	図版 21	出土土器(12)	195
図版 4	早期 8～9号集石	178	図版 22	出土土器(13)	196
図版 5	早期 11・12・14号集石	179	図版 23	出土土器(14)	197
図版 6	早期 16号・前期 1・2号集石	180	図版 24	出土土器(15)	198
図版 7	前期 3号集石・遺物出土状況	181	図版 25	出土土器(16)	199
図版 8	集石内遺物(1)	182	図版 26	出土石器(1)	200
図版 9	集石内遺物(2)	183	図版 27	出土石器(2)	201
図版 10	出土土器(1)	184	図版 28	出土石器(3)	202
図版 11	出土土器(2)他	185	図版 29	出土石器(4)	203
図版 12	出土土器(3)	186	図版 30	出土石器(5)	204
図版 13	出土土器(4)	187	図版 31	出土石器(6)	205
図版 14	出土土器(5)	188	図版 32	出土石器(7)	206
図版 15	出土土器(6)	189	図版 33	出土石器(8)	207
図版 16	出土土器(7)	190	図版 34	出土石器(9)	208
図版 17	出土土器(8)	191	図版 35	出土石器(10)	209
図版 18	出土土器(9)	192	図版 36	出土石器(11)	210

第I章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県土木部は、鹿屋市祓川地区において県道鹿屋環状線鹿屋祓川地内特殊改良工事を計画し、工事区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化課に照会した。この結果、工事区内に神野牧遺跡が所在することから県土木部・鹿屋市教育委員会・県教育庁文化課の三者協議の結果、確認調査を鹿屋市教育委員会が調査主体となり、平成元年1月から3月にかけて実施し、縄文時代前期を中心とする遺跡であることが判明した。

その後、県土木部と県教育庁文化課の協議がもたれた結果、県土木部からの受託事業として緊急発掘調査を実施し、記録保存の処置を講ずることとなった。調査は県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センターが平成6年5月から実施することとなった。報告書作成は平成8年度に行った。

第2節 調査の組織

【発掘調査】～平成6年度

事業主体	鹿児島県土木部		
調査主体	鹿児島県教育委員会		
調査企画	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	内村 正弘
	〃	次長兼総務課長	川原 信義
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
調査担当者	〃	文化財主事	倉元 良文
	〃	〃	井ノ上秀文
	〃	文化財研究員	湯之前 尚
	〃	〃	中原 一成
調査事務担当	〃	主 査	成尾 雅明
	〃	主 事	中村 和代

【報告書作成】～平成8年度

事業主体	鹿児島県土木部		
調査主体	鹿児島県教育委員会		
調査企画	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	吉元 正幸
	〃	次長兼総務課長	尾崎 進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
	〃	主任文化財主事兼調査課長補佐	新東 晃一

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	主任文化財主事兼第2調査係長	立神 次郎
調査担当者	〃	文化財主事	倉元 良文
	〃	文化財研究員	中原 一成
調査事務担当者	〃	主査	前屋敷祐徳
	〃	主事	追立ひとみ

第3節 調査の経過

発掘調査は、平成6年5月23日から9月14日まで実施した。以下、調査の経過については日誌抄をもってかえる。

平成6年5月23日～5月27日

プレハブ設置。発掘用具搬入。作業員に発掘調査に関する諸注意。先行トレンチ設定、掘り下げ。

5月31日～6月3日

先行トレンチ掘り下げ。グリッド設定。A-1・2・3・10・11・12区重機による表土除去。先行トレンチ掘り下げ。A-1・2・3・10・11区掘り下げ。A-1・2・3区安全フェンス設置。A-7・8区重機による表土除去。

6月6日～6月10日

A-1・2・3・10・12区掘り下げ。A-12・13区西側重機による土層確認。里道付け替え。A-10・11区北側土層断面実測。B-10・11区重機による表土除去。B-10・11区掘り下げ。

6月14日～6月17日

A・B-8・7・12区重機による表土除去。A-2・3・7・8区、A・B-10・11区、B-12区掘り下げ。A-12区集石清掃、写真撮影。A・B-10・11区遺物出土状況写真撮影、平板実測。作業風景、遺跡遠景写真撮影。

6月20日～6月24日

A・B-1・2・3区、A-10・11区、B-10・11・12・13区掘り下げ。A・B-1・2・3区、A-11区、B-10・11・12区遺物出土状況平板実測。A-12区集石写真撮影。A-6・7・8区南壁清掃、写真撮影。

6月28日～7月1日

A・B-1・7・8・10・11区、B-12区掘り下げ。A・B-1・10・11区遺物出土状況写真撮影及び平板実測。A・B-10・11・12区地形図実測。A-11区集石検出状況写真撮影、実測。

7月4日～7月8日

A・B-1・2・3・10・11区、A-7・8区、B-12・13区掘り下げ。A・B-1・2・3・10・11区遺物出土状況写真撮影、平板実測。A・B-11・12区集石実測。

7月11日～7月15日

A・B-1・2・3・10・11区、B-12・13区掘り下げ。A-10・11区、B-10・11・12・13区遺物出土状況平板実測。A-11・12区集石実測。

7月18日～7月22日

A・B-1・2・5・6区, A・B-10・11区, B-13区掘り下げ。A・B-5・6区表土除去。A-1・2・10・11区遺物出土状況平板実測。A・B-10・11区西側土層断面実測。

7月25日～7月29日

A・B-3・4・5・6区, A-10・11区掘り下げ。A-3・4・10・11区, B-12・13区遺物出土状況平板実測。B-2・11区, A-10・11区集石実測。A・B-1・2区南側土層断面実測。

8月2日～8月5日

A-3・4・5・6・7・8・9・10・11区, B-5・6・7・13区掘り下げ。A・B-3・4・5・6区遺物出土状況平板実測。A-10・11・12区南側土層断面清掃, 実測。A-11区集石写真撮影, 実測。

8月8日～8月11日

A-3・4・5・7・8・9・10・11・12区掘り下げ。A-10・11・12区遺物出土状況写真撮影, 平板実測。A・B-6区, B-12区集石写真撮影, 実測。A-9・10区南側土層断面清掃, 実測。B-9区重機による表層除去。

8月16日～8月19日

A・B-5・6・7・8・9区, A-3・4区掘り下げ。A-3・11区, A・B-12区集石写真撮影, 実測。A-3・4区南側土層断面実測。

8月22日～8月26日

B-1・2・3区重機によるアスファルト及び表土除去。A・B-8・9区, B-1区掘り下げ。A・B-8・9・10区遺物出土状況平板実測。A-12区集石実測。A-9区南側土層断面実測。

8月30日～9月2日

B-2・3・4・7・8区, A-8区掘り下げ。B-2・3・4区遺物出土状況平板実測。A-5・12区, B-6区集石実測。B-2区, A-5区, A-6区深掘りトレンチ土層断面実測。

9月5日～9月9日

B-4・5区重機によるアスファルト及び表土除去。A・B-7・8・9区, B-4・5区掘り下げ。A-8・9区, B-7・8・9区遺物出土状況平板実測。A-7・8・9区南側土層断面実測。B-4・5区北側土層断面実測。A・B-5・6区, A-7・8・9区地形図実測。

9月12日～9月14日

B-7区集石実測。器材撤去。調査終了。

第Ⅱ章 遺跡の位置及び環境

神野牧遺跡の所在する鹿屋市は大隅半島のほぼ中央部に位置し、昭和16年に三ヶ町村が合併して市政を施行し、大隅地方の中心都市となっている。東は曾於郡大崎町、肝属郡串良町・高山町・吾平町、南は肝属郡大根占町、北は曾於郡輝北町、北西部は垂水市と境を接し、西は鹿児島湾に面している。市の総面積は、234km²である。

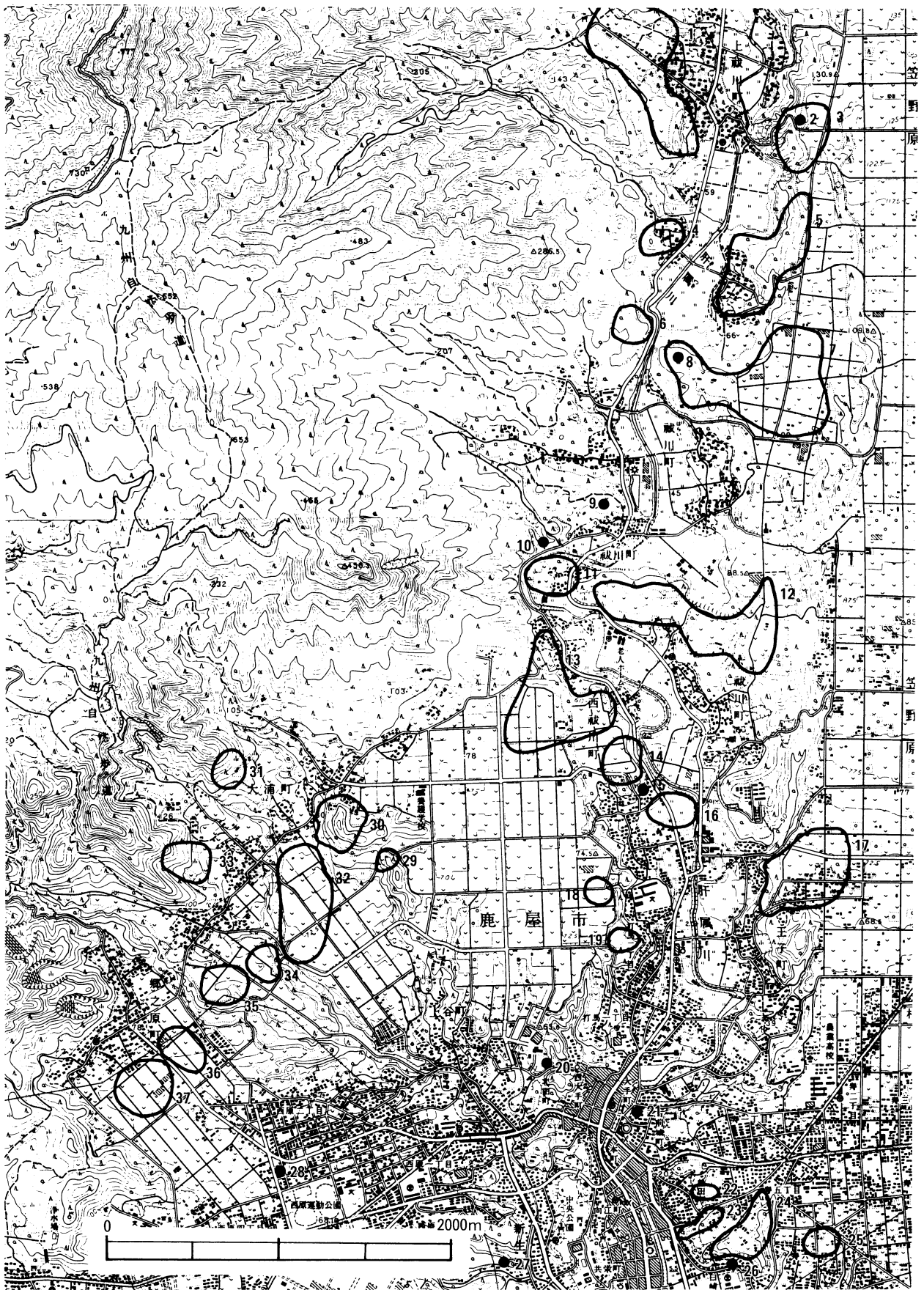
市の東北部には砂質岩・泥質岩・花崗岩からなる1,000m級の高隈山系が、西南部には安山岩、溶結凝灰岩よりなる700～800m級の肝属山系が連なる。その他の大部分は発達したシラス台地となっている。シラス台地は南九州に一般的に見られる地形であり、始良カルデラから噴出した火砕流堆積によるものである。一般的には生産性の低い土壌であるが、昭和42年に高隈ダムの完成により台地上への給水が始まり畑地として開発が進んだ。遺跡の脇を流れる肝属川は、高隈山系にその水源を有し、笠野原台地を侵食しながら市の中央部を南流し、市街地で南東方向へ流れを変え志布志湾へと流れ込む。

神野牧遺跡は、鹿屋市祓川神野牧に所在する。鹿屋市のほぼ中央部、市街地の北側で、高隈山系の東南端にある樋ヶ平山の裾部に広がる大須原台地の東端から肝属川の河岸段丘までの広い範囲に位置する。今回調査を実施したのは神野牧遺跡の範囲のうち、肝属川右岸の河岸段丘部分で標高は約40mの道路工事区域にかかる部分である。

昭和52年当時は市内で17ヶ所の遺跡が確認されていたが、現在では約200ヶ所もの遺跡を数える。昭和54年から一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査では数多くの成果が得られている。本遺跡の対岸の台地上にある王子遺跡は、弥生時代中期から後期にかけての住居跡や掘立柱遺構等の検出で注目を集めた。その他、肝属川流域には数多くの遺跡が確認されている。本遺跡から数百m下流には、昭和25年農道工事により祓川地下式横穴が発見され短甲、衝角付冑、直刀、剣等が出土した。さらに下流の打馬平原遺跡では縄文時代早期前期の資料が数多く確認されている。また、本遺跡から上流に約200mの右岸には河岸段丘上に立地する中野遺跡がある。さらに、上流には上祓川遺跡群が所在し、昭和58年に調査が実施されている。

〈参考文献〉

- | | | | |
|----------|--------------------------|------|----------------|
| 「神野牧遺跡」 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(14) | 1989 | 鹿屋市教育委員会 |
| 「谷平遺跡」 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(15) | 1989 | 鹿屋市教育委員会 |
| 「岡泉遺跡」 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(28) | 1993 | 鹿屋市教育委員会 |
| 「飯盛ヶ岡遺跡」 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(3) | 1993 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター |
| 「西丸尾B遺跡」 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4) | 1994 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター |



第2図 周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	上祓川遺跡郡	上祓川町楠原他	舌状台地	縄文～歴史	土器片・石器	昭和58・59年度調査
2	日ヶ城跡	上祓川町芝原	台地	南北朝～戦国		
3	芝原	上祓川町芝原	舌状台地	古墳	土器片・石斧	
4	山外森	上祓川町山外森	舌状台地	古墳	土器片	昭和53年度調査
5	大窪	上祓川町大窪	台地	縄文～古墳	土器片	昭和58・59年度調査
6	瀬戸ノ上	上祓川町瀬戸ノ上	傾斜地			
7	石仏頭	中祓川町石仏頭	台地	弥生～古墳	土器片	昭和58・59年度調査
8	瀬戸城跡	祓川町瀬戸口	台地	鎌倉～南北朝		
9	長谷城跡	祓川町長谷	丘陵	鎌倉～戦国		
10	鹿屋一谷城跡	西祓川町一ノ谷	山麓	南北朝～戦国		
11	中野	祓川	微高地	古墳	石斧	昭和53年度調査
12	堀之牧遺跡郡	中祓川堀之牧	台地	弥生・古墳	土器片	昭和56年度調査
13	神野牧	西祓川町神野牧	台地	縄文	土器片・石器	平成元年度確認調査
14	薬師堂	西祓川町下中原前	台地	弥生・古墳		昭和58年度調査
15	西祓川	西祓川町井之上	平地	5C半以前	短甲衝角付冑	
16	西祓川	西祓川町	微高地	縄文～古墳	土器片	昭和57年度調査
17	王子	王子町王子	台地	縄文・弥生・古墳	土器片・弥生中期集落	昭和56～59年度調査
18	打馬	打馬町	台地	古墳	土器片	昭和53年度調査
19	平原古墓	打馬町平原	台地			
20	鹿屋城跡	北田町	台地	鎌倉～南北朝		
21	古前城跡	古前城町	台地	鎌倉～南北朝		
22	寿三丁目	寿	台地	古墳	土器片	昭和57年度調査
23	曾田	曾田町	台地	古墳	土器片	昭和57年度調査
24	白崎	白崎町	台地	古墳	土器片	昭和57年度調査
25	寿六丁目	寿	台地	古墳	土器片	昭和57年度調査
26	高付	白崎町弥生団地	水田	弥生・古墳	土器片・石包丁	昭和58年度調査
27	白崎城跡	白崎町	台地	南北朝～戦国		
28	鹿屋古城跡	新生町	丘陵	南北朝初期	弥生式土器	完消
29	久恵城跡	西原町	丘陵	南北朝～戦国		
30	榎田下	大浦町榎田下	台地	縄文		昭和60・61年調査
31	大浦	大浦町	台地	縄文・古墳	地下式横穴・土器片	昭和53年度調査
32	耳取ヶ丘	大浦町耳取ヶ丘	傾斜地			
33	中ノ原	大浦町中ノ原	台地	縄文・弥生		昭和60・61年調査
34	郷之原	郷之原	山麓	縄文・古墳	土器片・石器	昭和53年度調査
35	中ノ丸	大浦町中ノ丸	台地	弥生・近世		昭和60・61年調査
36	川の上	大浦町松橋川の上	丘陵	古墳	土器片	昭和53年度調査
37	中原山野	郷之原町中原山野	台地	縄文・弥生		昭和62・63年調査

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査の概要・方法

調査は、平成6年5月23日から同年9月14日まで実施した。

工事図面のNo.7とNo.11のセンター杭を基準にして10mグリッドを設定した。北側をA区、南側B区とし、山側から川に向かって0区から13区とした。

調査は、平成元年に鹿屋市教育委員会が実施した確認調査時にトレンチを設定できなかったA-7・8・9区に幅2mの細長いトレンチを設定し調査を開始した。その結果、縄文時代前期の遺物包含層が調査区内全域に広がることを確認した。

その後、0・1・2・3・4・10・11・12・13区の表土及びⅡ層を重機で除去した。Ⅲ～Ⅴ層は、人力で掘り下げた。

確認調査では地表面からの深さが2mに及んだ段階で安全性から下層の調査は実施していなかった。そこで、今回はⅤ層の調査が終了した12・13区で下層確認をしたところⅧ層から集石を検出し、1・2区のⅤ・Ⅷ層からも遺物の出土を確認した。その結果、縄文時代早期の調査及び現道部分の調査が必要となり、鹿屋土木事務所と協議の結果、調査期間を延長して対応することとなった。Ⅵ・Ⅶ層は無遺物層であったため重機で除去した後、Ⅷ層の調査を行った。

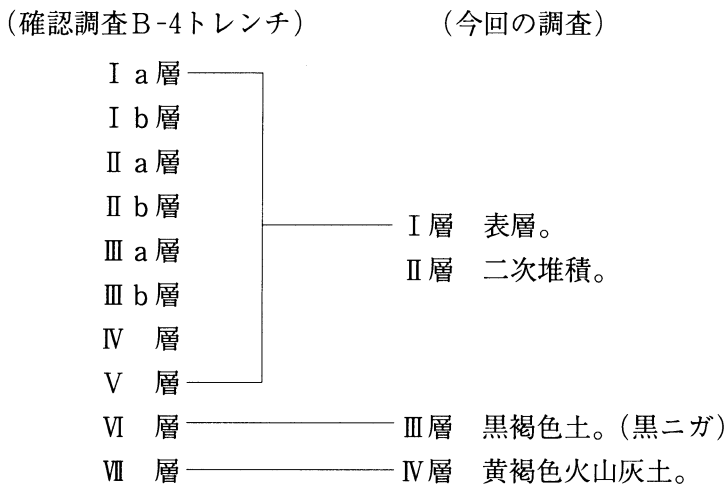
Ⅸ層以下についてはⅫ層までトレンチで調査を行ったが遺構・遺物とも確認できなかった。

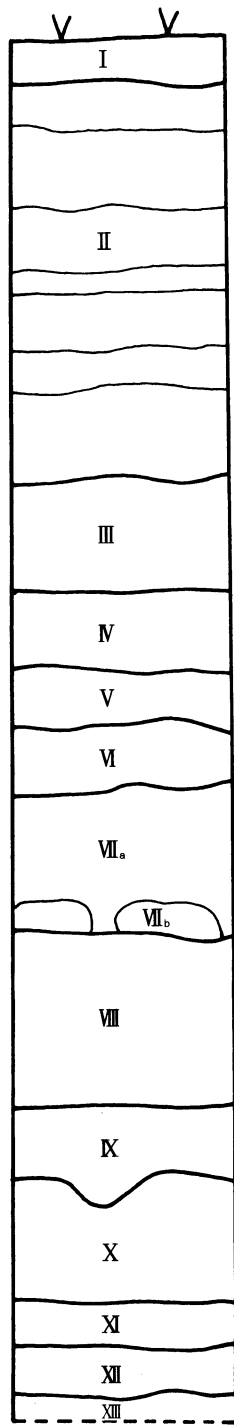
調査の結果、Ⅷ層から縄文時代早期の集石を16基、Ⅴ層から縄文時代前期の集石を3基検出した。Ⅷ層からは縄文時代早期の押型文土器・桑ノ丸タイプ・塞ノ神式土器等が出土し、Ⅴ層からは縄文時代前期の轟B式土器・曾畑式土器・深浦式土器等が出土した。Ⅳ層は土砂崩れによる堆積層であると思われるが、縄文時代前期から後期までの遺物が出土した。

調査面積は、1,030.5㎡であった。

第2節 土層

本遺跡の基本的な層序は第3図のとおりであるが、肝属川に近づくにつれて土層の堆積は不安定となる。確認調査時のB-4トレンチの土層と次のように対比できる。





第3図 基本土層図

I層： 表層

II層： A-10区付近では7層に分層できる。白色砂質土（シラスの二次堆積）と灰褐色土との互層となる。

III層： 黒褐色土。場所によっては削平を受ける。

IV層： 黄褐色火山灰土。2区では部分的に1～5mm程度の小礫を含む。

V層： 濃茶褐色粘質土で場所によっては暗黄褐色を呈し、池田軽石が満遍無く入る。8区ではIV・V層に厚さ4cm程度の黄褐色から青灰色の砂層が長さ2～3m入る。

VI層： 明黄褐色火山灰土。アカホヤ火山灰の二次堆積と思われる。オレンジ色の軽石を含む。A-9区では下面に青砂が薄く堆積する。

VII層： アカホヤ火山灰。9区では10cm程度と薄い、3区付近では下部に黄橙色軽石がブロック状に入る。

VIII層： 淡黄褐色粘質土。9区中央部付近から川方向へは粘質が強くなり乳白色となるが、山側へはしっかりと堆積する。2区付近では淡茶褐色を呈し、上部はやや明るく・やや砂質となり、下部はやや暗く・やや粘質が強くなる。

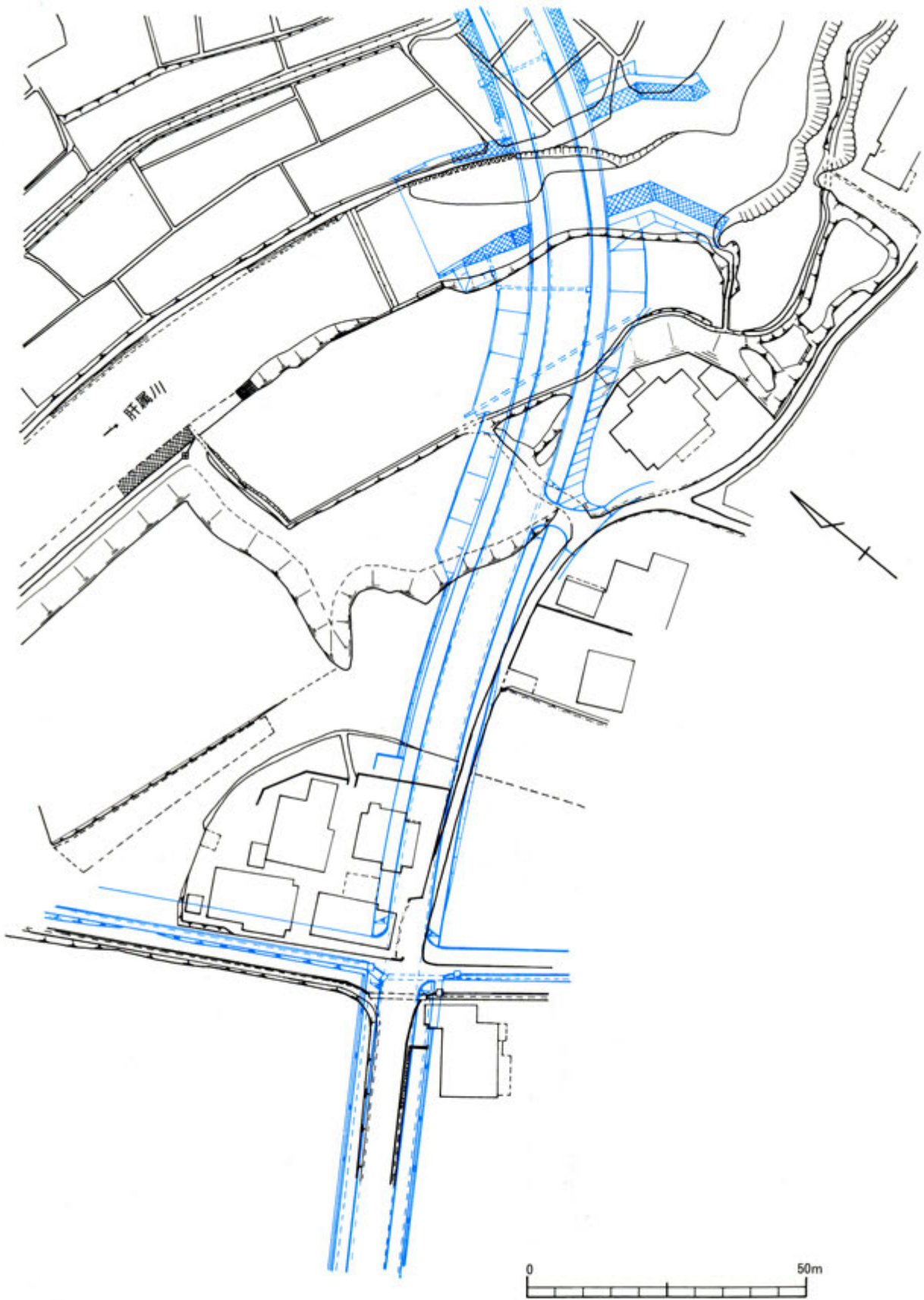
IX層： 黒褐色土。8・9区では茶褐色を呈し、強粘質となる。

X層： 黄褐色火山灰土（サツマ火山灰）。場所によっては、IX層の下にはサツマはなく青白色砂層となったり、IX層の下部にブロック状に堆積したりする。

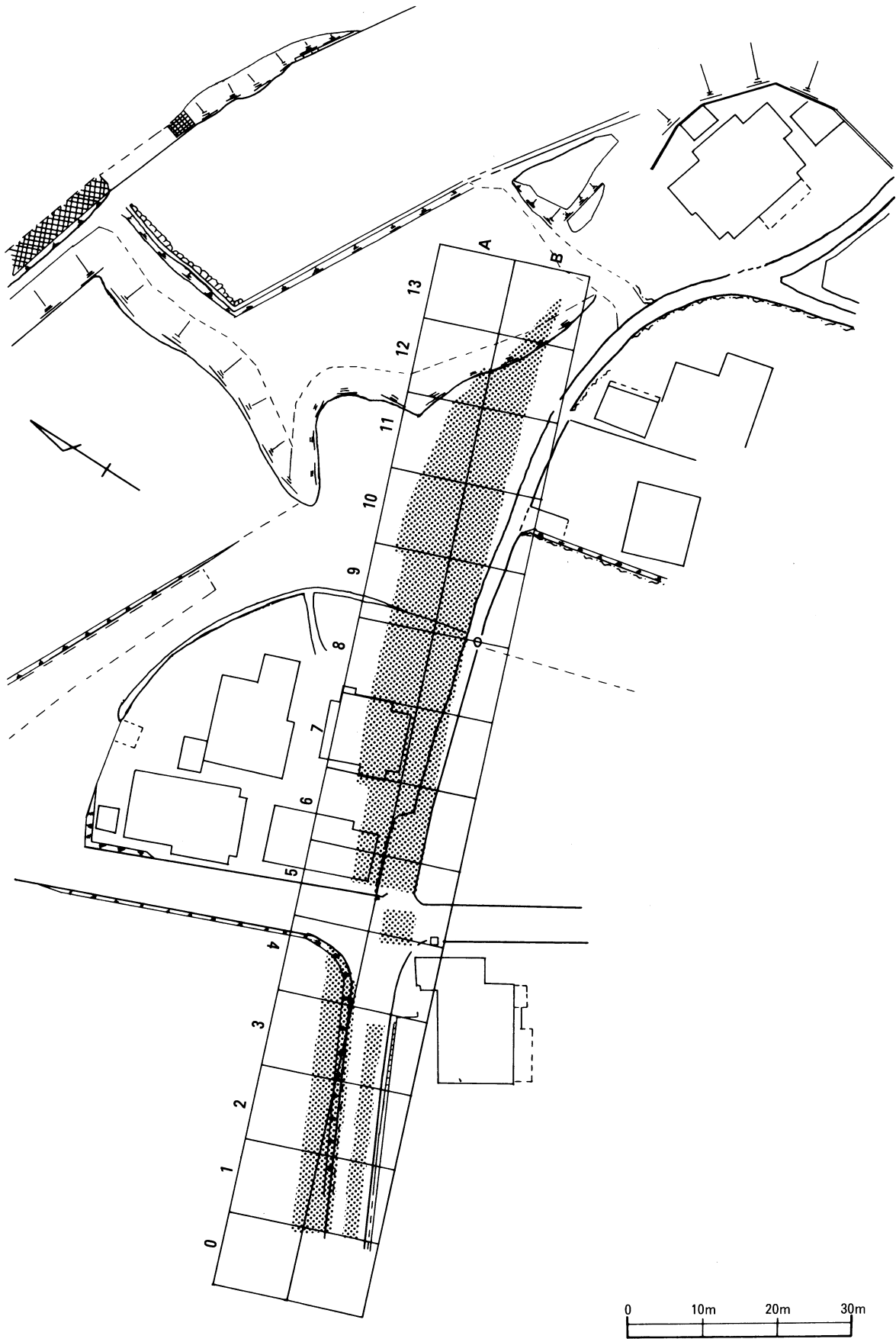
XI層： 茶褐色粘質土（チョコ）。斜面ではXII層との境が明確でない。7区では礫混じり、1区では暗茶褐色を呈する。

XII層： 砂礫層。大礫を中心とするが、7区では小礫混じりで乳白色から黄褐色を呈す。

XIII層： 砂礫層

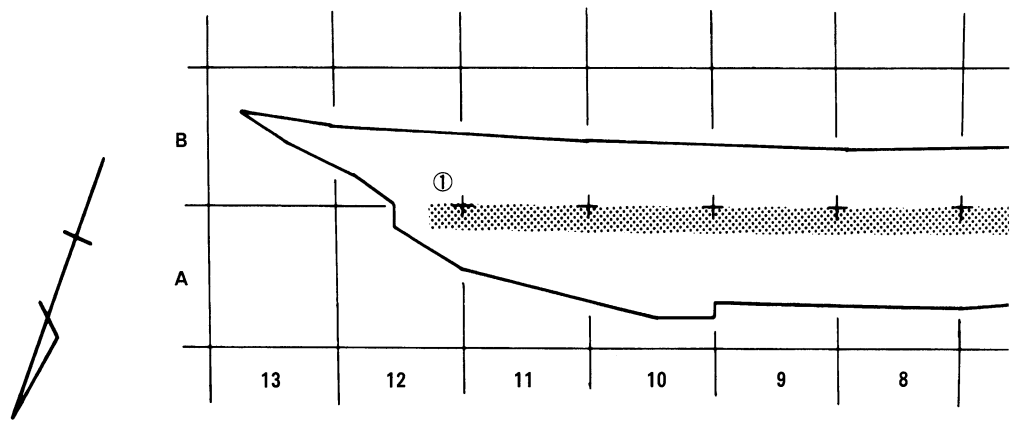
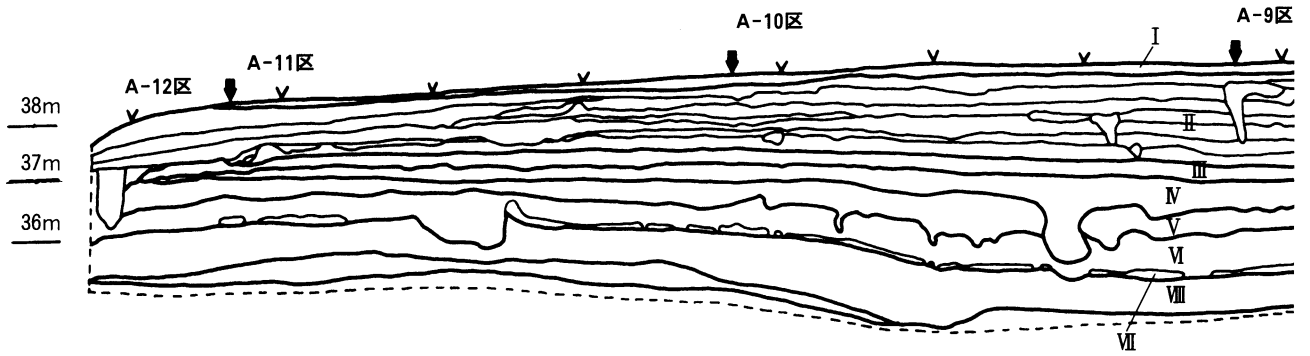


第 4 図 周辺地形図及び道路工事施行図

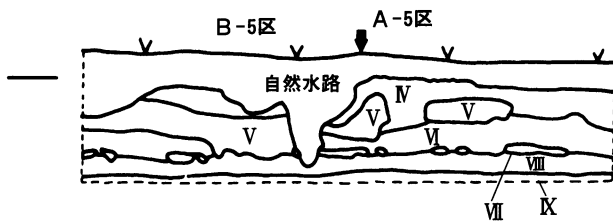


第5図 グリッド配置図及び調査区域図

① A-7~12区南侧土层断面图



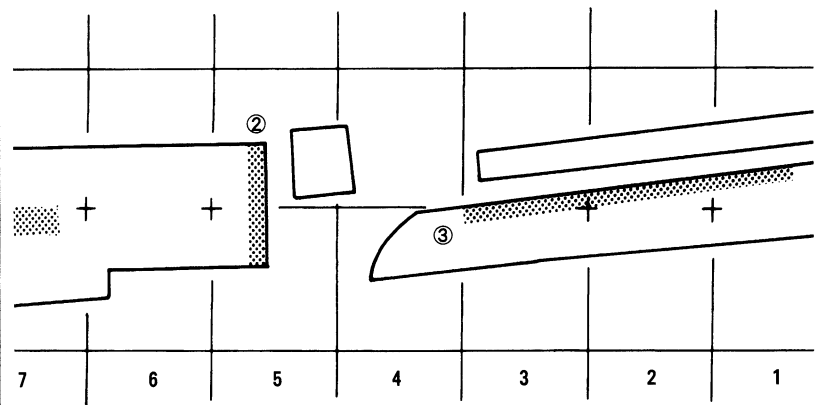
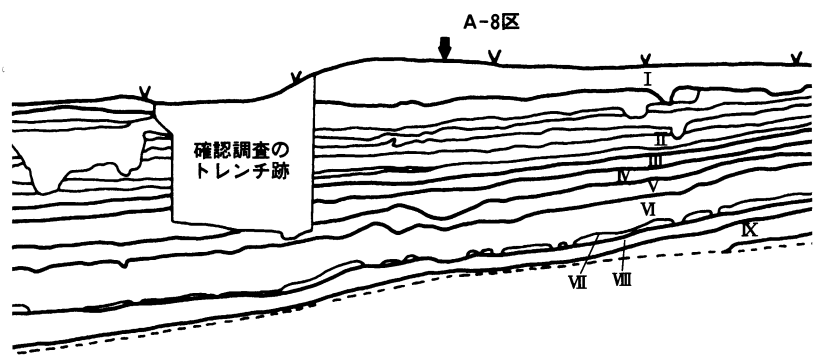
② A·B-5区西侧土层断面图



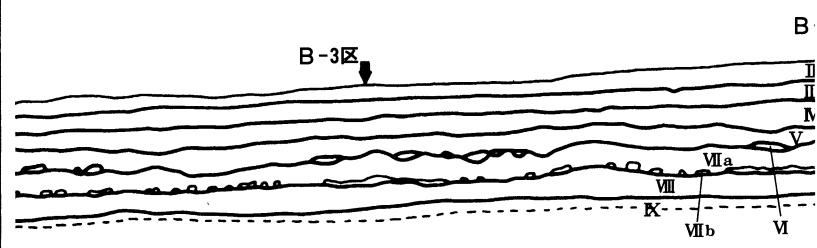
③ B-1·2·3区



第6图 :



南側土層断面図



土層断面図

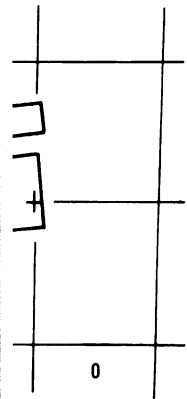
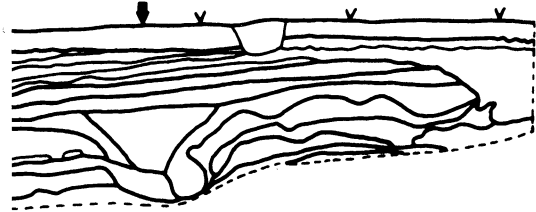
A-7区

40m

39m

38m

37m



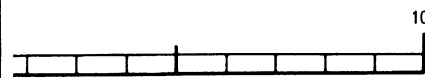
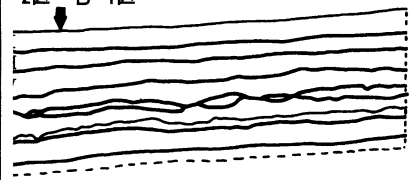
-2区 B-1区

41m

40m

39m

10m



第Ⅳ章 遺 構

本遺跡からは、Ⅷ層から16基、Ⅴ層から3基の計19基の集石が検出された。集石の時期については、Ⅷ層及びⅤ層の堆積状況及び出土遺物から縄文時代早期と縄文時代前期に比定できる。Ⅷ層上面の地形図と集石配置図は第7図に、Ⅴ層上面の地形図と集石配置図は第8図に示した。また、集石の大きさ等については第2表に、集石内遺物については第3表に示した。

第1節 早期の集石

Ⅷ層検出の集石は調査区全域にわたっているが、地形的に標高の低い川に近い方が多くなる。形態的には、集石の下部に掘り込みをもつもの・もたないもの、礫が集中するもの・ばらけているものに大別できる。石材のほとんどは砂岩で、安山岩や粘板岩などもある。

1号集石（第9図）（第18図7～9）

A-12区のほぼ平坦面で検出された。80cm×70cmの範囲に礫がU字形に集中する。礫の形状は握り拳大の角礫が多い。石材は砂岩が大半で、頁岩や粘板岩もある。ほとんどが火熱による赤化が見られ、熱破碎を受けている礫もある。礫の中から3点の石器を確認した。7・9は礫の一端に刃部をもつ礫器で、8は磨面が認められ砥石と思われる。

2号集石（第9図）（第18図10）

A-12区やや傾斜地に検出した。礫にまとまりはなく、ばらけている。掘り込みはなかった。礫は握り拳大の円礫が多く、1点だけ20cm程度の重円礫があった。石材は砂岩である。ほとんどの礫に火熱による赤化が見られ、ほぼ半数は熱破碎を受けている。石器は1点で、10の礫器を確認した。

3号集石（第10図）

B-11区の平坦面にほぼ1m四方の範囲に検出されたが、礫が特に集中するのは径50cmの範囲である。礫の総数は51個と比較的少ない。礫のほとんどが火熱による赤化を受ける。集石内から土器が1点出土したが、図化し得なかった。

4号集石（第10図）

B-11区で検出された。握り拳大より少し大きめの角礫が多い。礫は70cm四方の範囲にほぼ円形に集中し、赤化を受け熱破碎を受けている。下部に掘り込みは確認されなかった。

5号集石（第11図）（第18図11）

A-12区で検出され、下部には深さ17cmの掘り込みをもつ。礫は90cm×70cmの範囲にほぼ円形に集中する。礫は、10cm～15cmの割と大きめの礫を中心に大きいものは長さ25cmを超える長方形の角礫も含まれる。火熱による赤化を受け、小礫はほとんど熱破碎を受けている。集石内から上下に敲打痕をもつ11の棒状敲石1点が出土した。

6号集石（第11図）（第18図1・第19図13～18）

A-10区で検出された。1m四方の範囲に多少ばらけた感じの集石である。礫は握り拳より多少大きめの赤化した角礫が多く、破碎礫も半数近くある。集石内からは、土器と6点の石器が出土した。1は貝殻による刺突を横位に施す塞ノ神式土器の口縁部である。12は礫の両端からの剥離が見

られ、15は片刃の刃部をもつ。13・14は上下に敲打痕をもつ敲石である。16は内湾部分に連続した剥離が見られる。17は板状の礫の狭小な側面を作業面とするコアで、自然面を打面とし180度の打面転移を行う。

7号集石（第12図）。

本調査区で山側に位置するA-1区から検出された。150cm×100cmの範囲のなかにばらけた感じで検出した。握り拳大の角礫が多いが、10cm程度の扁平な礫も含む。顕著ではないが、火熱による赤化を受け破碎礫も含まれる。下部には掘り込みはなかった。

8号集石（第12図）（第18図2）

A-6区で120cm四方の範囲に検出された。その中でも50cm四方に礫が集中する。礫は、握り拳大から20cm程度の角礫がほとんどで、小振りの礫は少ない。全体的に赤化が顕著である。下部に掘り込みはなかった。集石内から土器が1点出土した。2は火熱を受けたためか器面は風化している。黄褐色を呈し、楕円形の押型文を施している。

9号集石（第13図）（第20図19・20）

A-5区で検出された集石である。礫は握り拳大の大きさが多く、平坦面に90cm×80cmの範囲の中に集中し、10数点の礫が周りに点在する。礫のほとんどが多少火熱によると思われる赤化が見られ熱破碎を受けたものも多い。集石内には2点の石器が含まれていた。19は、背面に自然面をもつスクレーパーで下辺部に連続した剥離が見られる。20は下端に敲打による「つぶれ」が観察される。

10号集石（第13図）（第20図21）

A-11区で検出された。40cm×50cmの狭い範囲に10cm～15cm程度の扁平な礫が集中する。また、半数近くには煤が付着している。30cm程度の円礫も1点含まれる。そのほとんどは火熱による赤化が見られ3分の1は破碎礫である。上下端及び側辺からの剥離が見られる21の礫器を含む。

11号集石（第14図）（第18図3～6）

A-3区の調査区境に検出したため、その全容は明らかにできなかった。集石は、10cm程度の扁平な円礫及び角礫で構成している。ほとんどが赤化し、半数は熱破碎を受けている。なお11号集石は調査区境の断面図とともに示した。また、集石内の礫に混じって土器片が6点出土し、4点図化した。4・5・6は黄褐色を呈し、貝殻による施文と思われ、調査区内出土の塞ノ神式土器の胎土と類似する。3は風化で文様等は不明だが、胎土から同様の土器と思われる。その他の土器は、小片で図化し得なかった。

12号集石（第15図）

A-3区に11号集石と隣接して検出した。50cm×40cmの範囲に集中し、10cm程度の扁平な礫で構成されている。そのほとんどは赤化し、3分の1程度は熱破碎を受けている。

13号集石（第15図）

A-5区で検出された。道路境から約50cm控えた土層断面にかかるように検出されたため、その全容は不明である。大きくても10cm程度の小振りの礫が多く、ほとんどが火熱のために赤化し半数は破碎を受けている。

14号集石（第15図）（第20図22）

A-7区で検出された。10cmから15cmぐらゐの礫が36個で集石を構成するが、まとまりはなくばら

けている。全体的に赤化し、約半数は破碎を受け、3分1程度には煤が付着する。礫の中には一端に片刃の刃部をもつ22の礫器が1点含まれる。

15号集石（第16図）

B-8区の傾斜地に200cm×150cmの範囲にばらけて検出された。10数cm前後の角礫と10cm前後の扁平な礫が中心である。全体的に火熱による赤化は見られるが、熱破碎礫はさほど多くない。

16号集石（第16図）（第20図23）

B-7区で検出された。65cm×75cmの範囲に礫が集中し、その周りに数点の礫が点在する。集石は、握り拳大から15cm程度の角礫及び亜円礫と扁平な礫で構成され、そのほとんどが赤化し、煤の付着したもの、破碎を受けたものもある。集石の礫の中に23の礫器が1点含まれ、礫の上端に敲打による「つぶれ」、下端の表・裏に剥離が見られる。

第2節 前期の集石

前期の集石は3基検出した。いずれも調査区内でも川に近い所にあり、礫は集中するしっかりとまとまった集石である。

1号集石（第17図）

A-11区で検出した。60cm×60cmの円形の範囲に礫が集中する。10cmを超える礫は集石の上部に多く、ほとんどは10cm以下の礫である。下部には直径約65cm、深さ約15cmの掘り込みを確認した。

2号集石（第17図）

B-12区に検出された。45cm×55cmの範囲に礫が集中する。集石を構成する礫は、10cm前後の扁平な角礫が多く、赤化し、一部は熱破碎を受けている。

3号集石（第17図）（第20図24～26）

A-11区に検出された。100cm四方の範囲のなかに幾分細長く礫が集中する。礫は握り拳大から15cm程度の角礫が多く、火熱で赤化し、熱破碎を受けたものも多い。礫の中には、24のフォルンフェルス素材とした粗製のスクレイパー、25の一端に片刃の刃部をもつ礫器、26の磨石が1点ずつ計3点が含まれる。

第2表-1 集石一覧表

挿図番号	時期	集石番号	集石番号	大きさ(cm)	礫の総数	掘り込み	掘り込みの大きさ(cm)	掘り込みの深さ(cm)	備考
第9図	早	1	A-12	90×70	67	無			
		2	A-12	185×118	44	無			
第10図		3	B-11	115×112	51	無			
		4	B-11	85×85	74	無			
第11図		5	B-12	85×105	98	有	88×106	17	
		6	A-8	125×107	91	無			
第12図		7	A-1	110×155	70	無			
		8	A-6	125×130	55	無			
第13図		9	A-5	230×135	109	無			
		10	A-11	60×95	45	無			

第2表-2 集石一覧表

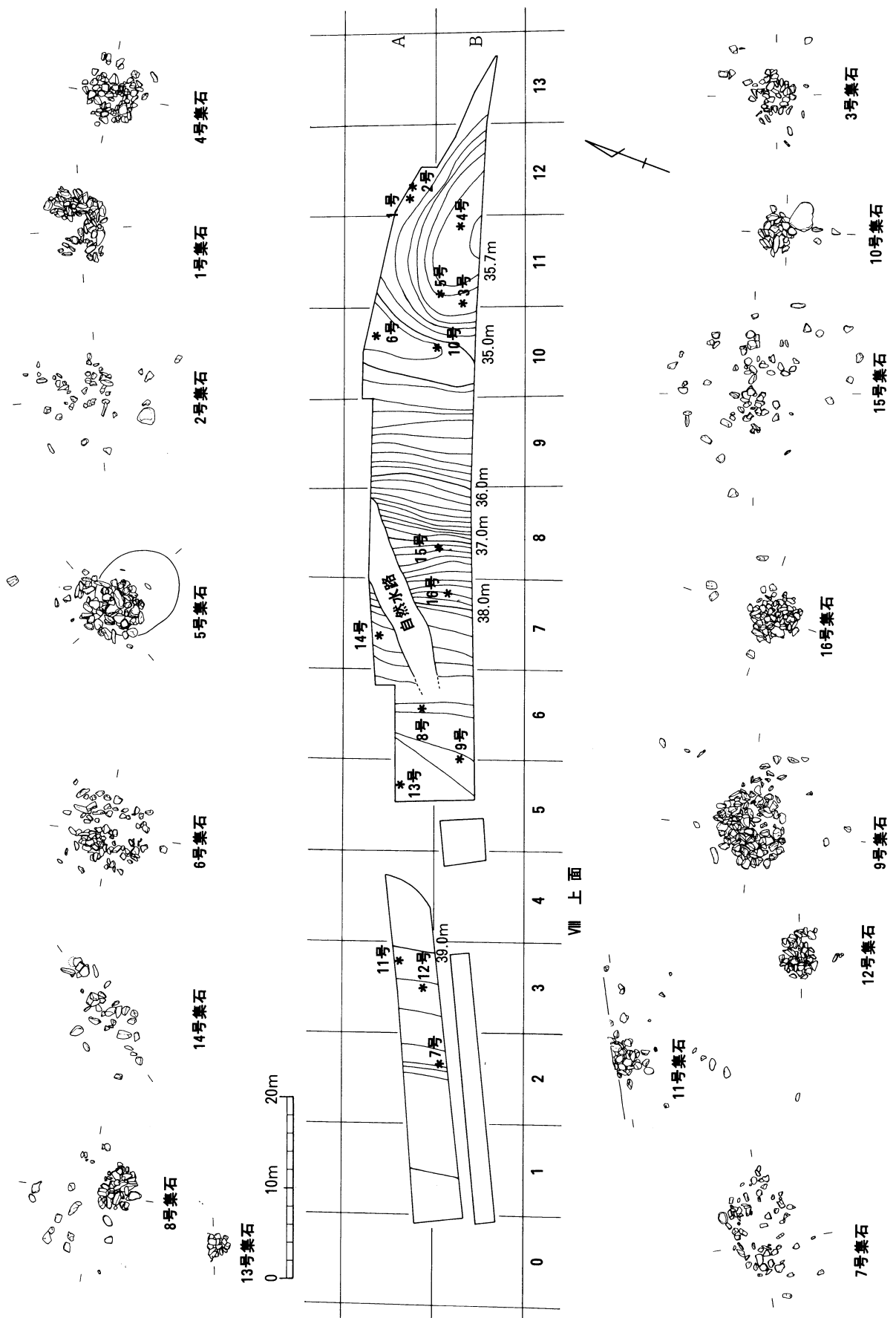
挿図番号	時期	集石番号	集石番号	大きさ(cm)	礫の総数	掘り込み	掘り込みの大きさ(cm)	掘り込みの深さ(cm)	備考
第14図	早期	11	A-3	135×145	61	無			
第15図		12	A-3	74×59	48	無			
		13	A-5	(27)×33	25	無			調査区域外へ延びる
		14	A-7	77×142	36	無			
		第16図	15	B-8	223×222	76	無		
		16	B-7	115×115	75	無			
第17図	前期	1	B-12	57×60	69	無			
		2	A-11	80×80	88	有	70×65	13	
		3	A-11	120×115	121	無			

第3表 集石内遺物(土器)一覧表

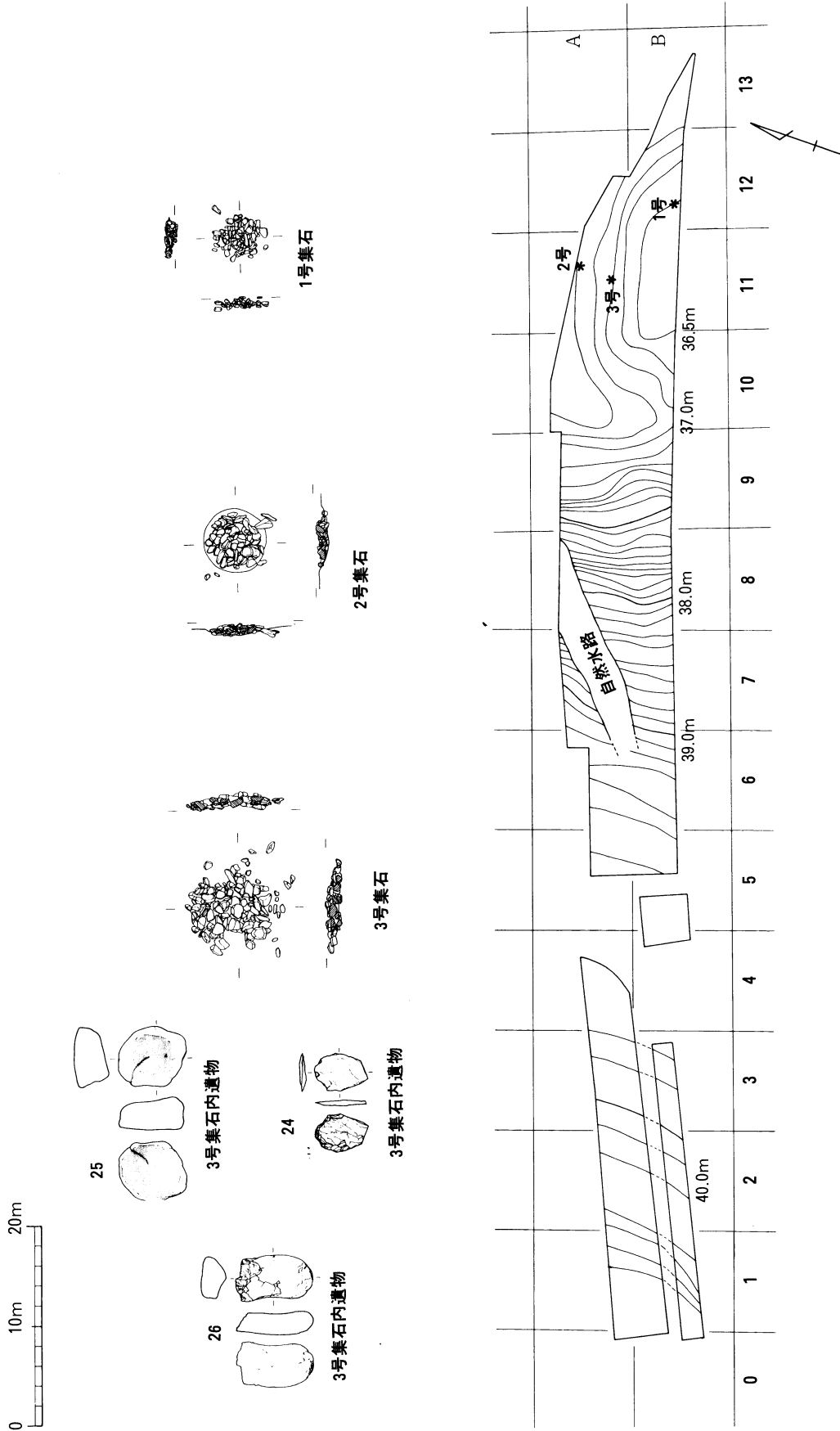
挿図番号	番号	出土区	集石	胎土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第18図	1	A-10	早期6号	長石 石英 小礫	普通	赤褐色	ナデ(貝殻刺突)	工具ナデ	器面風化
	2	A-6	早期8号	長石 石英 砂粒	普通	赤褐色	ナデ(押型文)	工具ナデ	器面風化
	3	A-2	早期11号	長石 石英 小礫	普通	黄褐色	ナデ	ナデ	器面風化
	4	A-3	〃	長石 石英 小礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	器面風化
	5	A-3	〃	長石 石英 小礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	器面風化
	6	A-3	〃	長石 石英 小礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線?)	ナデ	器面風化

第4表 集石内遺物(石器)一覧表

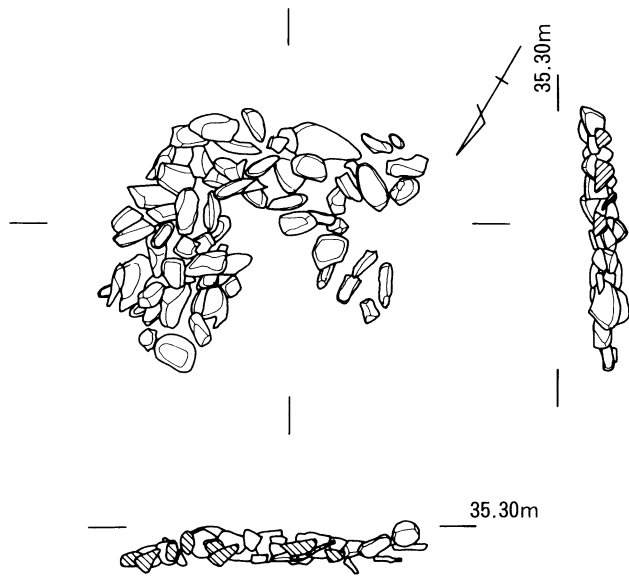
挿図番号	番号	出土区	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
第18図	7	A-12	フォルンフェルス	12.7	9.25	4.8	545	早期1号集石
	8	A-12	〃	8.9	9.6	2.55	270	〃
	9	A-12	〃	12.15	8.35	4.85	650	〃
	10	A-12	〃	13.0	6.55	4.1	320	早期2号集石
	11	A-12	〃	21.0	5.9	3.65	645	早期5号集石
	12	A-10	〃	16.8	7.05	3.05	370	早期6号集石
第19図	13	A-10	〃	15.95	6.7	3.75	425	〃
	14	A-10	〃	19.45	9.1	4.05	960	〃
	15	A-10	〃	10.15	6.85	3.3	230	〃
	16	A-10	泥質フォルンフェルス	8.0	16.8	2.3	405	〃
	17	A-10	フォルンフェルス	9.45	11.45	3.8	593	〃
	18	A-6	〃	9.2	10.4	3.4	450	早期8号集石
第20図	19	B-5	〃	8.3	9.9	2.5	185	早期9号集石
	20	B-5	〃	17.9	8.1	5.0	915	〃
	21	A-11	〃	11.2	7.5	4.3	455	早期10号集石
	22	A-7	〃	14.7	11.4	3.7	650	早期14号集石
	23	B-7	泥質フォルンフェルス	16.2	7.65	4.65	520	早期16号集石
	24	A-11	フォルンフェルス	8.1	5.7	0.9	45	前期3号集石
	25	A-11	〃	11.6	7.05	3.6	420	〃
	26	A-11	輝石安山岩	10.2	9.25	5.05	735	〃



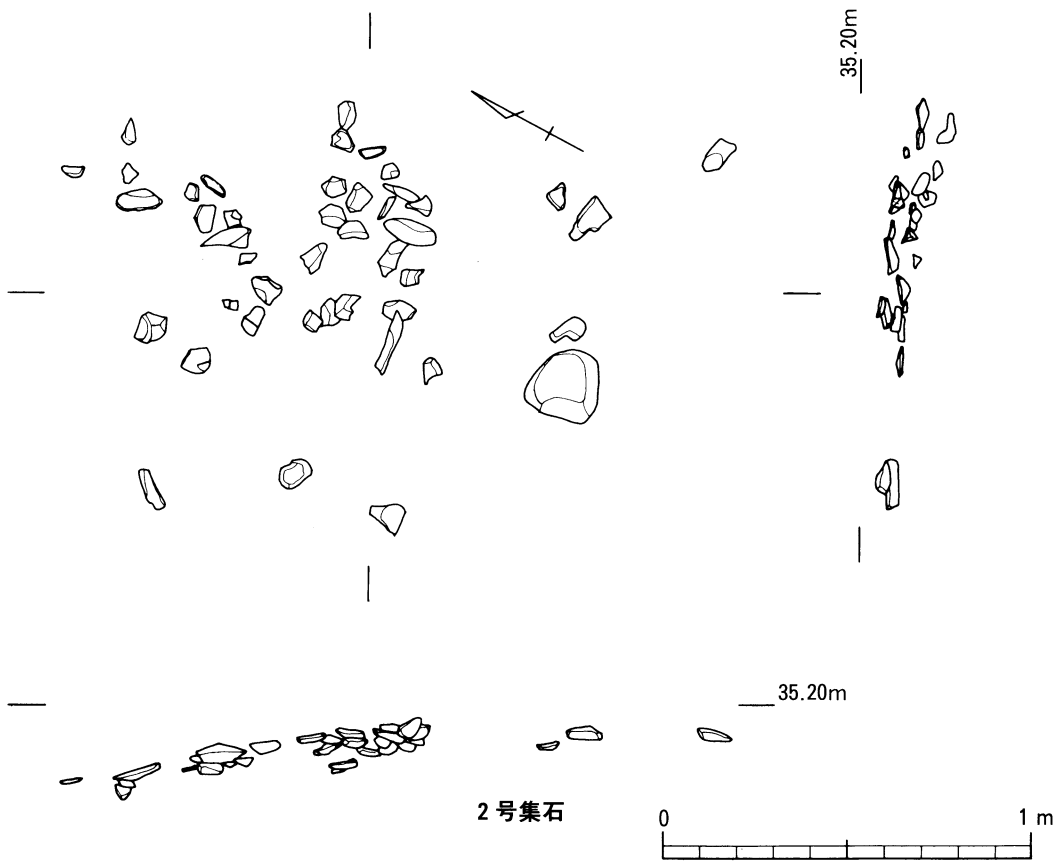
第7図 VIII層地形図及び早期集石配置図



第8図 V層地形図及び前期集石配置図

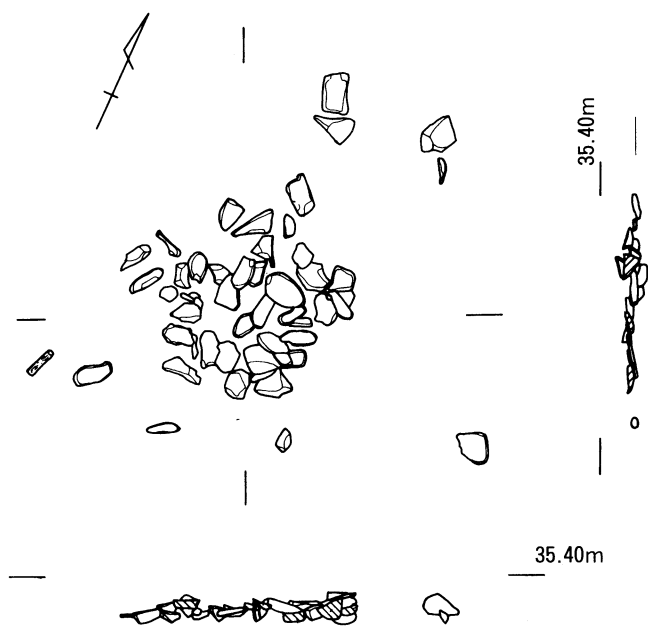


1号集石

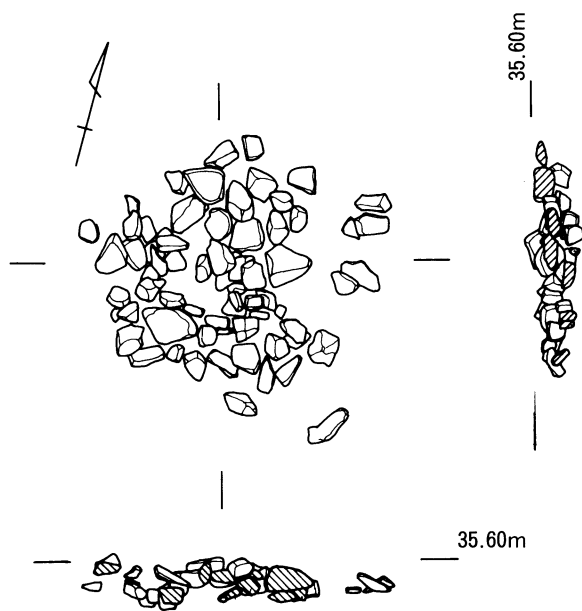


2号集石

第9図 早期1・2号集石



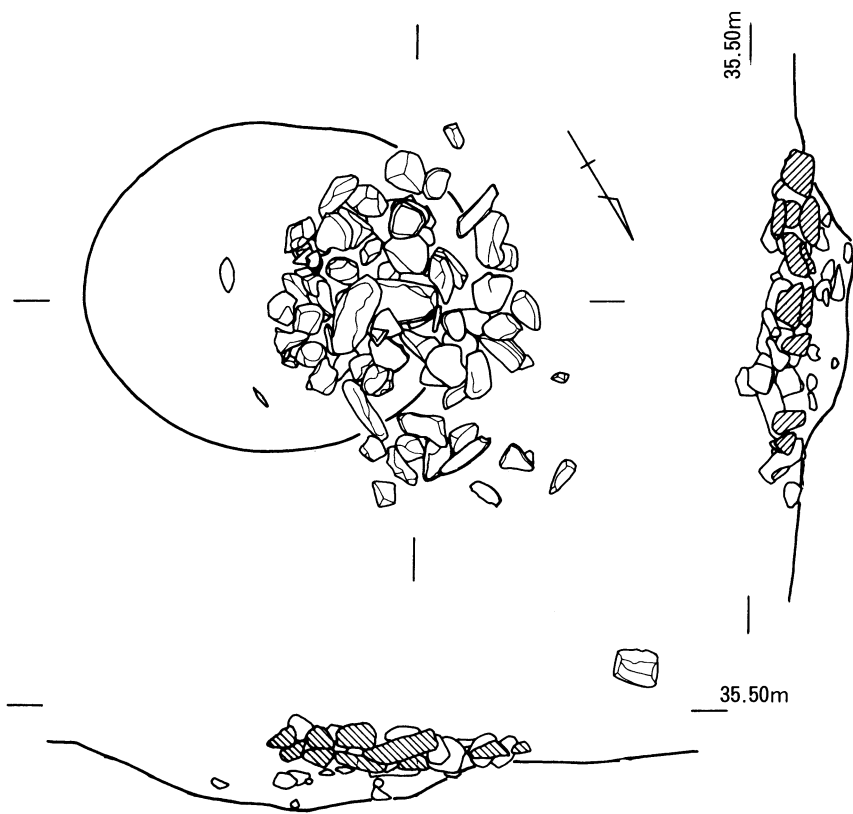
3号集石



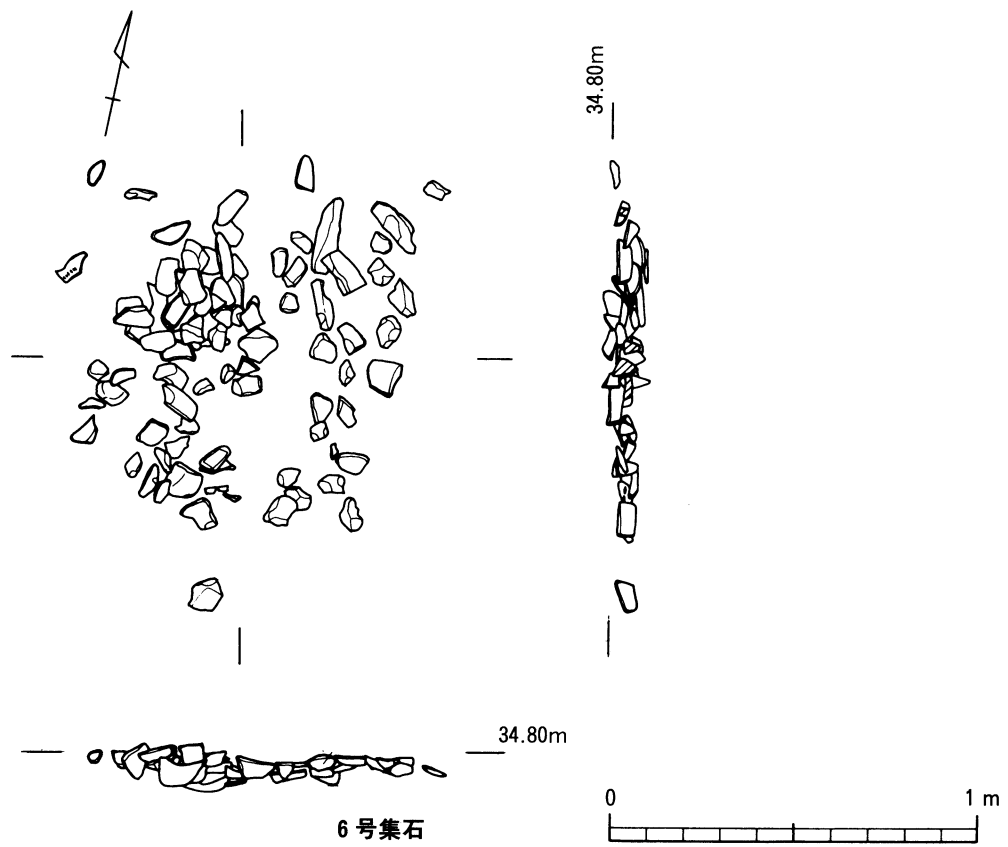
4号集石



第10图 早期3・4号集石

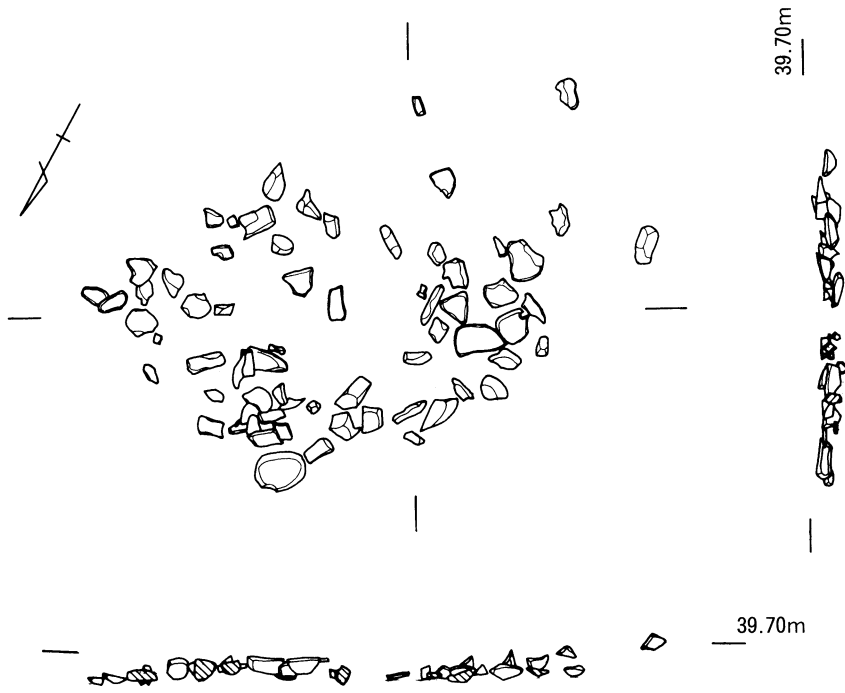


5号集石

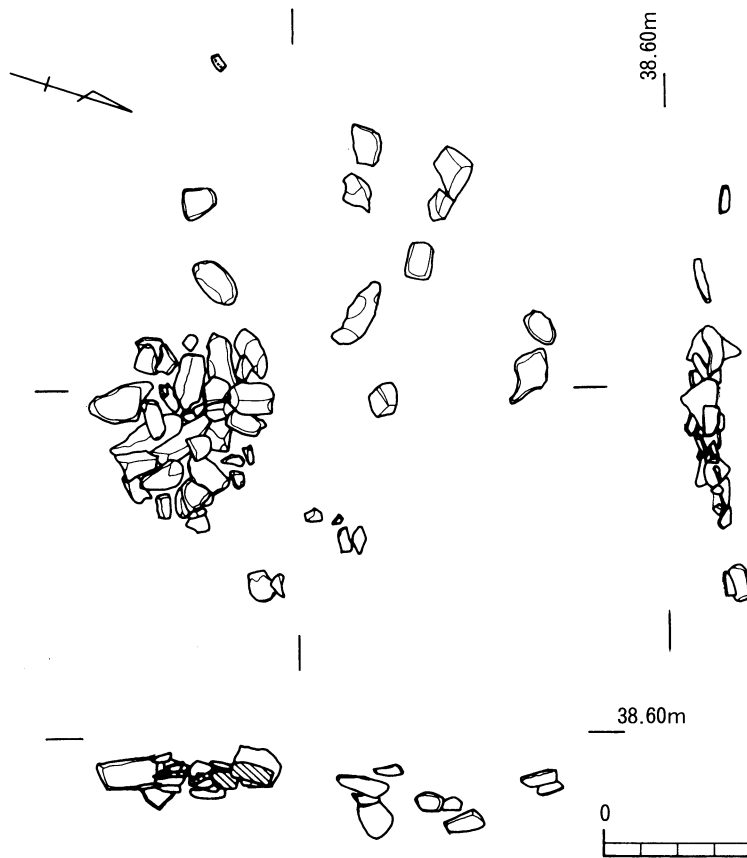


6号集石

第11図 早期5・6号集石

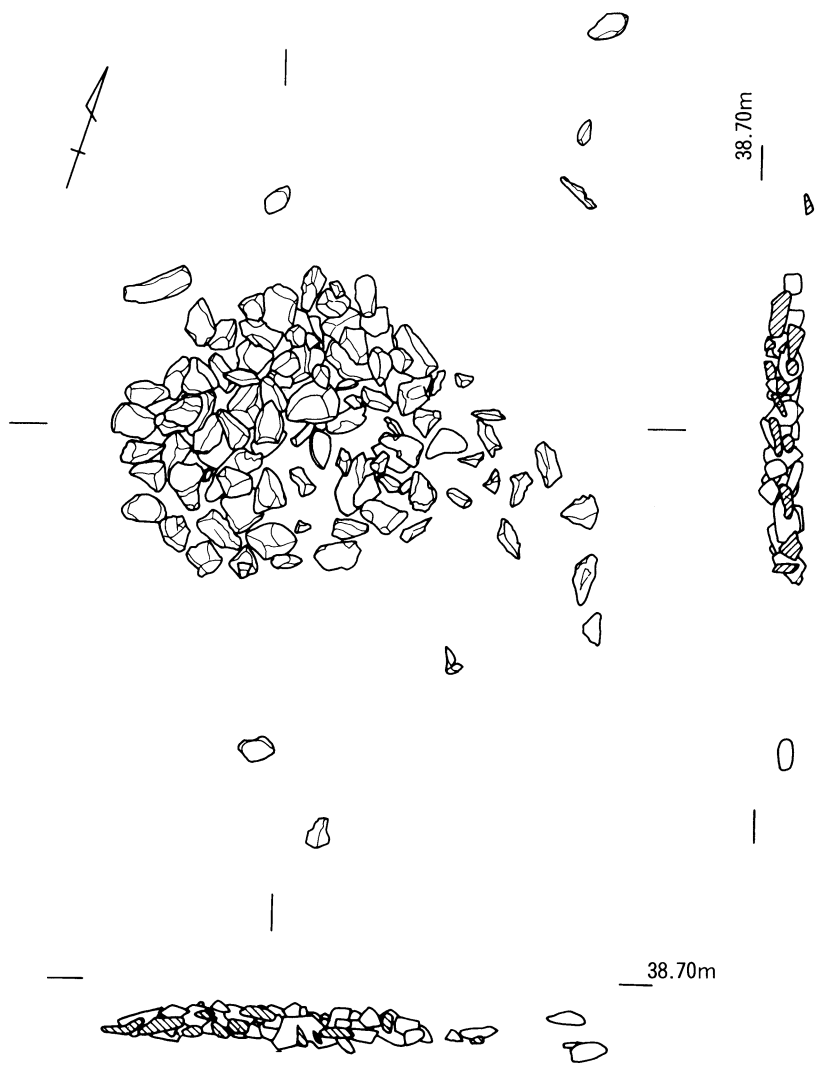


7号集石

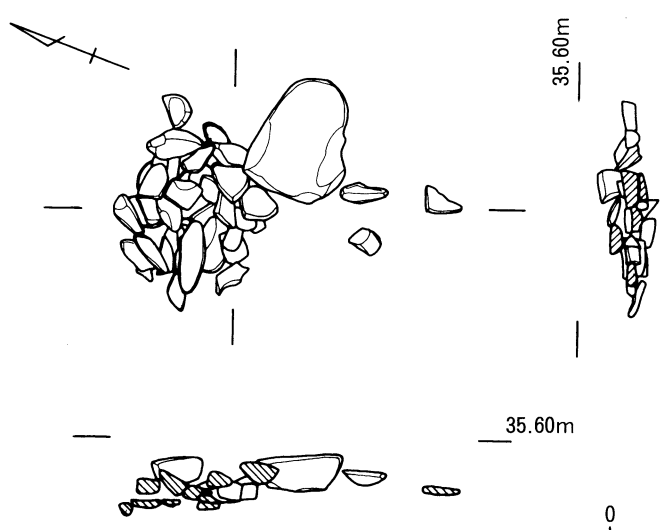


8号集石

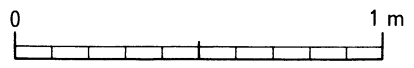
第12図 早期7・8号集石



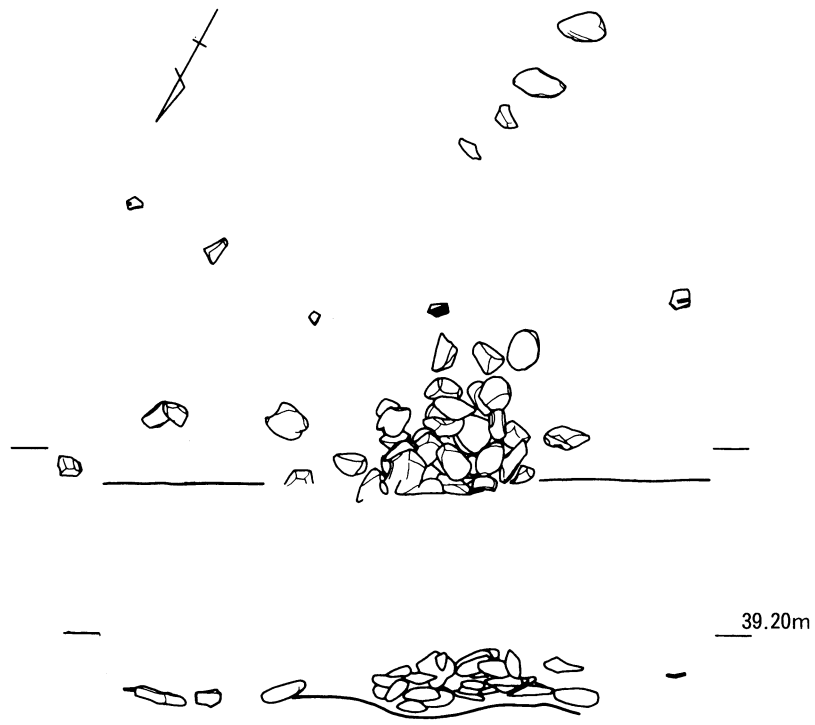
9号集石



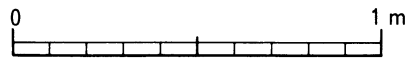
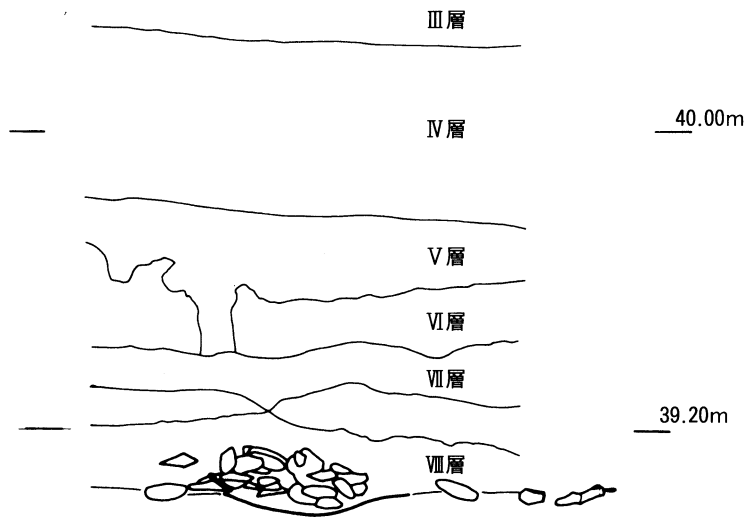
10号集石



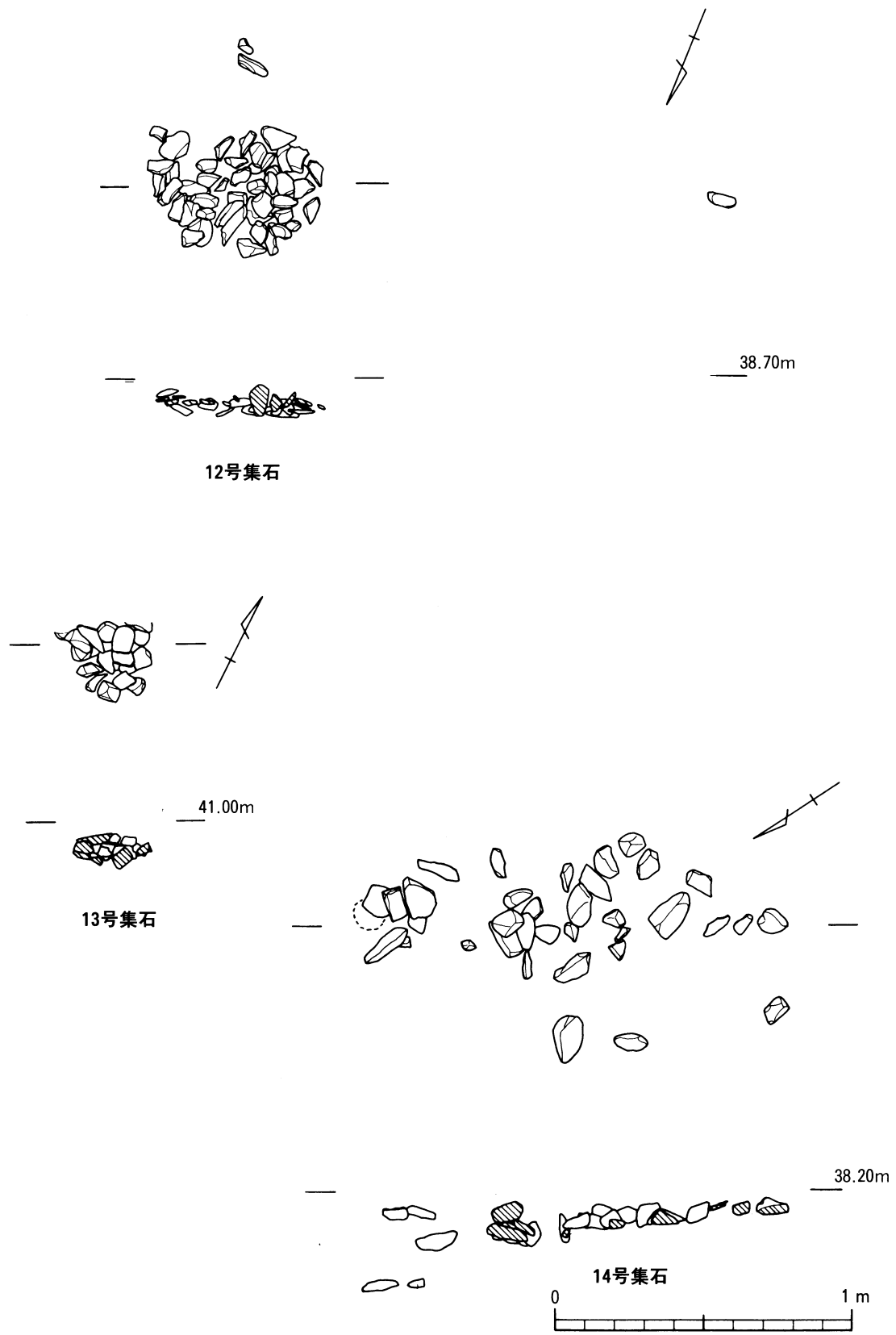
第13图 早期9・10号集石



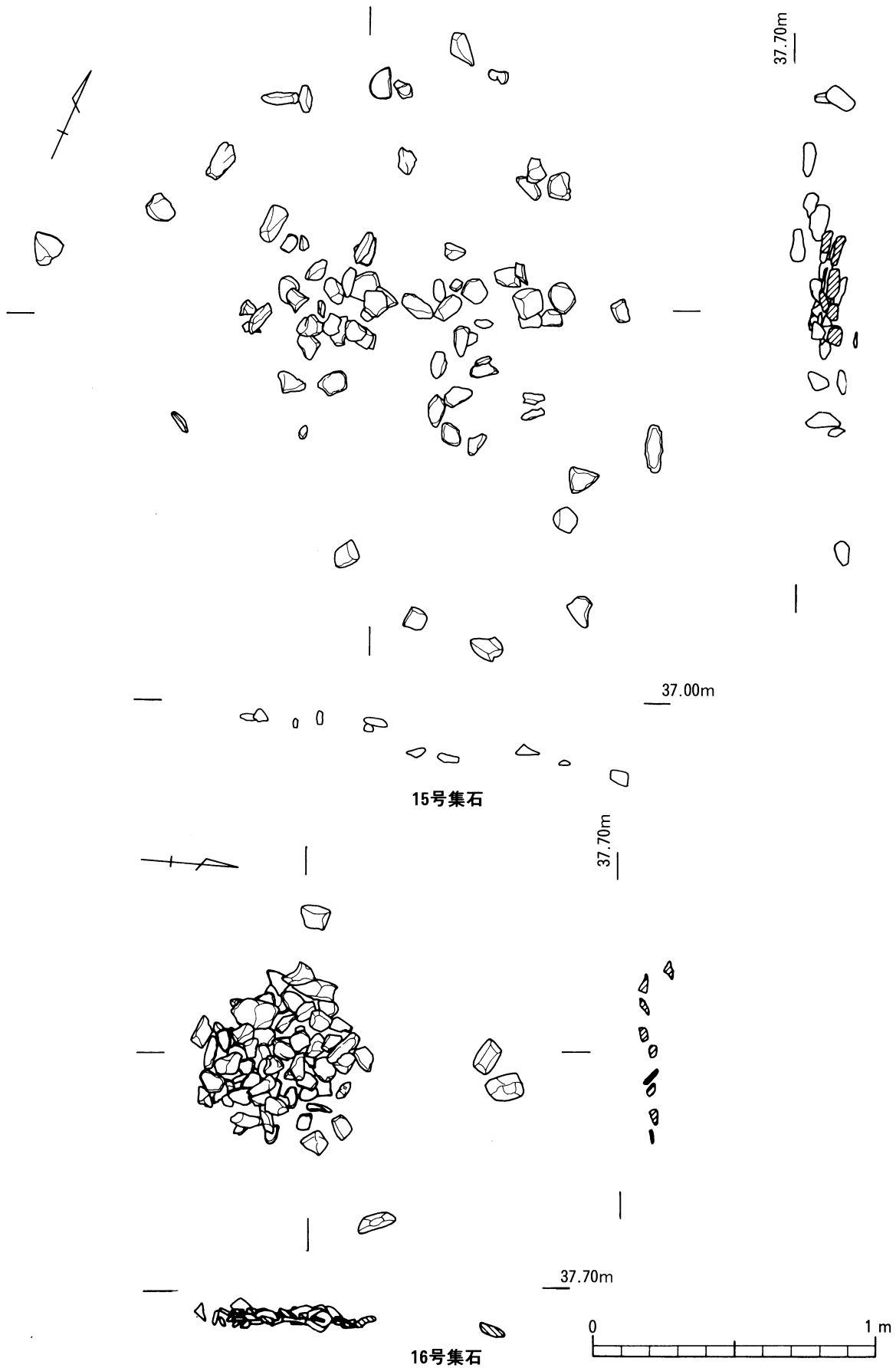
11号集石



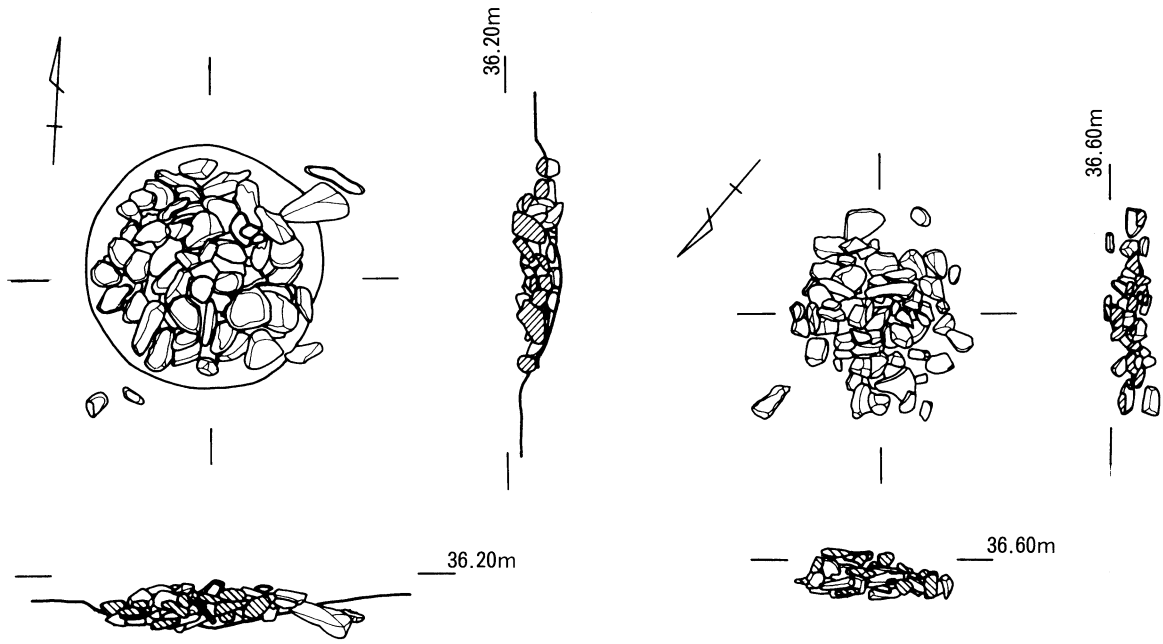
第14图 早期11号集石



第15图 早期12·13·14号集石

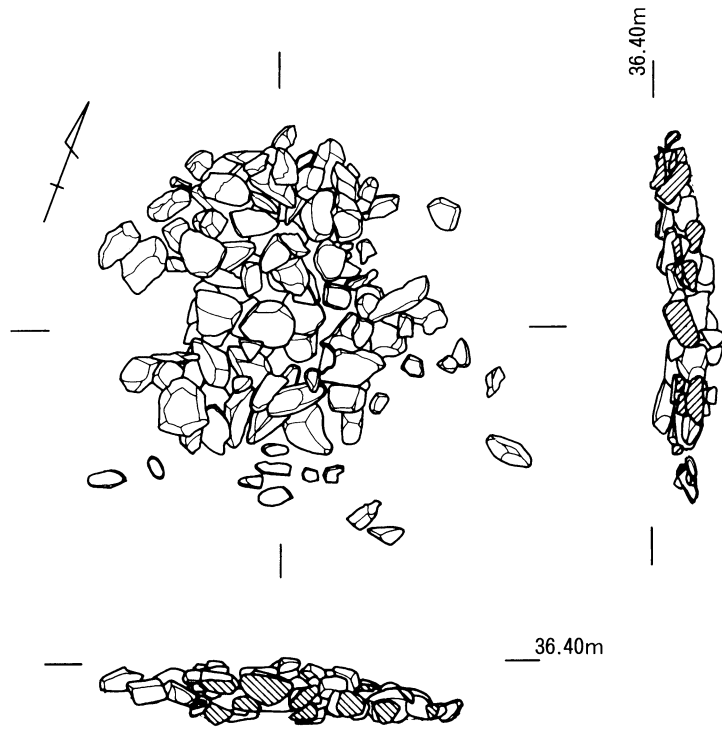


第16图 早期15・16号集石

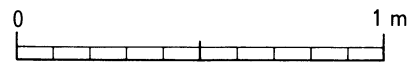


前期 2号集石

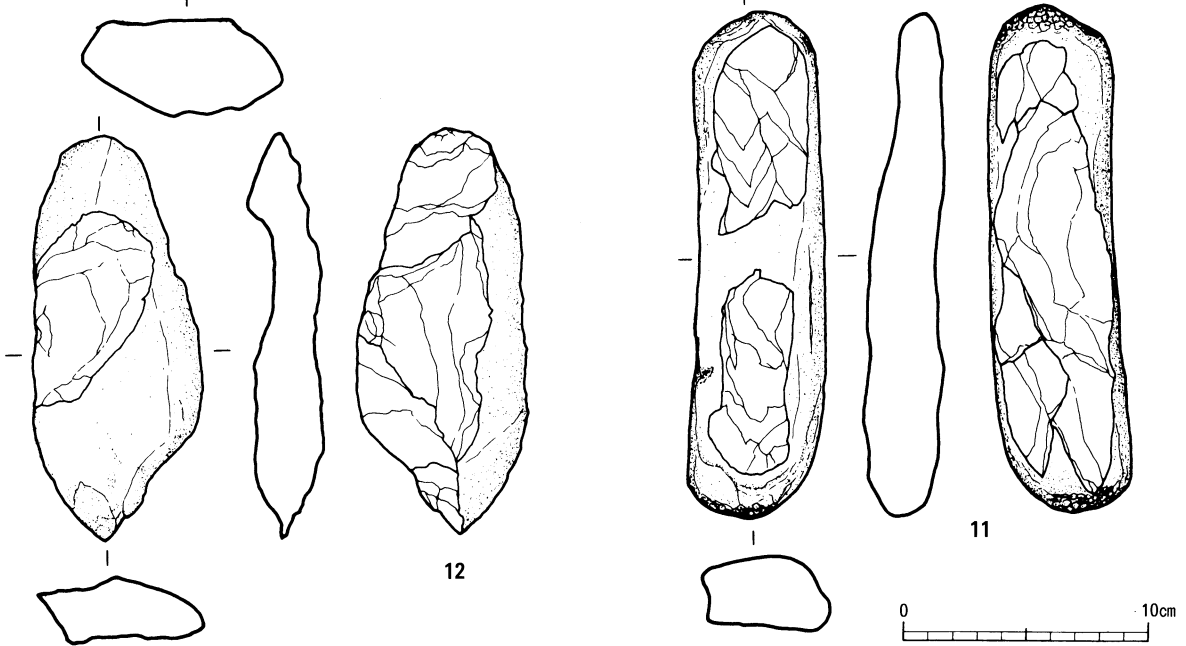
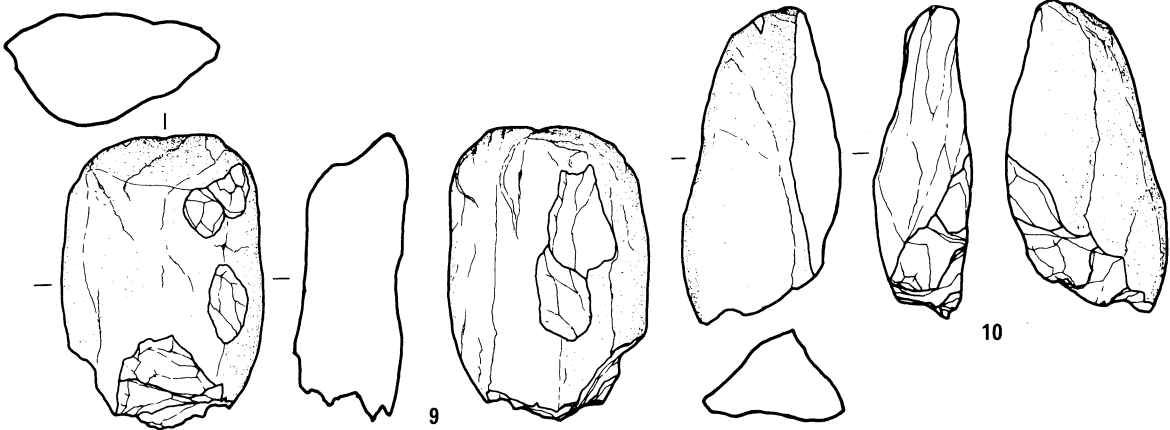
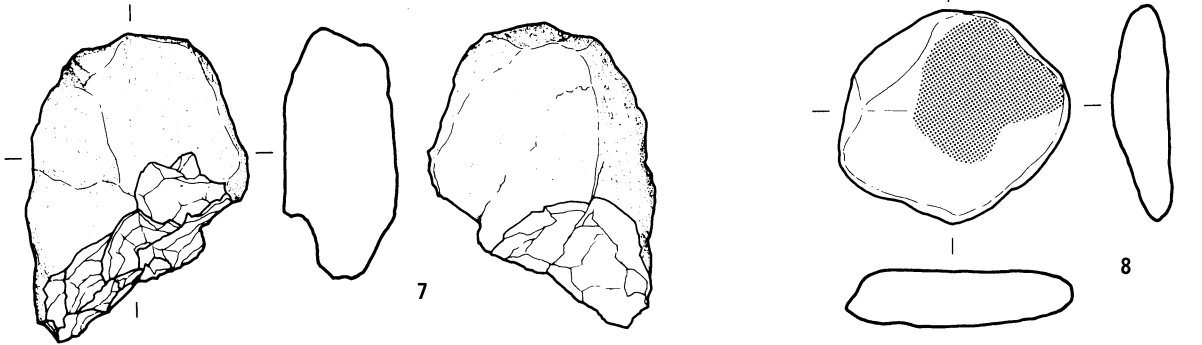
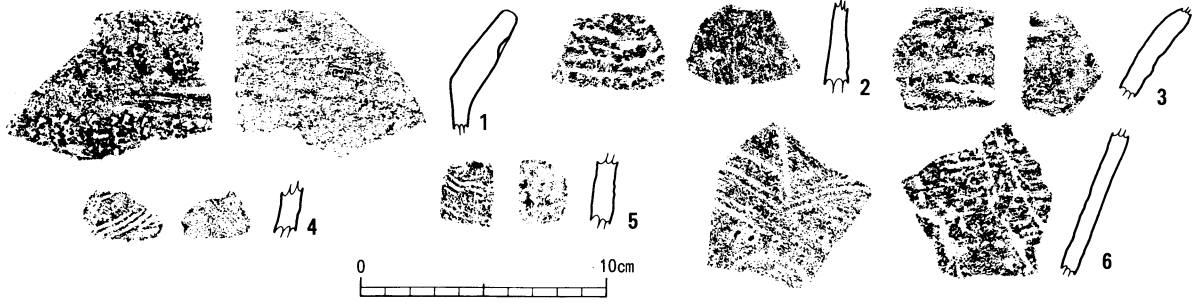
前期 1号集石



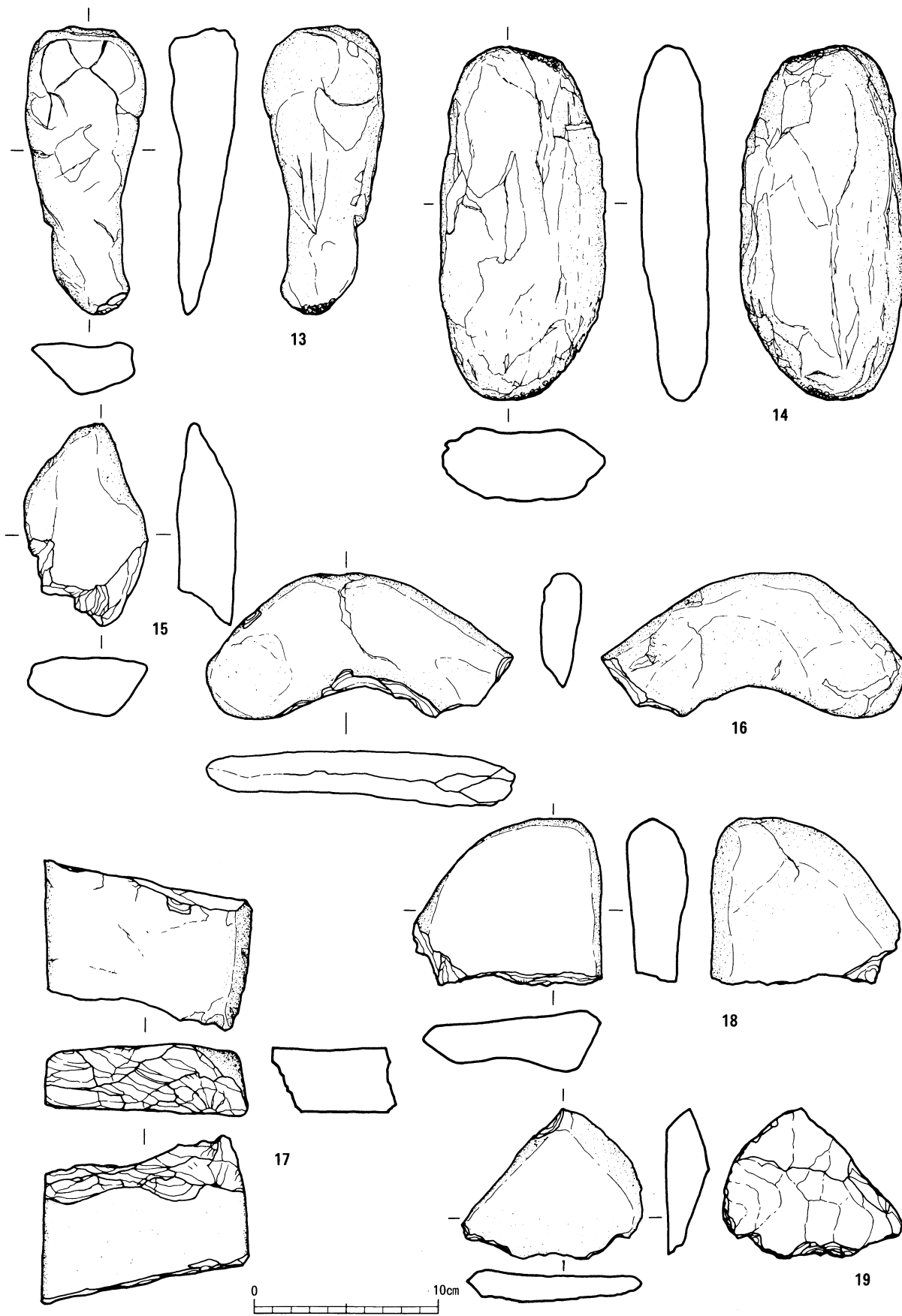
前期 3号集石



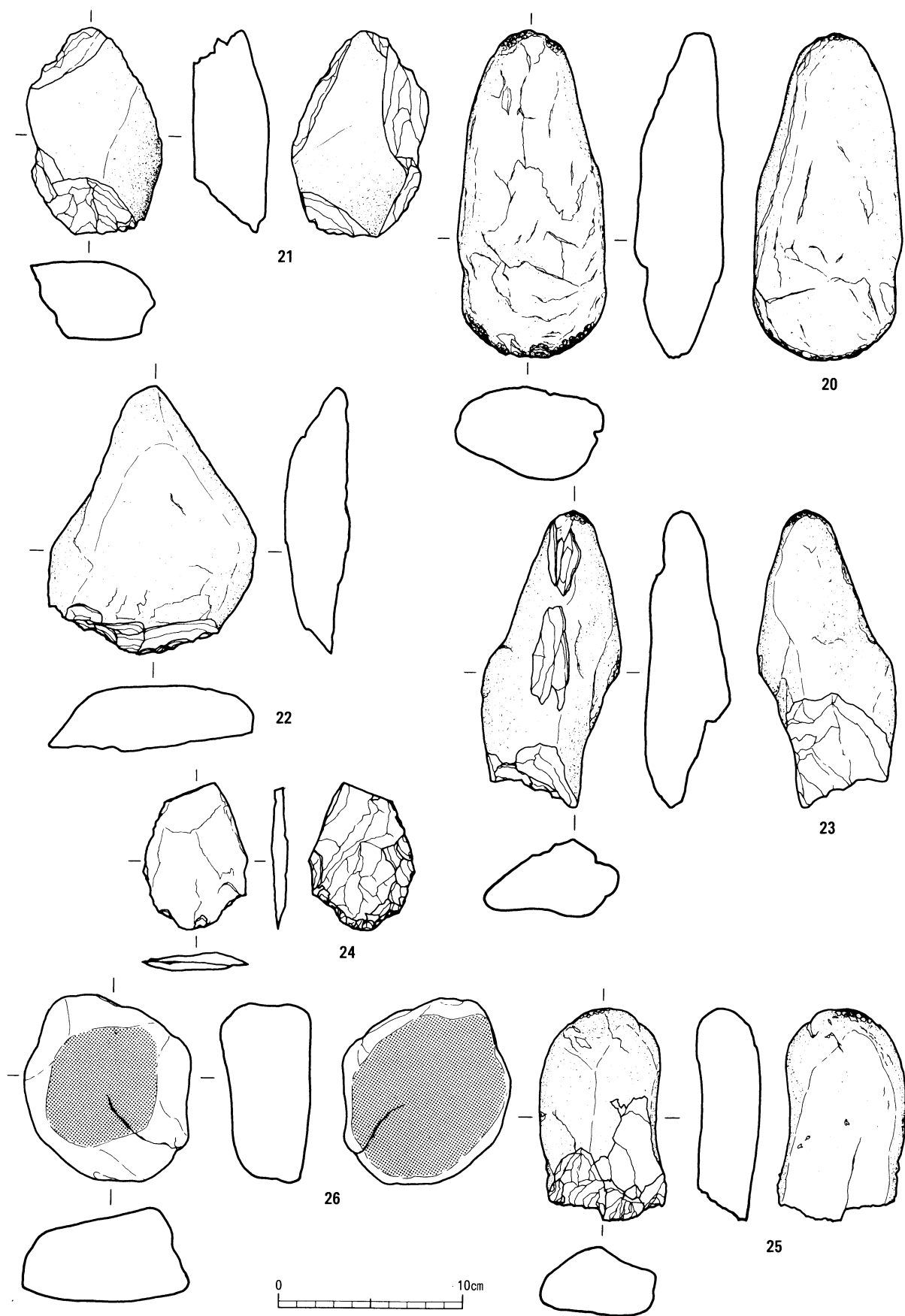
第17图 前期 1 · 2 · 3号集石



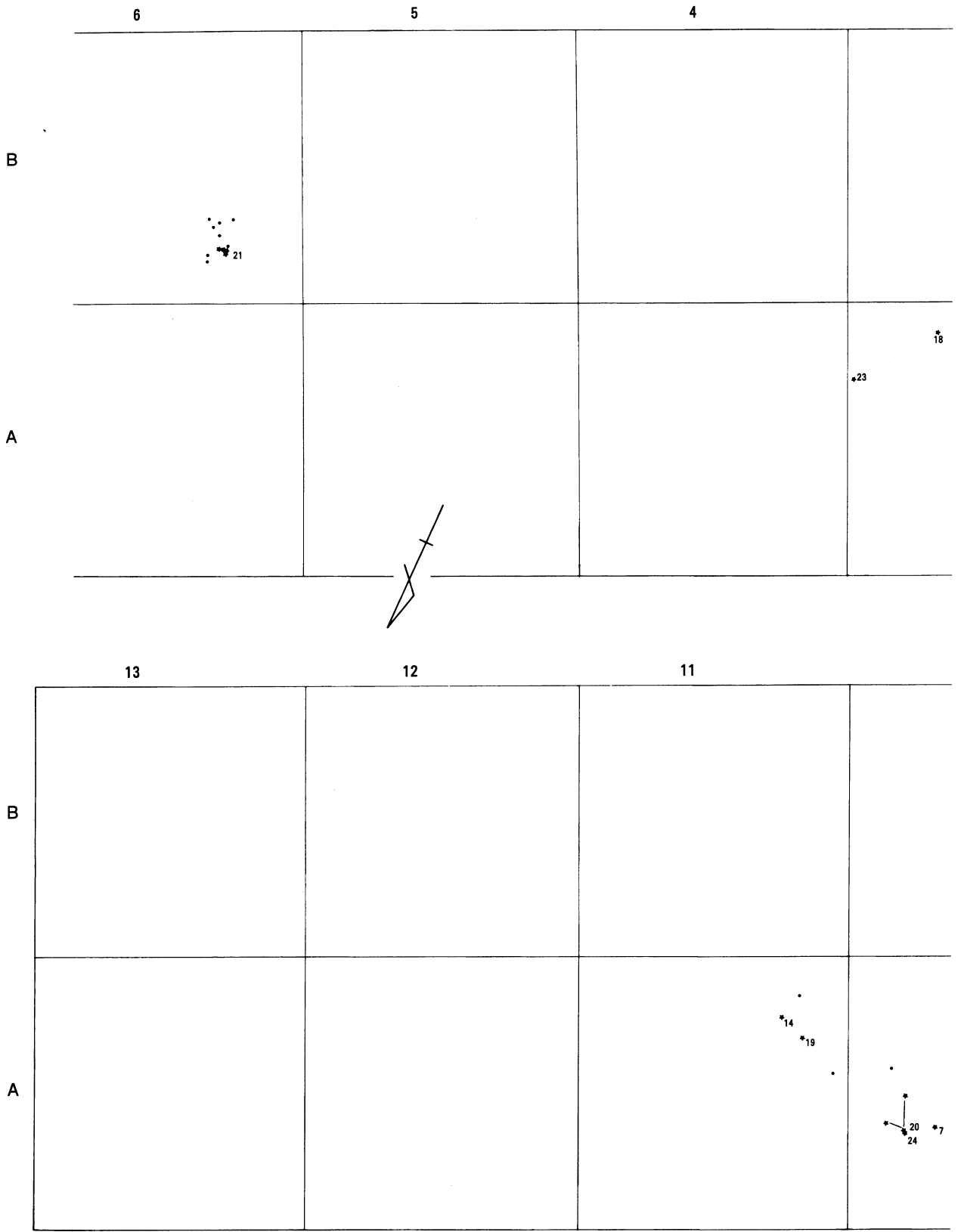
第18図 集石内遺物 (1)



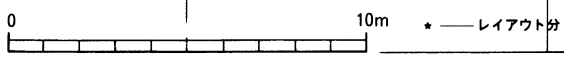
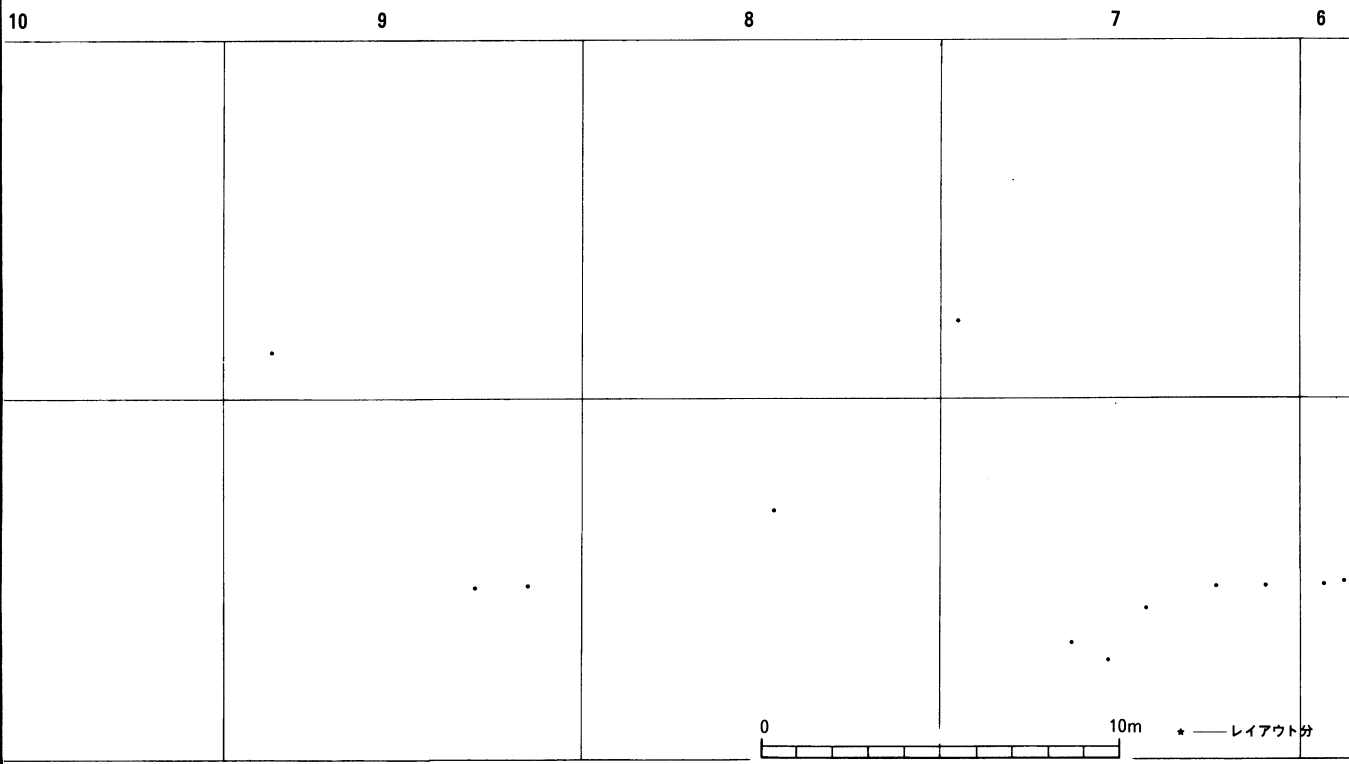
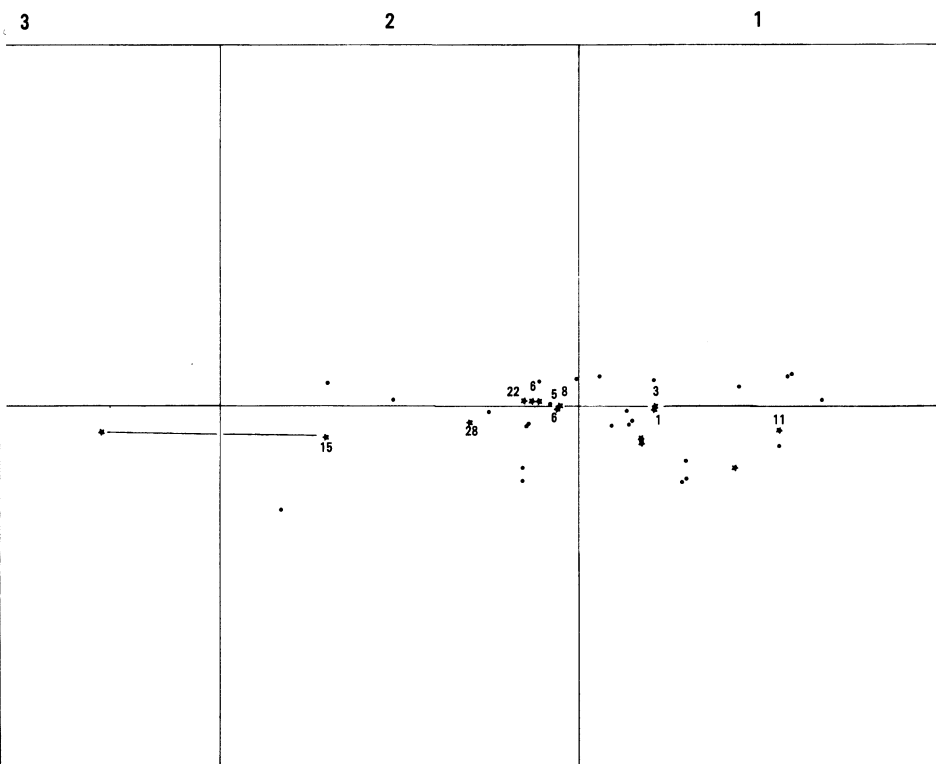
第19図 集石内遺物（2）



第20図 集石内遺物（3）

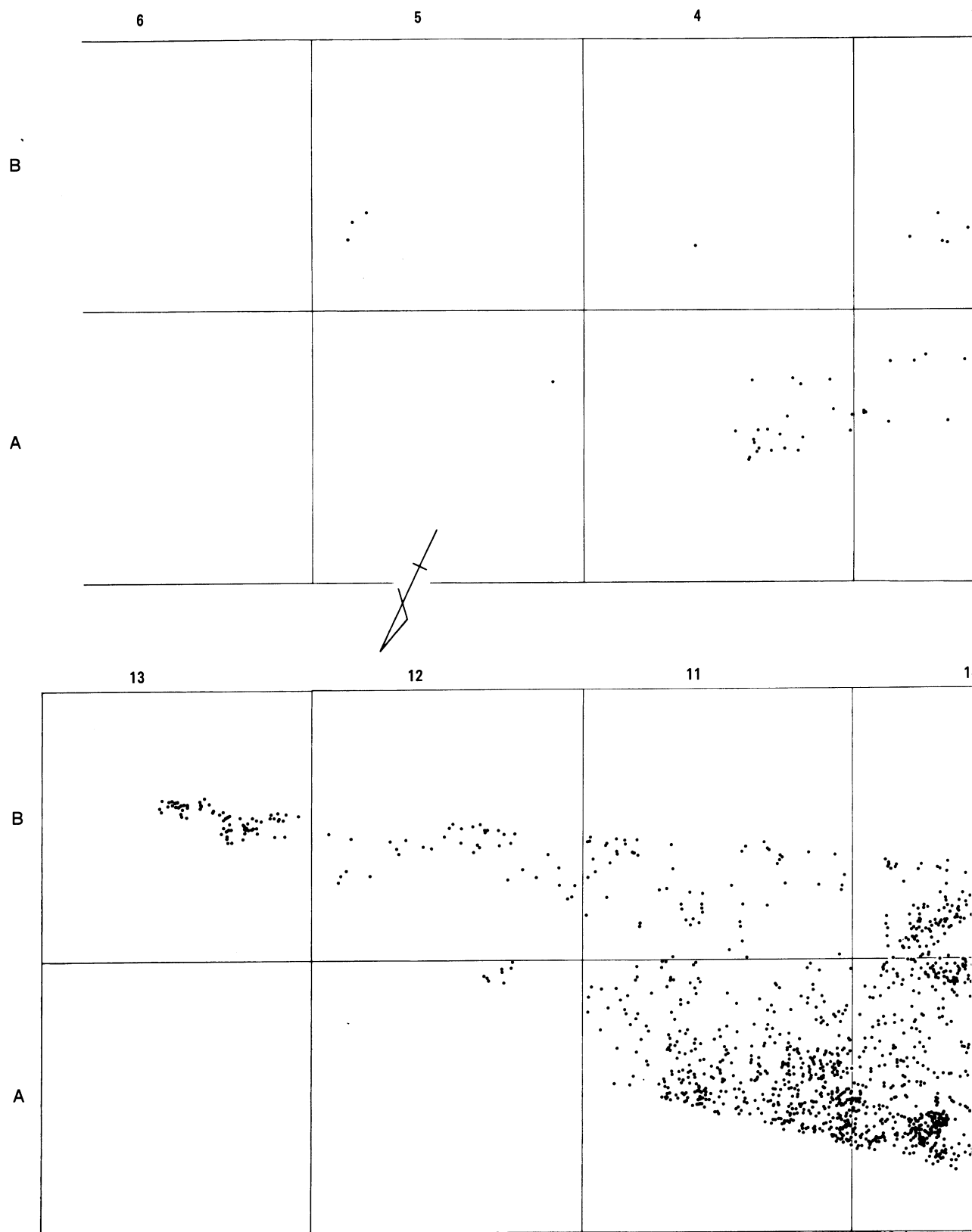


第21图 VIII

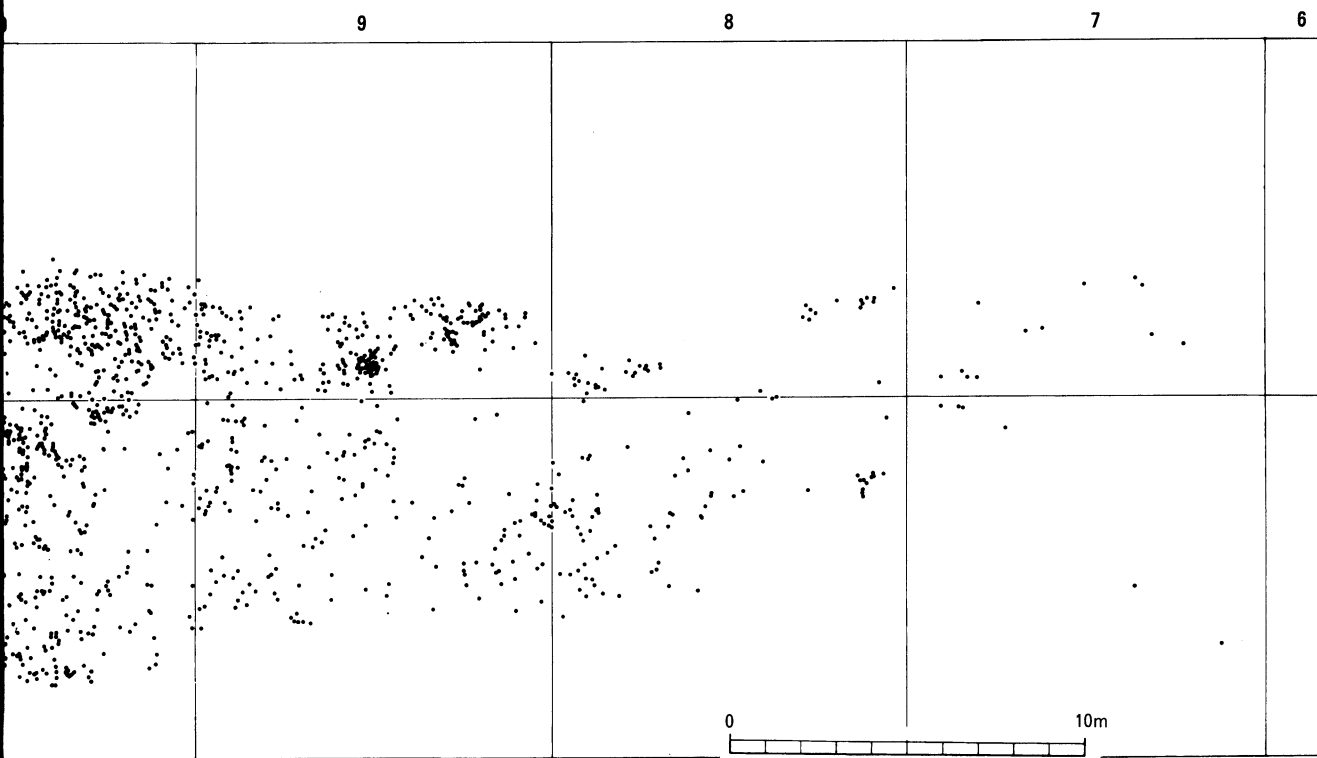
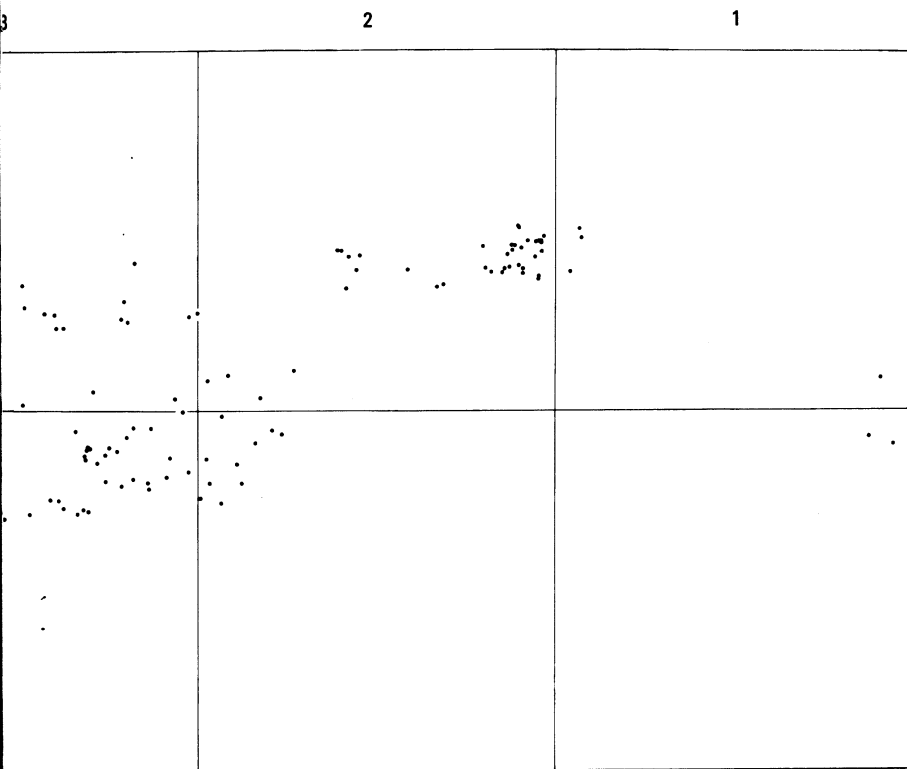


21

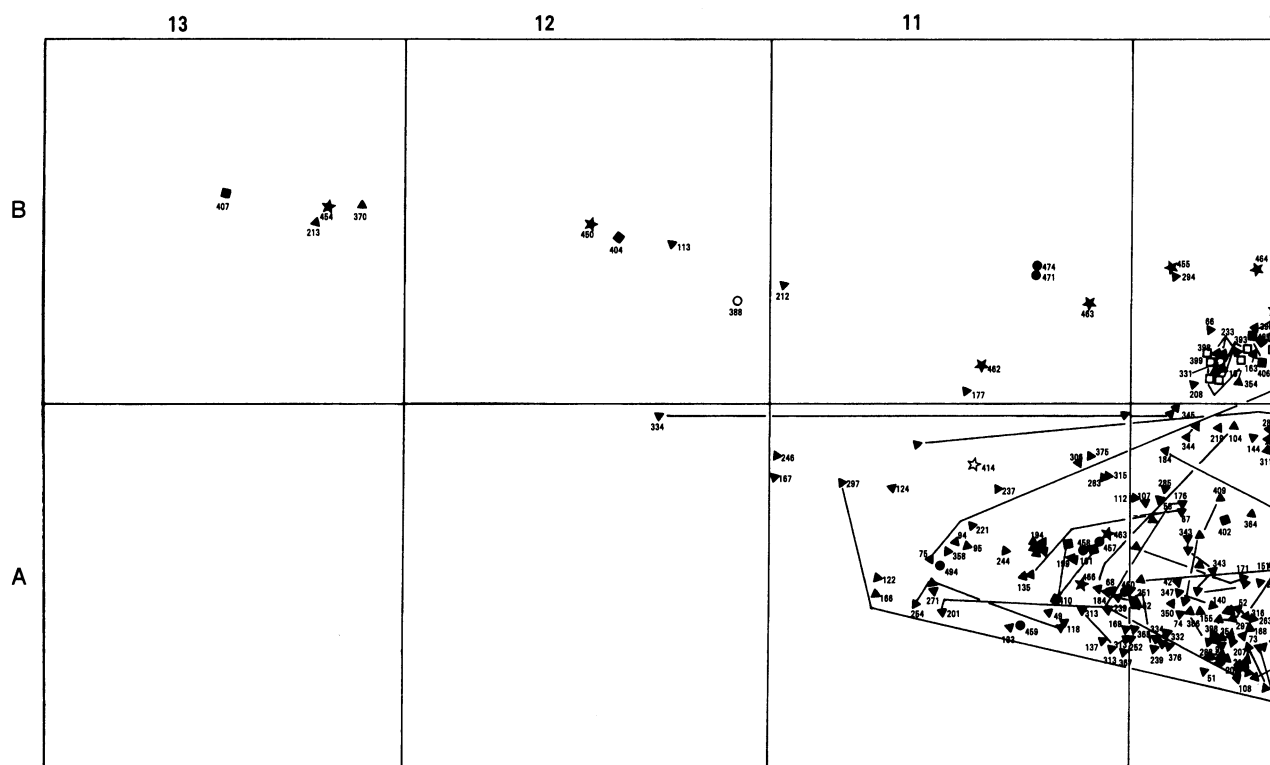
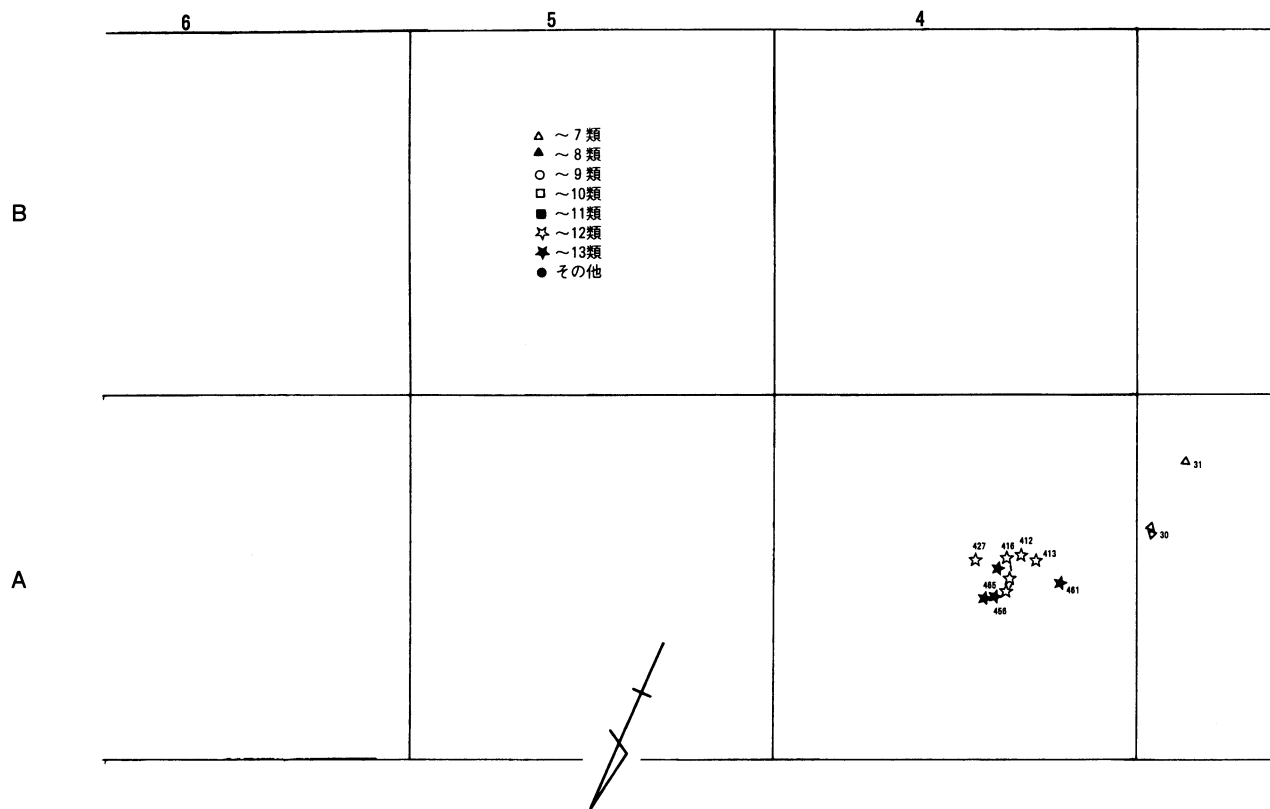
層土器出土状況



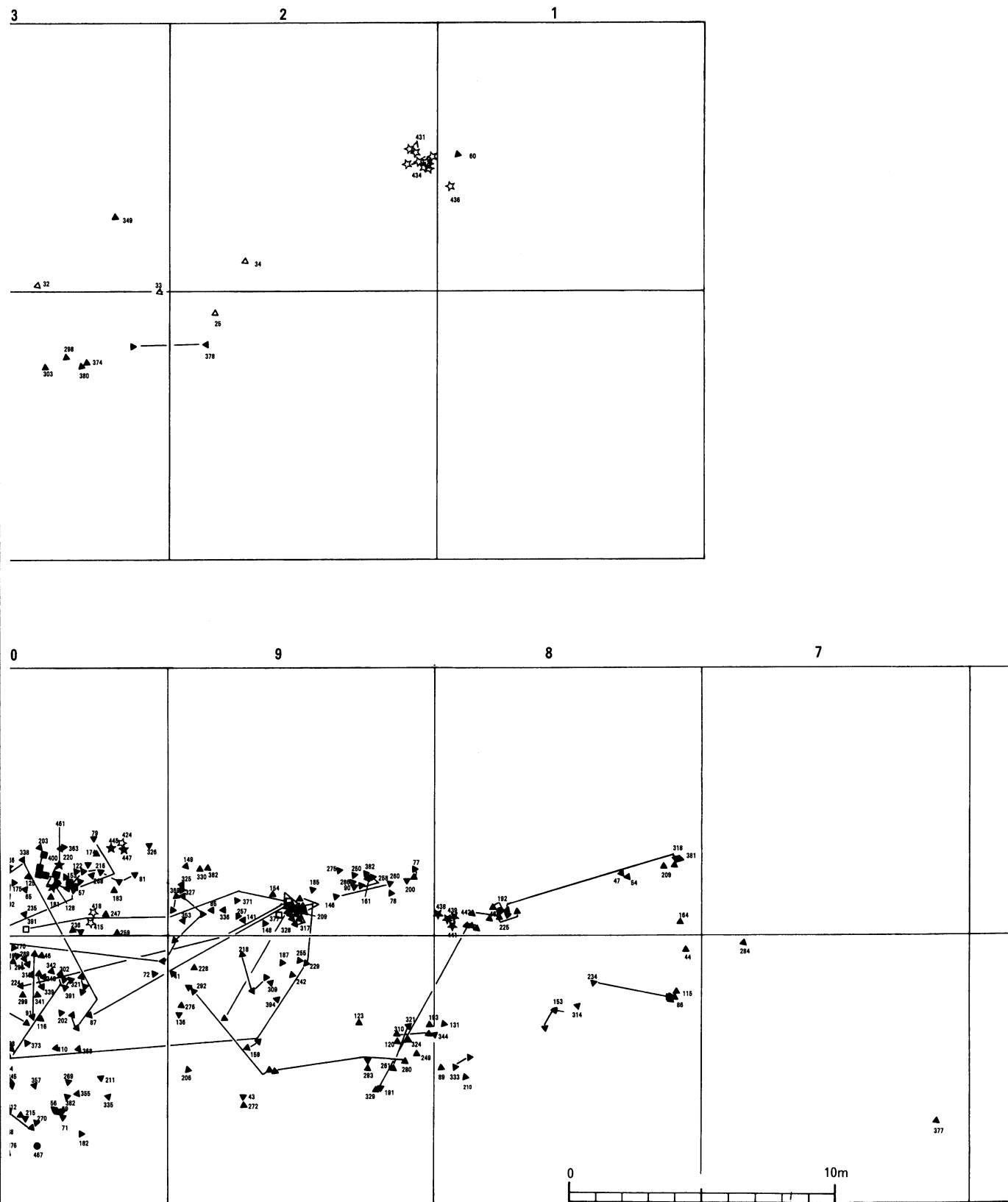
第22図 V 層



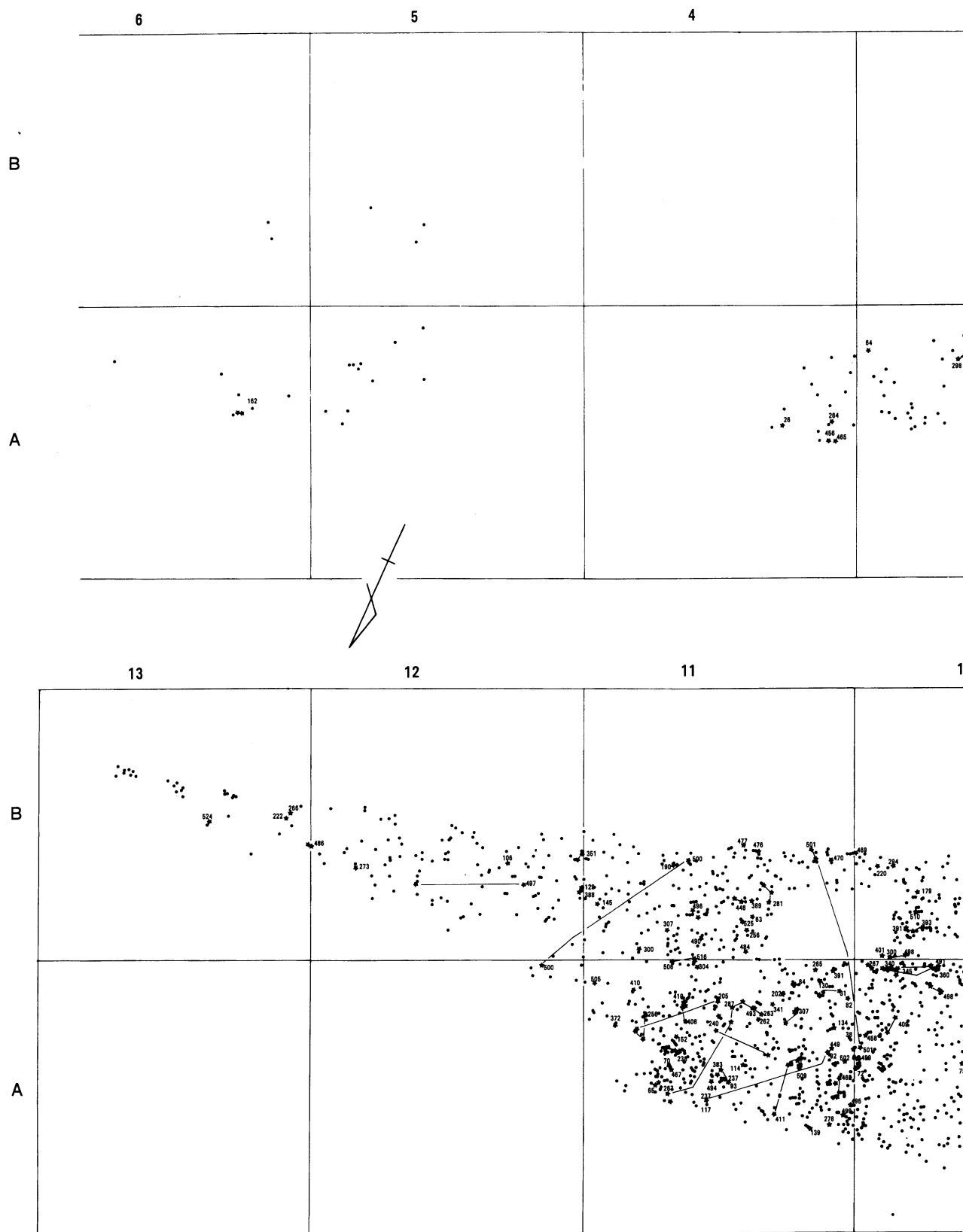
土器出土状況(1)



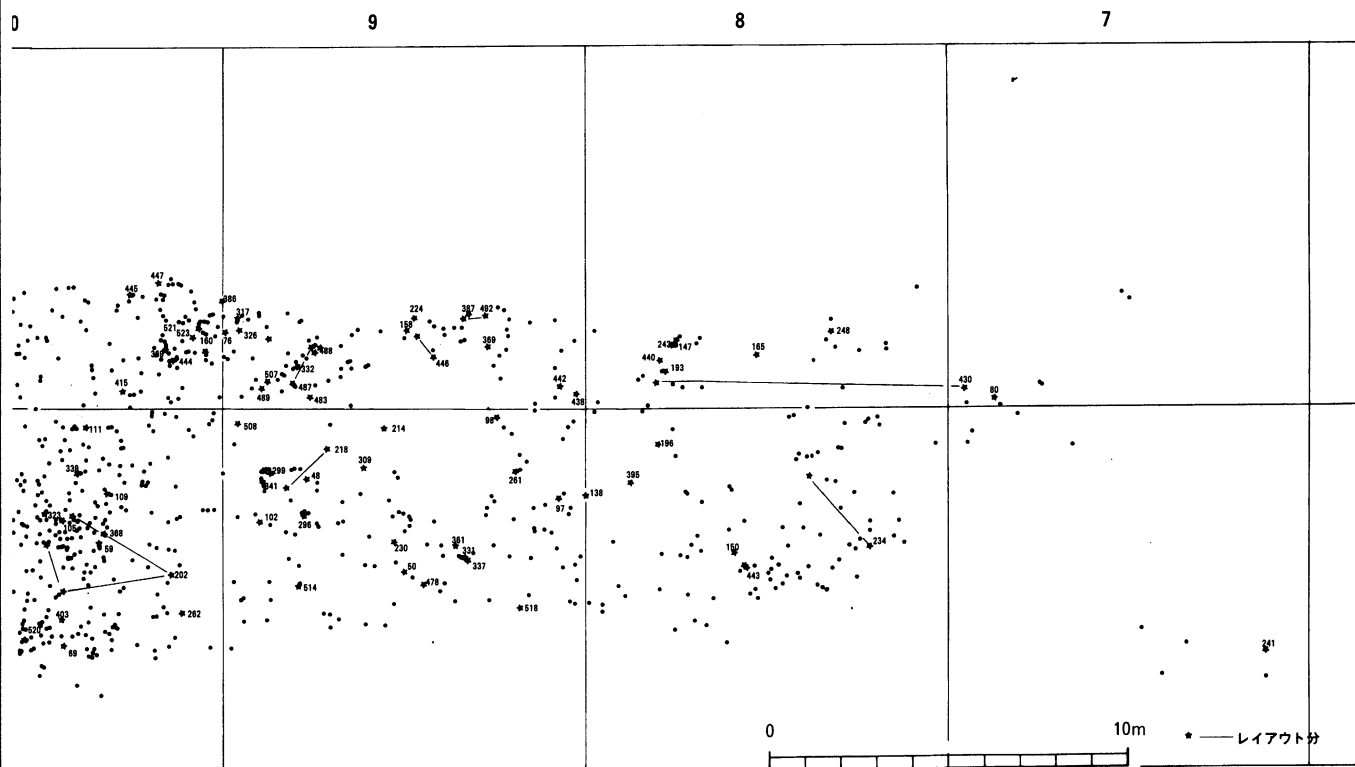
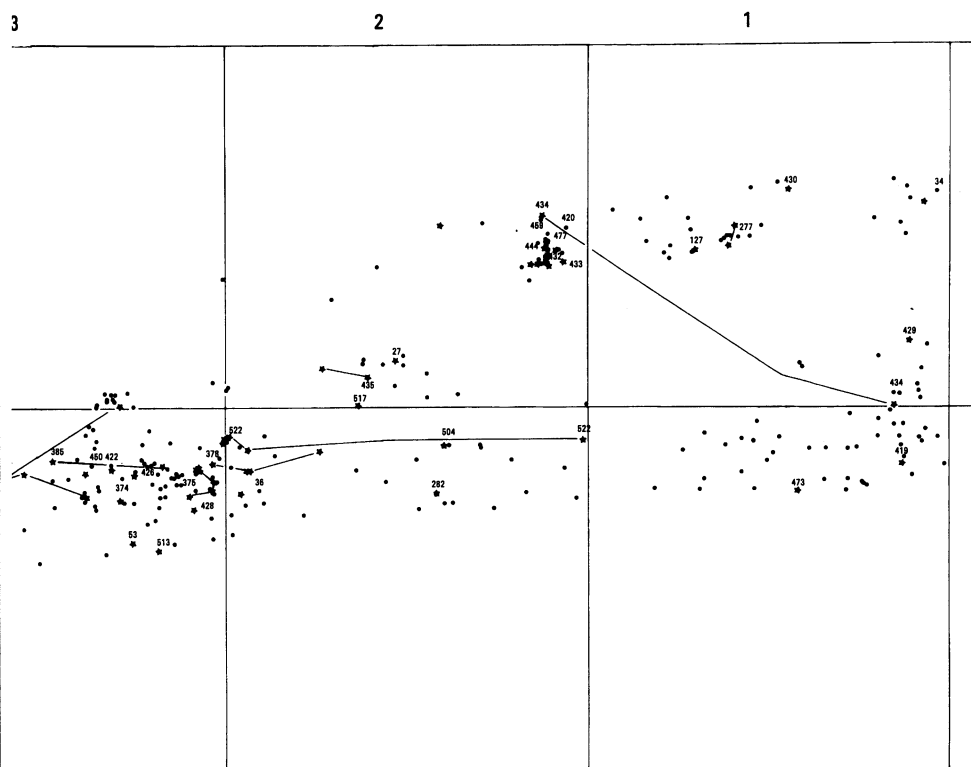
第23図 V 層



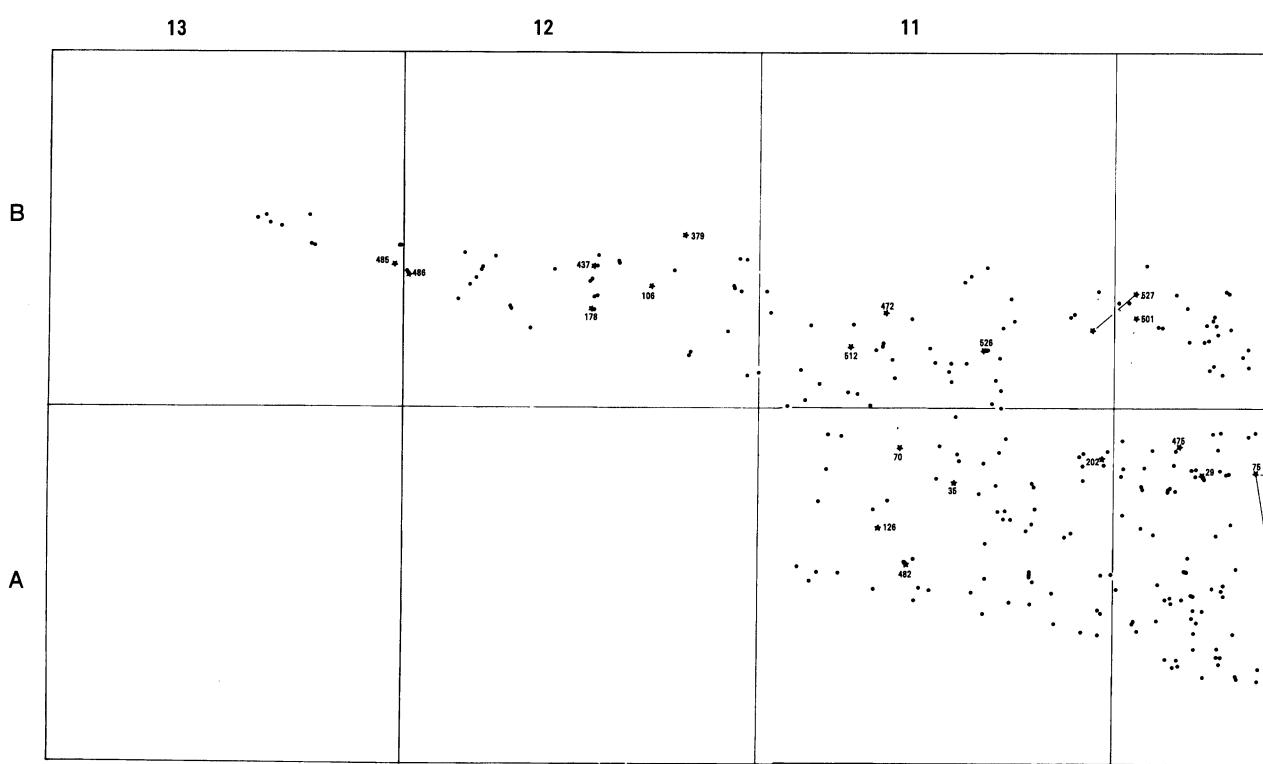
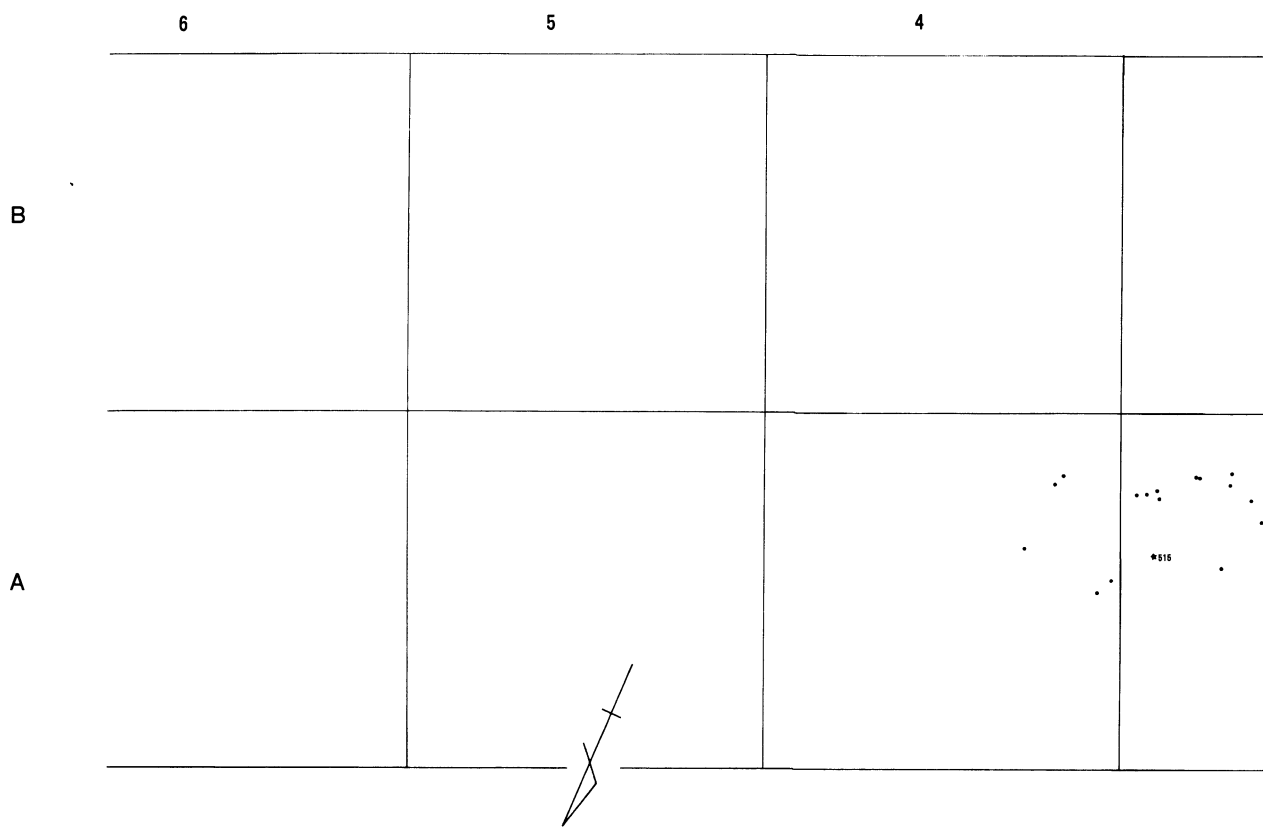
土器出土状況(2)



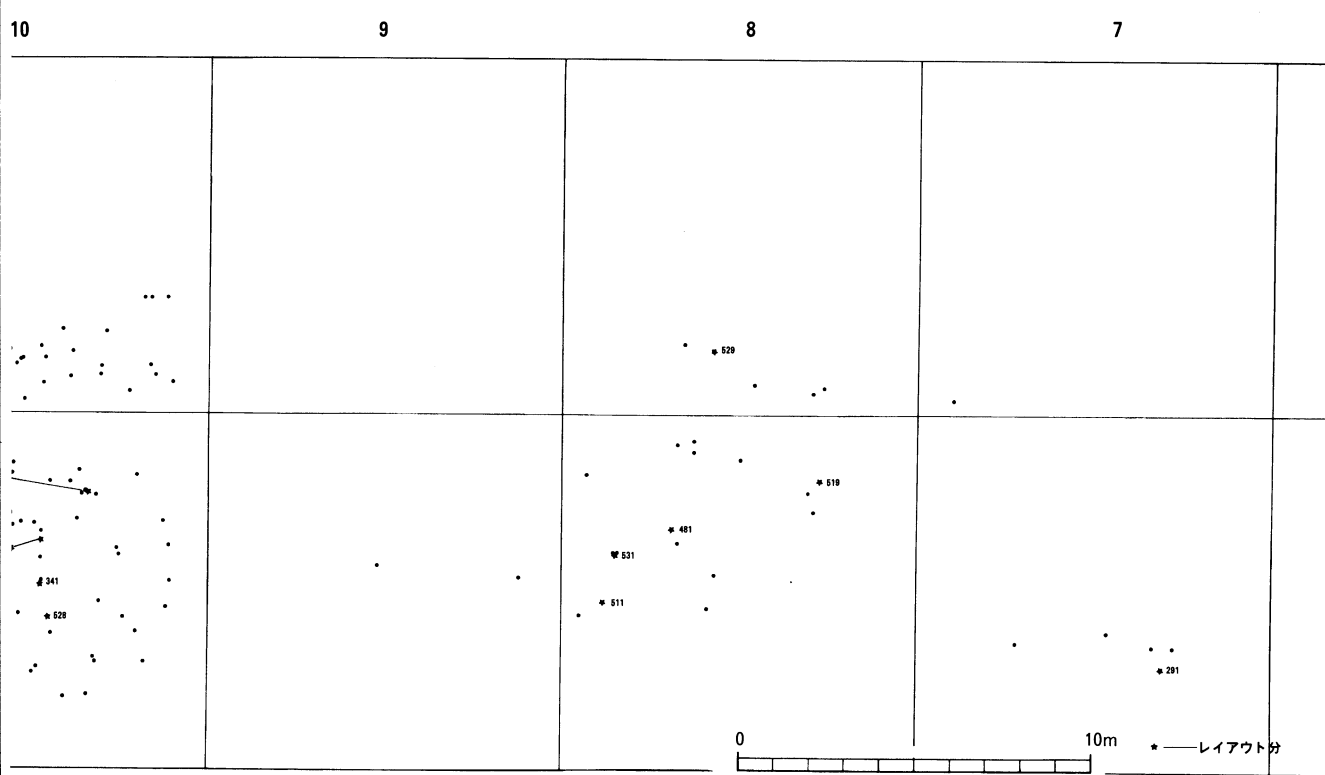
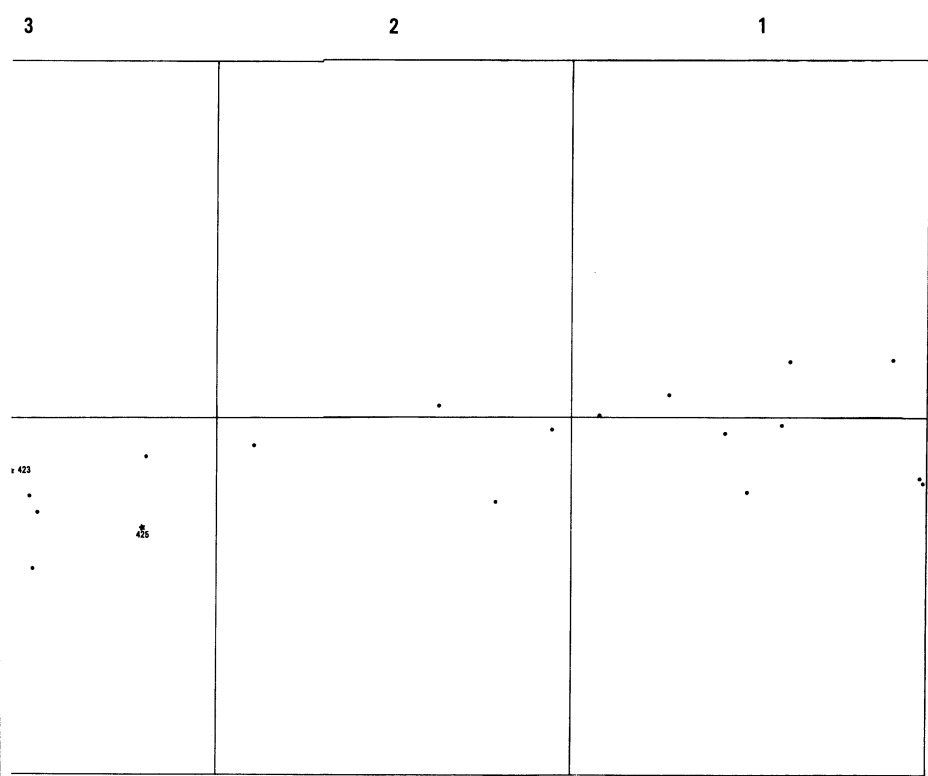
第24図 IV



層土器出土状況



第25図 III



層土器出土状況

第V章 遺物（土器）

遺物は、Ⅷ層・Ⅴ層・Ⅳ層・Ⅲ層から出土した。Ⅷ層は縄文時代早期の遺物包含層であり、早期以外の遺物が混じり込むことはない。Ⅴ層は主に縄文時代前期の遺物包含層であり、Ⅳ層は縄文時代前期から晩期の遺物が出土した。しかし、Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層出土の土器が接合することがあり、Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層は遺物の移動が多少みられる。ここではⅤ・Ⅳ・Ⅲ各層ごとに出土遺物を取り上げるが、分類によっては便宜的に他の層からの出土遺物も取り上げた。

第1節 Ⅷ層（縄文時代早期）の遺物

Ⅷ層出土土器は、総数75点を数える。調査区の中でも1・2区、6区、10・11区を中心に出土した。時期区分では縄文時代早期に位置付けられるものである。出土した土器は1類から6類に類別した。

1類（第26図1～4）

図化したのは4点である。クシ状の工具で沈線を縦位・斜位及び羽状に施すものである。4は底径14.1cmで、器壁は厚く、底部から胴部へはやや開き気味に立ち上がる。2は褐色でその他は赤褐色を呈す。これらは、桑ノ丸Ⅲ類と呼ばれる土器である。

2類（第26図5～9）

図化した5点はいずれも山形押型文で、5・9は斜位にその他は横位に施文する。5・6は内面の口縁端部に縦位の刻みが施される。

3類（第26図10～11）

3類の出土は、図化した2点のみである。いずれも微隆起線文を持つ、手向山式土器と思われる。

4類（第26図12～14）

いずれも胴部片である。風化が進み、やや不明確ではあるが、3条の凹線文を横位もしくは斜位に、撚糸文を縦位に施すものである。内面の調整は、器面剥落のため不明である。塞ノ神A式土器である。

5類（第26図15～20・第27図21）

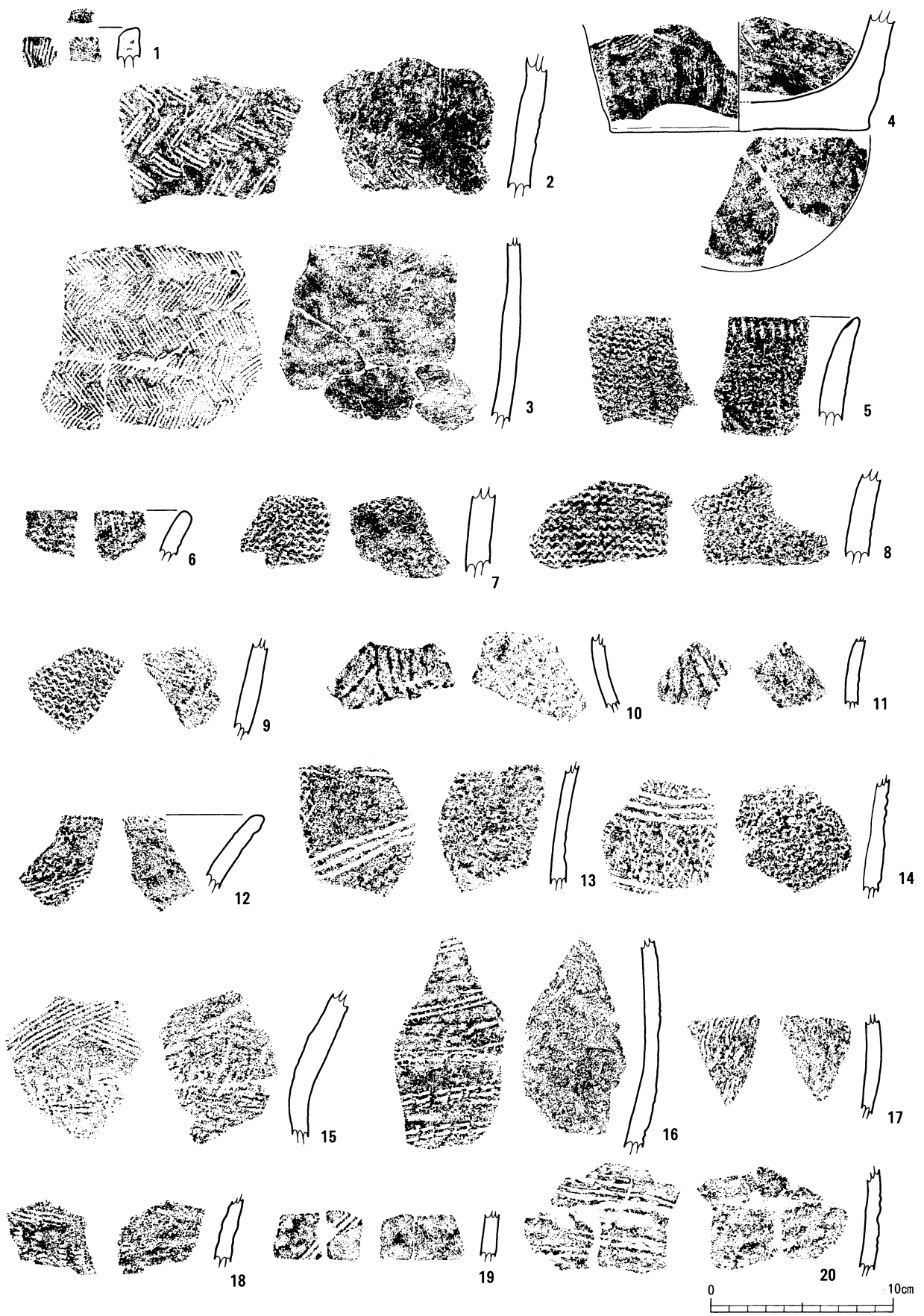
いずれも貝殻を使い施文するものである。叉状工具による押し引き施文（16・17・20）と数条の沈線と貝殻による連続刺突文（15・18）がある。19は沈線のみであるが後者と思われる。21は、直線的に開く器形で器壁は5mm程度で薄く、口唇部に刻みを持ち、4mm程度の穿孔が施されている。文様は、風化で不明確だが貝殻による横位と斜位の施文である。5類は塞ノ神B式土器である。

6類（第27図22～24）

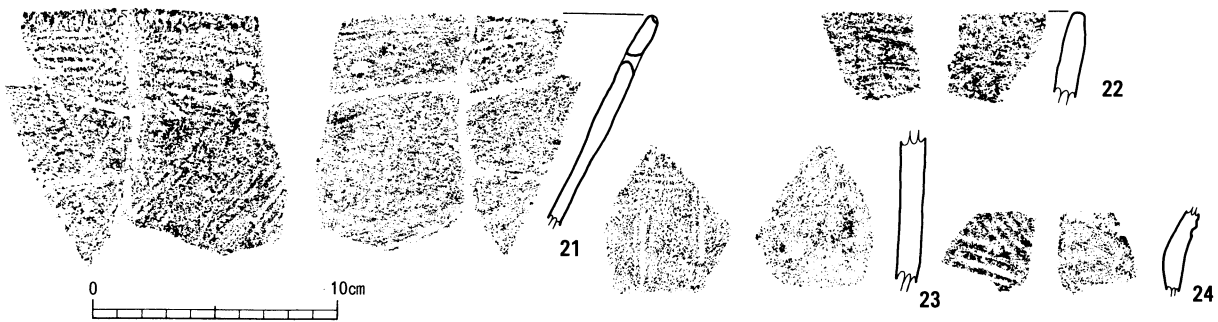
6類は、型式不明の土器で、いずれも器面の風化が見られる。22は口縁部で色調や胎土は塞ノ神式土器に近い。23の胎土は砂粒を多く含み、横位と縦位の沈線が施されている。24は斜位の沈線で文様が施される。

第2節 Ⅴ層（縄文時代前期）の遺物

Ⅴ層は縄文時代前期の遺物が出土して土層も安定している。Ⅳ層からは縄文時代前期から後期ま



第26图 VIII層出土土器(1)



第27図 VIII層出土土器（2）

での遺物が出土したが、前述のとおり堆積が不安定で当然遺物も原位置を保っていないと思われる。

ここでは、V層を中心にして便宜的に他の層の出土土器も含め、縄文時代前期の遺物を7類から14類まで分類した。V層出土の土器については第22図にその出土状況を示し、さらに図化したものについては第23図に示した。出土状況を概観すると8区から13区にかけてと1区から4区にかけての2ブロックに分かれる。特に、A-10・11区とB-10区では多量の土器が出土した。

7類（第28図25～34）

微隆起線文をもつ轟B式土器である。器面調整の条痕を内外面とも残すが、条痕をナデ消しているものもある。25は丸底の浅鉢で、復元口径26.4cm、器高12.7cmを測る。胴部から口縁部へは直線的に開き、胴下部で屈曲して丸底の底部に至る。口縁部から胴下部まで微隆起線文を横位に5段施し、口縁部の内側から外側にかけて粘土紐を縦位に18本を1単位として4ヶ所に貼り付けるものと思われる。轟B式土器でも荘タイプと呼ばれるものである。V層の下部でVI層との境目に出土した。26から33は微隆起線文であるが、34は太めの隆起線文をもつものである。29は胎土が他の土器と比べて砂粒を含み、突帯も貼り付けで粗雑である。

8類（第29図～第49図）

V層を中心にⅢ・Ⅳ層からも出土した曾畑式土器である。Ⅲ・Ⅳ層出土の曾畑式土器も便宜的に8類として分類した。

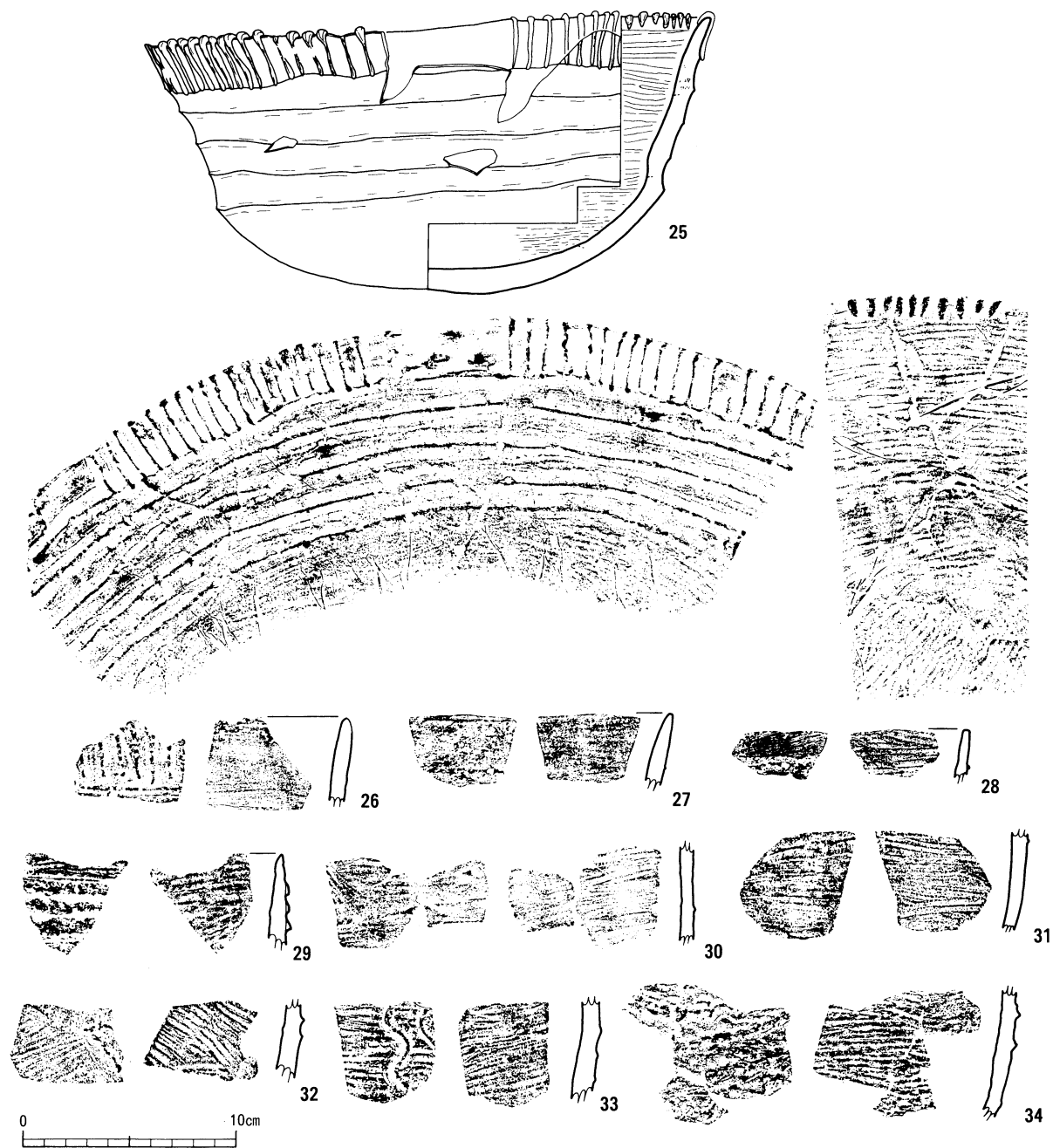
曾畑式土器は、器形的には外反した口縁部に頸部が締まり、胴部はやや張る丸底をもつ土器である。本遺跡出土の曾畑式土器は、口縁部はやや開き気味のものが多く、次いで多いのは非常に外反が強くなるものであり、直行するものもは少ない。頸部の締まりと胴部の張りは弱く、中にはほぼ直線的に胴部から口縁部に至るものもある。底部は丸底だが、平丸底もある。

外面文様は、区画をもって文様を構成するものは少なく、刺突や沈線で第1文様帯構成するものも少ない。文様は、横位の沈線や四角文で構成するものが多い。内面の文様は刺突や横位の沈線を施すものが多い。また、口唇部については刺突を施すものが多いが、中にはヘラ状工具による刻みを施すものもある。

ここでは各部位の文様毎に記述する。

〈口縁部〉

35～38は口縁部外面の第1文様帯に刺突を施すものである。口縁部は直行するかやや外反する。35～37は内面にも刺突を、38は沈線を施すものである。36は胎土に滑石を多く含み、押し引きに近い刺突が3条施され、第2文様帯には横位の沈線と鋸歯文を窺わせる斜位の沈線がある。37は波状



第28図 V層出土土器（1）

口縁となり、内外面とも数条の刺突が施される。38は横位の刺突を2条、その下に横位の沈線を施した形跡がある。

39～43は口縁部外面上部に1～2条の刺突を、その下に沈線を施すものである。内面は刺突と沈線のものと同沈線だけのものがある。

44～46は口縁部外面に刺突と沈線を組合せたものである。内面は外面と同様な組合せと無文がある。

47～127は、口縁部外面に横位の沈線を施すか第1文様帯が横位の沈線で第2文様帯に他の文様を施すものの1群である。口唇部にはほとんどの土器に刺突が施してある。口縁部の外反の強いものは少ない。47は、細い沈線が間延びした間隔で施される。69は口径15.3cmを測り、胴部中央付近まで横位の沈線を施し、胴部以下には別な文様を施すがその構成は不明である。75は口縁部が外

反し胴は張らずに丸底の底部に至る。復元口径24.9cm, 器高25.4cmを測る。外面文様の規格性はあまりなく, 口縁部から胴中央部まで横位または若干斜位の沈線で文様を施し, 胴下部は折帯文風の文様である。底部はくもの巢状の文様となる。口縁部内面には浅い沈線が4~5条ある。81・87・104は胴部まで横位の沈線を施す。81は復元口径31.5cmを測る。92~95は口縁端部に3条の沈線を横位に引き, その下には折帯文を施す。接合しなかったが, 92・93・95は文様構成や胎土から同一個体と思われる。

128~135は, 口縁部外面の横位の沈線の上に縦位もしくは斜位の沈線を施すものである。内面は無文, 刺突, 横位の沈線がある。調整は内外面ともナデによるものである。128は復元口径17.1cmを測り, 胴部から頸部までは直線的に開き, 口縁部は多少外反する。

136~164は斜位もしくは縦位の沈線で文様を構成するものであるが, 全体的に文様の規格性は崩れる。142は復元口径21.6cmを測り, 外面は規格性を失った折帯文で内面は3列の刺突が施されている。144は, 口縁部が内湾気味で口唇部の刺突が内側にずれて施されている。また, 器壁が厚く, 胎土・焼成とも他のものとは多少異なる。160は文様構成が不明確だが, 四角文が崩れたものと思われる。162は沈線で菱形を幾重にも重ね, その対角線上を縦に2列の竹管状工具による刺突を施す。胴部片の261と同じ文様である。164は縦位の沈線に横位の沈線を上がりするものである。

165~223は外面に沈線による四角文を施すものである。土器片のため文様の全容が不明確で, 第1文様帯に横位の沈線が施され第2文様帯に四角文が続くものと, 第1文様帯から四角文が施されるものと区別がしにくいいため四角文はここで取り上げた。168は復元口径27.9cmで, 口縁部は外反し, 4個と思われる山形突起をもつ。頸部は多少締まり, 胴部がわずかに張る。口縁部上部の横位の沈線下に四角文があるが, その区画は不明確である。1段目と2段目の四角文はずれて施される。172は復元口径36.9cmで口縁部はかなり外反し, 小さな瘤状の突起が付き, 胴部は多少張る。1段目と2段目の四角文には横位の1条の沈線で区画をもつ。内面は1条の刺突の下に5条の短沈線が続く。173は口縁端部がすぼまり, 内湾する。176は, 復元口径24.6cmを測り, 口縁部が多少外反し, リボン状の突起をもつ。頸部はわずかに締まり, 胴下部が多少張る。文様は規格性を失った四角文だが, 縦方向の区画を意識しているようにも思われる。内面はヘラ状工具による縦方向の短沈線下に横位の沈線をもつ。184は復元口径26.1cmである。186は復元口径19.2cmで波状口縁となる。内面は上から横位の沈線・押し引き・沈線の順で施文され, 波状部だけは最上部に刺突がある。191は復元口径42cmを測る大型の深鉢である。口唇部は平坦で刺突が施され, 口縁部は強く外反し内面には沈線と押し引きが交互に施される。194は復元口径21.9cmを測り, 文様構成はしっかりしている。内面は, 押し引き風の刺突と沈線が交互に施される。202は復元口径27cmで, 胴部から口縁部へは直線的に開き, 口縁端部がわずかに外反する。2段の四角文の下には横位の沈線が施され, 区画性をもつ。209は復元口径21cm, 口縁部はかなり外反する。215は復元口径25.8cm, 1段目と2段目の四角文の境に区画性は窺えない。内面は横位の沈線を施すが, 重孤文風に沈線の端部は上方に向く。これらの内, 191・218~220・222・223は四角文の上に横位・縦位・斜位の沈線を施してある。

224・225は楕円形の区画の中に文様を充填するものである。224は山形の突起をもち, 外面は2本の沈線間に刺突が入り, その下に斜位の短沈線, 2本の沈線で楕円形の区画と続くものである。区画の中には棒状と竹管状工具の2種類の刺突が施される。225は1条の沈線で区画を設け, その

中に羽状の沈線を充填している。

〈胴部〉

226・227は沈線と刺突の組合せの文様をもつものである。227は浅鉢と思われる。

228～233は横位の沈線のみのものである。228は赤褐色を呈し、胎土に滑石を含み、明らかに他の土器とは異なる。

234～271は縦位・横位・斜位もしくはこれらの組合せで文様を構成するものである。234～245は折帯文風ではあるが、その規格性は失われているものが多い。235は胴部径10cm足らずの小形の深鉢である。239は文様の区画に刺突を用いていると思われる。247・250は非常にかぼそい沈線を施すもので、同一個体の可能性もある。257・258は浅い格子目状の沈線の上に横位の沈線を施す。259は胴部のみであるが、最大径が36.3cmの大形の深鉢である。胴下部からほぼ直線的に口縁部まで開く器形である。文様は地文化する位の縦位の浅い沈線を密に施し、下部は施文後ナデ消している。262～267は、縦方向の沈線の上から横位の直線及び曲線の沈線を施すものである。268・270・271は縦位横位の沈線の上に楕円形状の曲線を施す。

272～323は胴部に四角文をもつ土器群で、規格性を持ったものと崩れたものがある。器面調整はいずれもナデもしくは工具ナデである。289・293・298・299・304・309は区画を分ける横位の沈線をもち、322・323は上下の文様が横位の刺突によって区画される。また、307は文様の構成上しっかりした区画性をもつ。324～328・332は羽状文をもつものである。これらが、225のように区画の中に羽状文を充填するかは不明である。328は横位の羽状文の下に四角文が施される。330・331～346は四角文の上からさらに直線や曲線を施文するものである。337は内面に器面調整の条痕を残し、器壁が多少厚く、胎土・焼成とも他の土器とは異なる。

〈底部〉

347～363・366・367は底部を沈線で分割し、沈線の間を短沈線で充填するクモの巣状の文様をもつものである。366は十字形の沈線が2本1組になり、367は底部を沈線で8等分し、その間を短沈線で充填するものである。

364・365・368～373・375・376は四角形もしくは円形に近い形に短沈線を施すものである。369は底部中央の区画の中に斜位の沈線を施す。

374・377～382は、直線もしくはその組合せの文様をもつものである。377はほとんど平底で、378の胴下部の文様は規格性のない浅い沈線で構成され、底部は3・4本の浅い沈線が格子目状に施されたあとナデている。

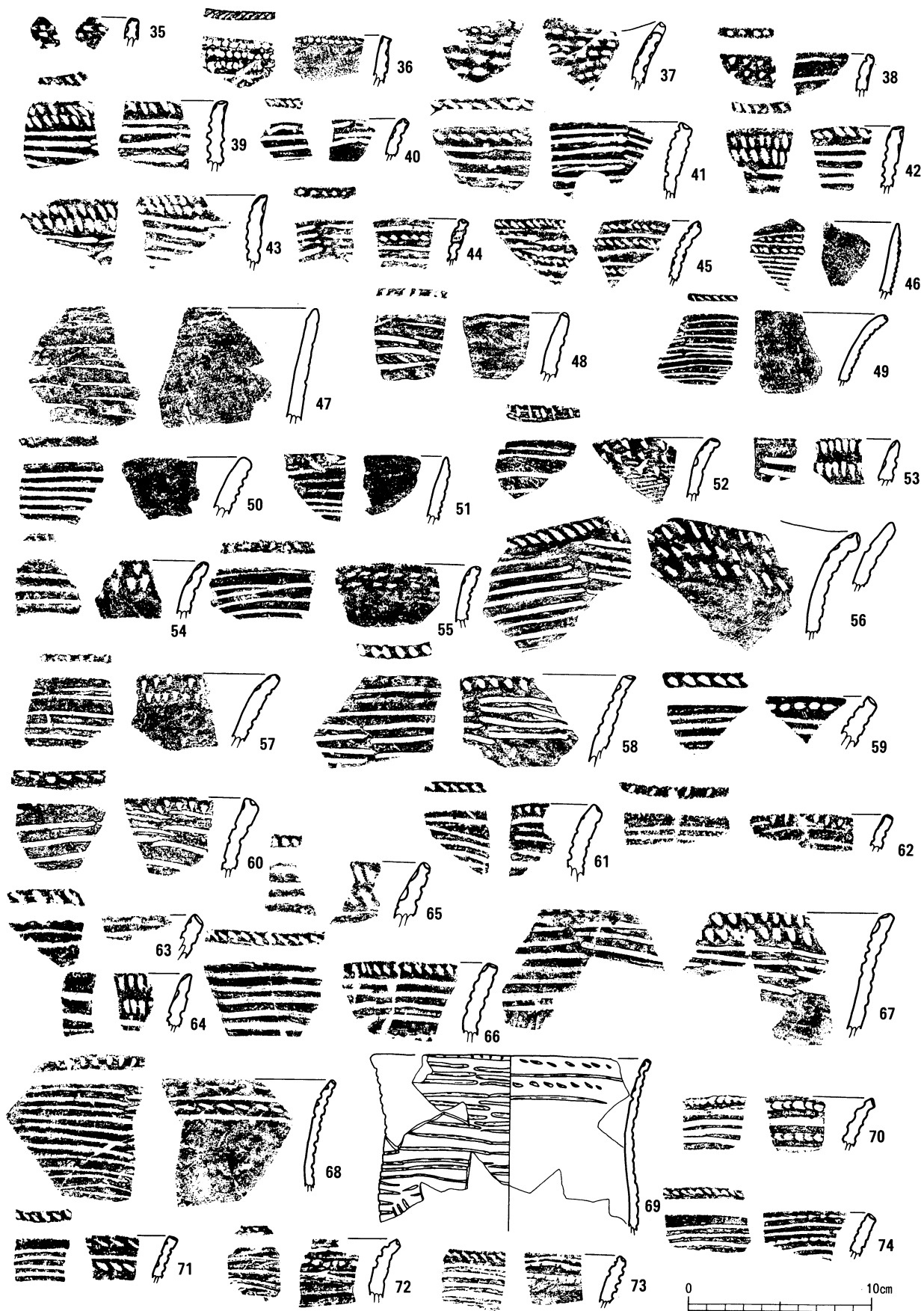
383～385は無文の底部である。

〈その他〉

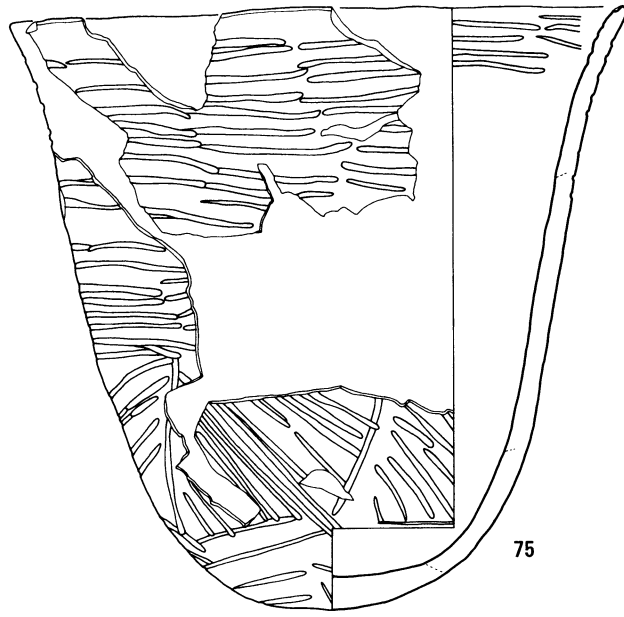
386は手づくねの小型土器で口唇部と胴下部に施される刺突の施文方法や粘土の接合痕等は曾畑式土器である。387はメンコである。

9類（第50図388・389）

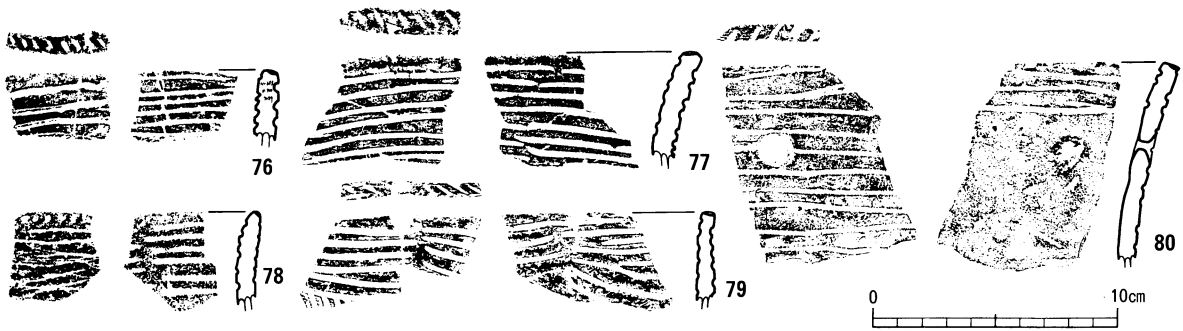
IV層及びV層からの出土した土器である。口唇部にはヘラ切りによる刻みが入る。ヘラ状工具による鋭い沈線と2列1組の浅い押し引きで文様を構成するものである。調整は、内面外面ともナデである。



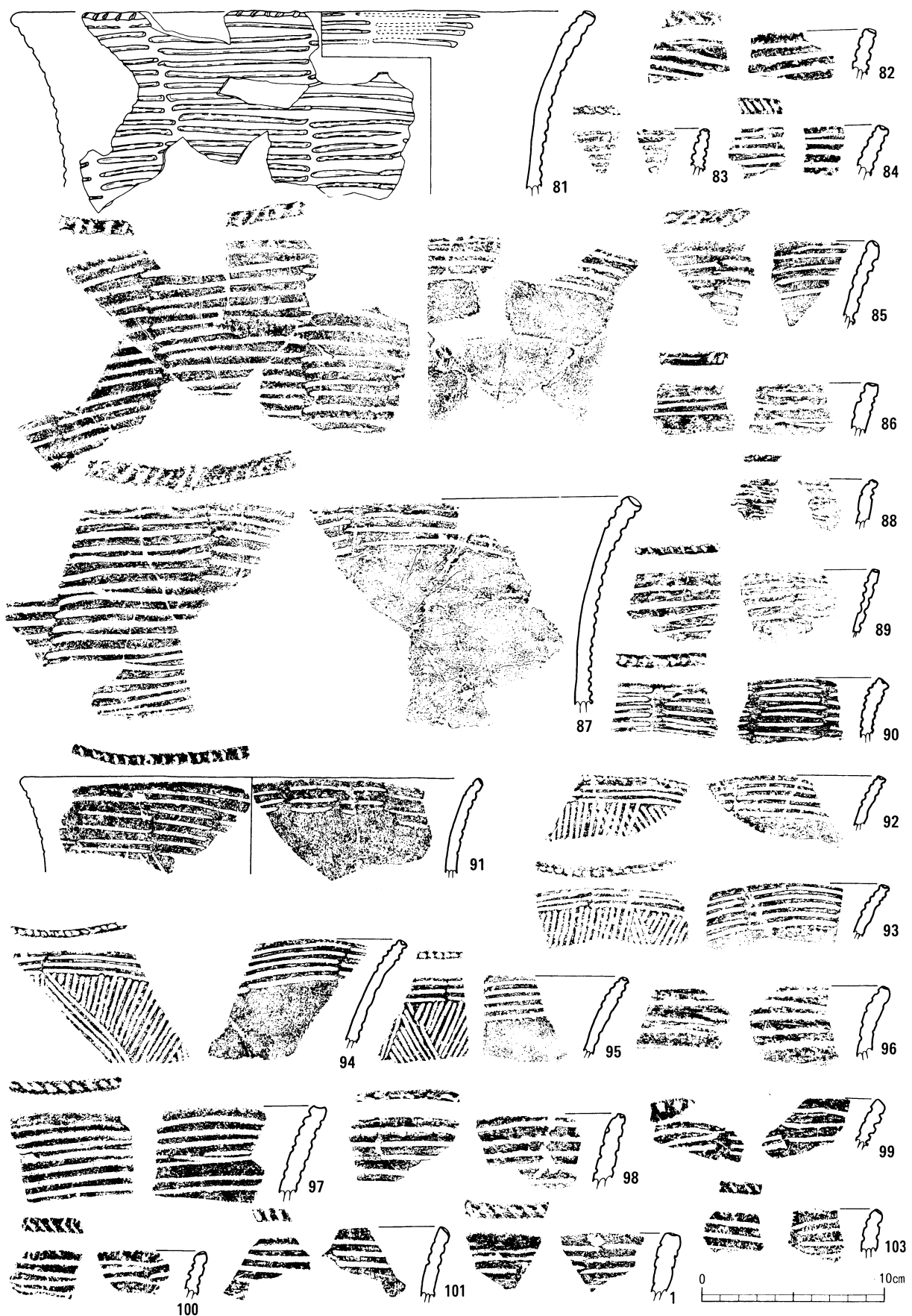
第29图 V层出土土器(2)



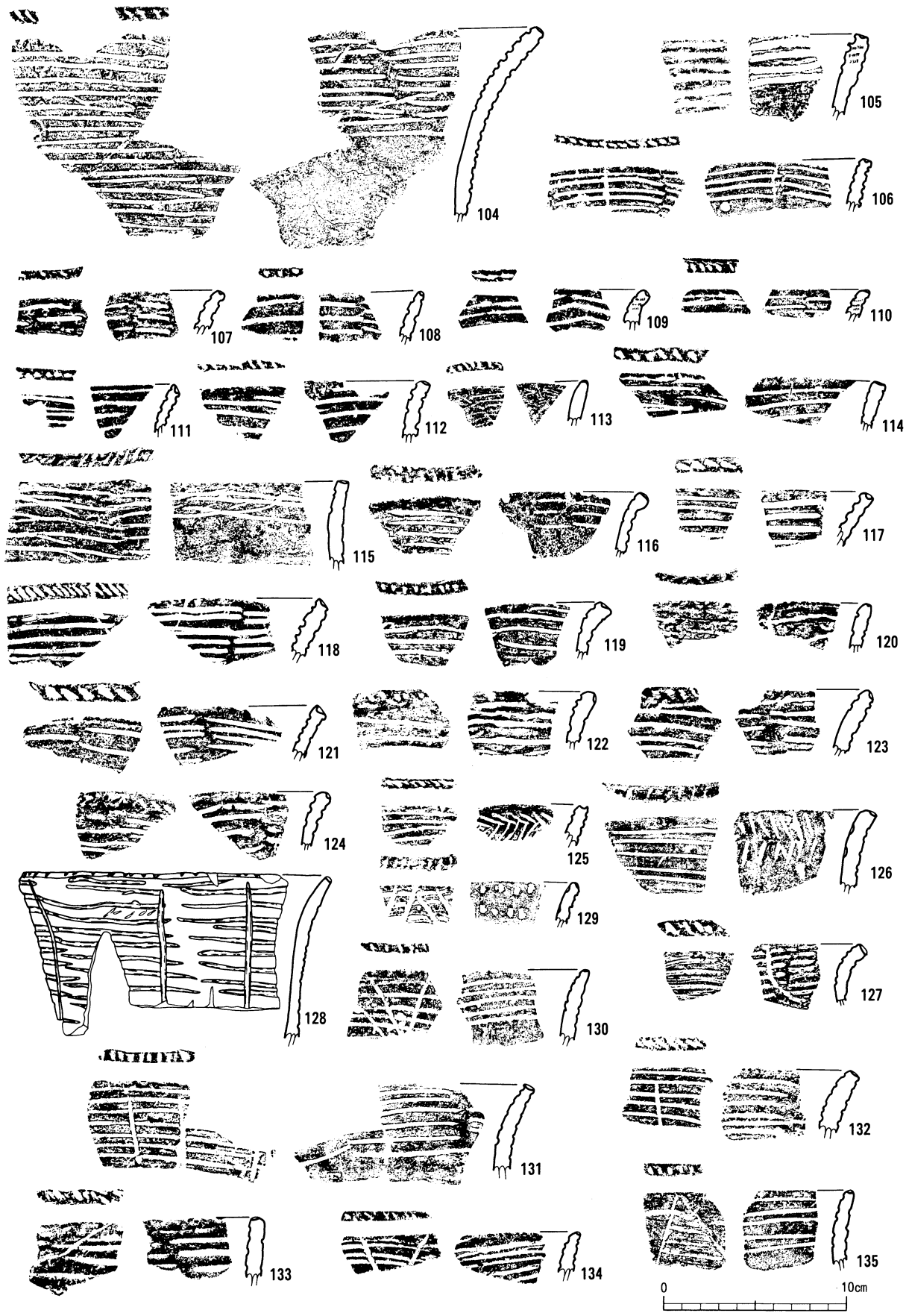
75



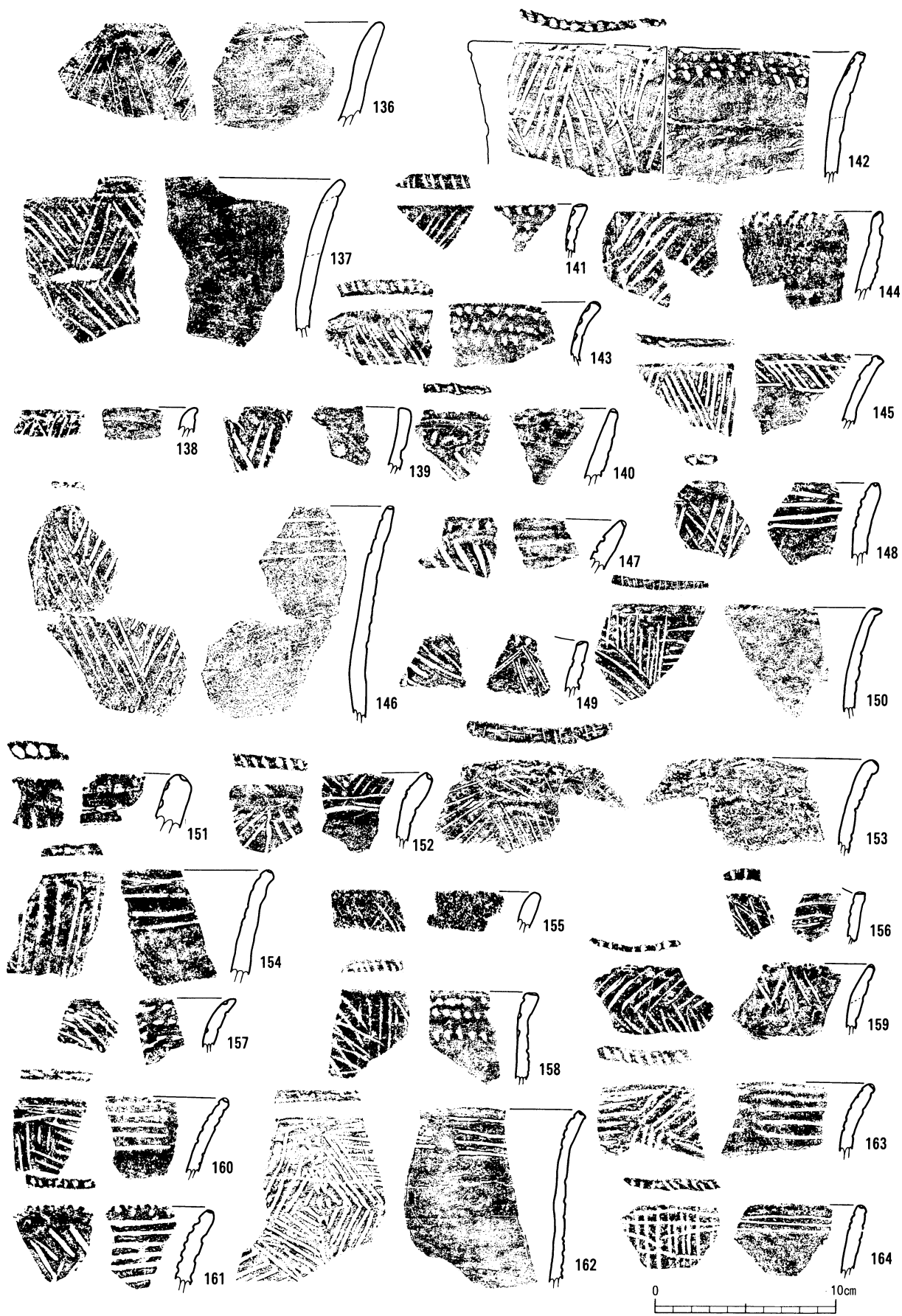
第30图 V層出土土器(3)



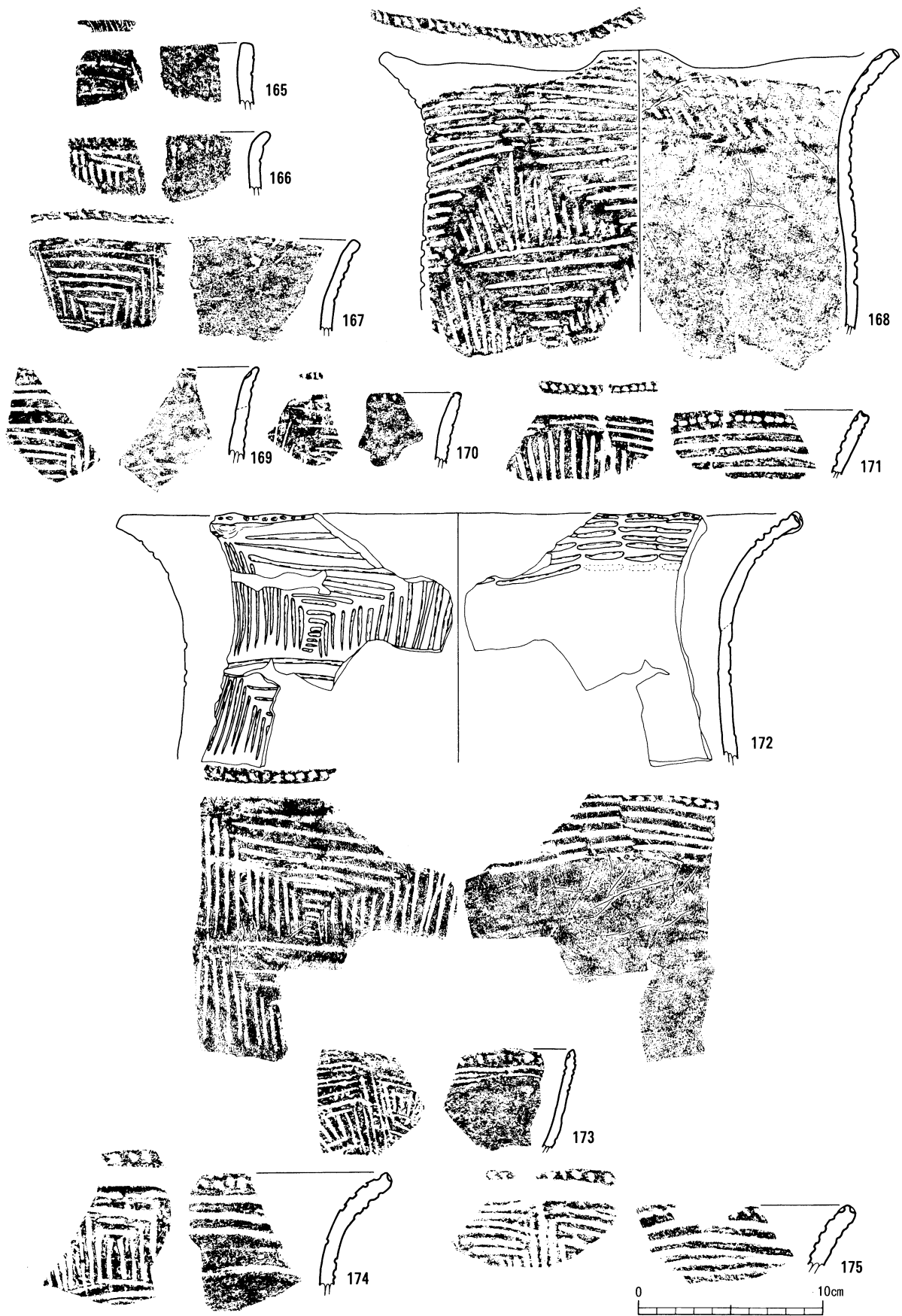
第31图 V層出土土器(4)



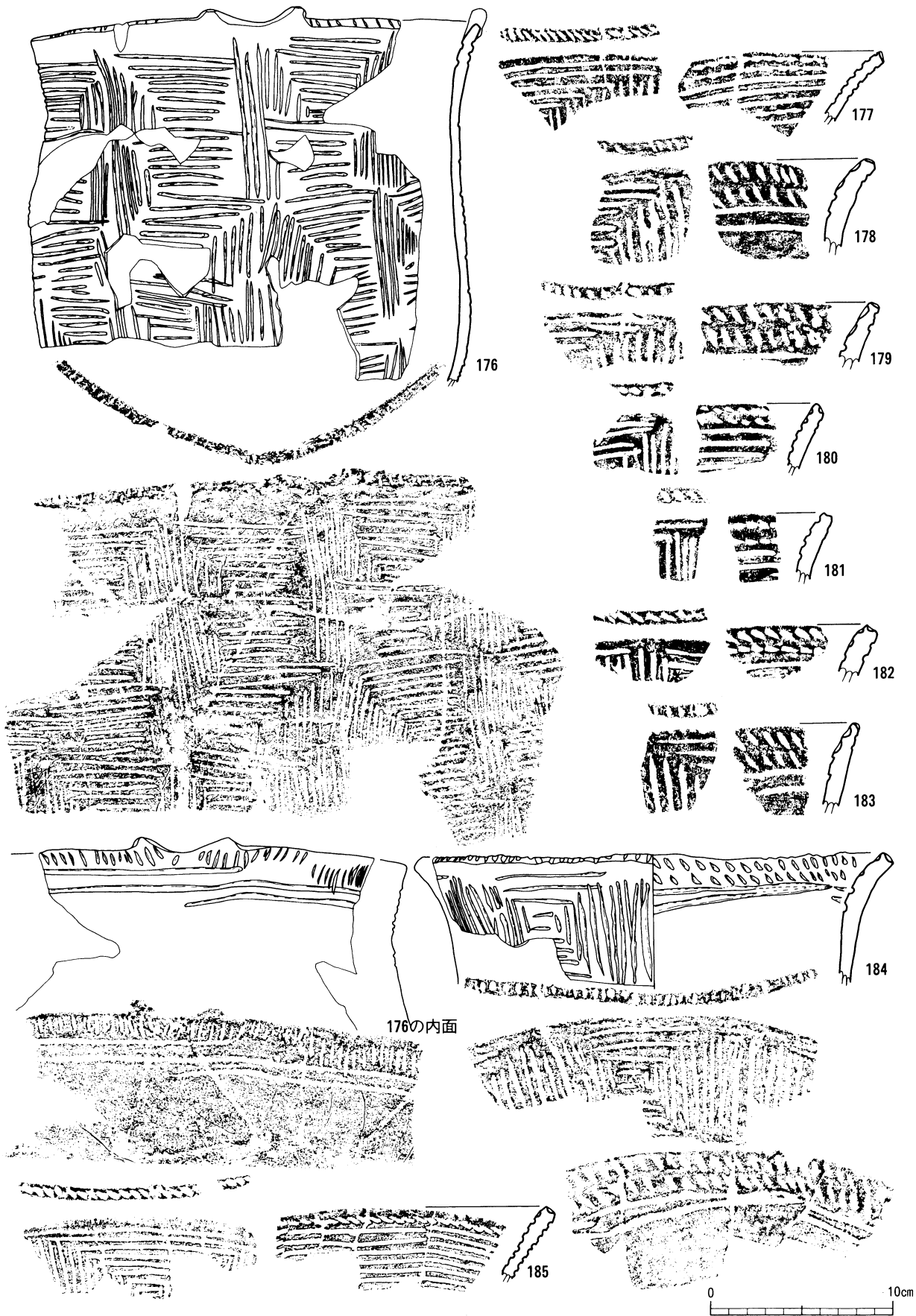
第32图 V层出土土器(5)



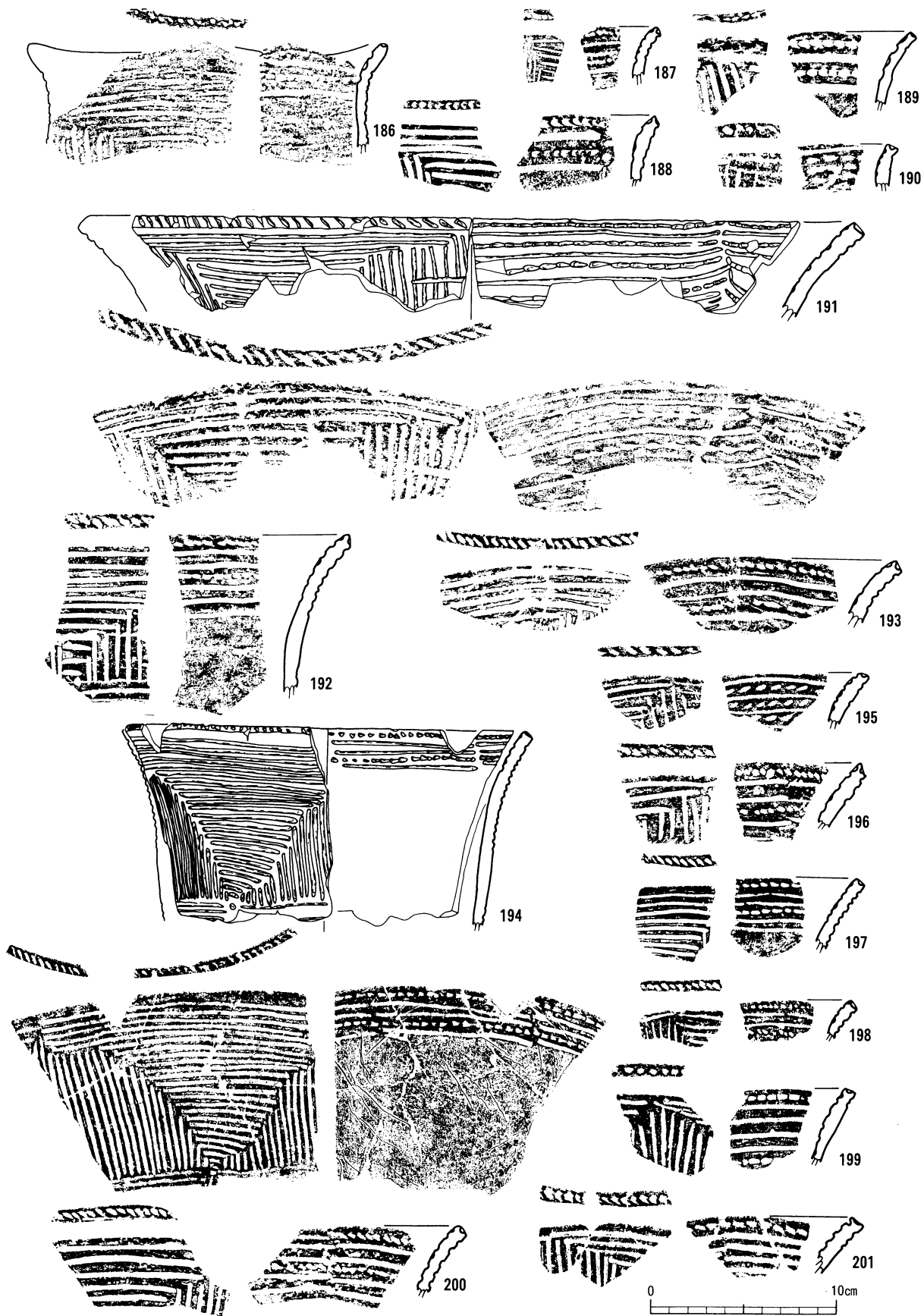
第33图 V層出土土器(6)



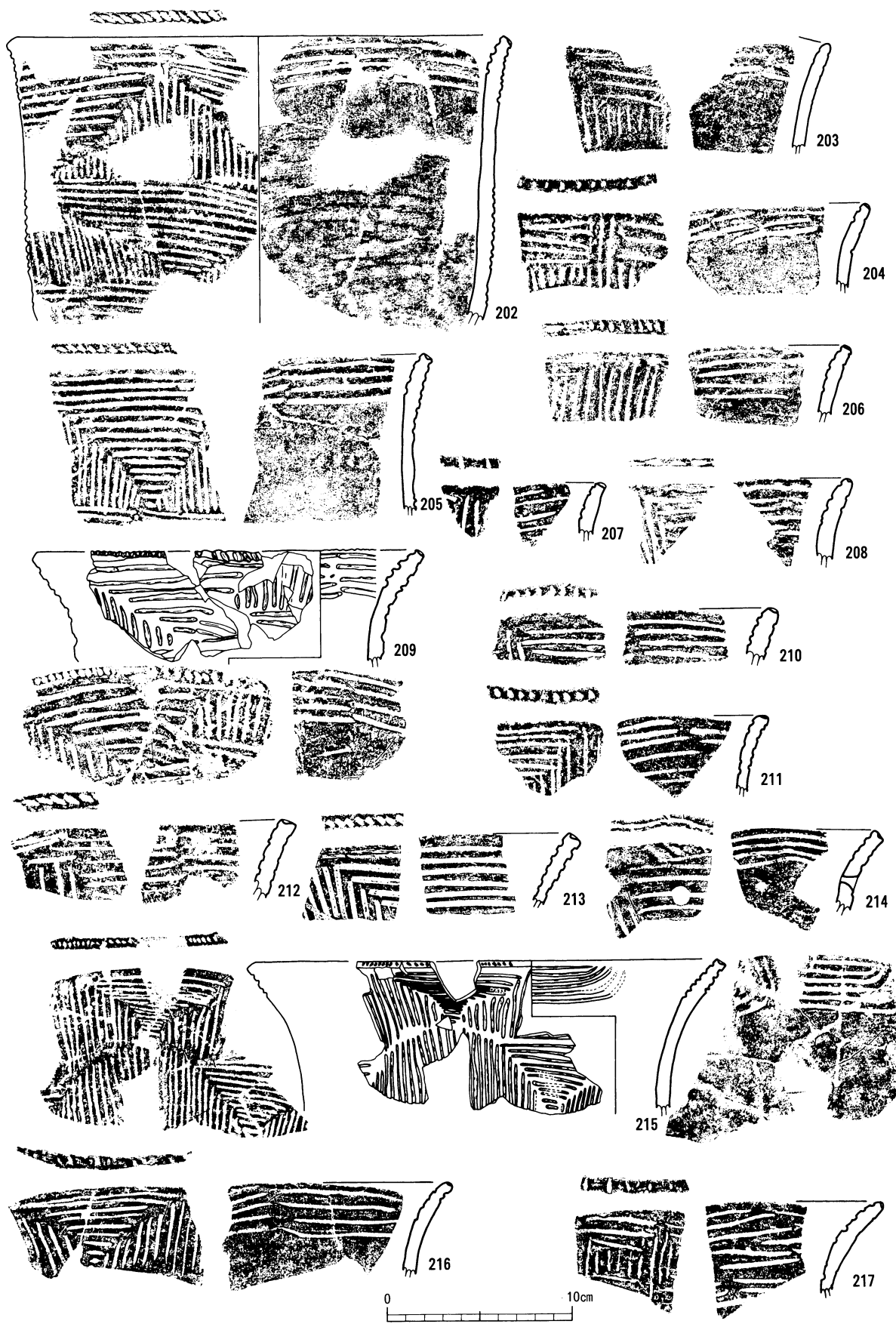
第34图 V層出土土器(7)



第35図 V層出土土器(8)



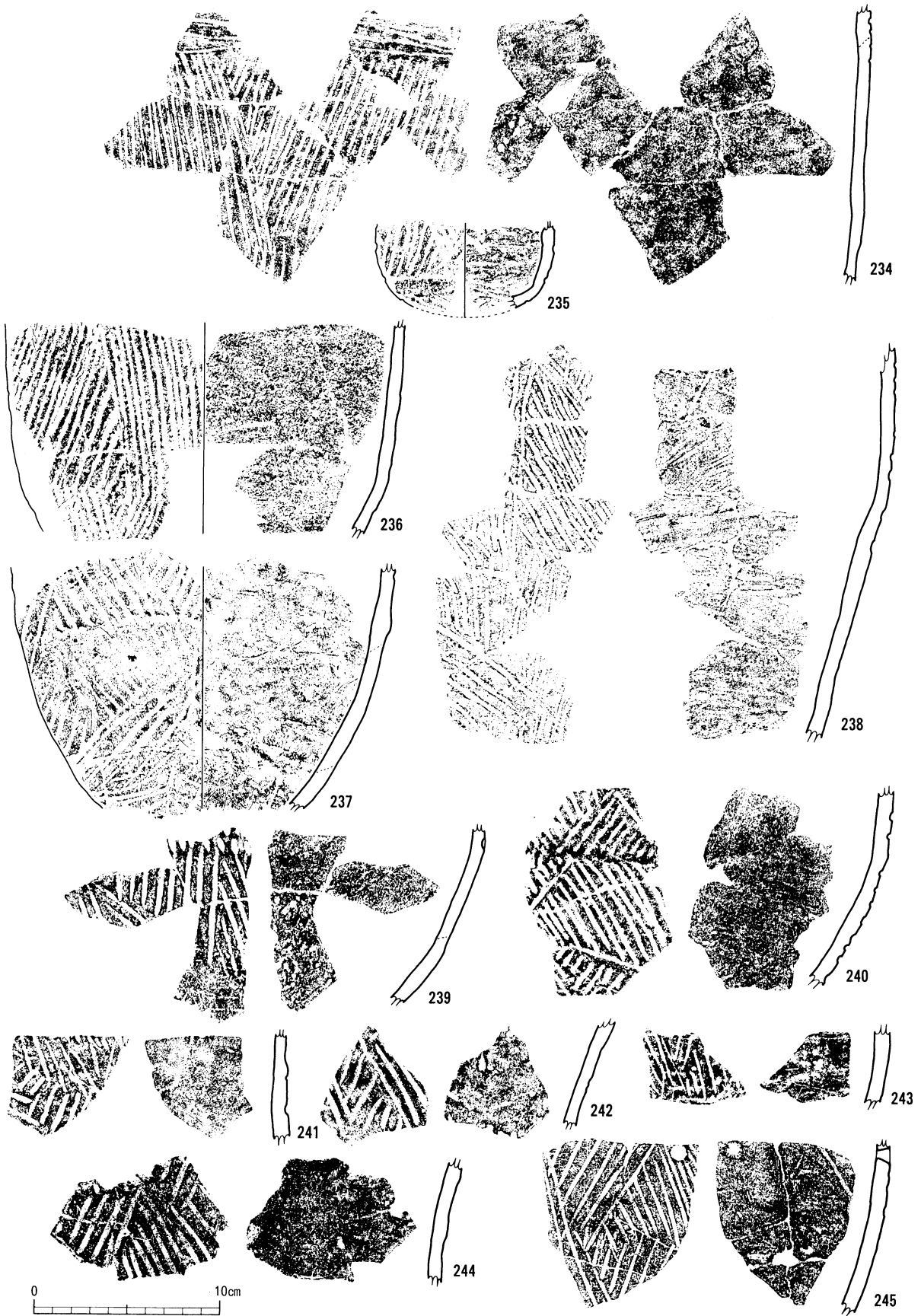
第36图 V層出土土器(9)



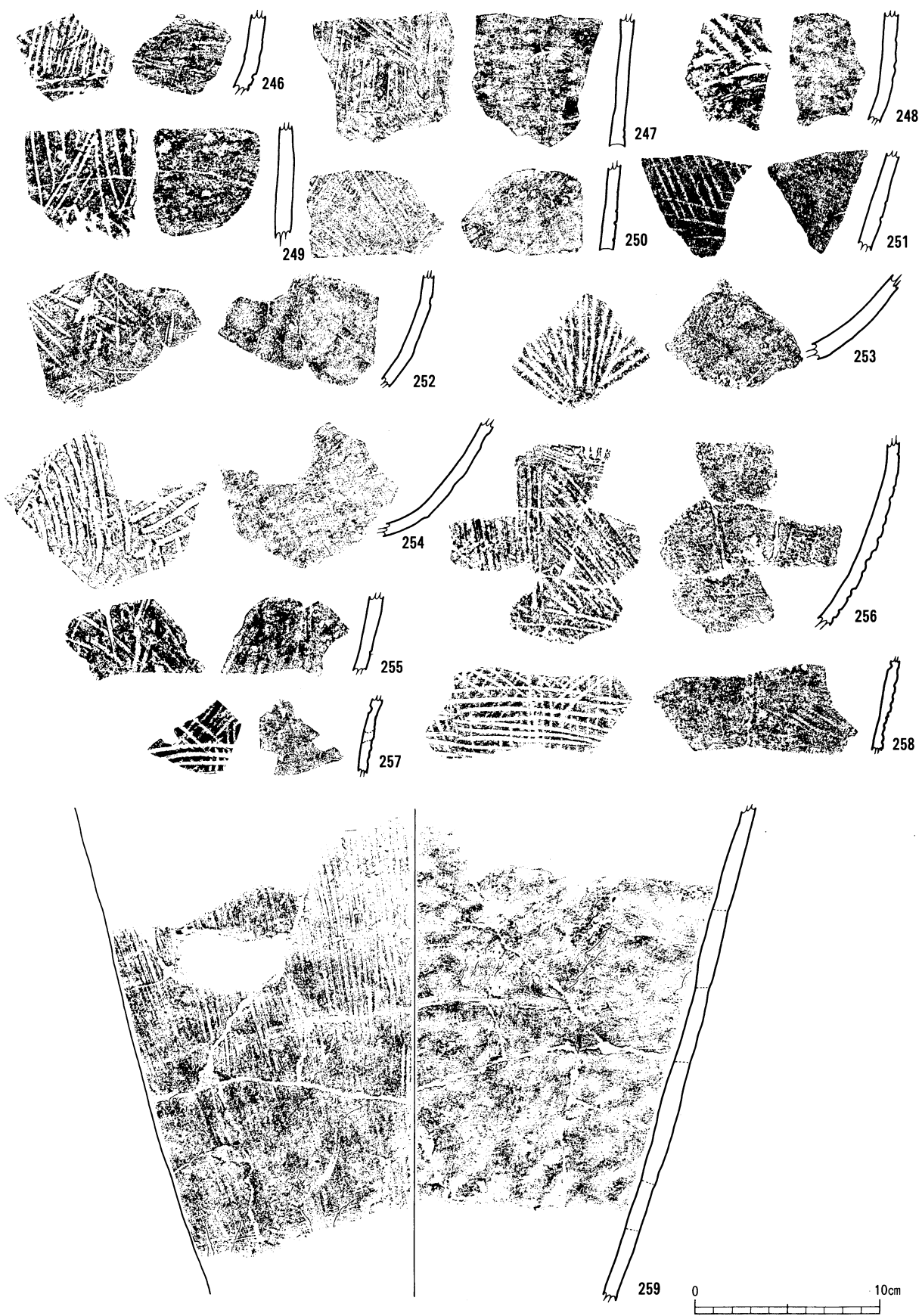
第37图 V层出土土器(10)



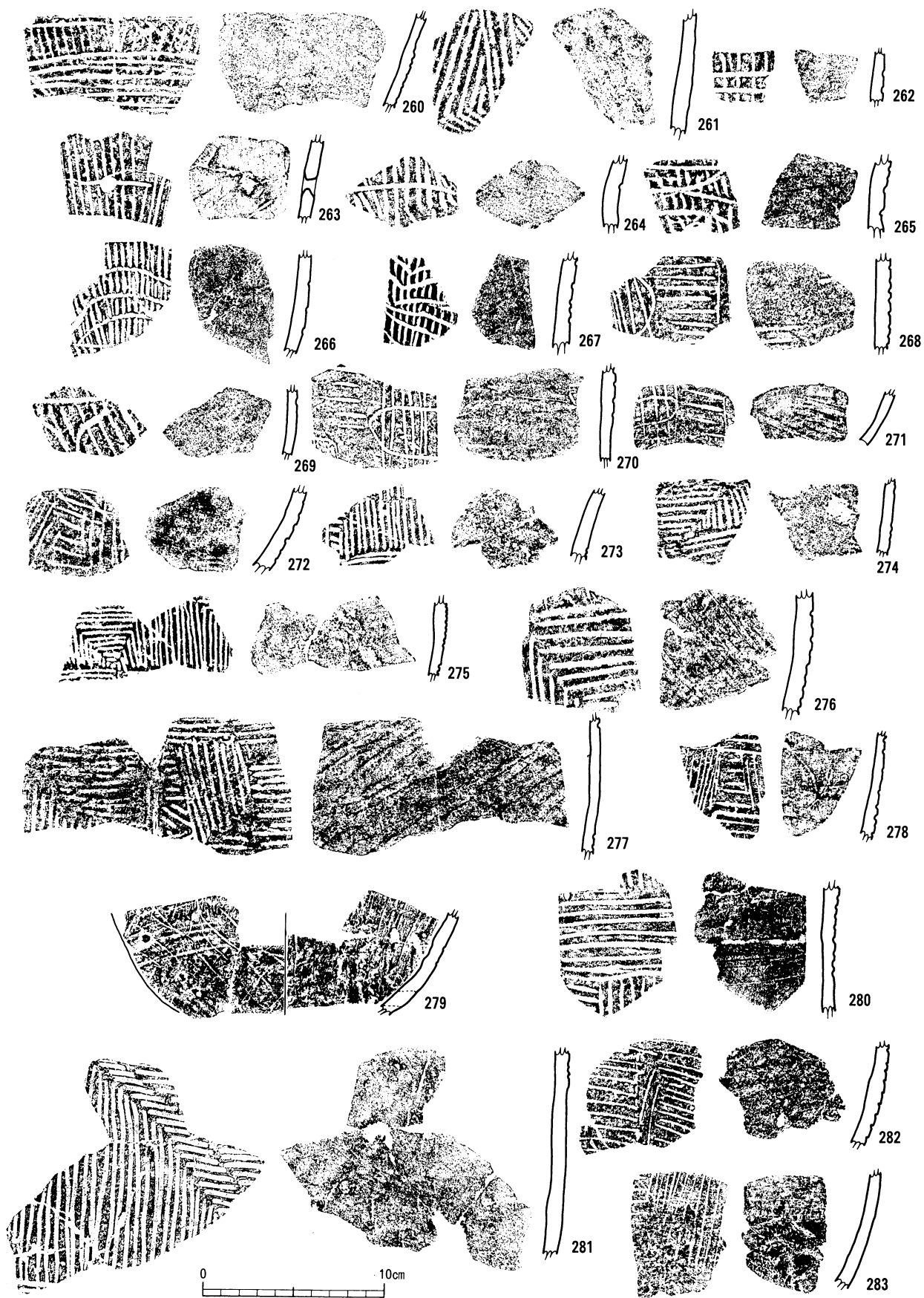
第38图 V层出土土器(11)



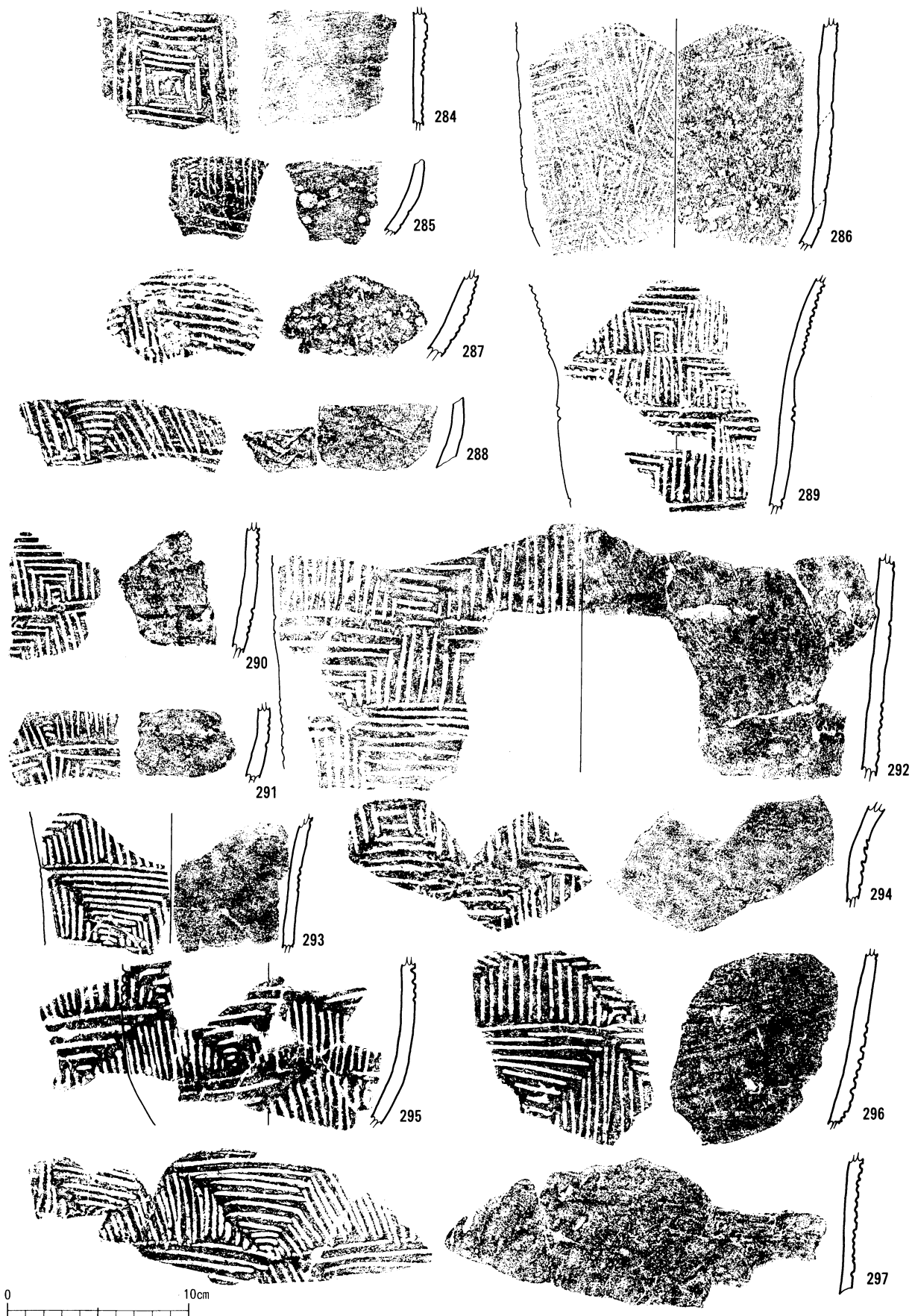
第39图 V層出土土器(12)



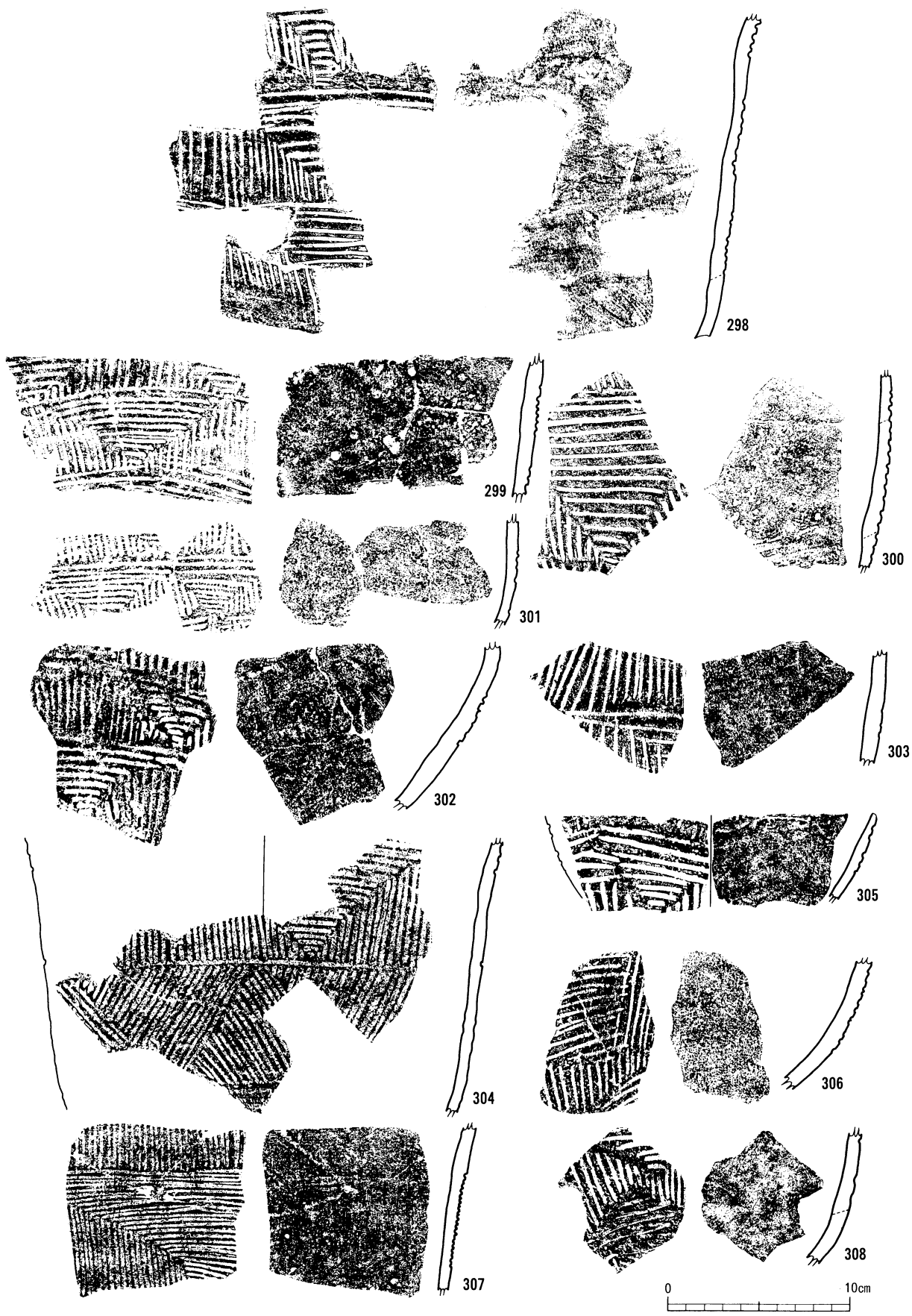
第40图 V層出土土器 (13)



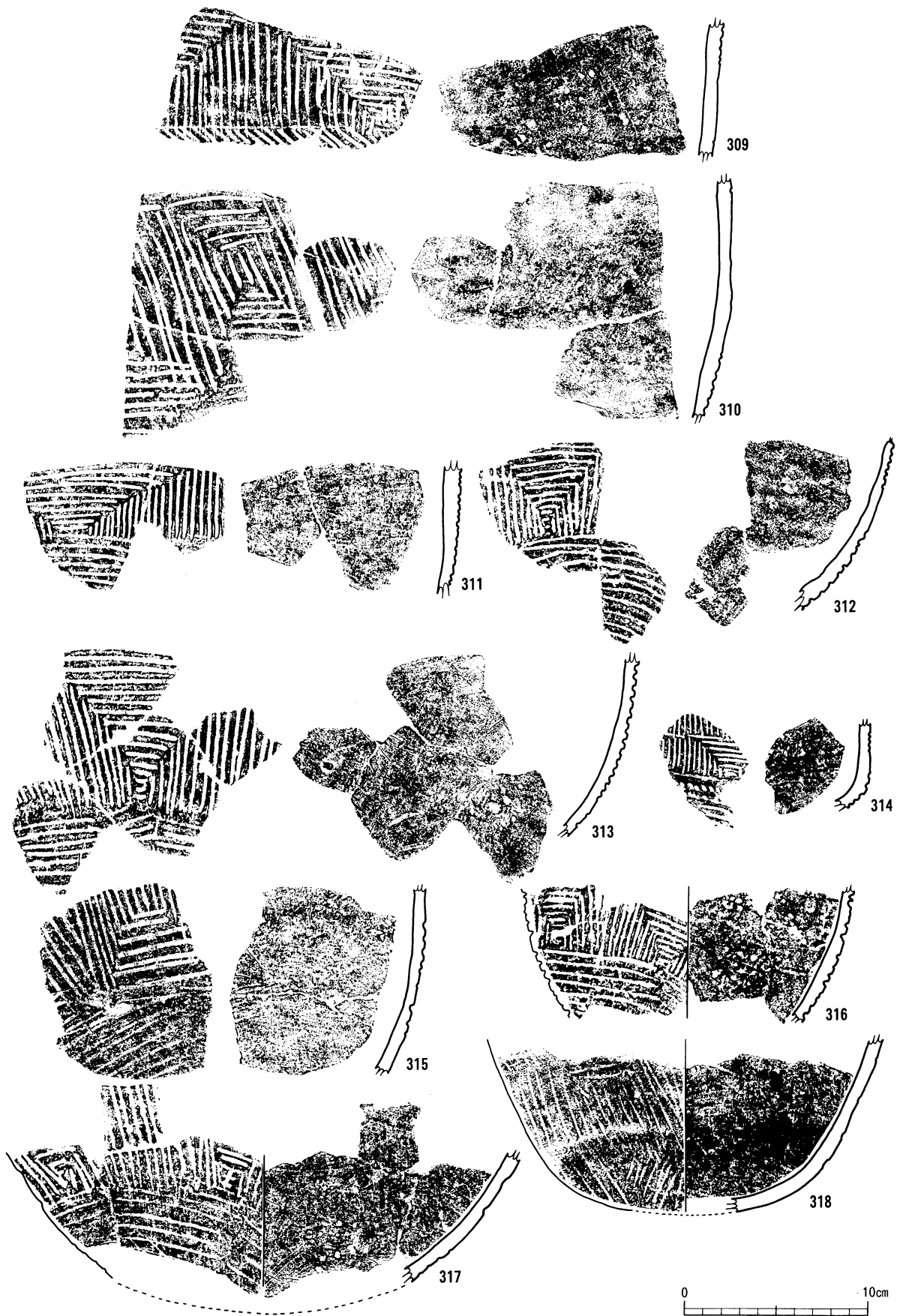
第41图 V层出土土器(14)



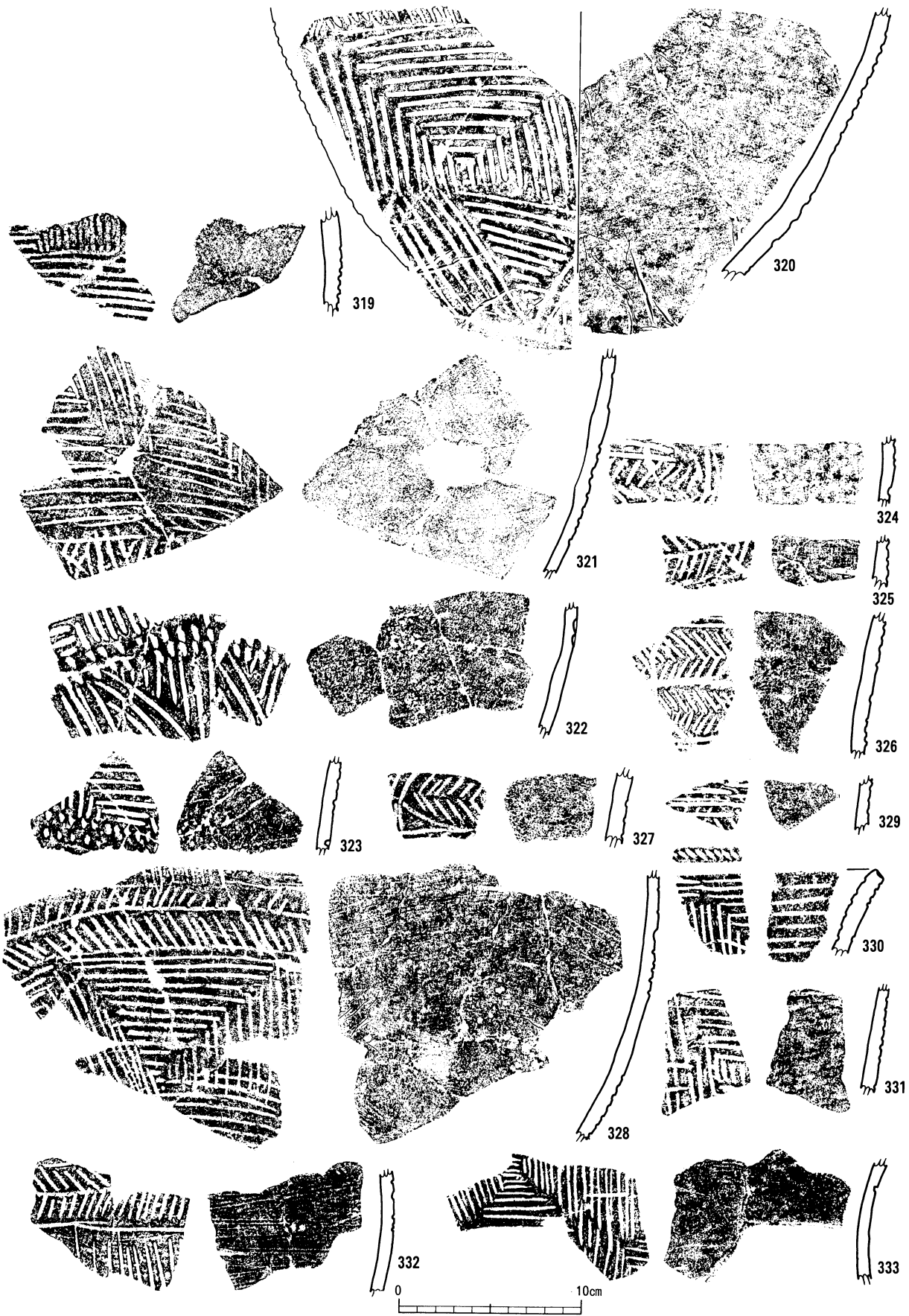
第42图 V層出土土器 (15)



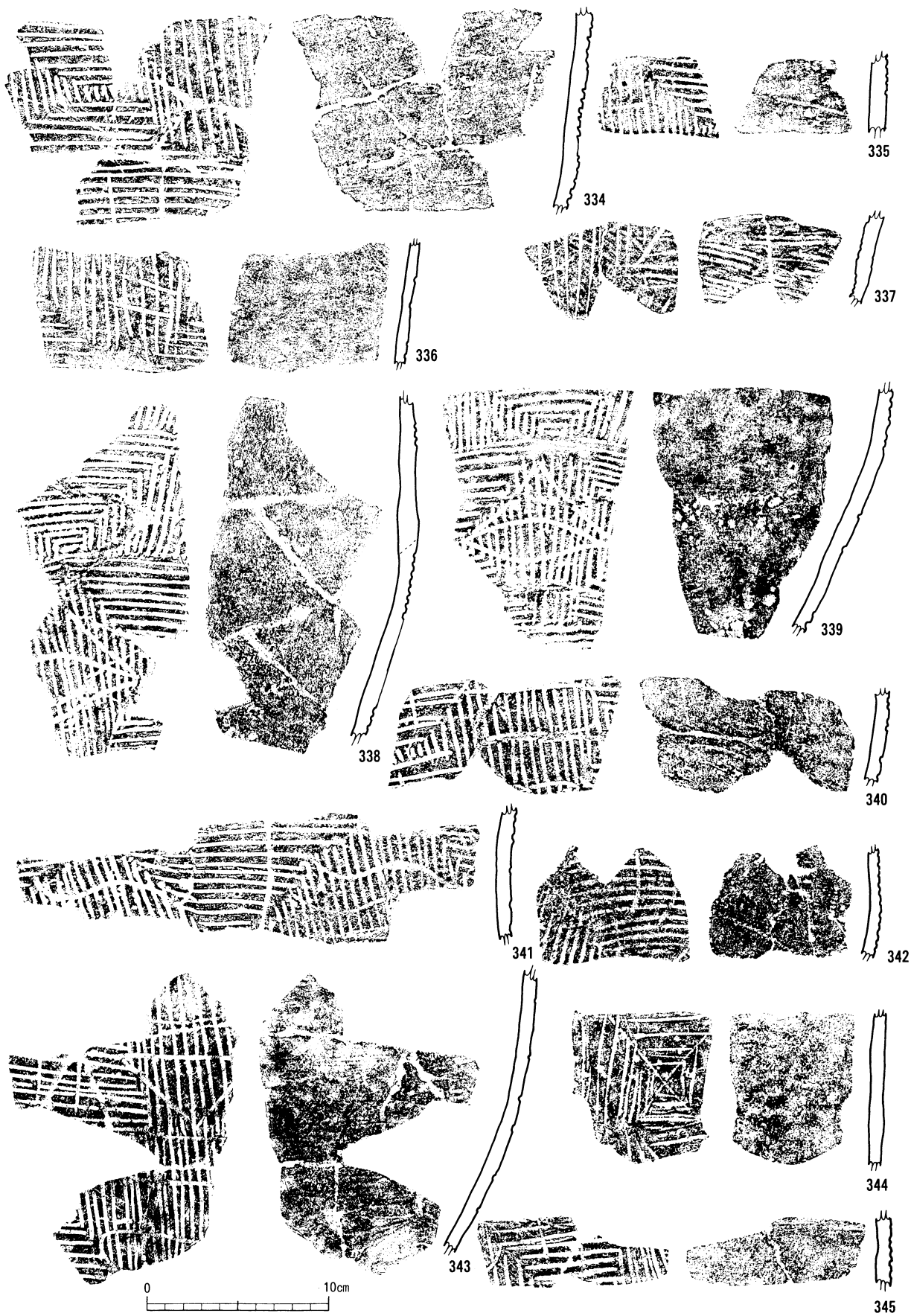
第43图 V層出土土器 (16)



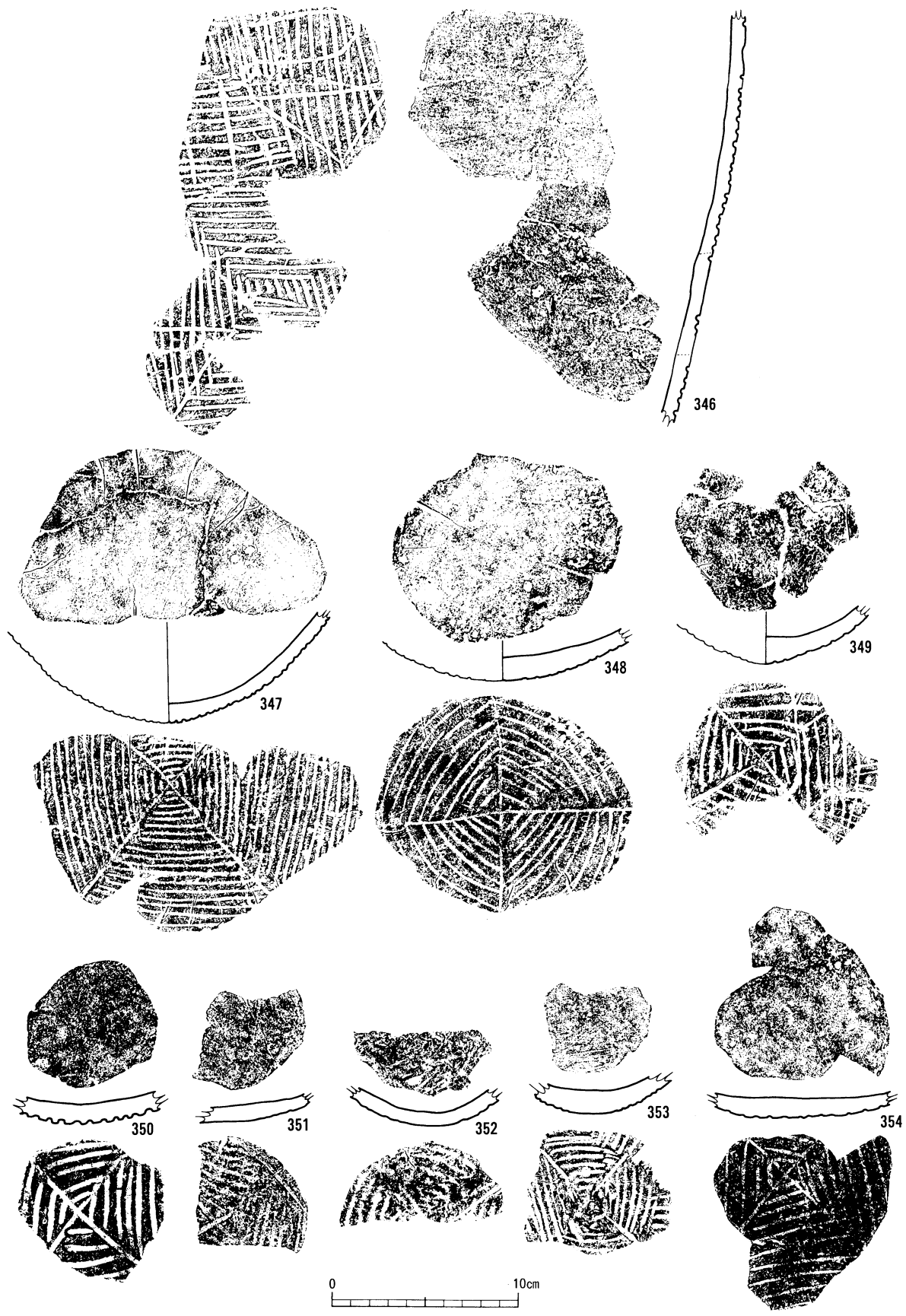
第44图 V層出土土器 (17)



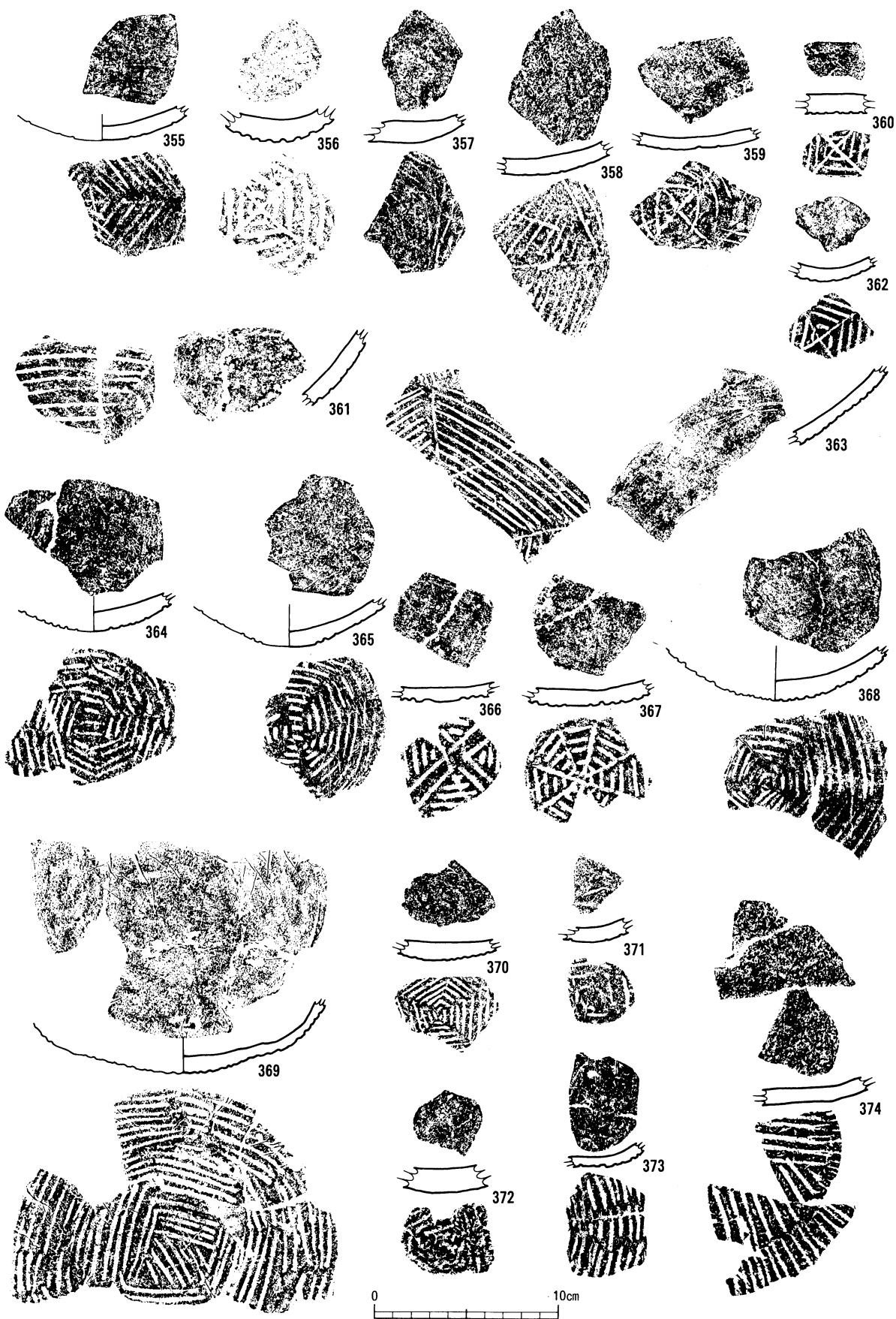
第45图 V层出土土器 (18)



第46图 V層出土土器 (19)



第47图 V層出土土器(20)



第48图 V層出土土器 (21)



第49図 V層出土土器(22)

10類 (第50図390~399)

IV層・V層からの出土である。いずれも胴部破片でその全体像は不明である。重孤文風の曲線を上下対称に施し、周りを竹管状工具によると思われる刺突で飾るものである。胎土・粘土の接分痕及び沈線の施文は曾畑式土器と類似する。調整は内外面ともナデである。

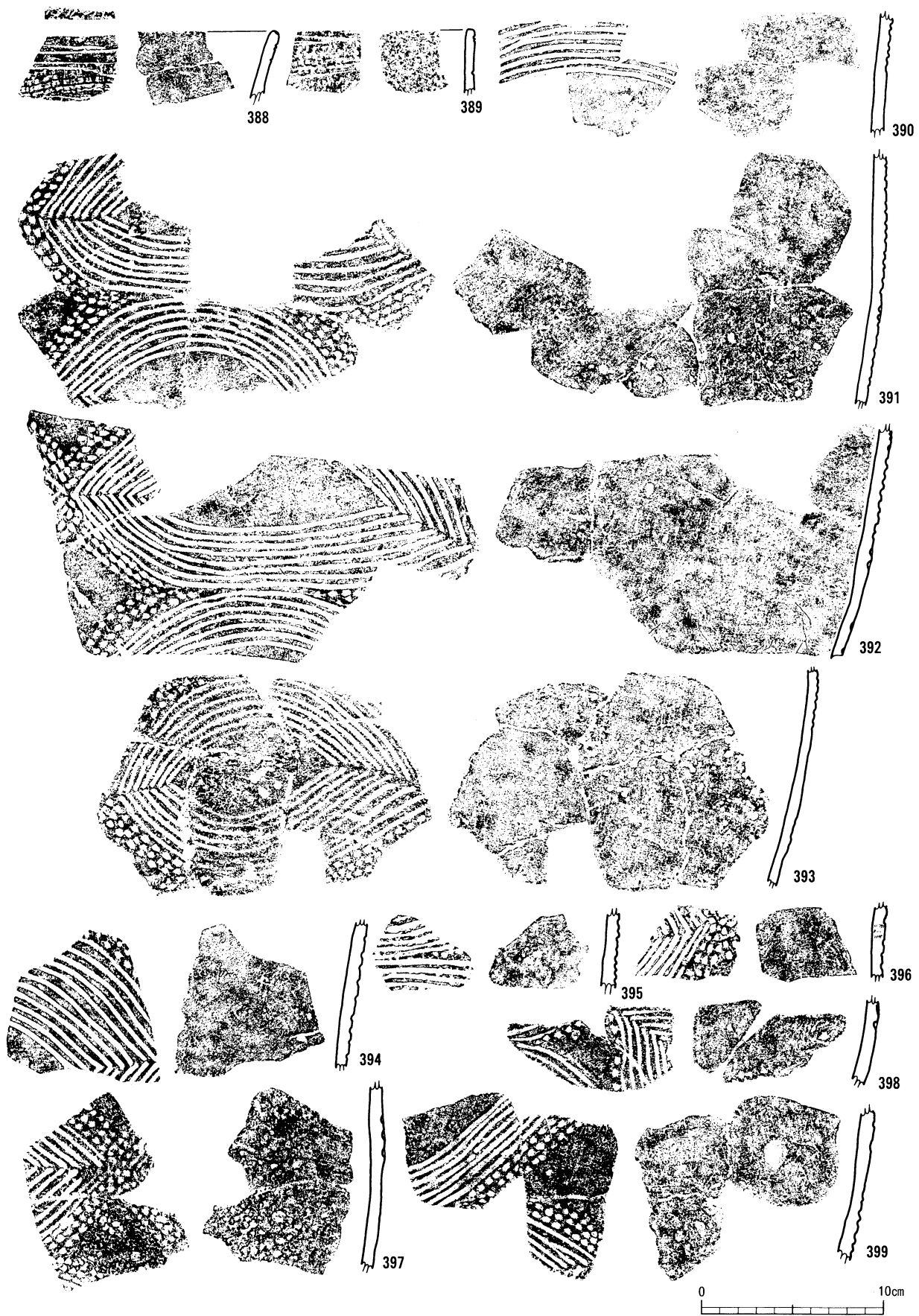
11類 (第51図・第52図400~411)

内外面ともナデてはいるが器面調整の条痕が残り、器面調整か文様なのかわからない程度の施文の一群である。400は胴部から口縁部にかけて直線的に開き、復元口径は400が22.5cmである。401は胴部が多少内湾し口縁部に至り、復元口径22.8cmを測る。いずれの土器も口縁端部から重孤文風の施文で、口縁部には刻みが入る。共に胎土・施文方法とも同じである。402・403・405・406・407の口唇部には貝殻腹縁による刺突が入るが、404はヘラ状工具による刻みと思われる。

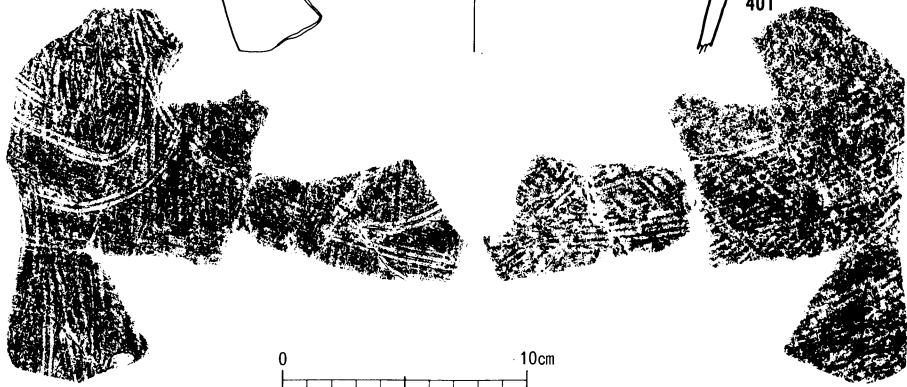
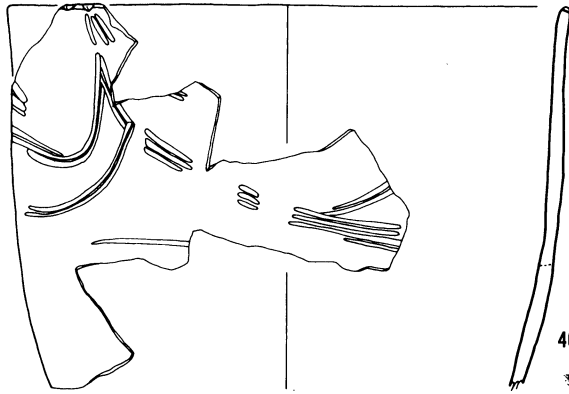
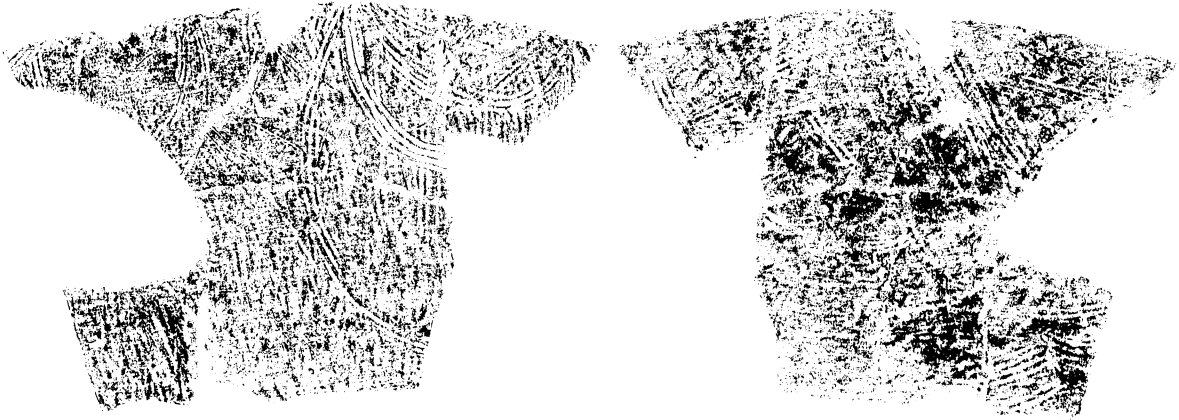
12類 (第53図412~437)

いずれも深浦式土器の範疇に含まれるものである。主にIV・V層の出土だが、III層からの出土もある。

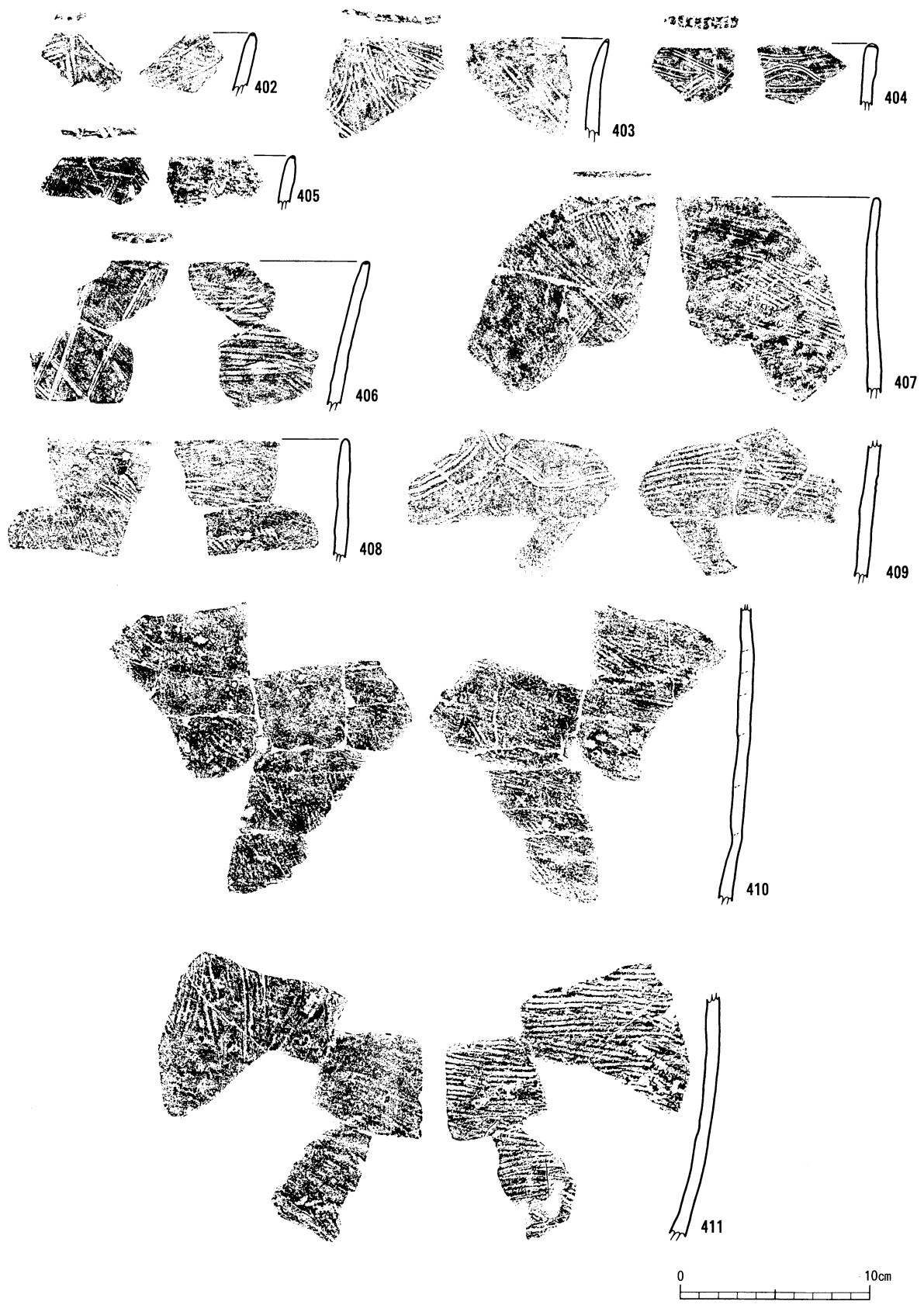
口縁部は多少外反するものがほとんどである。器面調整は、ナデと条痕の両方がある。文様は、



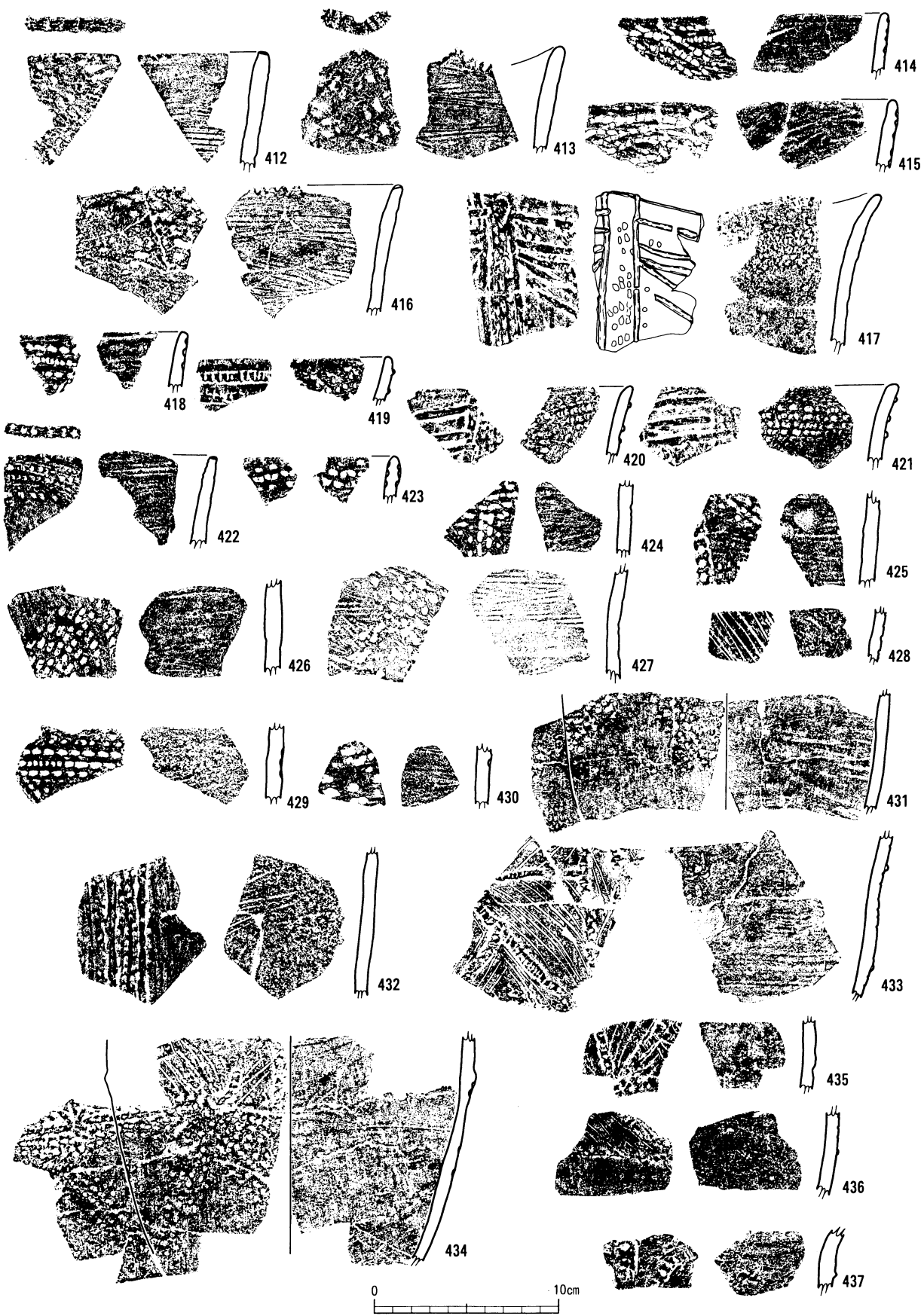
第50图 V層出土土器 (23)



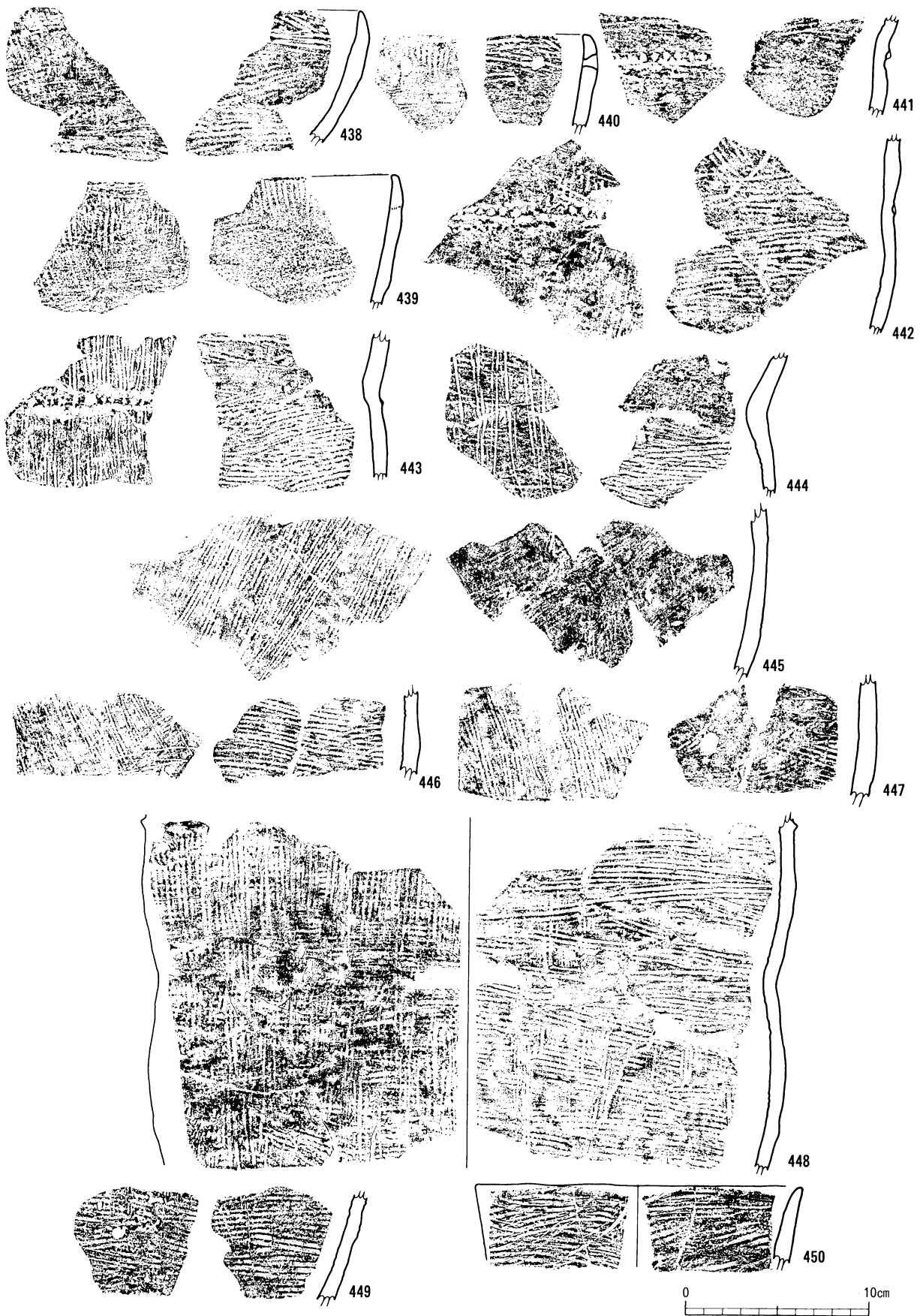
第51図 V層出土土器(24)



第52図 V層出土土器 (25)



第53图 V層出土土器 (26)



第54図 V層出土土器(27)

浅い連点を施すもの・押し引きを施すもの・細い粘土紐を貼り付けて周辺に連点もしくは細い沈線を施すものがある。413・417は、波状口縁で外反する。412・413・416・422は口唇部に貝殻腹縁による刺突をもつ。417は縦位とそこから放射状に広がる粘土紐を貼り付け、周囲には連点を施す。419は刻みを施した2本の貼り付け突帯をもつが、下の突帯の刻みは上方にずれる。434の胴上部には刻みを施した貼り付け突帯と沈線で文様を構成し、胴下部は貝殻による連点を鋸歯状に施す。417・420・421は、口縁部の内面に貝殻によると思われる連点が施される。

13類 (第54図・第55図438～466)

V層を中心に一部のIV層出土の土器も便宜的にここで取り上げた。粗い条痕を器面に残す土器である。438～448の器形は、キャリパー形に近いと思われる。441・442・443は屈曲部に棒状の工具で刺突を施した突帯をもち、448は口縁部に断面三角形の突帯をもつ。444は器面調整後に縦位の浅い沈線を施す。451・452の口縁部は外反し、口唇部に貝殻腹縁による刺突が施される。453・457・458の口唇部には刻みが施される。458は復元口径21cmを測り、457と同一個体と思われる。459は口縁端部が肥厚して外反するものである。

14類 (第55図467・468)

V層出土で型式不明の土器である。467は復元口径13.5cmの無文土器で、内外面ともヘラナデ調整である。468は、無文の丸底で内外面とも丁寧なヘラナデである。土器の接合痕や胎土は曾畑式土器に類似するものである。また、A-11区のV層からシダ類葉痕のある焼成粘土塊が出土し図版11に示した。

第3節 IV層(縄文時代後期～晩期)の遺物

IV層は縄文時代後期から晩期にかけての包含層で、15類から17類まで類別した。ただ、堆積状態が不安定でV層やIII層へ遺物が多少移動することもある。V層と同様に他の層の遺物も便宜的に含め分類したものもある。

15類 (第56図469～477・486)

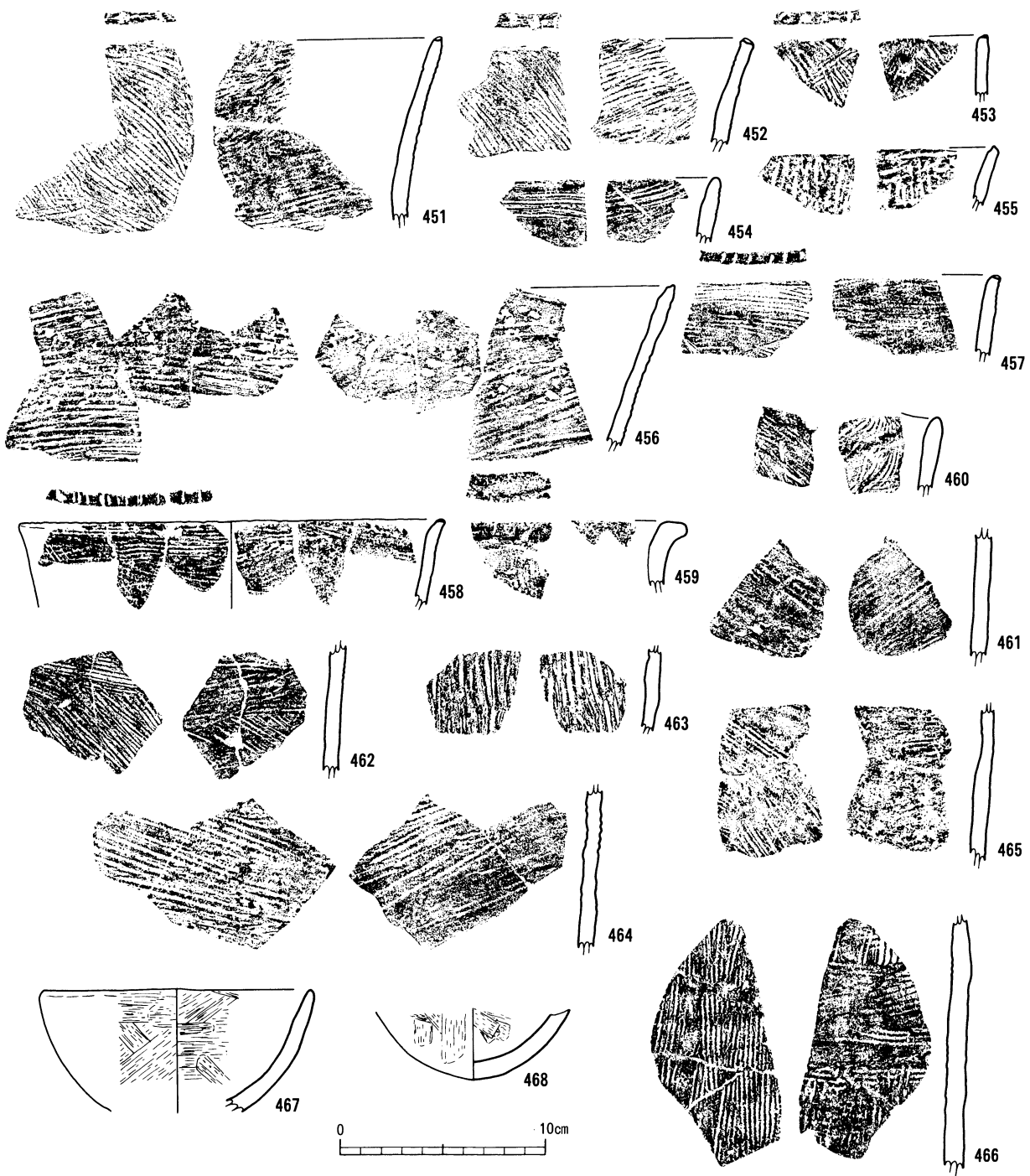
469～477は指宿式土器であると思われる。いずれの土器も器面調整は条痕後ナデで、473以外は胎土に金雲母を含む。465・466は口縁部が外反し頸部が締まり胴部が張る器形で、口径は32.1cmで胴部径もほぼ同じである。文様は直線及び曲線の凹線文で、凹線文間に刺突が施されることもある。文様構成及び胎土から同一個体と思われる。486は復元口径21.3cmを測り、外反する口縁部は肥厚し貝殻による刺突が施され、口唇部はすぼまる。色調は全体的にピンクに近い赤褐色で、指宿方面の土器との関連性が考えられる。

16類 (第56図478～485)

478～485は市来式土器である。口縁部肥厚帯に貝殻による刺突を施すものである。480は復元口径22.5cmを測る。平口縁で図化したのが、波状口縁となる可能性もある。

17類 (第56図487～489)

487～489は無文の深鉢である。口縁部は断面三角形となるが、内面は全体的に窪み、屈曲部には稜をもつ。487は復元口径18.3cmで、488・489と同一個体と思われる。型式は不明だが、市来式土器よりは後出のものであろう。



第55図 V層出土土器 (28)

18類 (第57図・第58図490~510)

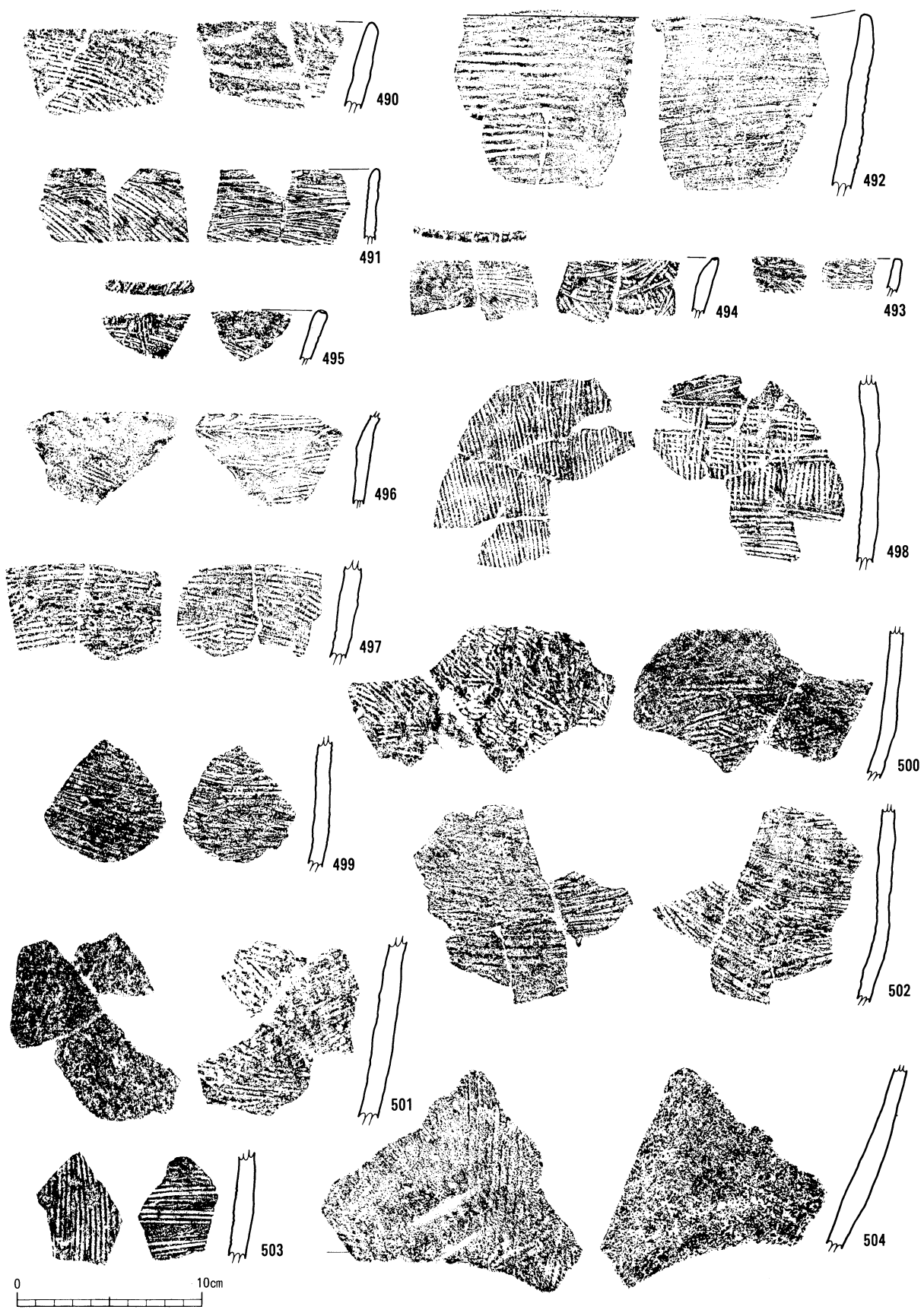
ここではIV層出土の器面に条痕を残す土器のみを取り上げた。492は、口縁部が若干波をうつ厚手の土器で、外面には多少間隔の広い条痕を残す。504の胎土には砂粒を含むが、その中には黒曜石片を観察できる。509は平底で底部から胴部へは内湾気味に立ち上がり、底径9.6cmを測る。510は丸底で、条痕は底部の周辺部に残るだけである。

20類 (第58図516~526)

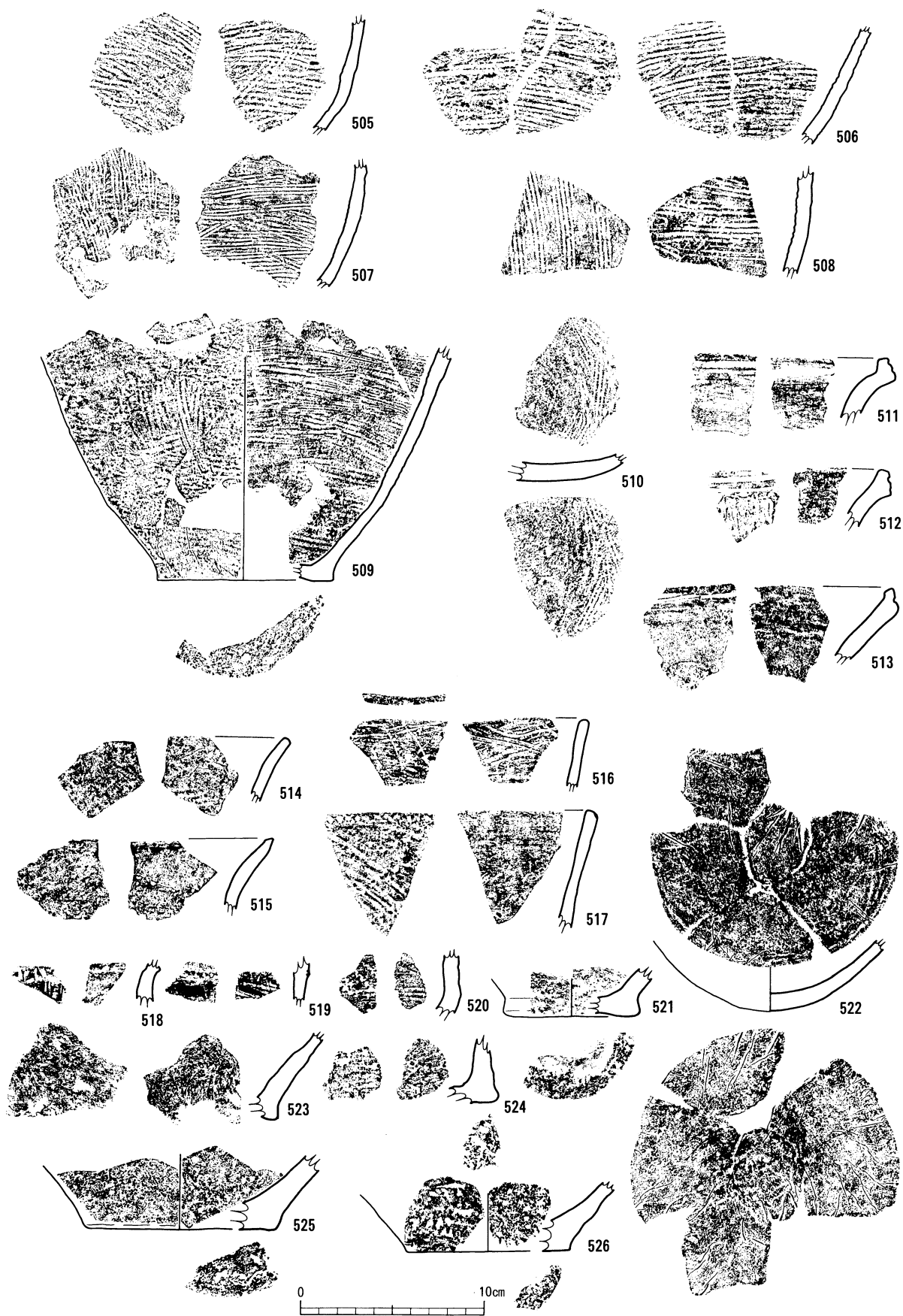
IV層出土で型式不明の土器である。516は内外面とも条痕を残し、貝殻による刺突がある。517は



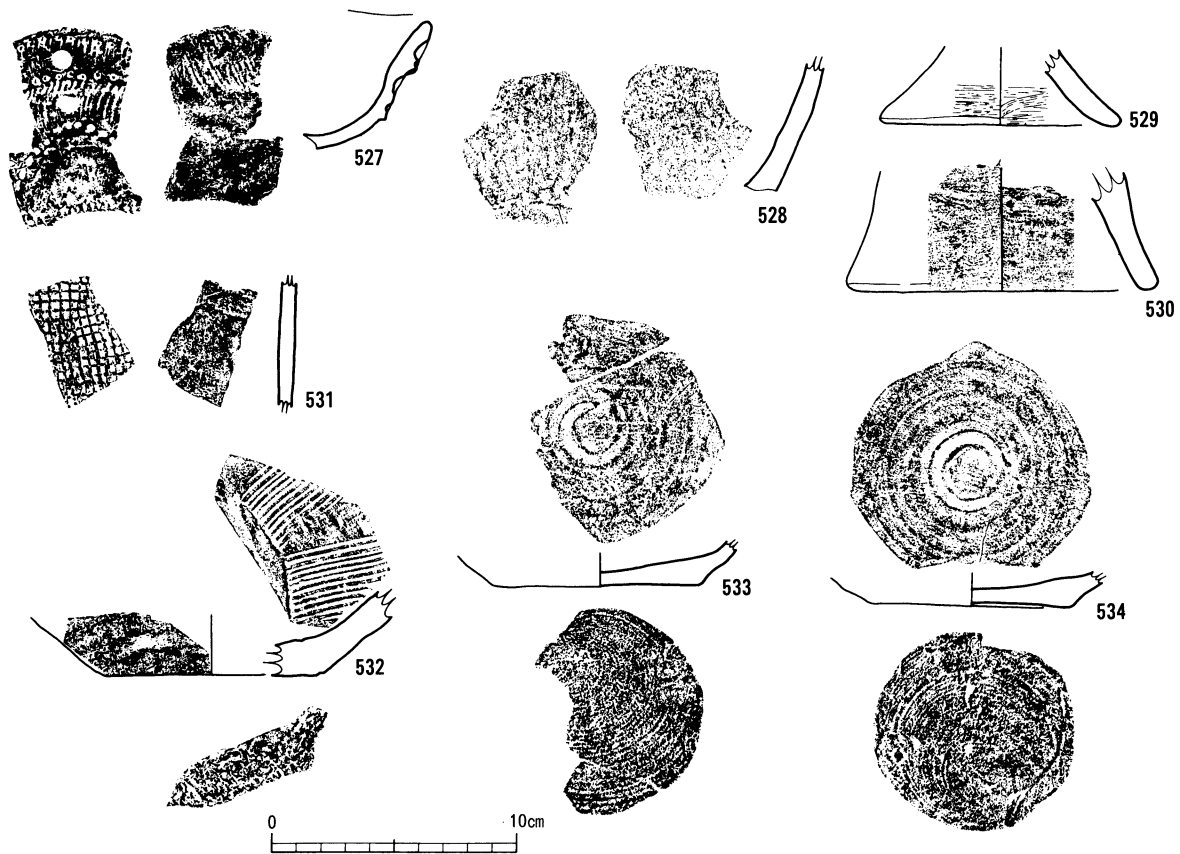
第56图 IV層出土土器(1)



第57图 IV層出土土器(2)



第58图 IV層出土土器(3)



第59図 III層出土土器

口唇部外側に刻みを施し、外面に貝殻による刺突が斜位に入る。518は突帯にヘラ状工具による刻みを施す。519は横位の微隆突帯の上下対称に叉状工具による刺突を施す。520は外面に貝殻による刺突が施される。

521から526は無文の底部である。

第4節 III層の遺物

III層出土の土器はIV・V層と比べると少なく、他の層からの遺物の移動も見られる。ここではIII層出土で1～20類に分類しなかった土器と攪乱層出土の遺物を21類として扱う。

21類（第59図527～534）

527は船元Ⅱ式土器と思われる。波状口縁となり、口縁部に粘土を貼り付けた肥厚帯と口縁部から頸部にかけての湾曲部に貼り付け突帯をもつ。肥厚帯外面の上下と突帯に添って竹管状工具による刺突が3状施され、また、その間を相互孤文と棒状工具による大きめの刺突が入る。肥厚帯の内面は明瞭な段をもたず、縄文が観察できる。胎土は在地のものとは異なり移入品と思われる。528は無文の胴下部である。529・530は無文の脚部で器面調整はナデである。いずれも成川式土器と思われる。531の外面に格子目状のタタキをもつ須恵器で、532は摺り鉢である。533・534は土師器の坏底部で、底部の切り離しは糸切りによるものである。

第5表 土器観察表(1)

標記	番号	出土区	層	胎土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第26 区	1	A-1	VIII	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	不明(沈線)	ナデ	風化
	2	A-2	VIII	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	3	A-1	VIII	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	4	A-1	VIII	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	5	B-2	VIII	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	不明(押型文)	不明	風化
	6	B-2	VIII	長石・石英・角閃石・砂粒	普通	黄褐色	不明(押型文)	不明	風化
	7	B-2	VIII	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	不明(押型文)	不明	風化
	8	A-10	VIII	長石・石英・角閃石・砂粒	普通	褐色	ナデ(押型文)	ナデ	風化
	9	A-2	VIII	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	ナデ(押型文)	ナデ	風化
	10	A-1	VIII	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(微隆起線文)	ナデ	
	11	A-1	VIII	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(微隆起線文)	ナデ	
	12	A-3	VIII	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	不明(凹線・より糸)	ナデ	風化
	13	A-11	VIII	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	黄褐色	不明(凹線・より糸)	ナデ	風化
	14	A-11	VIII	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(凹線・より糸)	不明	風化
	15	A-3	VIII	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(貝殻刺突)	工具ナデ	風化
	16	A-10	VIII	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(貝殻押し引き)	ナデ	風化
	17	A-3	VIII	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(貝殻押し引き)	ナデ	風化
	18	A-3	VIII	長石・石英・細礫	普通	赤褐色	不明(貝殻刺突)	ナデ	風化
	19	A-11	VIII	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	20	A-10	VIII	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(貝殻押し引き)	ナデ	
第27 区	21	B-6	VIII	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(貝殻?)	工具ナデ	
	22	B-2	VIII	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線?)	ナデ	
	23	A-3	VIII	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	不明(沈線?)	ナデ	
	24	A-10	VIII	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線?)	ナデ	
第28 区	25	A-2	V	長石・石英	良	黒褐色	条痕・ナデ(微隆突帯)	条痕	
	26	A-4	IV	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(微隆突帯)	条痕後ナデ	
	27	B-2	IV	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(微隆突帯)	工具ナデ	
	28	B-2	IV	長石・石英・砂粒	良	黒褐色	条痕(微隆突帯)	条痕	
	29	A-10	III	長石・石英・砂粒	普通	褐色	条痕(微隆突帯)	条痕後ナデ	
	30	A-3	V	長石・石英	良	黒褐色	条痕後ナデ(微隆突帯)	条痕	
	31	A-3	V	長石・石英	良	暗褐色	条痕(微隆突帯)	条痕	
	32	A-3	V	長石・石英	良	茶褐色	条痕(微隆突帯)	条痕	
	33	A-3	V	長石・石英	良	茶褐色	条痕(微隆突帯)	条痕	
	34	B-1・2	IV・V	長石・石英・砂粒	良	茶褐色	条痕後ナデ(微隆突帯)	条痕	
第29 区	35	A-11	III	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(刺突)	ナデ(刺突)	
	36	A-2	IV	長石・石英・滑石	良	褐色	ナデ(刺突)	ナデ(刺突)	
	37	A-11	IV	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(刺突)	ナデ(刺突)	
	38	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(刺突)	ナデ(刺突)	
	39	A-11	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	40	B-11	IV	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(押し引き)	
	41	A-9	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ(沈線)	
	42	A-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	43	A-9	V	長石・石英・角閃石	普通	褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	44	A-8	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	45	B-8	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	46	A-10	V	長石・石英	やや不良	黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ	
	47	B-8	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	48	A-9	IV	長石・石英・砂粒	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	49	A-11	V	長石・石英・砂粒	良	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	50	A-9	IV	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	

第6表 土器観察表(2)

種別番号	番号	出土区	層	胎 土	焼 成	色 調	外面調整(文様)	内面調整	備 考
第 29 区	51	A-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	52	A-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	条痕(刺突)	
	53	A-3	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突)	
	54	B-8	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突)	
	55	A-11	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	56	A-10	V	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突)	
	57	B-10	V	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	58	A-10	V	長石・石英・砂粒	良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	59	A-10	IV	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	60	B-1	V	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	61	A-11	IV	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	62	A-10	V	長石・石英	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	63	B-11	IV	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	64	A-3	IV	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	65	B-10	V	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	66	B-10	V	長石・石英	良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	67	A-10-11	V	長石・石英・砂粒	良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	68と同一個体
	68	A-11	V	長石・石英	やや良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	69	A-10	V・IV	長石・石英・砂粒	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	第 30 区	70	A-10	III・IV	長石・石英	良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(押し引き・沈線)
71		A-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
72		A-9	V	長石・石英	良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(押し引き・沈線)	
73		A-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(押し引き)	
74		A-10	V	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	ナデ(押し引き・沈線)	
75		A・B-10	II・IV・V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
76		B-9	IV	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	75と同一個体
77		B-9	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
78		B-9	V	長石・石英	やや不良	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
79		B-10	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
第 31 区	80	A-7	IV	長石・石英・細礫	普通	暗黄褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	穿孔
	81	B-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	82	A-11	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	83	A-8	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	84	A-11	IV	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	85	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	86	A-8	V	長石・石英	普通	褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	87	B-9 A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	88	A-8	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	89	A-8	V	長石・石英・細礫	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
第 31 区	90	B-9	V	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	91	A-10	V	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	92	A-11	IV	長石・石英・砂粒	やや不良	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	93と同一個体
	93	A-11	IV	長石・石英・砂粒	やや不良	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	94	A-11	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	95	A-11	V	長石・石英・砂粒	やや不良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	96	B-10	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	97	A-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	98	A-9	IV	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	99	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	100	A-10	IV	長石・石英・細礫	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	

第7表 土器観察表(3)

種別	番号	出土区	層	胎土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第31 区	101	A	V	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	102	A-9	IV	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	103	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
第32 区	104	A-10-11	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	105	B-10	IV	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	106	B-12	Ⅲ・Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	107	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	108	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	109	A-10	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	110	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	111	A-10	IV	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	112	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	113	B-12	V	長石・石英・細礫	普通	灰褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	114	A-11	IV	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	115	A-8	V	長石・石英・細礫	良	褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	116	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	117	A-11	IV	長石・石英・黒曜石片	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	118	A-11	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	119	A-10	V	長石・石英・砂粒	良	黒褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	120	A-9	V	長石・石英	普通	赤褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	121	A-10	V	長石・石英・砂粒・細礫	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	122	A-11	V	長石・石英	普通	灰褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	123	A-9	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	124	A-11	V	長石・石英・細礫	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	125	B-11	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	126	A-11	Ⅲ	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	127	B-1	IV	長石・石英・砂粒	やや不良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	128	B-10	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ	
	129	B-12	IV	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	130	A-11	IV	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	131	A-8・9	Ⅳ・Ⅴ	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	132	A-9		長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	133	A-11	V	長石・石英・細礫	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	134	A-11	IV	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	135	A-11	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
第33 区	136	A-9	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	137	A-11	V	長石・石英・砂粒・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	138	A-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	139	A-11	IV	長石・石英	やや不良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	140	A-10	V	長石・石英	普通	褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ	
	141	B-9	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突)	
	142	A-9	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	143			長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突)	
	144	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	145	B-11	IV	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	146	B-9	V	長石・石英・砂粒	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	147	B-8	IV	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	148	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	149	B-9	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	150	A-8	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ	

第8表 土器観察表(4)

種別番号	番号	出土区	層	胎土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第33区	151	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(押し引き)	ナデ	
	152	A-11	IV	長石・石英・細礫	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	153	A-8	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	154	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	155	A-10	V	長石・石英・砂粒	やや不良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	156	B-10	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	157	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	158	B-9	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	159	A-9	V	長石・石英	やや良	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	160	B-10	IV	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	161	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	162	A-6	IV	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線・刺突)	工具ナデ(沈線)	
	163	B-10	V	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	164	B-8	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
第34区	165	B-8	IV	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	166	A-11	V	長石・石英	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	167	A-11	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ	
	168	A-10	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	169	A-11	V	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	170	A-10	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	171	A-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	172	A-2	IV	長石・石英・細礫	良	茶褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	173	A-9	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	174	B-10	V	長石・石英	やや不良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
第35区	175	B-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	176	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	177	B-11	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	178	B-12	III	長石・石英・細礫	普通	暗褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	179	B-10	IV	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	180	A-9	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	181	B-10	V	長石・石英	良	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	182	A-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	183	B-10	V	長石・石英	普通	黄褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	184	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	暗褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	185	A・B-9	III・V	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
第36区	186	A-9	V	長石・石英	良	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	187	A-9	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	188	A-11	IV	長石・石英・砂粒	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(押し引き・沈線)	滑石入り?
	189			長石・石英・砂粒	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	190	B-11	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	191	B-8	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(押し引き・沈線)	
	192	B-8	V	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	一つは押し引き風刺突 滑石入り?
	193	B-8	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	194	A-11	V	長石・石英・細礫	普通	暗褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突・沈線)	
	195	A-9	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	196	A-8	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	
	197	B-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	一つは押し引き風刺突
	198	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	一つは押し引き風刺突
	199	A-11	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(押し引き・沈線)	
	200	B-9	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	

第9表 土器観察表(5)

種別	番号	出土区	層	胎 土	焼 成	色 調	外面調整(文様)	内 面 調 整	備 考
第36 図	201	A-10-11	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突・沈線)	滑石入り?
	202	A-10-11	Ⅲ・Ⅳ・V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	203	B-10	V	長石・石英	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	204	A-10	V	長石・石英	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	205	A-11	Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	206	A-9	V	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	207	A-10	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	208	B-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	209	B-8・9	V	長石・石英・細礫	やや不良	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	210	A-8	V	長石・石英	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	211	A-10	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	212	B-11	V	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	213	B-13	V	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	214	A-9	Ⅳ	長石・石英・砂粒	やや不良	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	215	A-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	216	B-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	217	A-10	V	長石・石英	やや不良	暗黄褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
第37 図	218	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	219	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	220	B-10	Ⅳ	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	221	A-11	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	222	B-10	Ⅳ	長石・石英・細礫	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	223			長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	224	A-10 B-9	V Ⅳ・V	長石・石英	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線・刺突)	ナデ(沈線)	多少風化
	225	B-8	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	226	A-8	Ⅳ	長石・石英	普通	褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ	
	227	A-10	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ	
	228	A-9	V	長石・石英・滑石	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	229	A-9 B-9-10	V	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(沈線)	
	230	A-9	Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
第38 図	231	B-10	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	232	A-2	Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	233	B-10	V	長石・石英・砂粒	やや不良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	風化
	234	A-8	Ⅳ・V	長石・石英・黒曜石・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	235	B-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	236	B-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	237	A-11	Ⅳ・V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ	
	238	A-11	Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	239	A-10-11	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	240	A-11	Ⅳ	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
第39 図	241	A-7	Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	242	A-9	V	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	243	B-8	Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	244	A-11	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	245	A-11	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	246	A-12	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
第40 図	247	B-10	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ	
	248	B-8	Ⅳ	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	249	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	250	B-9	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	

第10表 土器観察表(6)

種別番号	番号	出土区	層	胎土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第40区	251	A-10	V	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	252	A-10	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	253	B-10	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	254	A-11	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	255	A-9	V	長石・石英	普通	灰褐色	工具ナデ(沈線)	ナデ	
	256	A-11	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	257	B-9	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ(刺突)	穿孔
	258	B-9	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ(刺突)	
	259	B-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
第41区	260	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	261	A-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	工具ナデ	
	262	A-10	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	263	A-10	V	長石・石英	良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	穿孔
	264	A-4	IV	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	265	A-11	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	266	B-12	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	267	A-11	IV	長石・石英・細礫	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	268	B-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	269	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	270	A-10	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	271	A-11	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	272	A-9	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	273	B-12	IV	長石・石英	良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	274	B-9	V	長石・石英・砂粒	不良	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	275	B-9	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	276	A-9	V	長石・石英・砂粒	良	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	277	B-1	IV	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	278	A-11	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	279	A-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
280	A-7 A-9	IV・V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ		
281	B-11	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ		
282	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ		
283	A-11	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ		
第43区	284	A-7	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	285	A-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	286	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	287	A-11	IV	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	288	A-10	V	長石・石英	良	暗黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	289	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	290	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	291	A-7	III・IV	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	292	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	293	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	294	B-10	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	295	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	296	B-9	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	297	A-10	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	298	A-3	IV・V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
299	A-9 A-10	IV・V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ		
300	B-11	IV	長石・石英・細礫	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ		

第11表 土器観察表(7)

種別	番号	出土区	層	胎土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第43 図	301	B-9	V	長石・石英・砂粒	不良	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	302	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	303	A-3	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	304	A-9・10 B-9	IV・V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	305	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	306	A-11	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	307	A-11	IV	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	308	A-10	V	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	309	A-9	IV・V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	310	A-9	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
第44 図	311	B-11 A-10	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	312	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	313	A-10・11	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	314	A-8	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	315	A-11	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	316	A-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	No312と同一個体
	317	B-9	IV・V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	318	B-8	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
第45 図	319	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	320	B-10	V	長石・石英	良	褐色	工具ナデ(沈線)	工具ナデ	
	321	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	322	A-10	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線・刺突)	ナデ	
	323	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ	
	324	A-9	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	325	B-9	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	326	B-9・10	IV・V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	327	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	328	B-9	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	329	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	330	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ(沈線)	
	331	A-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	332	B-9	IV・V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	333	A-8	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
第46 図	334	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	335	A-10	V	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	336	B-9	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	337	A-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	条痕	
	338	A-10 B-10・11	V	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	339	A-9・10・11	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	No338と同一個体
	340	A-10	IV	長石・石英・細礫	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	341	A-9・10・11	III・IV・V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	342	A-10	V	長石・石英・砂粒	不良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	343	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
第47 図	344	A-9	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	345	A-10	IV・V	長石・石英・細礫	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	346	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	347	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	348	A-10	V	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	349	B-3	V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	350	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	滑石入り?

第12表 土器観察表(8)

種別	番号	出土区	層	胎土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第47図	351	B-12	IV	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	352	B-10	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	滑石入り?
	353	B-9	V	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	354	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	滑石入り?
第48図	355	A-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	356	B-11	IV	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	357	A-10		長石・石英・砂粒・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	358	A-11	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	滑石入り?
	359	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	360	A-10	IV	長石・石英・細礫	普通	灰褐色	ナデ(沈線)	ナデ	滑石入り?
	361	A-9	IV・V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	362	A-11	IV	長石・石英・細礫	良	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	363	B-10	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	364	A-10	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	365	A-10	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	366	A-10	V	長石・石英・砂粒	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	367	A-11	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	368	A-10	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	滑石入り?
	369	B-9-10	IV・V	長石・石英・砂粒	やや不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	370	B-13	V	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	371	B-9	V	長石・石英・砂粒	不良	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	372	A-11	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	373	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	374	A-3	IV・V	長石・石英・砂粒・黒曜石	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
第49図	375	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	376	A-10	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	377	A-7	V	長石・石英・砂粒・金雲母	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	378	$\frac{A-3}{A-2}$	IV・V	長石・石英	良	茶褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	379	B-12	III・IV	長石・石英・砂粒・細礫	普通	褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	380	A-3	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	381	B-8	V	長石・石英・細礫	良	茶褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	382	B-9	V	長石・石英	良	褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	383	A-11	IV	長石・石英	普通	褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	384	A-10	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	工具ナデ	工具ナデ	
第50図	385	A-3	IV	長石・石英・砂粒	普通	褐色	不明	工具ナデ	
	386	$\frac{A-10}{B-10}$	$\frac{V}{IV}$	長石・石英・細礫	不良	褐色		ナデ	
	387	B-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	ナデ	メンコ
	388	B-12	IV・V	長石・石英・砂粒・細礫	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線・押引き)	ナデ	
	389	B-11	IV	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線・押引き)	ナデ	
	390	A-9	V	長石・石英	良	黒褐色	ナデ(沈線)	工具ナデ	
	391	$\frac{B-9}{A-10-11}$	IV・V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	工具ナデ	
	392	B-10	V	長石・石英	良	暗黄褐色	工具ナデ(刺突・沈線)	工具ナデ	
	393	B-10	IV・V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	工具ナデ	
	394	A-9	V	長石・石英・細礫	普通	暗黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ	
第51図	395	A-9	IV	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(沈線)	ナデ	
	396	B-10	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(刺突・沈線)	工具ナデ	
	397	B-9	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	工具ナデ	
	398	B-10	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	ナデ	
	399	B-10	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	ナデ(刺突・沈線)	工具ナデ	
	400	$\frac{B-10}{11}$	V	長石・石英	普通	褐色	工具ナデ(沈線)	条痕後ナデ	

第13表 土器観察表(9)

種別	番号	出土区	層	胎 土	焼 成	色 調	外面調整(文様)	内面調整	備 考
第52 図	401	B-10	IV	長石・石英	普通	褐色	工具ナデ(沈線)	条痕後ナデ	
	402	A-10	V	長石・石英	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	条痕後ナデ	
	403	A-10	IV	長石・石英	普通	褐色	条痕・工具ナデ(沈線)	条痕後工具ナデ	
	404	B-12	V	長石・石英	普通	灰褐色	条痕?・ナデ	条痕・ナデ	
	405	B-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	条痕?・ナデ	ナデ	
	406	B-10	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(沈線)	条痕	
	407	B-13	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	条痕・ナデ(沈線)	条痕後ナデ	
	408	A-11	IV	長石・石英	普通	灰褐色	条痕	条痕後ナデ	
	409	A-10	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	ナデ(沈線)	条痕後ナデ	
	410	A-11	IV・V	長石・石英	普通	灰褐色	条痕?・ナデ	条痕後ナデ	
	411	A-11	IV	長石・石英・細礫	普通	灰褐色	ナデ・条痕	条痕後ナデ	
第53 図	412	A-4	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(刺突)	条痕後ナデ	
	413	A-4	V	長石・石英	普通	褐色	ナデ(刺突)	条痕・ナデ	
	414	A-11	V	長石・石英	やや不良	茶褐色	ナデ(押し引き)	工具ナデ	
	415	B-10	IV・V	長石・石英	やや不良	茶褐色	ナデ(押し引き)	工具ナデ	
	416	A-4	V	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(刺突)	条痕後ナデ	
	417	B-2	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(刺突・突帯)	ナデ(刺突)	
	418	B-10	V	長石・石英	やや不良	茶褐色	ナデ(押し引き)	工具ナデ	
	419	A-1	IV	長石・石英	普通	黄褐色	ナデ(刻目突帯)	ナデ	
	420	B-2	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(刺突・突帯)	ナデ(刺突)	
	421	B-2	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(刺突・突帯)	ナデ(刺突)	
	422	A-3	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(刺突)	条痕	
	423	A-3	IV	長石・石英	普通	褐色	ナデ(刺突)	ナデ(刺突)	
	424	A-3	IV	長石・石英	普通	茶褐色	ナデ(刺突)	ナデ	
	425	A-3	III	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(刺突)	ナデ	
	426	A-3	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ(刺突)	条痕後ナデ	
	427	A-4	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	条痕・ナデ(刺突)	条痕後ナデ	
	428	A-4	IV	長石・石英・砂粒	やや不良	灰褐色	ナデ(沈線・突帯)	ナデ	
	429	B-1	IV	長石・石英・砂粒	やや不良	茶褐色	ナデ(刺突・押し引き)	ナデ	
	430	B-1	IV	長石・石英	普通	灰褐色	ナデ(刺突)	工具ナデ	
	431	B-2	V	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(刺突)	ナデ	
432	B-3	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	条痕後ナデ(刺突・突帯)	条痕後ナデ		
433	B-2	IV	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	ナデ(沈線・刻目突帯)	工具ナデ		
434	B-1・2	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ(刺突・沈線・刻目突帯)	工具ナデ		
435	A-2	IV	長石・石英・砂粒	やや不良	茶褐色	ナデ(沈線・刻目突帯)	ナデ		
436	B-1	V	長石・石英・砂粒	良	黄褐色	ナデ(沈線・刻目突帯)	ナデ		
437	B-12	III	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ(刻目突帯)	ナデ		
第54 図	438	A- ⁹ / _{B-8}	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	条痕	条痕	
	439	B-8	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	条痕	条痕	
	440	B-8	IV	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	条痕	条痕	
	441	B-8	V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	条痕(刺突・突帯)	条痕	
	442	B- ⁸ / _{B-9}	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	灰褐色	条痕(刺突・突帯)	条痕	
	443	A-3	IV	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	条痕(刻目突帯)	条痕	
	444	B-10	IV・V	長石・石英・砂粒	普通	黒褐色	条痕(沈線)	条痕	
	445	B-10	IV・V	長石・石英	普通	暗黄褐色	条痕	条痕後ナデ	
	446	B-9	IV	長石・石英	普通	黒褐色	条痕	条痕	
	447	B-10	IV・V	長石・石英	普通	黒褐色	条痕	条痕後ナデ	
	448	B-11	IV	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	条痕	条痕	
	449	A-11	IV	長石・石英・砂粒	普通	褐色	条痕	条痕	
	450	B-12	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	条痕	条痕	

第14表 土器観察表 (10)

種別	番号	出土区	層	胎 土	焼 成	色 調	外面調整 (文様)	内 面 調 整	備 考
第 55 区	451	B-10	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	条痕	条痕	
	452	B-10	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	条痕	条痕	
	453	A-11	V	長石・石英	普通	褐色	条痕	条痕	
	454	B-13	V	長石・石英	普通	灰褐色	条痕後ナデ	条痕	
	455	B-10	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	条痕	条痕	
	456	A-4	IV・V	長石・石英	普通	暗黄褐色	条痕	条痕 (刺突)	
	457	A-11	V	長石・石英	普通	褐色	条痕後ナデ	条痕後工具ナデ	
	458	A-10-11	IV・V	長石・石英	普通	褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	459	A-11	V	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	条痕後ナデ	不明	
	460	A-11	V	長石・石英・砂粒	普通	褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	461	A-4	V	長石・石英	普通	褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	462	B-11	V	長石・石英	普通	茶褐色	条痕	条痕	
	463	B-11	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	褐色	条痕	条痕	
	464	B-10	V	長石・石英	やや不良	茶褐色	条痕	条痕	
	465	A-4	IV	長石・石英	普通	暗黄褐色	条痕	条痕	
	466	A-11	IV・V	長石・石英	普通	茶褐色	条痕	条痕後ナデ	
	467	A-10	V	長石・石英	普通	暗黄褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	468	B-8	V	長石・石英	良	褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	第 56 区	469	B-10	IV	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	条痕 (凹線・刺突)	条痕
470		B-11	IV	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	条痕 (凹線・刺突)	条痕	内面～凹線・刺突
471		B-11	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	ナデ (凹線)	ナデ	
472		B-11	III	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	灰褐色	ナデ (凹線)	ナデ	
473		A-1	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	条痕 (凹線)	ナデ	
474		B-11	V	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	灰褐色	条痕 (凹線)	条痕後ナデ	
475		A-10	III	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	褐色	ナデ (凹線)	ナデ	
476		B-11	IV	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	灰褐色	ナデ (凹線)	条痕後ナデ	
477		B-11	IV	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	褐色	ナデ (凹線)	条痕	
478		A-9	IV	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	褐色	ナデ (刺突・凹線)	工具ナデ	
479		A-10	IV	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	暗黄褐色	条痕後ナデ (刺突・凹線)	条痕後工具ナデ	
480		B-8	IV	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	条痕後ナデ (刺突)	工具ナデ	
481		A-8	III	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	工具ナデ (刺突)	ナデ	
482		A-11	III	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	褐色	ナデ (刺突・凹線)	ナデ	
483		B-9	IV	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	黄褐色	条痕後ナデ (刺突・凹線)	条痕後ナデ	
484		B-11	IV	長石・石英・金雲母・砂粒・細礫	普通	褐色	条痕後ナデ (刺突)	条痕後ナデ	
485		B-13	III	長石・石英・砂粒	良	茶褐色	工具ナデ (刺突・凹線)	条痕後ナデ	
486		B-12	III・IV	長石・石英・砂粒	普通	赤褐色	ナデ (刺突)	工具ナデ	
487		B-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ	条痕後工具ナデ	488・489と同一個体
第 57 区	488	B-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ	条痕後工具ナデ	
	489	B-9	IV	長石・石英・砂粒	普通	茶褐色	ナデ	条痕後工具ナデ	
	490	B-11	IV	長石・石英	普通	褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	491	A-10	IV	長石・石英	普通	褐色	条痕	条痕	
	492	B-9	IV	長石・石英・砂粒・細礫	やや良	黒褐色	条痕後ナデ	条痕後工具ナデ	
	493	A-11	IV	長石・石英	普通	褐色	条痕後工具ナデ	条痕後工具ナデ	
	494	A-11	IV・V	長石・石英	普通	褐色	条痕後工具ナデ	条痕後工具ナデ	
	495	A-11	IV	長石・石英	普通	褐色	条痕後工具ナデ	条痕後ナデ	
	496	B-11	IV	長石・石英	普通	暗黄褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	497	B-12	IV	長石・石英・細礫	普通	茶褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	498	A-10	IV	長石・石英	普通	褐色	条痕	条痕	
499	A-10	IV	長石・石英・砂粒	普通	暗黄褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ		
500	A-12 B-11	IV	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ		

第15表 土器観察表 (11)

種別番号	番号	出土区	層	胎 土	焼 成	色 調	外面調整 (文様)	内 面 調 整	備 考
第 57 図	501	B-10 B-11	Ⅲ Ⅳ	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	黄褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	502		Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	503	B-9	Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	条痕後ナデ	条痕	
	504	A-2	Ⅳ	長石・石英・黒曜石片・砂粒	普通	黄褐色	条痕後ナデ	工具ナデ	
第 58 図	505	A-12	Ⅳ	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	茶褐色	条痕後ナデ	条痕	
	506	A-11	Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	507	B-9	Ⅳ	長石・石英・細礫	良	黒褐色	条痕後ナデ	条痕	
	508		Ⅳ	長石・石英	普通	褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	509	A-11	Ⅳ	長石・石英・金雲母・砂粒	普通	黄褐色	条痕後ナデ	条痕	
	510	B-10	Ⅳ	長石・石英	普通	暗黄褐色	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	511	A-8	Ⅲ	長石・石英・細礫	良	暗黄褐色	ヘラミガキ (凹線)	ヘラミガキ	
	512	B-11	Ⅲ	長石・石英・細礫	良	暗黄褐色	ヘラミガキ (凹線)	ヘラミガキ	
	513	A-3	Ⅳ	長石・石英・細礫	良	暗黄褐色	ヘラミガキ (凹線)	ヘラミガキ	
	514	A-9	Ⅳ	長石・石英	良	褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	515	A-3	Ⅲ	長石・石英・砂粒	良	暗黄褐色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	516	A-11	Ⅳ	長石・石英	普通	褐色	条痕後ナデ (刺突)	条痕後ナデ	
	517	B-12	Ⅳ	長石・石英・砂粒	やや良	黒褐色	工具ナデ (刺突)	工具ナデ	
	518	A-9	Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ (沈線・刻目突帯)	ナデ	
	519	A-8	Ⅲ	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ (刺突・突帯)	条痕	
	520	A-10	Ⅳ	長石・石英	普通	赤褐色	ナデ (刺突)	ナデ	
	521	B-10	Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	褐色	ナデ	ナデ	
	522	A-2・3	Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ	ナデ	多少風化
	523	B-10	Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	黄褐色	ナデ	ナデ	
	524	B-12	Ⅳ	長石・石英・砂粒	普通	黄褐色	ナデ	ナデ	
525	B-11	Ⅳ	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ	ナデ		
526	B-11	Ⅲ	長石・石英・細礫	普通	褐色	ナデ	ナデ		
第 59 図	527	B-10-11	Ⅲ	長石・石英・細礫	良	黄褐色	ナデ (刺突・突帯・縄文)	工具ナデ (縄文)	
	528	A-10	Ⅲ	長石・石英	やや良	褐色	ナデ	ナデ	
	529	B-8	Ⅲ	長石・石英	良	褐色	ナデ	ナデ	
	530	A-12	カクラン	長石・石英	良	灰色	タタキ	工具ナデ	
	531	A-8	Ⅲ	長石・石英・細礫	良	褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	532	A-12	カクラン	長石・石英	良	褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	533	A-12	カクラン	長石・石英	普通	褐色	工具ナデ	ナデ	
	534	A-12	カクラン	長石・石英	普通	褐色	工具ナデ	ナデ	

第Ⅵ章 遺物（石器）

本遺跡ではⅧ層、Ⅴ層、Ⅳ層、Ⅲ層から、2,382点の石器及びその製作・使用に関連した遺物が出土した。本報告書では、土器の出土状況との対比から縄文時代早期に相当すると考えられるⅧ層出土石器、縄文時代前期に相当するⅤ層出土石器、縄文時代前期～晩期に相当するⅣ層出土石器を中心に301点を図示した。各層位ごとの器種、出土点数等については後述する。なお、出土遺物の整理を行うにあたり、黒曜石・チャート・水晶等の緻密な石材と、ホルンフェルス・安山岩等の粗い石材とを分離して扱った。このため、出土状況図、各層位ごとの記述、実測図の配列もこれに準じた。また、本報告中、スクレイパー(1)としたものは、黒曜石等の緻密な石材を素材とする刃部の調整が見られる小型の剥片石器であり、スクレイパー(2)は、ホルンフェルス等の粗い石材を素材とする加工痕・使用痕の見られる剥片石器である。同様に、石核、剥片、碎片・裂片についても、黒曜石など緻密な素材によるものを石核(1)、剥片(1)、碎片・裂片(1)、ホルンフェルスなど粗い素材によるものを石核(2)、剥片(2)、碎片・裂片(2)とした。

第1節 Ⅷ層の石器

Ⅷ層では集石16基が検出されたが、石器の出土は極めて少量であった。出土した石器は、加工痕剥片(1)4点、使用痕剥片(1)1点、石核(1)1点、スクレイパー(2)3点、礫器17点、磨石・叩石類8点、石皿(破片)1点、石核(2)1点の計36点で、うち17点は集石内出土の遺物として前項で扱った。他に、剥片(1)2点、剥片(2)1点、碎片(2)3点、自然礫・焼礫が出土した。遺物は、A・B-1区、A-4区、A・B-5・6区、A-10・11区の4カ所に出土したが、器種による分布の偏りは見られない。また、集石内出土石器を除くと、集石と遺物出土状況との間に、相関関係は認められなかった。

①加工痕のある剥片（第61図1）

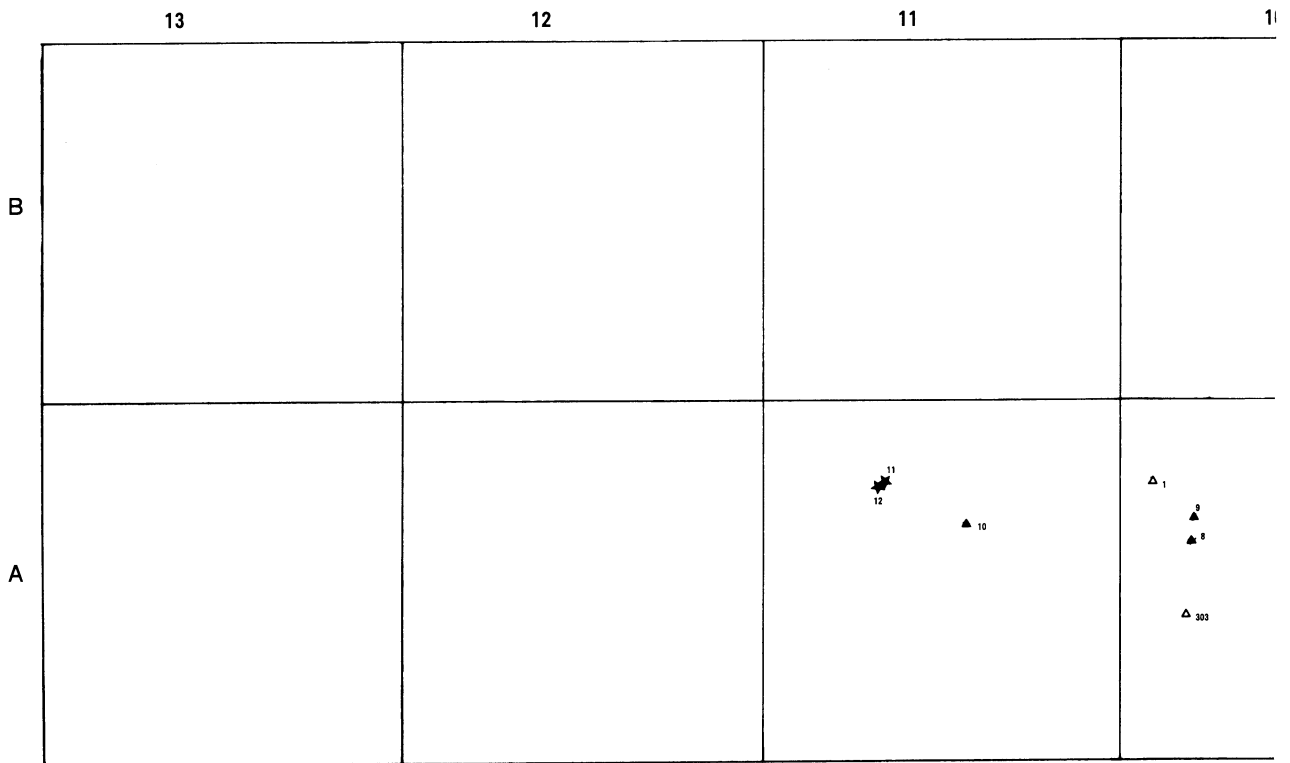
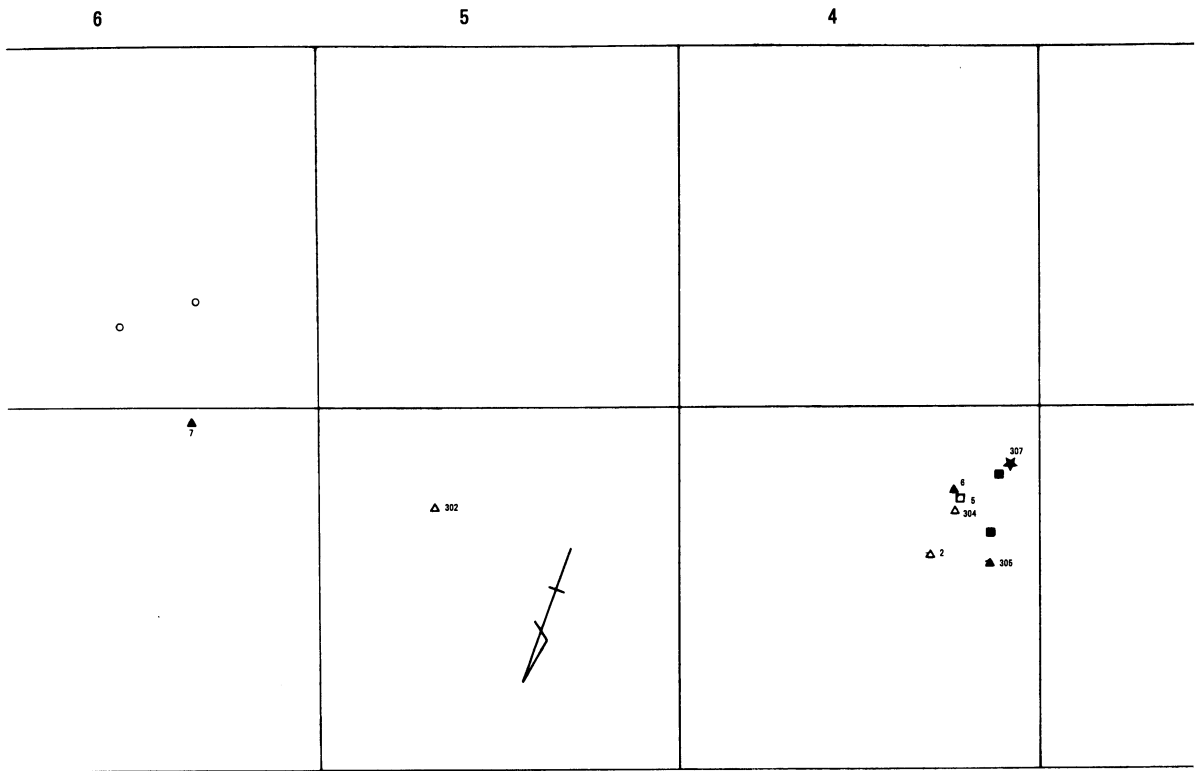
剥片剥離後の、二次的な剥離痕等の観察される石器が、4点出土している。1は背面に自然面を有するやや厚みのある黒曜石剥片を素材とし、側縁から剥離調整が行われている。上辺は直線的で、下方へ向かう剥離が表裏に見られる。ピエスエスキューの可能性はあるが、下辺からの剥離が不明瞭なため加工痕剥片として扱った。

②使用痕のある剥片（第61図2）

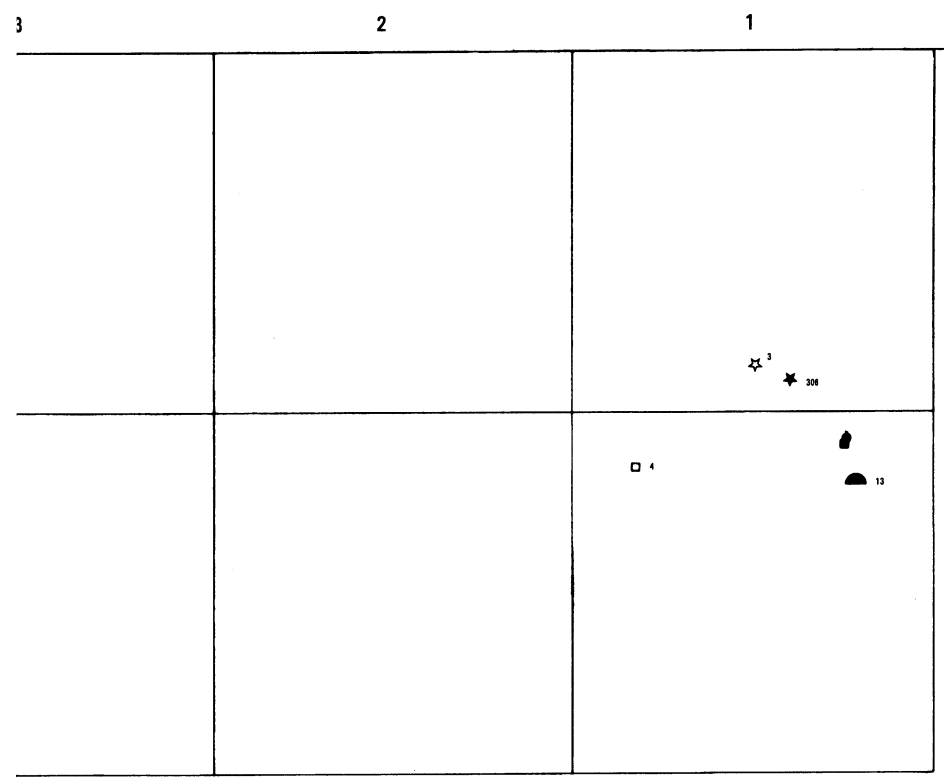
末端辺に自然面を有する硅質流紋岩の剥片で、やや内湾する左辺上半に微小な剥離痕が見られる。

③コア（第61図3）

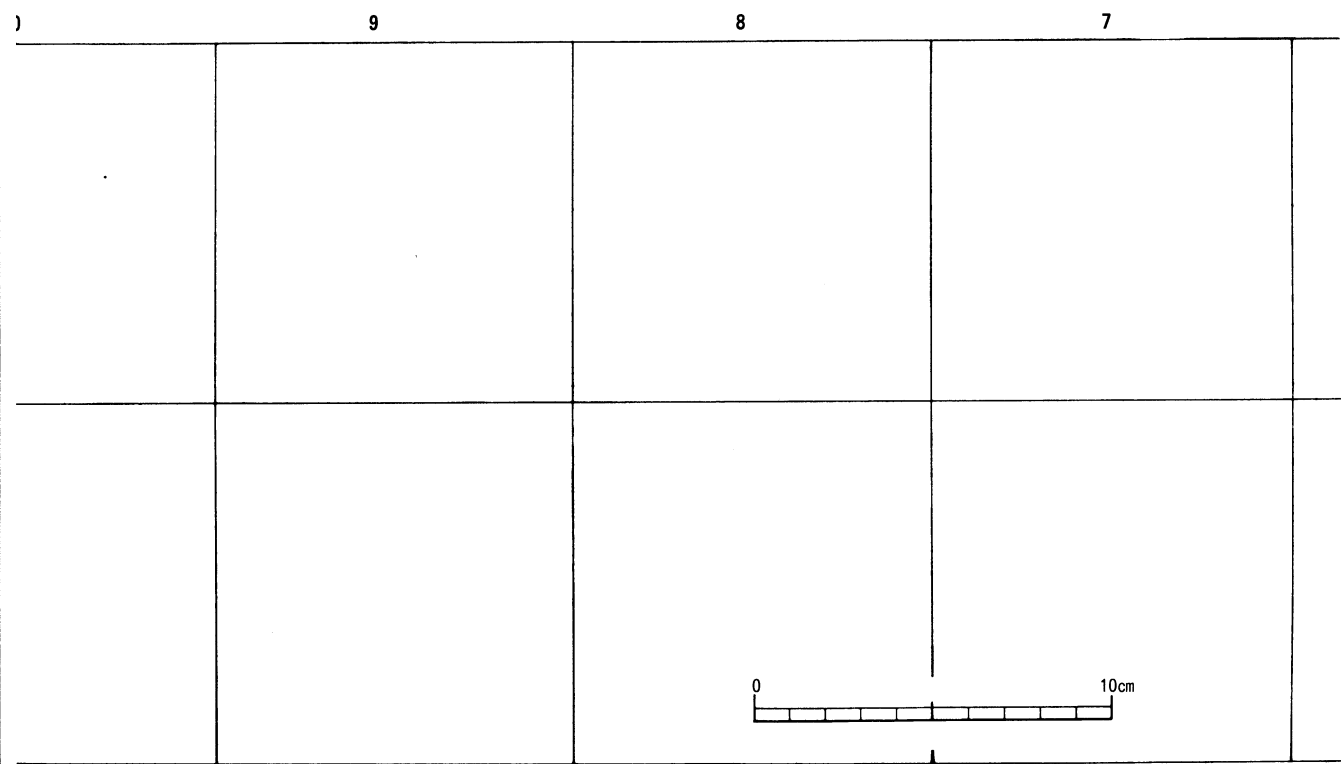
乳灰色の特徴的な黒曜石で、大分県姫島産と思われる。扁平な分割礫素材で、剥離面からの連続する剥離と、裏面を打点とする狭小な面を作業面とする剥離が見られる。



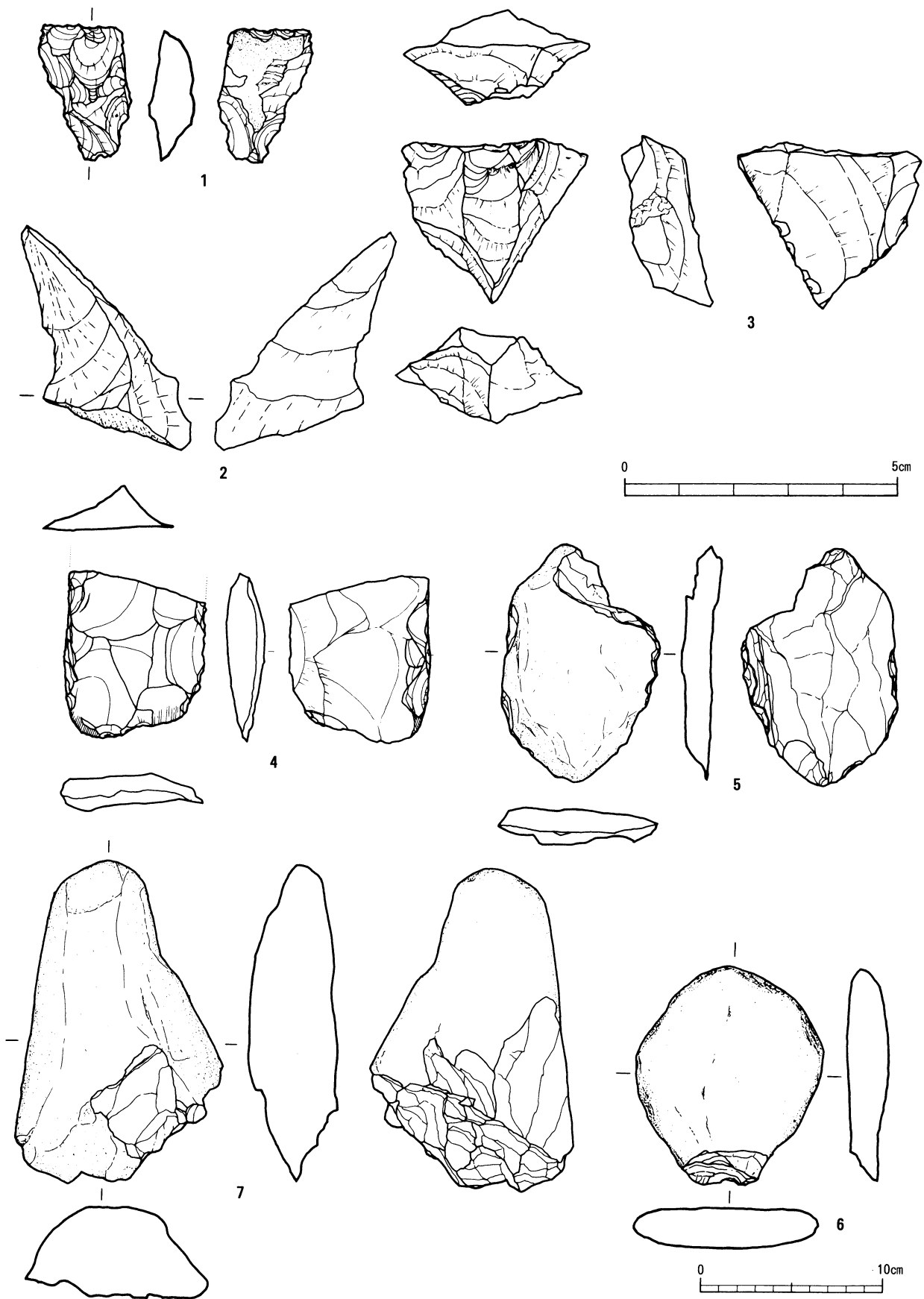
第60图 VIII



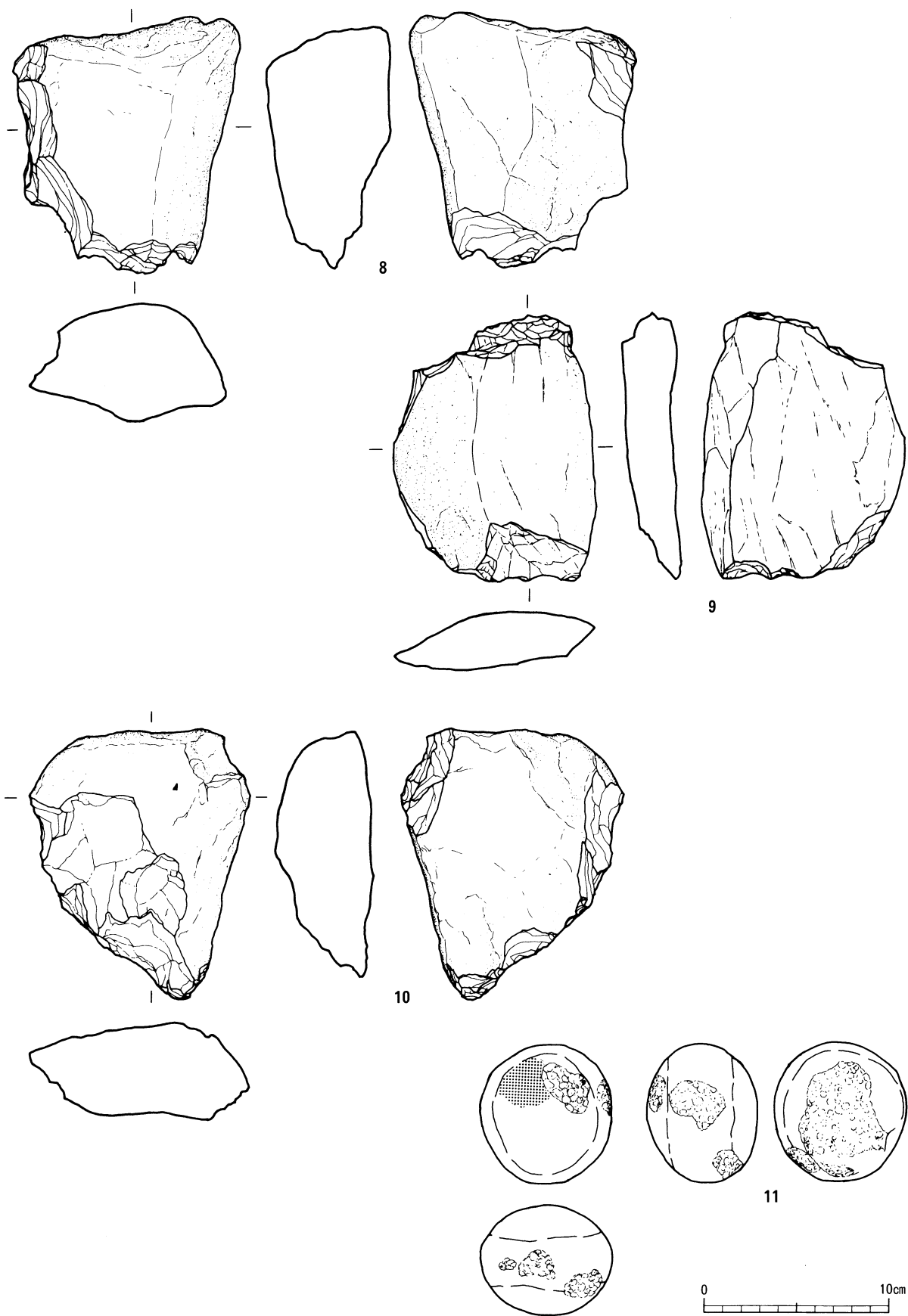
- ▲ 加工痕・使用痕剥片
- 剥片(1)
- ☆ 石核(1)
- スクレーパー(2)
- ▲ 礫器
- ✱ 磨石・敲石類
- ◐ 石皿・石台
- 剥片(2)
- 碎片・裂片(2)



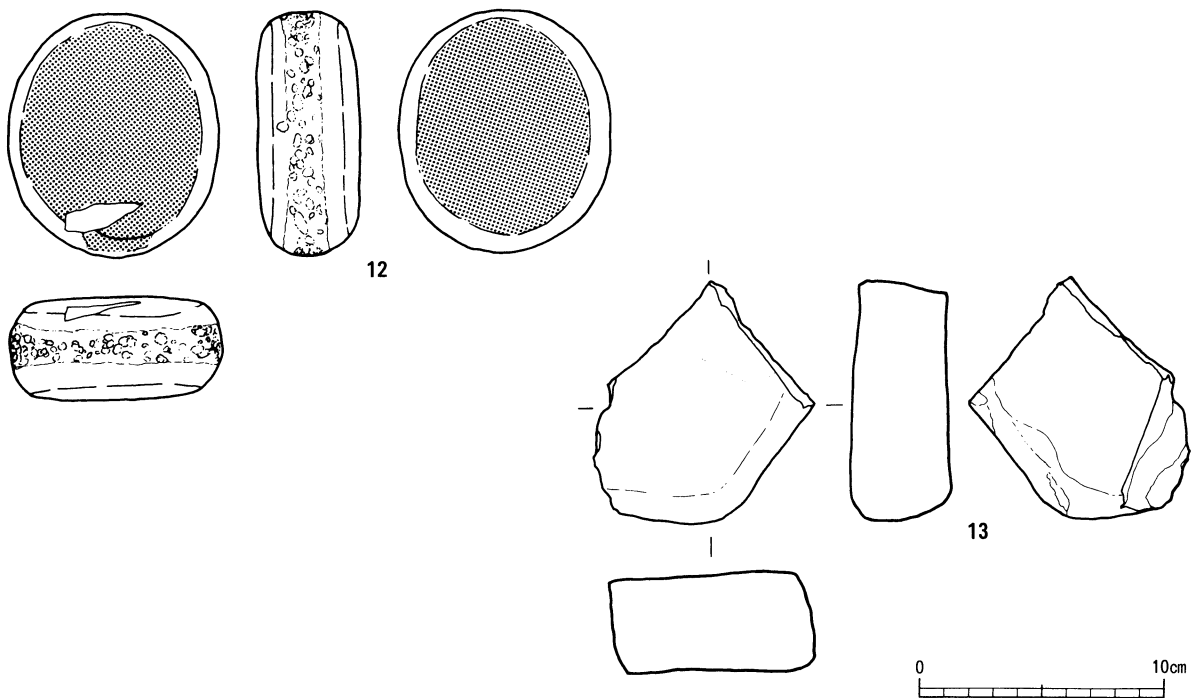
層石器出土状況



第61图 VIII层出土石器(1)



第62图 VIII層出土石器(2)



第63図 VIII層出土石器（3）

④スクレイパー b（第61図4・5）

4は比較的大きな剥離で成形した後、縁辺に小さな剥離を施し刃部を調整している。下辺部の表・裏に部分的に研磨を認める。5は、背面に自然面を有する横長のホルンフェルス剥片を素材とする。側縁部は磨耗している。

⑤礫器（第61図6・7 第62図8～10）

6は扁平な亜円礫で一端に裏面側からの剥離が見られる。7は下縁に表面側からの剥離が見られる。8は左側縁から下端にかけて剥離が見られる。側縁の剥離は裏面方向から行われるのに対し下端では表裏に剥離痕が残り、端部が潰れている。10は、左側縁に表裏からの剥離が見られ、これと対置する上辺右隅に、表面側からの剥離が見られる。

⑥磨石・叩石（第62図11 第63図12）

11は偏球状の円礫で部分的に磨面が見られるほか、不規則に敲打痕がある。12は、表裏面に磨面があり、側面に敲打痕が見られる。

⑦石皿（第63図13）

扁平な礫で、表裏面とも平滑である。破片であり、判断が困難であるが、石皿もしくは台石の可能性がある。

第2節 V層出土石器

V層出土の石器には、石鏃及び石鏃未製品、石錐、石匙、スクレイパー(1)、ピエス・エスキーユ(破片を含む)、加工痕のある剥片・使用痕のある剥片、石核(1)、スクレイパー(2)、磨製石斧(破片含む)、礫器、磨石・叩石類、砥石類、石皿(破片を含む)がある。他に石核原石23点、フレー

ク(1)165点, 碎片・裂片(1)436点, 剥片(2)35点, 碎片・裂片等(2)72点が出土し, 総計1,063点を数える

遺物は, A-10区, A-11区に濃密な集中部が見られるほか, B-3・4区, A・B-8区, B-9~12区などに部分的纏まりが見られる。概して, IV層の石器出土状況と比較すると, 遺物の出土位置が集中する傾向にある。また, V層では3基の集石が検出されたが, このうち2号集石周辺に, 濃密な遺物の集中が重なる。

①石鏃及び石鏃未製品 (第66図14~28)

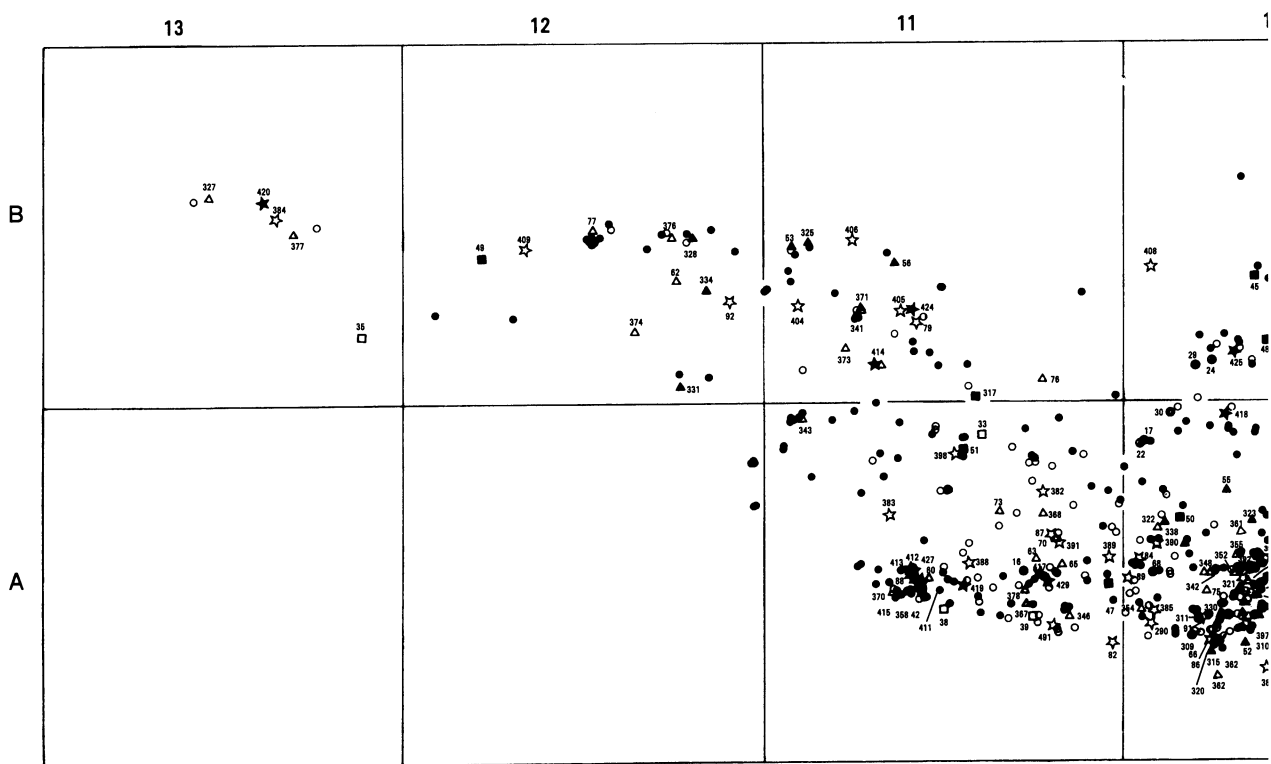
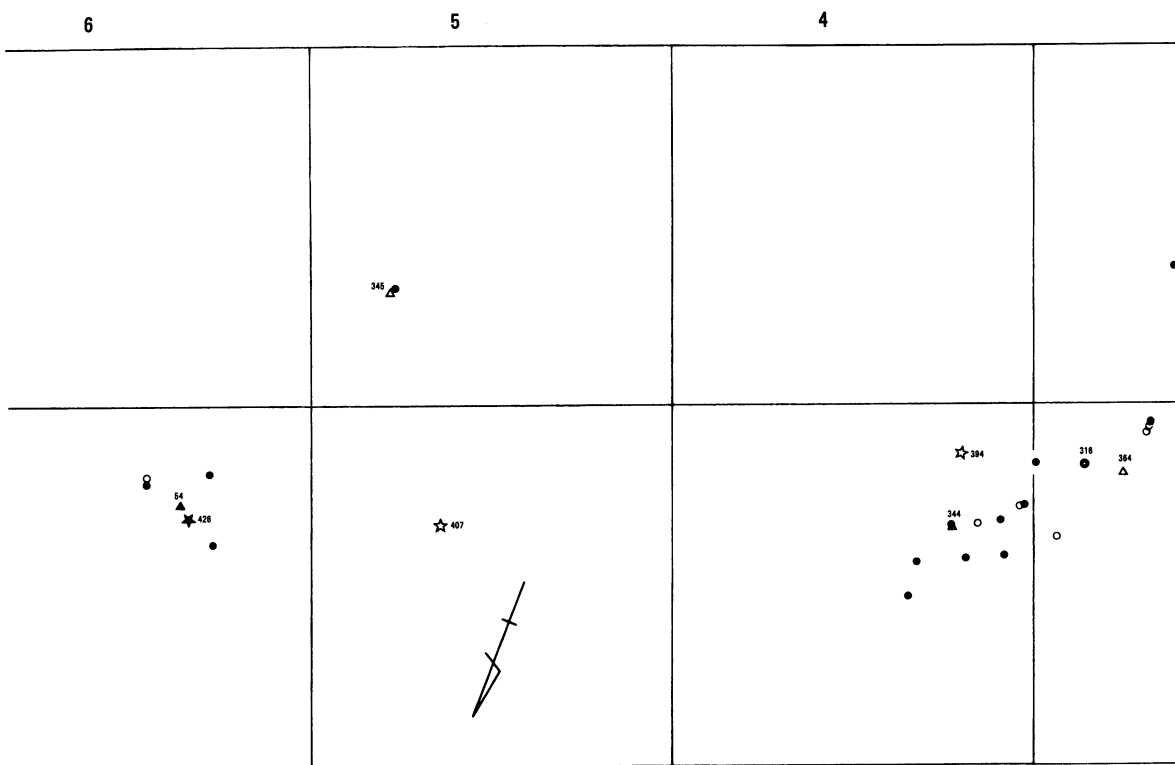
石鏃14点, 石鏃未製品7点が出土している。石材は, 黒曜石20点, 蛋白石1点である。14, 16は, 長さ2.0cm前後の中型の凹基の石鏃である。14は, 灰色のややぬめりのある黒曜石を素材とする凹基の二等辺三角鏃で, 表裏から丁寧な剥離調整が行われ, 薄身である。16は, 良質な灰黒色の黒曜石を素材とし, 両脚端からやや内よりの位置から基部の抉りが入る。15は, 中型と小型の中間程度の大きさの凹基の三角鏃で, 両側辺がわずかに内湾する。18・19は小型の三角鏃で, 浅く内湾する基部を持つ。何れも, 透明度のある淡灰黒色の黒曜石を素材とし, 正三角形に近い形状を有する。19は背面に対し, 裏面は扁平で, やや粗雑な整形である。20は蛋白石を素材とする長身の二等辺三角鏃で, 側縁は鋸歯状を呈する。凹基である。21は透明度の低い灰黒色の良質な黒曜石を素材とし, 基部に抉りが入る。長幅比0.75の幅広の三角鏃である。23は平基の小型三角鏃で, 透明度の低い灰黒色の黒曜石を素材とする。欠損部に近い部分に, バルブの膨らみがわずかに残る。平基の小型三角鏃は他に2点出土している。24は小型の三角鏃で, 黒色の透明感のある良質な黒曜石を素材とする。背面は右側辺下部に未調整の部分が見られ, 腹面にも主剥離面が残り, 素材剥片のフェザーの末端辺がわずかに残置する。25は表裏面とも剥離調整が行われているが, 先端部が不整形なため未製品とした。26は不透明黒色の黒曜石剥片を素材とする。下辺及び右側辺は表裏に調整剥離が, 左側辺は背面側のみ調整剥離が見られる。形状調整工程^(注1)から製品化への移行過程にある未製品である。27は灰黒色の黒曜石剥片を素材とし, 背面右上部及び腹面右側に剥離調整が行われている。腹面の調整は主剥離面のバルブの厚みの削減を図るものと思われる。形状調整工程の剥片である。28は透明度の低い灰黒色の黒曜石の剥片で, 右側縁上部に打面の自然面が残置する。主剥離面のバルブの厚みの削減が図られている。石鏃製作の過程を示す資料として図示した。

②両面加工石器 (第66図 29)

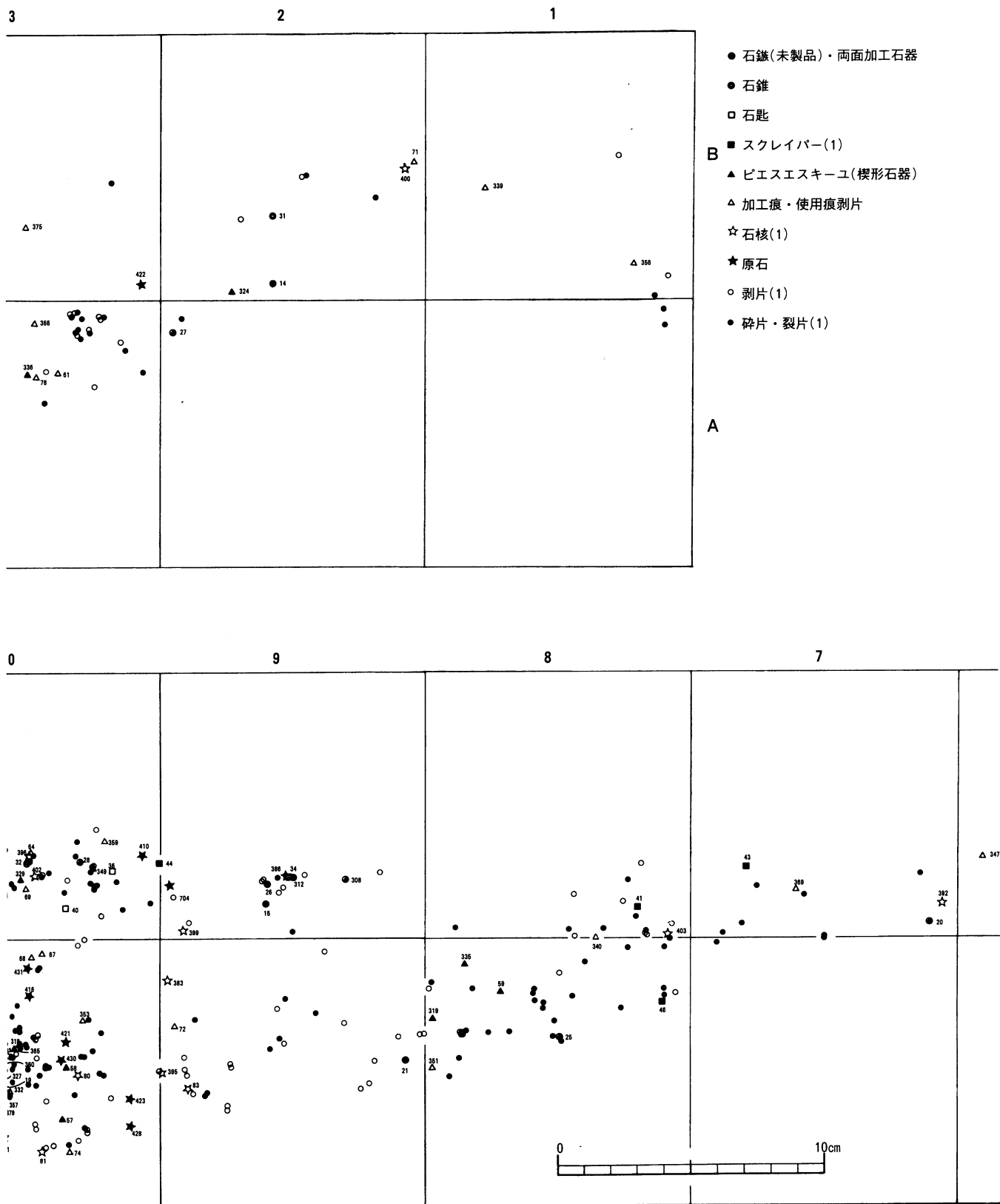
29は, 不純物を含む黒色の黒曜石剥片を素材とする。両面に剥離調整が行われるが, 背面左側縁, 裏面右下に未調整の部分がある。長さ2.4cm, 幅2.2cmは, 石鏃の最大値に近似するが, 重量3.21gは3倍以上の開きがあり, 用途の異なる石器である可能性が高い。木葉形を呈し, 尖頭器に類する石器と思われる。

③石錐 (第66図 30~32)

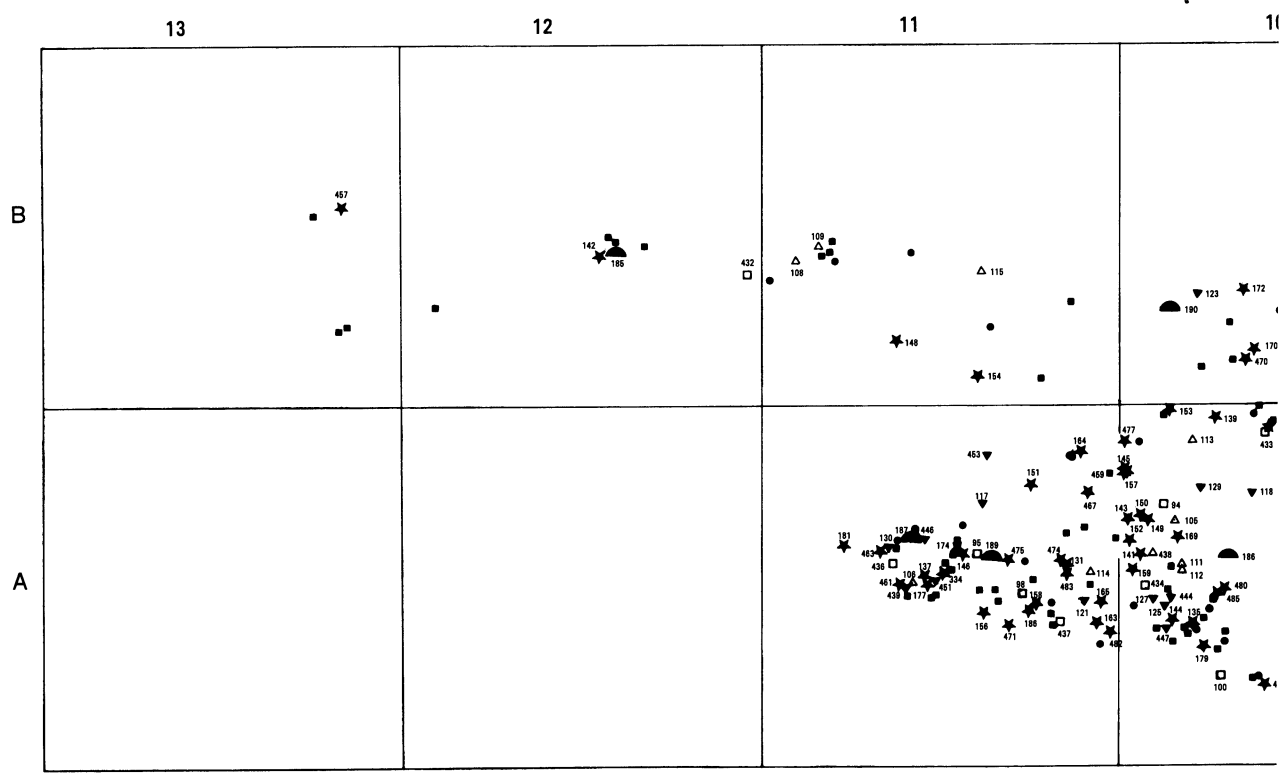
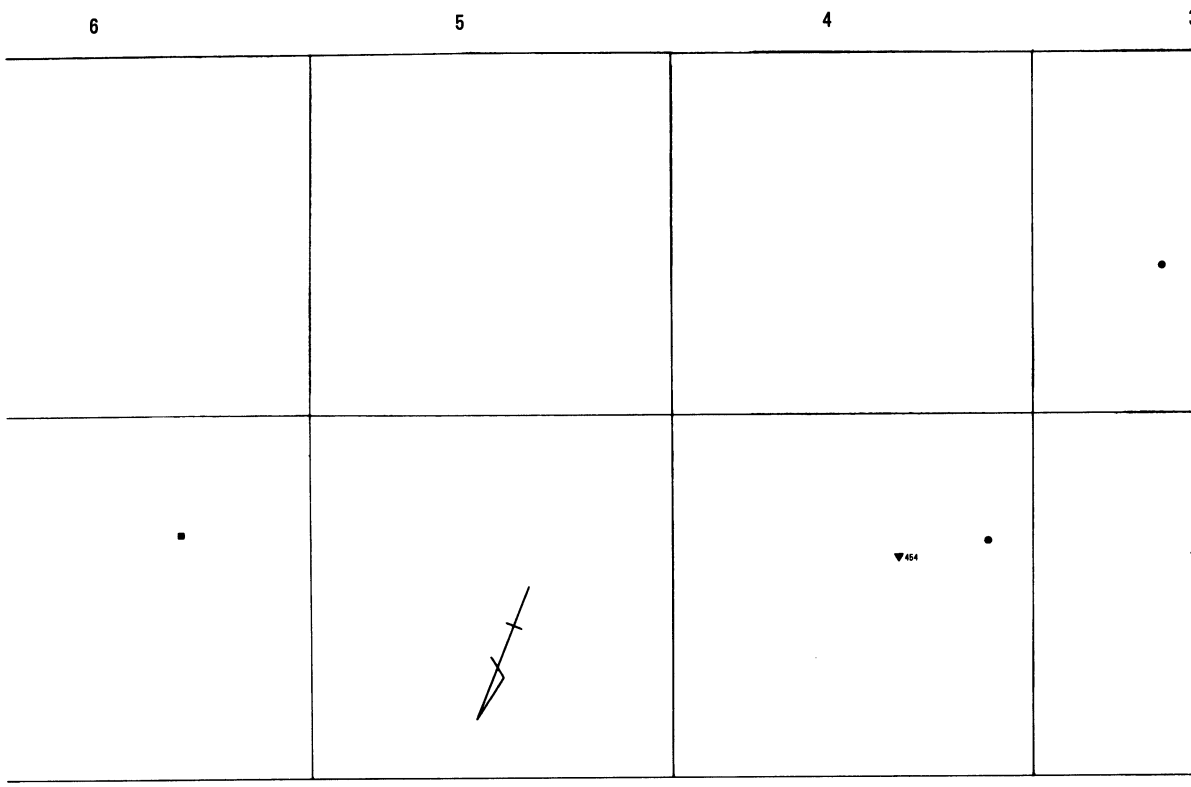
4点が出土している。他に加工痕・使用痕剥片に分類した石器の中に, 錐部の加工・調整が見られないが, 使用痕から同様の用途の推定されるものがあつた。30は黒色不透明の黒曜石で, 背面に自然面を有する横長の剥片を縦位に用いる。頭部にはあまり調整は加えず素材の剥片形状を残し, 錐部のみ表裏からの調整加工を施す。錐部断面は菱形に近い形状をもつ。また, 先端部方向からの



第64図 V 層



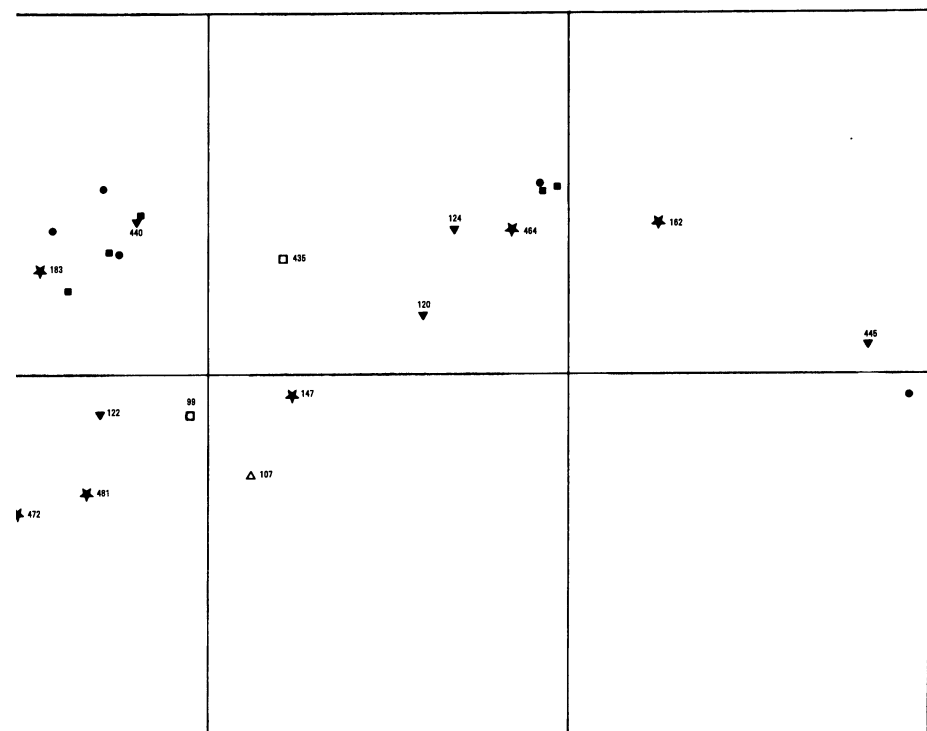
石器出土状況(1)



第65図 V 層

2

1



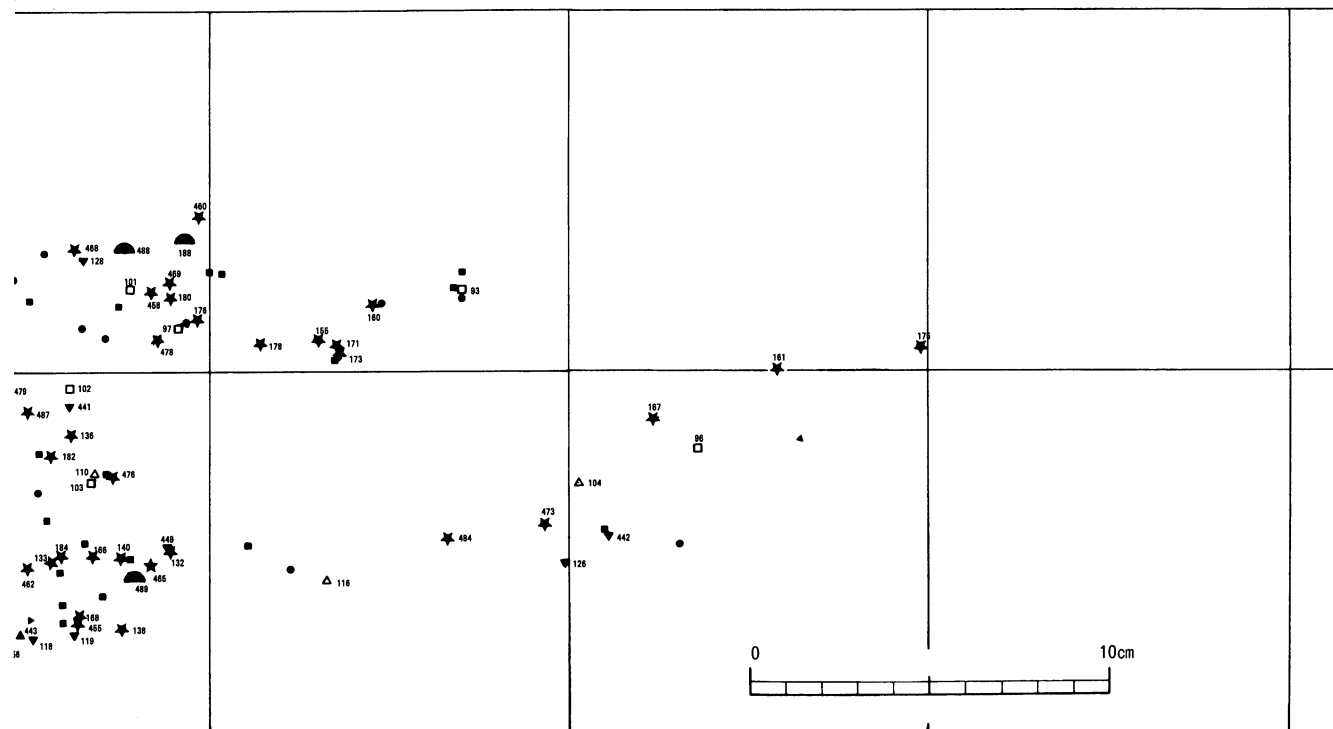
- スクレイパー(2)
- △ 磨製石斧
- B ▼ 礫器
- ★ 磨石・敲石類・砥石
- 石皿・石台
- 剥片(2)
- 碎片・裂片(2)

A

9

8

7



0 10cm

石器出土状況(2)

剥離が表裏にあり、端部が小さく突出する。彫器的な用途も考えられる。31は漆黒色の黒曜石の横長剥片を縦位に用いる。頭部は一部欠損するが、あまり加工調整を行った形跡は見られない。左側縁は頭部から錐部への移行部は腹面側からの調整加工によって作り出すが、先端近くは背面側からの剥離で調整する。右側縁は錐部のみ腹面側から加工調整を行っている。錐部の断面型は三角形である。32は不純物の多い透明度のある淡灰黒色の黒曜石で、背面に自然面を有する縦長剥片の末端を錐部とする。頭部はあまり加工調整を行わず、錐部のみ表裏両面に調整剥離を施す。錐部断面型は三角形で、先端及び稜上に「つぶれ」が見られる。

④石匙（第66図 33・34 第67図 35～39 第68図 40）

8点が出土している。縦型・横型があるが、身部の平面形は、多様である。刃部の調整は、片面調整（片刃）・両面調整（両刃）があり、刃部の形態は、左右の挟りを結ぶ線を基準にした場合、外湾気味の平行する刃部（39）、先端で交わる斜行する両側縁に刃部を有するもの（36・40）、斜行する一側縁に刃部を有するもの（33・38）、斜行する側縁と平行する刃部をもつもの（37）がある。また、加工調整は、縁辺部のみに限られ、身部全体に及ぶものは見られない。

33は不透明な黒色の黒曜石を素材とする縦型の石匙。左右の挟りは、小さく、浅い。右側縁のみに、腹面側からの片面調整で外湾する刃部を作る。調整は縁辺のみにとどまる。34は不透明・黒色の黒曜石を素材とし、剥片を横位に使用する。つまみ部は身部に対し小さく、左右に両面からの調整で挟りが入る。身部左側を大きく欠損する。右側縁の刃部は、両面調整であり、調整は縁辺にとどまる。35は水晶製の石匙で、背面に結晶面を残す。つまみ部は表裏からの調整でやや丸みを持ち、左右の挟りは、表裏からの調整である。身部過半を欠損する。36は背面に自然面を有する透明度の低い灰黒色の黒曜石剥片を素材とする。つまみ部の加工は粗雑で、左右に表裏からの剥離で半円状の挟りがはいる。身部形状は隅丸の逆三角形で、主に腹面側からの片刃調整であるが、先端部及び左肩に背面側からの調整が行われている。37は蛋白石素材で、やや丸みのあるつまみ部を持ち、挟りは、左右違方向の片面調整である。身部は三角形を呈し、欠損する右側縁を除き、底辺・左側縁にそれぞれ両面調整の刃部をつくる。底辺の刃部は中央で浅く内湾する。38は黒色不透明の黒曜石剥片を素材とし、左右の挟りは小さく、浅い。身部は三角形を呈し、一辺のみに表裏からの両面調整で刃部をつくる。39は背面に自然面を有する黒色不透明の黒曜石剥片を素材とし、左右に表裏からの調整で、半円状の挟りが入る。身部は楕円形に近い形状で、刃部は両面調整である。40は黒色不透明の黒曜石製で、表裏からの調整で挟りが入る。身部は隅丸の逆三角形で左右に肩が張り、つまみの位置は中心線からずれる。外湾する両面調整の刃部を有する。

⑤スクレイパー(1)（第68図 41～47 第69図 48～50）

12点が出土している。43は黒色不透明の黒曜石を素材とする。左側縁部は、表裏からの調整で刃部をつくる。スクレイパーとして分類したが、石匙の欠損品である可能性もある。44は灰黒色の良質な黒曜石剥片を素材とし、主に腹面側からの調整で加工するが、右側縁上部は背面から調整している。線状痕がある。45は水晶製で、右側縁に表裏からの剥離調整が行われている。上部は使用時の折れによる欠損と思われる。46は灰黒色のやや不純物の多い黒曜石の、背面に稜を有する縦長の剥片を縦位に使用する。背面の右側縁部に小さな剥離が連続して見られる。47は透明度の低い灰黒色の黒曜石で、横長の剥片を縦位に使用し、右側縁に表裏からの連続した剥離調整で刃部をつくる。

48・49は、平面形が三角形で、一側縁に片面からの剥離調整が行われ、頂部からの剥離が見られる。48は黒色不透明の黒曜石、49は透明度の低い灰黒色の黒曜石製である。先端部には微小剥離が見られ、典型的な槌状剥離を有するものではないが、彫器的な用途が考えられる石器である。50は灰黒色の黒曜石の横長剥片を縦位に使用し、先端部から左側縁中位にかけ、表裏に斜め上方から連続する剥離調整を施す。剥離調整の施されない右側縁の裏面側上半に、使用痕と思われる剥離が見られる。51は不透明黒色の黒曜石で、左右に両面からの調整で抉りが入る。身部を欠損した石匙が再利用された可能性もあるが、ノッチド・スクレーパーとして、スクレイパーに含めた。

⑥ピエス・エスキュー(楔形石器)(第69図 52~59)

形状、縁辺部の「階段状剥離」、「対辺に向かったのびる剥離痕」、剥離痕の重なり、対辺同志を直線的に結ぶ「剪断面」の形成などの特徴を有する石器及び、その使用によって生じたと思われる破片をピエス・エスキューと分類した^(注2)。また、これらの諸特徴の一部を有するものの、断定できなかった資料については、加工痕・使用痕剥片として分類し、ピエス・エスキューの可能性のあるものとして、石器計測一覧表等に観察所見を記した。なお、一覧表の計測値は、すべて残存値である。分類した資料は使用形状を保つと考えられるもの(14)点、欠損品(6)点、使用によって生じた破片(7)点である。

52は黒色不透明の扁平な黒曜石剥片で、平面形は四辺形、上・下辺に階段状の剥離、上辺に「つぶれ」が生じている。53は透明度の低い灰黒色の黒曜石で、腹面に主要剥離と直行する剥離を加え、縦・横断面とも紡錘形に調整されている。平面形は四辺形で、上・下辺に階段状の剥離、「つぶれ」が見られる。54は透明感の無い暗灰色の良質の黒曜石で、断面形は縦・横とも紡錘形、平面形は四辺形である。上下・左右に対になる剥離が見られ、上辺には微小剥離が生じている。55は蛋白石で、右側部分は上端から下端に向かう剥離により、欠損が生じており、不定型な紡錘形状を呈する。上・下端部及び左側縁に階段状の剥離が生じている。56は透明度の低い灰黒色の黒曜石で、平面及び縦断面形は紡錘形を呈する。上・下端には階段状の剥離が著しく発達し、上端・右側面の一部に「つぶれ」が見られる。裏面には、対向する剥離痕が重なり合って見られる。57は良質な黒色の黒曜石を素材とし、左右側面に対辺に届く剥離が生じている。平面形は三角形を呈する。上辺には、階段状の剥離・「つぶれ」が見られ、下端にも階段状の剥離がある。58は透明感のある灰黒色の黒曜石で背面には、自然面を残す。平面形四辺形で、上・下辺に階段状の剥離が見られる。59は六角柱状の水晶結晶体で、上・下端が敲きつぶれ、上端には階段状の剥離、下端には欠損が生じている。また、稜上を中心に横走るキズ、微小な剥離、磨耗が見られる。下端から上端に向かう剥離が見られず、且つ形状的にも他の資料と異なるものであり、間接加撃に用いられた鑿、もしくは穿孔具の一種の可能性もある。

⑦加工痕のある剥片・使用痕のある剥片(第70図 60~69 第71図 70~78)

黒曜石・水晶・チャート・蛋白石など緻密な石材の剥片で、剥片剥離後の二次的な剥離が見られる剥片、使用痕の見られる剥片である。使用痕はルーペによる観察で、剥片縁辺の微小な剥離、磨耗、「つぶれ」等が見られた剥片について、実体顕微鏡で再度観察を行い、微小な剥離の連続性・重なり、刃部の磨耗・つぶれの度合い、線状痕の有無、発掘時の「キズ」である可能性の無いことを基準とし、判別した。線状痕については、明確な規格性を有するもののみ、石器計測一覧表に刃

部との方向関係を記した。なお、一覧表の計測値はすべて残存値である。62点が出土している。60, 61はやや厚みのある縦長の剥片で、小さな折れがある末端辺を未加工のまま使用部位としたと思われる。背面側左右からの剥離で、基部調整が行われている。60は不純物の多い灰黒色の黒曜石、61は透明度の低い灰黒色の黒曜石である。62は透明度の低い灰黒色の黒曜石で、自然面を打面とする横長剥片の末端辺に小剥離が見られる。スクレイパーの可能性はあるが、剥離がやや不規則で、浅いため加工痕剥片に含めた。刃部には微小な剥離痕が見られる。63は、透明度の低い白色の粒子を含む黒曜石で、主要剥離のバルブの膨らみを背面側からの大きな剥離で減じ、側面からも剥離を加えている。64は灰黒色の不純物の多い横長の剥片を縦位に使用する。主要剥離の基辺・左側辺に腹面側から剥離を加えている。65は透明度の高い灰黒色の黒曜石で、下端に裏面側からの調整が加えられている。上端付近は稜上に微小な剥離が生じ、表面には線状のキズが見られる。66は黒色不透明な黒曜石で、下辺部に細かい剥離痕が重なり、刃部がつぶれている。67は不純物の多い透明度の低い灰黒色の黒曜石で、横長剥片を縦位に用いる。下辺部を中心に、表裏縁辺に剥離痕、微小剥離、線状痕が見られる。68は透明度の高い灰黒色の黒曜石の横長剥片で、末端辺の表裏に微小な剥離が見られる。穿孔具として利用された可能性もある。69はやや透明感のある灰黒色の黒曜石で、台形状を呈する。底辺及び左右の側辺は同様の刃角をもつ。右側辺には表裏に剥離痕が見られ、微小剥離、線状痕が底辺及び両側辺に見られる。70は透明度の低い灰黒色の黒曜石で、自然面を打面とし、主要剥離の剥離軸は背面の剥離痕とほぼ同一方向を指す。縦長剥片の末端辺の表裏に微小剥離が見られ、刃部はやや磨耗している。71は不純物の多い灰黒色の黒曜石で、鋭利な左側縁に微小剥離、線状痕が見られる。72は良質な灰黒色の黒曜石で、打点側を欠く、右側縁及び左側縁下部に微小剥離が見られる。73は漆黒色の黒曜石の縦長剥片で右側縁及び左側縁下半に微小剥離が見られる。74は透明度の低い灰黒色の黒曜石。背面に自然面を有する縦長の剥片で、左右側縁に微小剥離がみられる。75はやや透明感のある灰黒色の黒曜石。自然面を打面とする剥片で、表裏の剥離方向は約90°のずれをもつ。左右の側縁に微小剥離が見られる。76は透明度の高い灰黒色の黒曜石で、主要剥離に対し、背面の剥離痕は約90°のずれをもつ。剥片の上・下辺に階段状の剥離痕、微小剥離がみられる。ピース・エスキューの可能性はある。77は不純物のある灰黒色の黒曜石で、剥離面を打点とし、背面に自然面を有する円形に近い剥片である。左辺の一部に微小剥離があり、腹面に線状痕が見られる。78は良質な灰黒色の黒曜石で、石刃状の縦長の剥片であるが、背面の剥離方向は90°異なる。左右側辺には微小剥離があり、背面には中央の稜線に平行する線状痕が見られる。下端は折れている。

⑧石核(1)(第71図 79・80 第72図 81~84 第73図 85~89 第74図 90~92)

主として小型の剥片石器製作を目的とした素材剥片の獲得に利用されたと考えられる石核が、44点出土している。石材の内訳は黒曜石42点、珪質流紋岩1点、石英1点である。またこの他に未使用の原石23点が出土している。石材は黒曜石16点、石英7点である。

出土した石核は素材の形態に剥片、分割礫、(亜)角礫、(亜)円礫があり、打面形状及び打(面)点の移動、作業面の形状・面数等により、分類が可能である。

79・84・86は扁平な(亜)角礫及び剥片を素材とし、主に礫の狭小な側面部分を作業面とする。79は不純物の多い灰黒色の黒曜石。平面形が三角形を呈する剥片を素材とし、主剥離面を打面とし、

狭小な上側面・左側面を作業面とした後、作業面を打面として分割時の主剥離面に最終剥離が行われている。84・86は透明度の低い灰黒色の扁平角礫を素材とし、自然面を打点とし、狭小な側面を作業面とする。84には最終剥離前に側面の剥離面からの剥離が見られる。

85・89・90は角礫・亜角礫を素材とし、単一の作業面に、自然面を打点として剥片剥離を行うもので、作業面は比較的平坦である。85はやや透明度の低い灰黒色の黒曜石角礫で、背面の剥離には風化が見られる。礫の平坦な自然面を打面とし、打点を左から右に移動させながら剥離を行っている。89は透明度の低い灰黒色の黒曜石で、上下に打面をもつ。90は不純物の多い灰黒色の黒曜石で、単一の打面を限定せず、石核の縁辺を打点移動しながら剥離を行っている。

83・87・88は単一の打面を限定せず、石核の縁辺を打点移動するもので、表裏に作業面をもつ。83は比較的良質な黒色の黒曜石で、表面は比較的平坦で剥離痕の末端辺に階段状の形状が生じているのに対し、裏面はポジティブで縁辺からの剥離は求心的である。88は透明度の低い黒色の黒曜石で、表面には求心的な剥離痕が残る。裏面には上辺に打点をもつ剥離痕がある。

80・82は分割礫・角礫を素材とする石核で 90° ・ 180° を単位として打面転移を行い、変則的な多面体を呈する。石材は、80が不純物の多い暗灰色の黒曜石。82がやや不純物の含まれる透明度の低い黒色の黒曜石である。

91は円礫素材とし、礫面上を打点移動する石核で、3カ所に剥離面が残る。不純物を含みやや透明感のある灰黒色の黒曜石である。

81は不純物の多い灰黒色の黒曜石で、やや変則的な形状の分割されたと見られる角礫を素材とし、最終剥離の打面上に古い剥離が見られる。最終の作業面では石核の縁辺を打点移動し、求心的な剥離痕を残す。

⑨スクレイパー (2) (第74図 93~86 第75図 97~103)

18点が出土している。図示した資料は93を除きすべてホルンフェルス製である。93は扁平な五角形状の安山岩剥片で、下辺部に内湾する片刃の刃部をもつ。94は背面に自然面を有する扁平な三角形状の剥片で、外湾気味の下辺部に背面側から剥離調整を施し、刃部とする。刃部は磨耗している。主要剥離の打点は三角形の頂点に存すると思われるが、石目に沿って剥離しており明確でない。95は平面が扁平な三角形状を呈し、両側辺及び背面上部に自然面を残す。礫の角の部分の打点として剥離したと見られ、打点側に厚みをもつ。フェザーエンドの背面右側部分に二次加工が見られる。96は背面に自然面を有する薄手の剥片で、図下縁部を刃部とする。背面には刃部と平行な擦痕が見られ、腹面側にも小さな剥離が見られる。刃部は磨滅しており、擦り切りなどの用途をもった可能性もある。97は背面に自然面を有する剥片で、下辺部に表裏いずれかから剥離を加え、片歯の刃部とする。98は上面に自然面を有し、左辺は背面から、右辺は裏面側からの片面調整である。刃角の鋭い右辺が刃部として使用された可能性が高い。99は下端部左右の下辺には縁辺に比較的平坦な剥離を、上半の縁辺には角度のある剥離調整を施している。下端部付近にややつぶれが見られる。100は平面四辺形の剥片で下辺部に使用痕がある。101は上部を欠損する。下縁部は両刃で、刃部にはつぶれが見られる。表裏とも剥離面であるためここに分類したが、礫器の欠損品の可能性もある。102は側縁部全体に表裏いずれかからの剥離調整が見られるが、磨耗やつぶれの顕著な下縁部が刃部として使用されたものと思われる。103は縦長の剥片で右側縁から末端部分にかけて細かい剥離

調整が施される。縁辺はやや磨耗している。

⑩磨製石斧及び磨製石斧未製品（第75図 104～107 第76図 108～116）

磨製石斧12点，未製品と考えられる加工礫2点が出土している。石材は，108が蛇紋岩，111・112が砂岩である以外はすべてホルンフェルスである。刃部及び基部の形状・形態により，細分が可能である。^{（注3）}

刃部の断面形状は，両側に膨らみをもつ両凸刃（104～111，113）と基部正面側の膨らみに対し，裏面の膨らみが弱い，弱凸強凸片刃（112，114）の二種がある。

刃縁の形状には，刃部が緩やかに外湾する外湾刃（105・107・111・114），刃部が半円状に丸味をもつ円刃（104・106・109・110），刃部が中心線から左右の一方に偏る偏刃（108・112・113）に3分される。

基部の平面形状には，刃部から基端に向かって徐々に細くなり，丸味のある基端部をもつもの（104・105・106・108）と両側縁が平行し，基端が外湾気味となる（111）がある。

図示した磨製石斧11点の内，104，106，113を除く，8点には剥離の稜線が研磨痕によって磨り消される状況が見られ，剥離調整後に，研磨仕上げが行われたことを示す。また，これらの磨製石斧に，敲打調整が行われた痕跡を示すものは見あたらない。出土した磨製石斧は，欠損部及び調整剥離により窪みが生じ研磨が及ばなかった部分を除き，側面，基端部に至るまで全面に研磨が施される。107，109，110，112，113は基部の一部を欠損する資料であるが，欠損後の再利用が図られた痕跡が見られる。107は折れ面縁辺への研磨が，109は欠損部への二次的剥離痕が，110は基端部及び両側辺に研磨面を切る剥離及び敲打痕が見られる。また，114は基端部に階段状の剥離がみられるが，欠損品の再利用ではなく，使用上の理由で生じた可能性が高い。

115は，ホルンフェルスを素材とし，背面に一部自然面を残す以外，表裏の全面に縁辺からの剥離調整が行われ，縁辺に沿った細かい剥離調整痕が見られる。全体が，石斧に近い形状をもち，石斧未製品とした。116は平面長方形を呈するホルンフェルスの亜角礫で，上端及び右側辺に剥離調整が行われている。

⑪礫器類（第76図 117・118 第77図 119～125 第78図 126～130）

自然面の一端（一辺）もしくは両端（両辺），側縁部等に剥離が加えられ，使用されたと考えられる石器を礫器として概括した。本遺跡出土の礫器は，主としてホルンフェルスなどの目の粗い石材が使用されており，調整剥離，使用痕剥離を厳密に区分し得ない場合がある。27点が出土している。出土した全資料について，礫の形態と刃部の位置関係，刃部の形態，刃部の加工について以下の分類を行い，石器計測一覧表に記号で標記した。

礫の形態と刃部の位置の関係

- a 扁平な円礫・亜円礫の一端もしくは一辺を刃部とするもの
- b 平面形が楕円形もしくは（隅丸）長方形のなど長形の礫形状をもち，礫の短辺に刃部を有するもの。棒状礫を含む。
- c 平面形が楕円形もしくは（隅丸）長方形のなど長形の礫形状をもち，礫の長辺に刃部を有するもの
- d 礫の上下両端に，刃部を有するもの。

e 上記に分類されないもの

刃部形態

- ア 左右からの剥離で刃部の中間にコーナーをもつ、尖頭状の刃部を有するもの（凸刃）
- イ 礫の端部から一方の側縁へ斜行する刃部を有するもの（斜刃）
- ウ 礫の一端に半円状の刃部を有するもの（円刃）
- エ 礫の一辺にやや緩やかに外湾する刃部を有するもの（外湾刃）
- オ 礫の一辺に直線的な刃部を有するもの（直刃）
- カ 刃部の折れ、つぶれ、使用によると見られる剥離などで、刃部形状を特定できないもの

刃部の加工

- 片刃 片面からの調整剥離で、片刃の刃部とするもの。刃部の部位により、剥離面が表裏で異なるものもこれに含めた。
- 両刃 表裏、両方向からの剥離で、両刃の刃部とするもの

また、以上の分類を総合し、以下の様に類型化した。^(注4)

I類 扁平な礫の一辺に、外湾もしくは直線的な刃部を有するもの。

5点が出土している。石材はすべてホルンフェルスである。119は、礫の角にあたる部分に3回の剥離を加え、外湾する刃部を形成する。122は礫縁の曲線を利用し、比較的小さな調整剥離を施す。両刃としたが、裏面に見られる剥離は使用による可能性もある。刃部は使用痕と見られる「つぶれ」が生じている。123は片刃の刃部を有するが、使用によると見られる二次的な剥離が見られる。

II類 扁平な礫の一端、もしくは縦長の礫の短辺に尖頭状の刃部を有するもの。

4点が出土している。いずれも、ホルンフェルス製である。120は尖端部を中心に刃部左辺は表面側から裏面側への片面調整（片刃）、右辺は裏面側から表面への片面調整で、尖頭部を中心に違方向の剥離調整を加えることで尖頭状の刃部整形を行っている。121は小型の扁平な亜円礫で、礫の一端に刃部を有する。刃部左辺は表裏からの調整による両刃、右辺は裏面側からの片面調整による片刃である。何れも刃部先端に細かい剥離やつぶれがみられる。

III類 縦長の礫の短辺に、側辺に対し斜行する刃部を有するもの。刃部先端に使用痕が集中する。

2点が出土したが、図示できなかった。

IV類 縦長の礫の短辺に、半円状、緩やかな外湾、直線的な刃部を有するもの。

5点が出土している。117は扁平な棒状礫で、刃部はつぶれ、磨耗している。裏面にも小さな剥離痕が見られるが、使用痕と思われる。118は下辺がやや膨らむ棒状の礫で、刃部は磨耗している。裏面の剥離は節理に沿ったもので、使用によって生じた可能性がある。126は棒状の礫の一端に表裏からの剥離で両刃状の刃部もつ。上部に敲打によるとと思われるつぶれと剥離が見られ、VI類との関連も考えられる。刃部には細かい剥離が見られる。

V類 縦長の礫の長辺に刃部を有するもの。

3点が出土している。124は扁平な礫の側縁に粗い剥離で片刃の刃部をつくる。

VI類 礫の上下両端に対置する刃部を有するもの。

6点が出土している。127は扁平な小型の亜円礫で、上端は階段状に剥離し刃部形状は不明である。下端は斜刃状であるが、剥離は礫端に対し垂直方向から行われている。128は断面が三角形を呈する形状の整わない亜角礫である。上端は窪むように剥離し、下端は石目の影響もあり、複雑な階段状に剥離する。129は上辺・下辺がねじれの位置関係にある平面及び縦断面が三角形となる礫である。上辺は稜上を跨ぐように剥離やつぶれが見られ、下辺は裏面側からの剥離による片刃の刃部で、「つぶれ」が見られる。130は、上下にやや斜行する刃部をもち、端部につぶれが見られる。

Ⅶ類 片手での連続した使用に不適であると考えられる大型のもの。

2点が出土している。125は重量2520gの大型の礫で、一端に半円状の刃部を刃部を有するもので、裏面の石目に沿った剥離は使用痕とも考えられる。

⑫磨石・敲石類（第78図 131～138 第79図 139～152 第80図 153～160 第81図 161～168 第82図 169～174 第83図 175～178）

磨石、敲石、凹石は、同一個体に磨面・敲打痕・窪みといった使用（加工）痕を重複して有する場合が見られる。このため、本報告書では、磨石・敲石類として一括し、形状・使用痕に基づき以下の細分を設けた。^(注)

扁平敲石 断面形が長楕円形となる扁平な円礫・亜円礫で、敲打による「つぶれ」や「剥離」が見られるものである。14点が出土している。石材はホルンフェルスが11点、他に泥岩・凝灰質シルト岩・シルト質頁岩が各1点ずつある。131は長軸の一端がすぼまり、端部に使用による剥離が生じている。132は直線的な一辺をもつ円形状の礫で、図、下辺部に敲打による剥離が見られる。133は長楕円形の小型の礫で、両端に「つぶれ」が見られる。134は一端が大きく剥離しており、側辺に使用痕と見られる「つぶれ」がある。135は長四辺形状の亜円礫で、上下辺及び左側辺に使用痕が見られる。144は平面楕円形で、長軸の一端が剥離し窪む。側縁に「つぶれ」が認められ、表裏面に平坦な剥離が生じている。これら、扁平敲石として一括したものは、形状・形態ともに多様であり、細分が可能である。

棒状敲石 棒状の礫を素材とする敲石で、長軸の一端もしくは両端に敲打による「つぶれ」や剥離などが見られる。12点が出土している。石材は輝石安山岩が1点含まれる以外はすべてホルンフェルスである。136・138は、敲打による「つぶれ」や剥離などの使用痕が長軸の一端に見られる。137は、使用痕が長軸の両端に見られる。139は長さ27.9cm、重量1,554gの大型の棒状敲き石である。

楕円形敲石 平面形が楕円形を呈する敲石で、磨面をもつものを含む。19点が出土している。石材は、安山岩系が11点、砂岩が3点、ホルンフェルス3点、石英、凝灰質シルト岩が各1点である。140・142・145は小型の円礫（亜円礫）で、長軸の一端もしくは両端に比較的顕著に「つぶれ」、剥離が見られる。141・148・150は小型の円礫（亜円礫）で、長軸の一端もしくは両端に比較的顕著に「つぶれ」、剥離が見られ、磨面がある。158は小型の円礫（亜円礫）で、長軸の両端にわずかに「つぶれ」を認める。149・151は小型の円礫（亜円礫）で、長軸の一端もしくは両端にわずかに「つぶれ」を認め、磨面をもつ。163は中程度の大きさの平面形が楕円形に近い円礫で、側縁に「つぶれ」が見られ、磨面をもつ。156・171・173・174は中程度の大きさの平面形が楕円形に近い円礫で、側縁及び表（裏）面上に「つぶれ」が見られ、磨面をもつ。

円形敲石 平面形が円形に近く、敲打によると見られる使用痕を有するものを円形敲き石とした。

12点が出土している。石材は角閃石安山岩、角閃石輝石安山岩など安山岩系が多く、他に砂岩、ホルンフェルスなどがある。146・153は扁平な亜円礫で、側縁の一部に敲打によると見られる使用痕がみられる。155・157・160・162・165は、礫の側縁に敲打による「つぶれ」、剥離などが見られ、同時に礫の両面に磨面が見られるものである。161は側縁が万遍なく敲打され、側面を形成し、表裏に磨面がある。170は裏面に敲打痕が散見され、表裏に磨面をもつ。172は側面の一部に敲打による「つぶれ」があり、表面の一部に磨面を認める。175は表裏面に敲打による「つぶれ」があり、両面に磨面がある。

磨石 平面形が円形もしくは楕円形を呈する円礫（亜円礫）で、磨面があり、敲打痕の見られないものを磨石とした。13点が出土している。石材は164を除き、角閃石輝石安山岩、角閃石安山岩など安山岩系の礫である。159・169は平面形が円形で表裏に磨面をもつ。166は扁平な小円礫で、表裏に磨面をもつ。147・152・167は偏球状の小円礫で、磨滅面をもつ。154は楕円形の円礫で、表裏に部分的に磨滅面をもつ。164は花崗岩で加熱によると見られる破碎を生じているが、表裏面及び側面に平坦な磨面をもつ。他に片面のみにわずかに磨滅する面をもつもの（498）、大型の偏球状で弱い磨滅が認められるもの（483）があるが、図示していない。

凹石 3点が出土している。176は輝石安山岩で、表裏に窪みが有り、側面につぶれが見られる。177は角閃石安山岩で、表裏面に小さく浅い窪みが認められる。側縁に部分的に敲打による「つぶれ」があり、表裏面とも、磨滅を認める。178は角閃石輝石安山岩で、表面に浅い窪みと、敲打による「つぶれ」があり、側面にも「つぶれ」が見られる。

ストーン・リタッチャー 143は凝灰質シルト岩の扁平な礫で、側縁から面上にかけて「つぶれ」や嚙られた様なキズ、線状のキズが見られる。剥片石器の二次加工に利用されたストーン・リタッチャーと思われる。他に1点が出土している（476）。（注5）

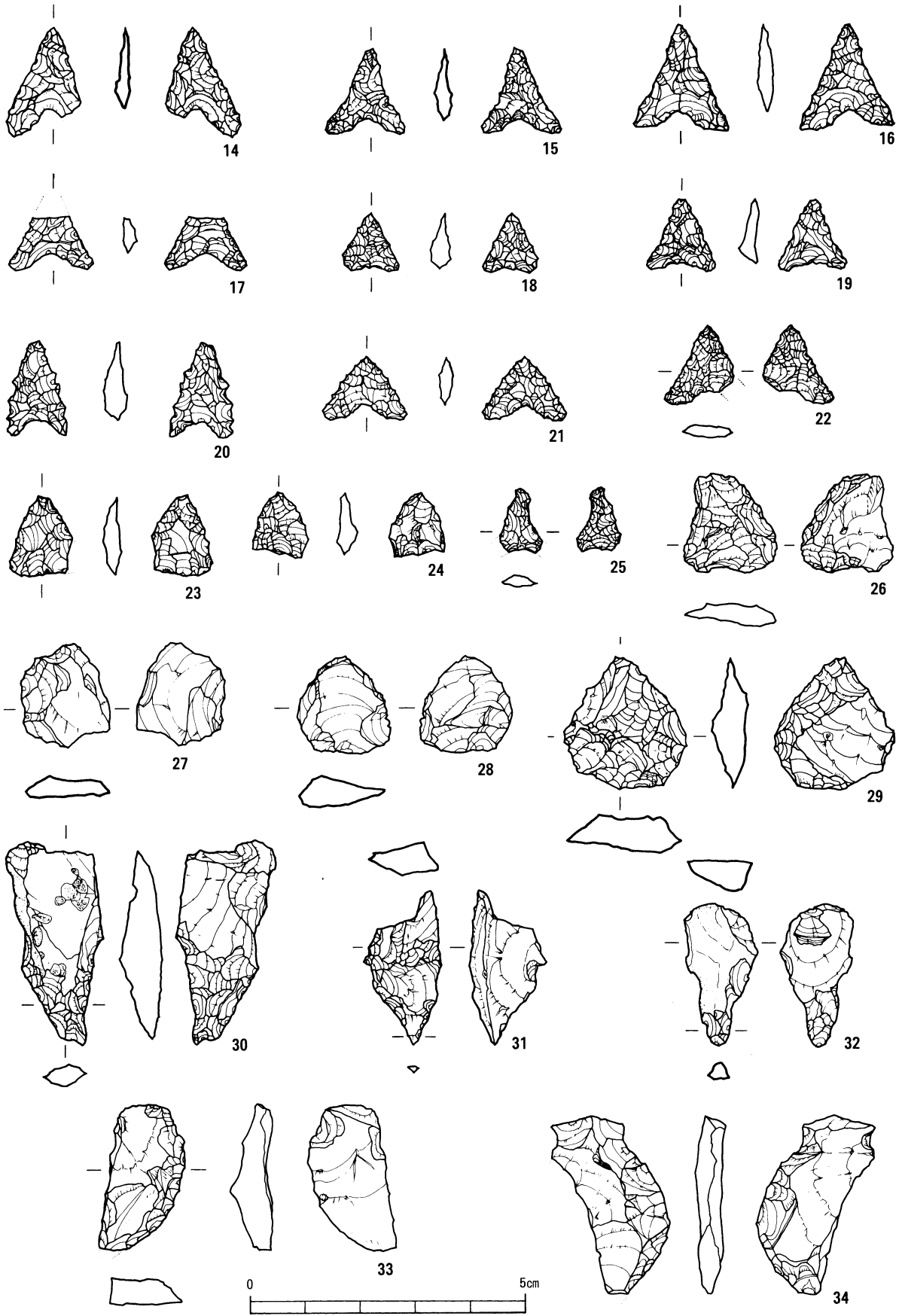
その他 その他に磨石・敲打石類に分類される資料であるが、欠損により細分できない資料が2点出土している（168・482）。

⑬砥石類（磨面等の見られる礫・剥片）（第83図179・180 第84図 181～184）

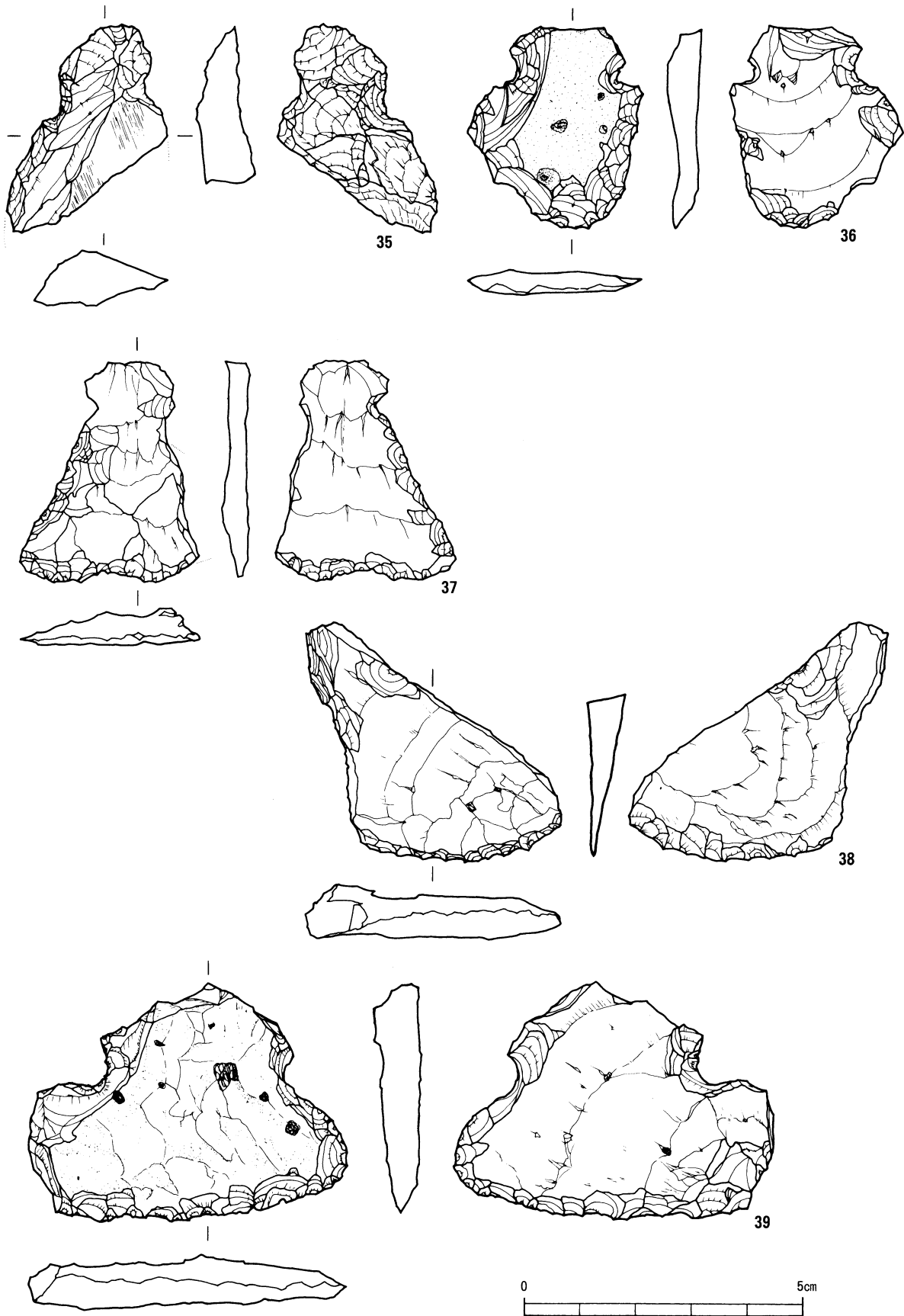
磨面等の見られる礫・礫片・剥片等を一括した。出土した10点中、6点を図示した。179は砂岩で、片面に磨面があり、面上に引き掻いたようなキズがみられる。180はホルンフェルスの方形の礫で、磨り面とは異なるが、表裏面が平滑化している。181はホルンフェルスの扁平な円礫で、表裏面に粗い擦痕状のキズが見られ、磨滅している。182は輝石安山岩、183は砂岩の扁平な礫片で磨面が認められる。184は砂岩の礫片で破碎した礫の一部と思われるが、磨面と敲打によるつぶれが見られる。

⑭石皿（第84図 185・186 第85図187～190 第86図 190）

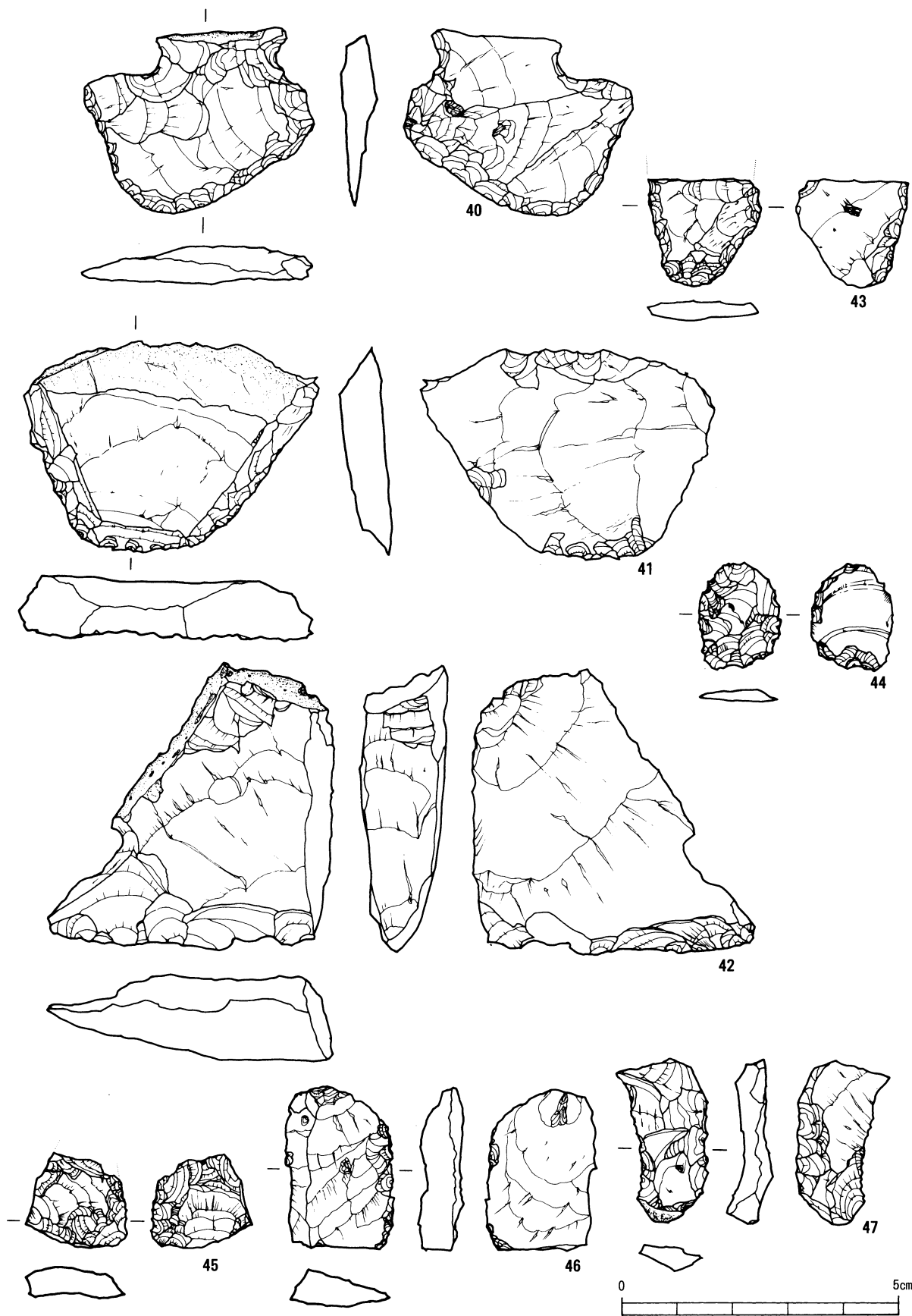
完形のもの2点、欠損品1点、破片5点が出土している。185は輝石安山岩で3分の2以上を欠失すると見られる。表裏とも磨滅するが、表面はわずかに磨り窪んでいる。186・188は両面に磨滅を認める扁平な礫片で、石皿の破片である可能性がある。187はホルンフェルスの扁平な礫片で磨滅は認められないが、面上がやや平滑化した感じをうける。189は角閃石輝石安山岩で、表裏に磨滅が認められ、やや摺窪んだ部分に煤状の炭化物が円形に付着している。図示した以外の側面にも煤状の付着物が見られる。190は輝石安山岩で、表裏面とも磨り窪んでいる。



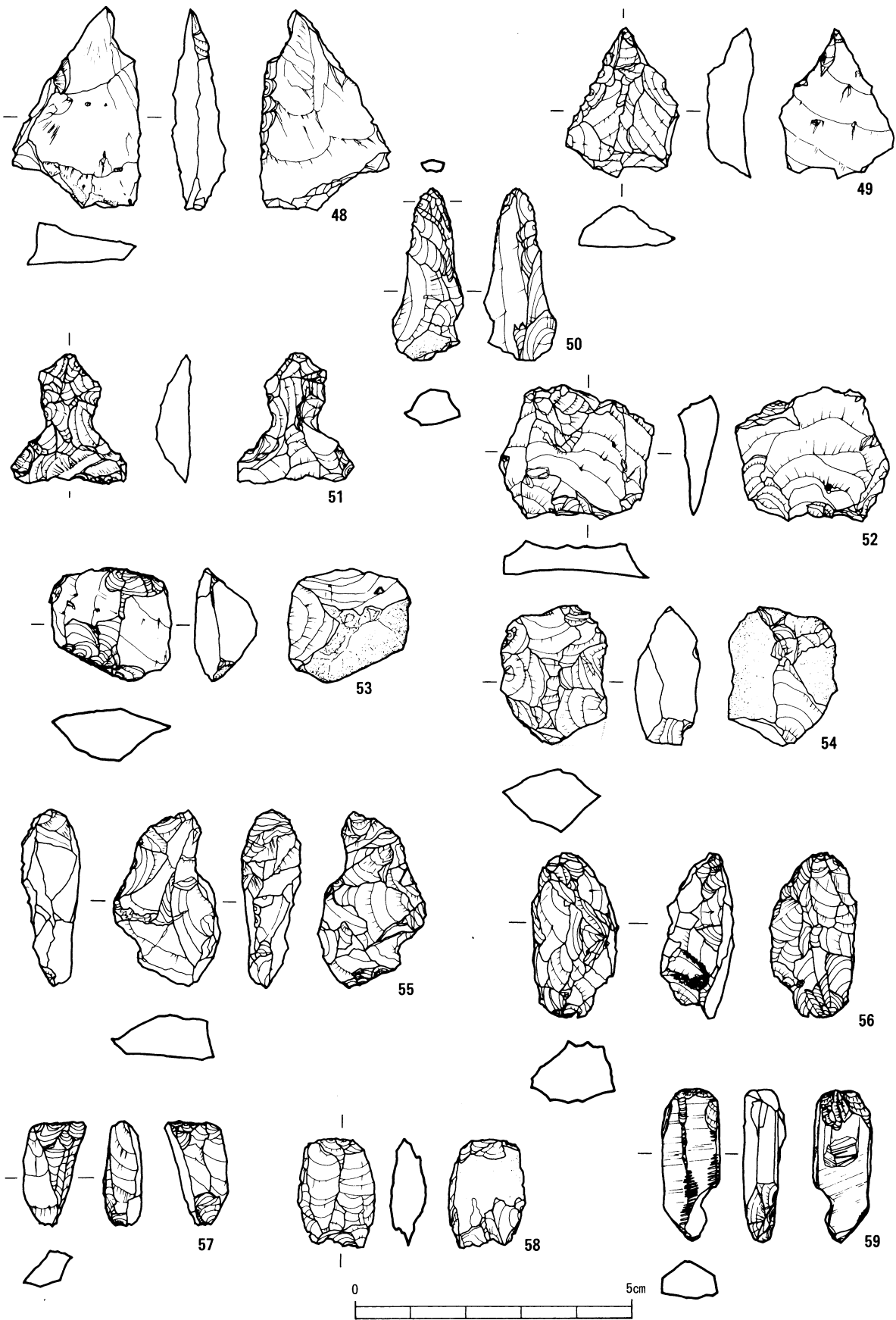
第66图 V層出土石器(1)



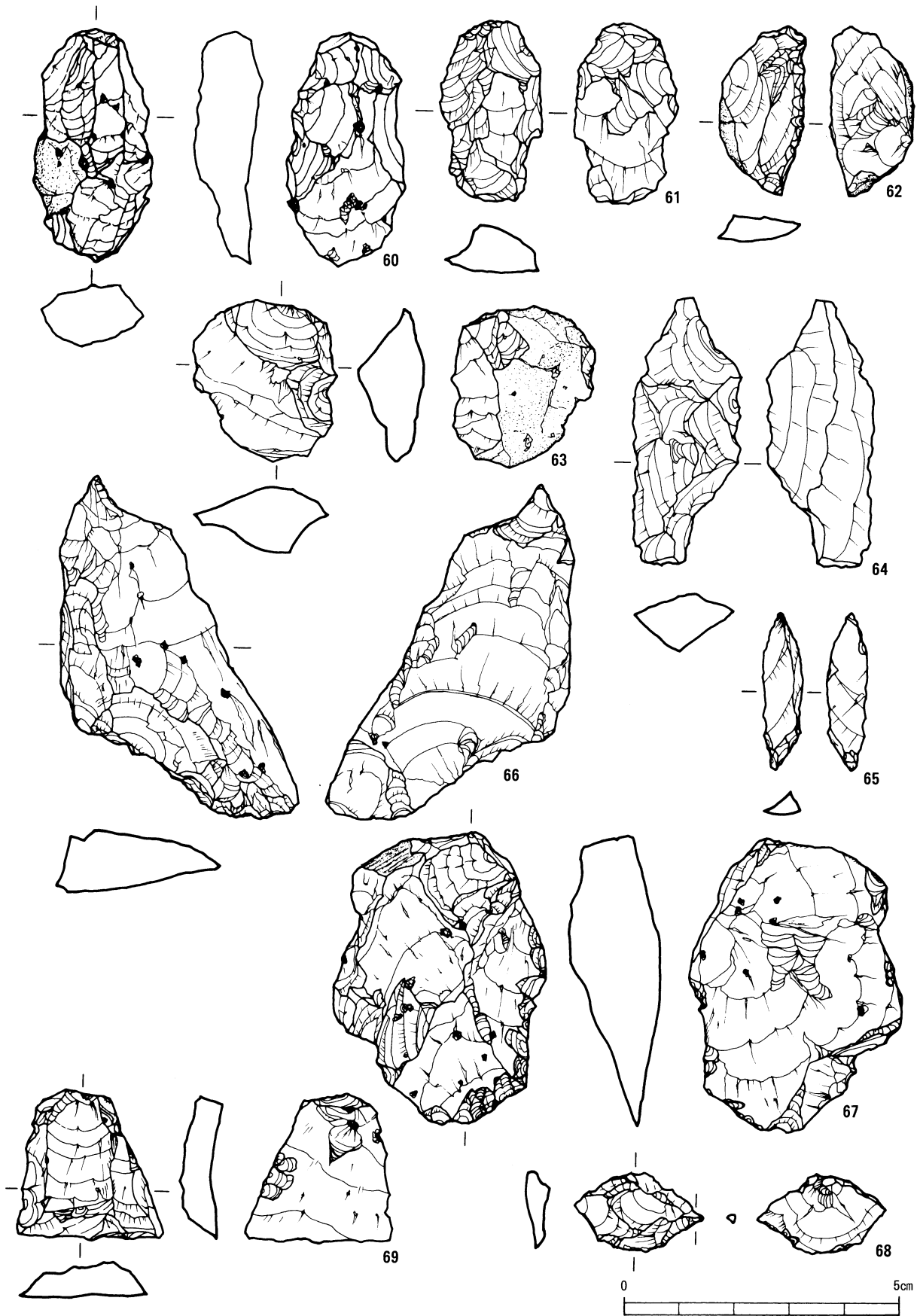
第67图 V層出土石器(2)



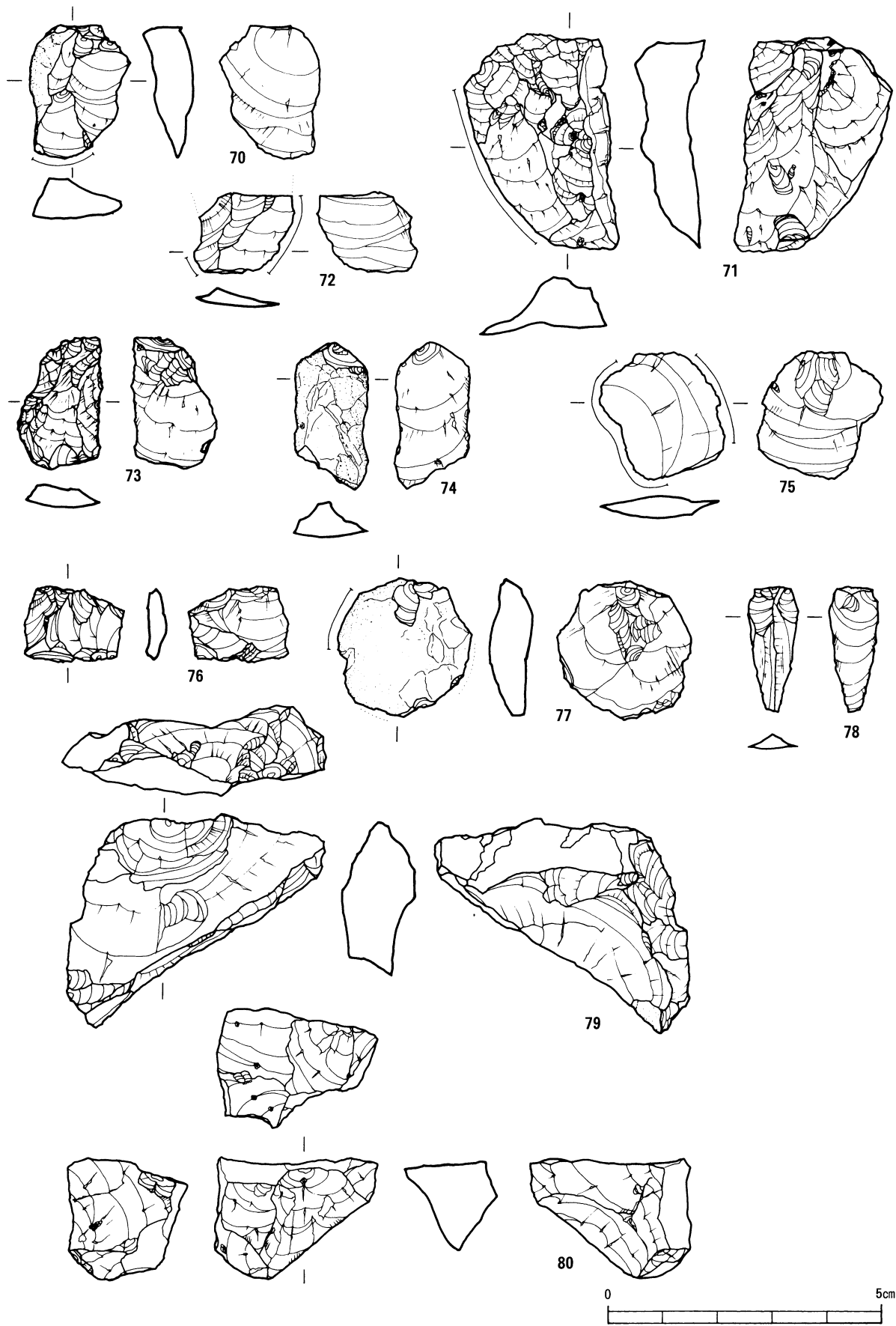
第68图 V層出土石器(3)



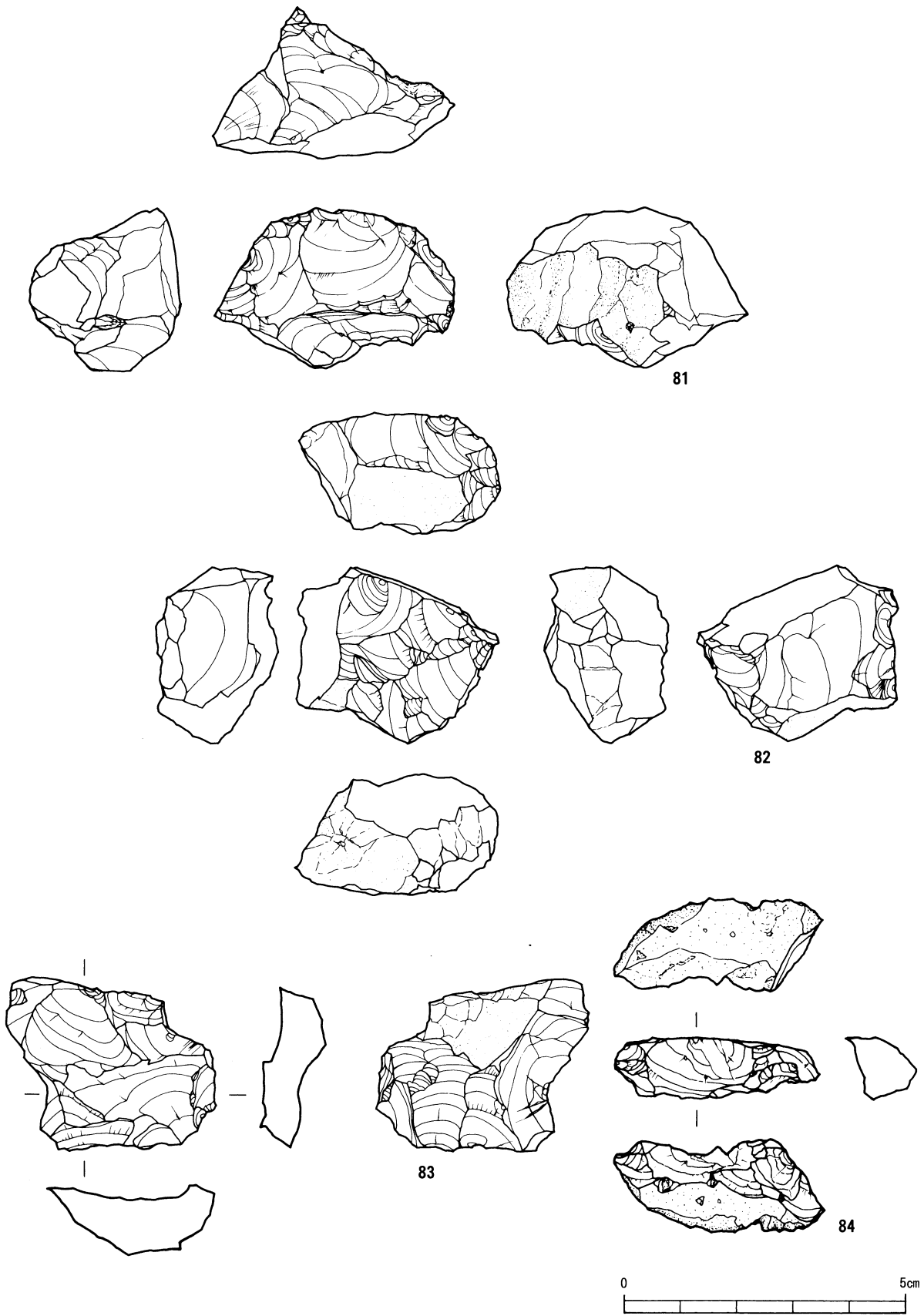
第69图 V層出土石器(4)



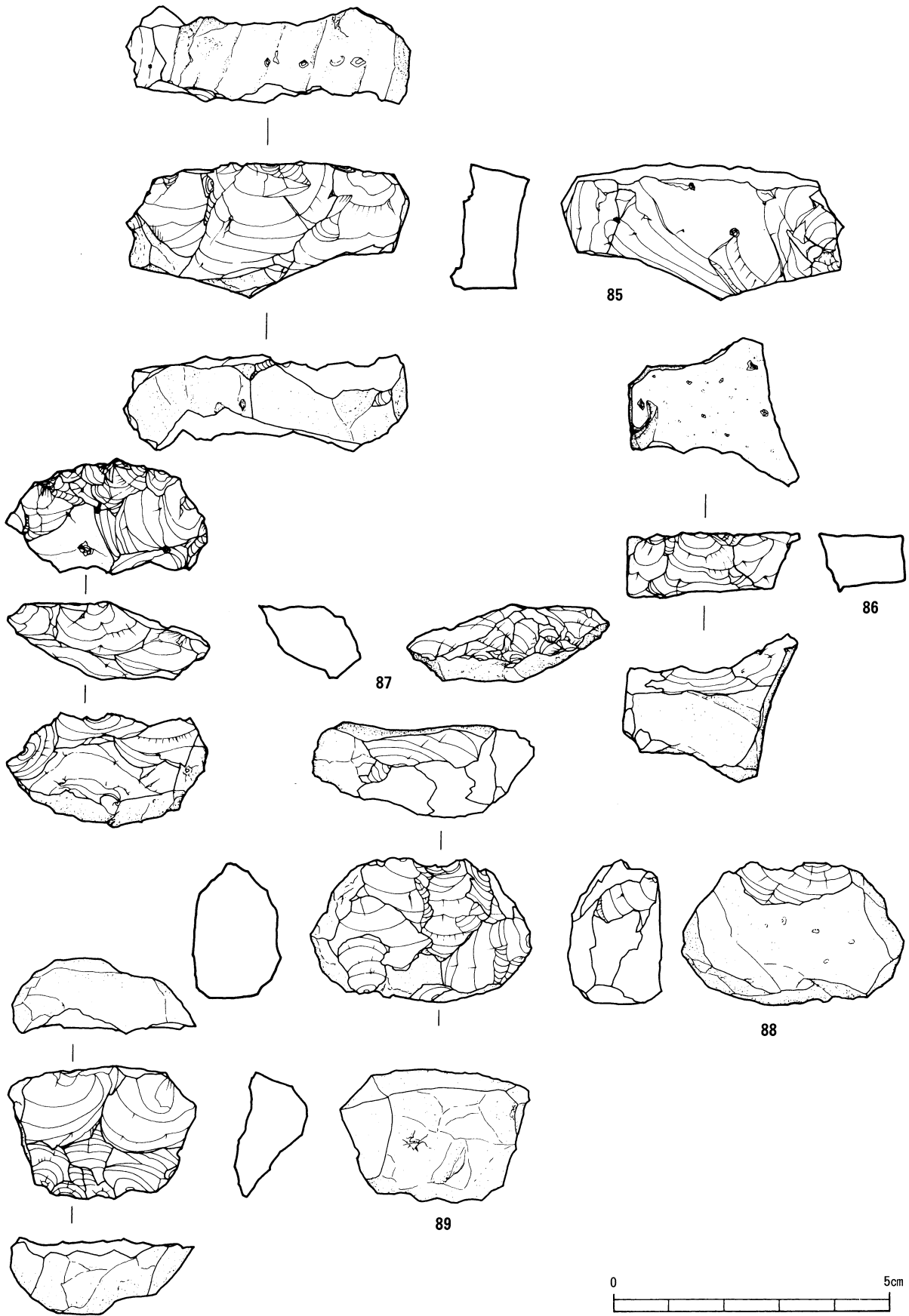
第70图 V層出土石器(5)



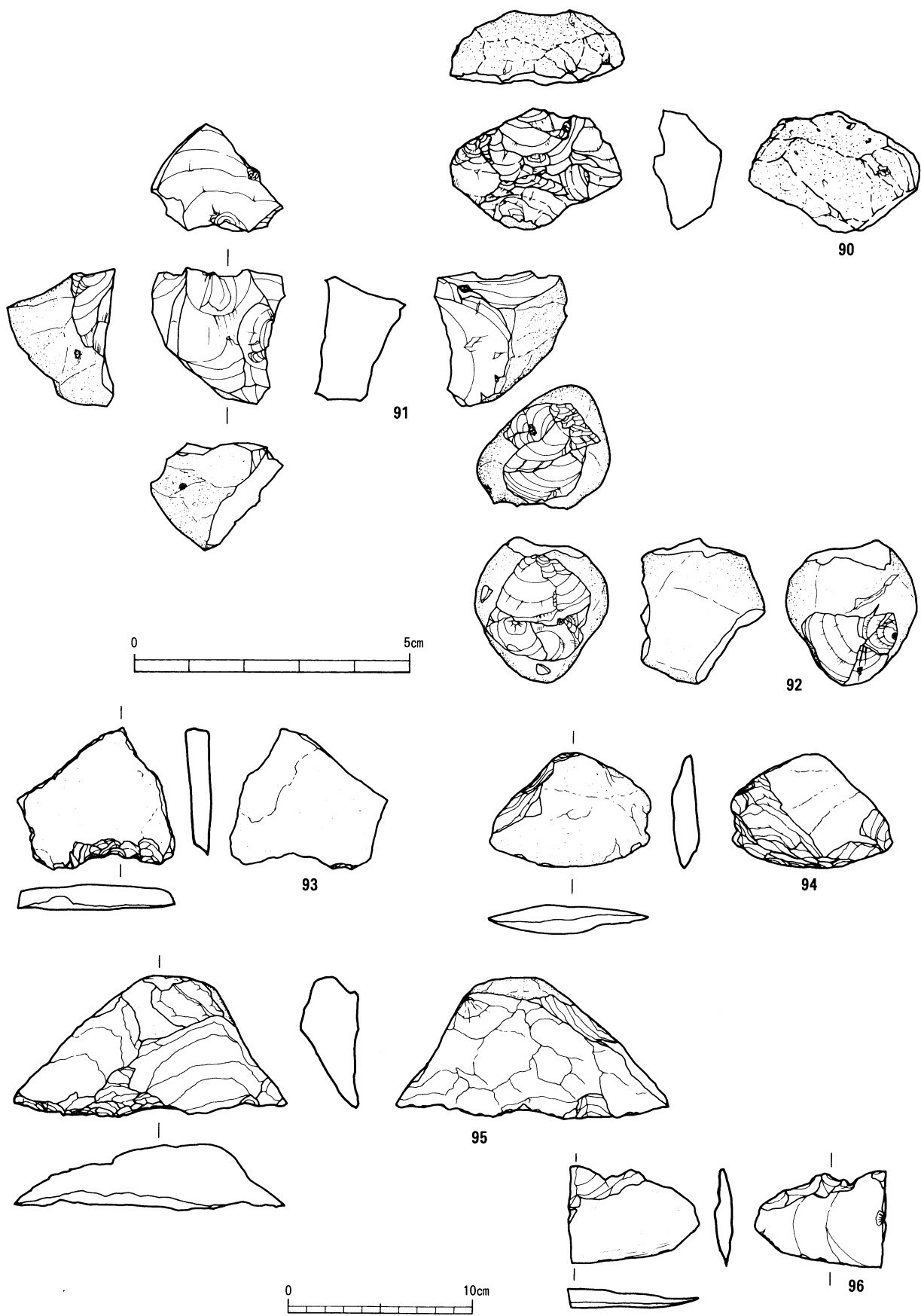
第71图 V層出土石器(6)



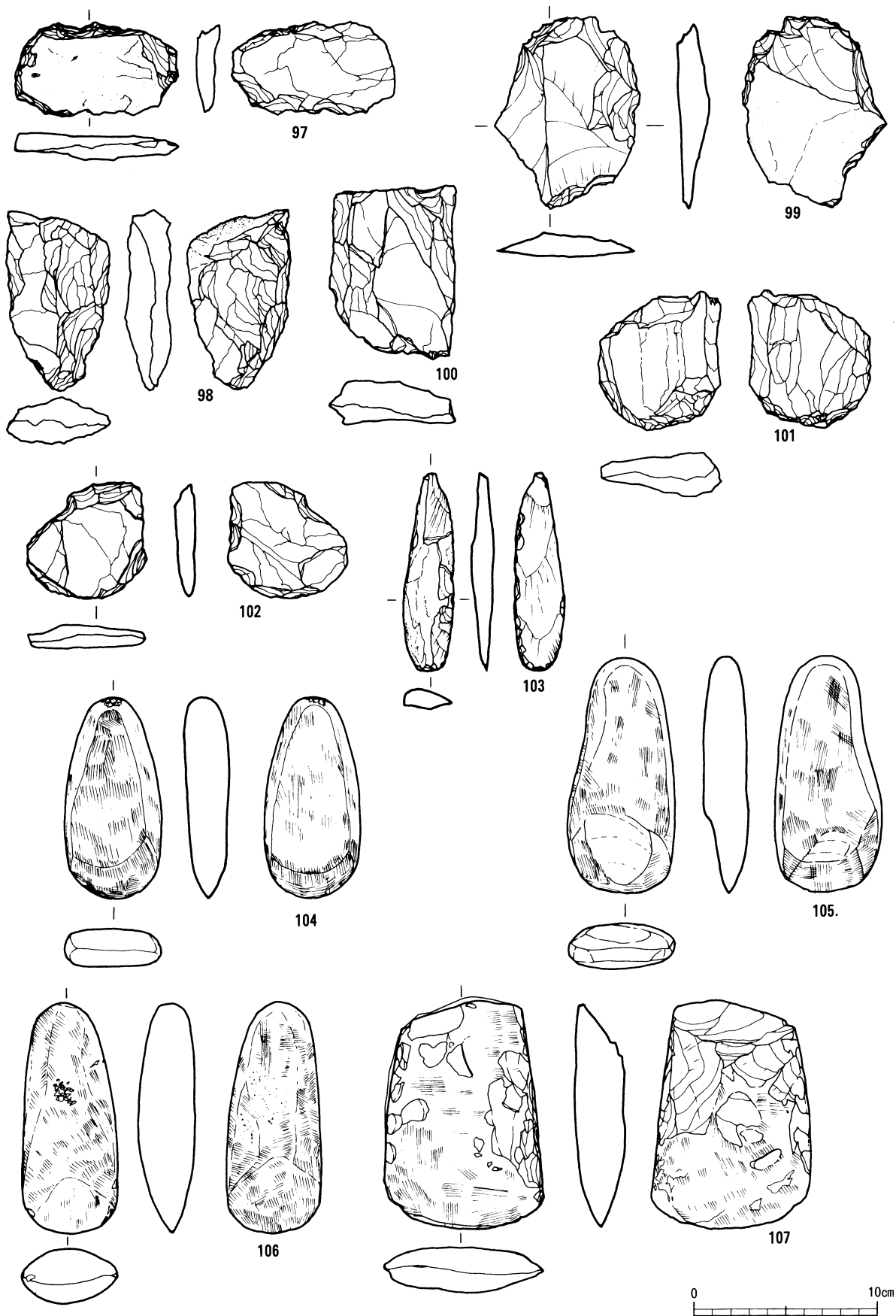
第72図 V層出土石器(7)



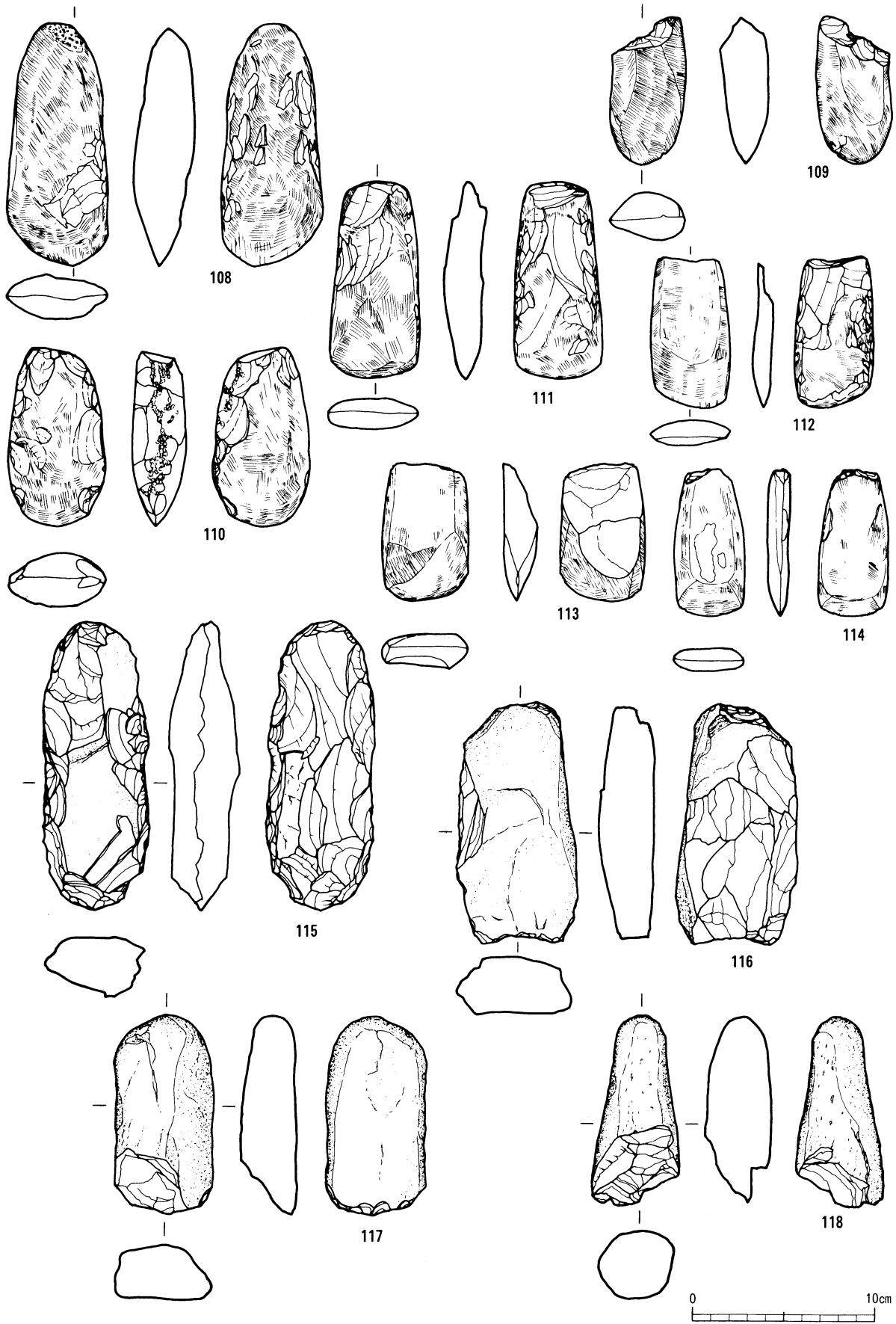
第73图 V層出土石器(8)



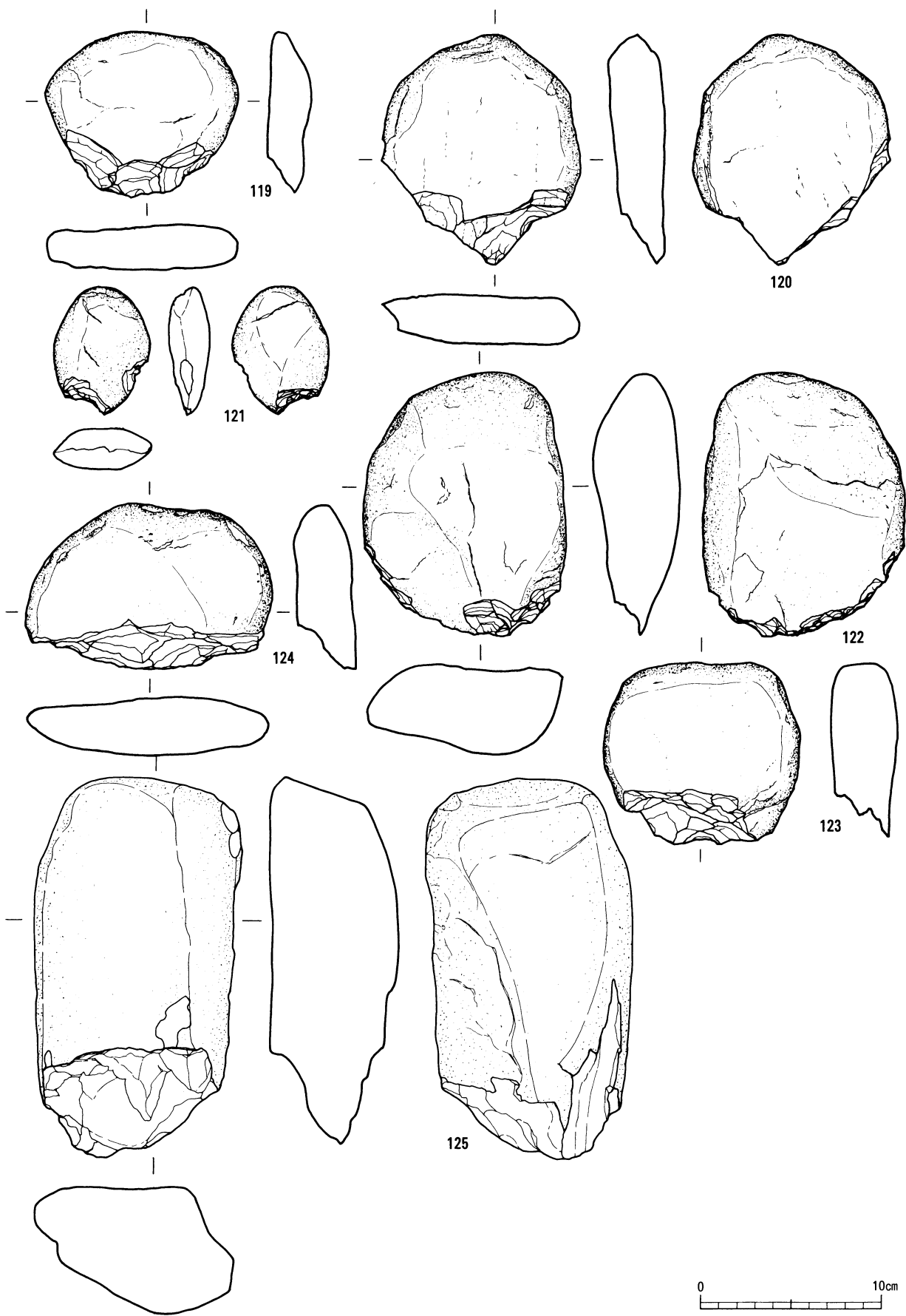
第74图 V層出土石器(9)



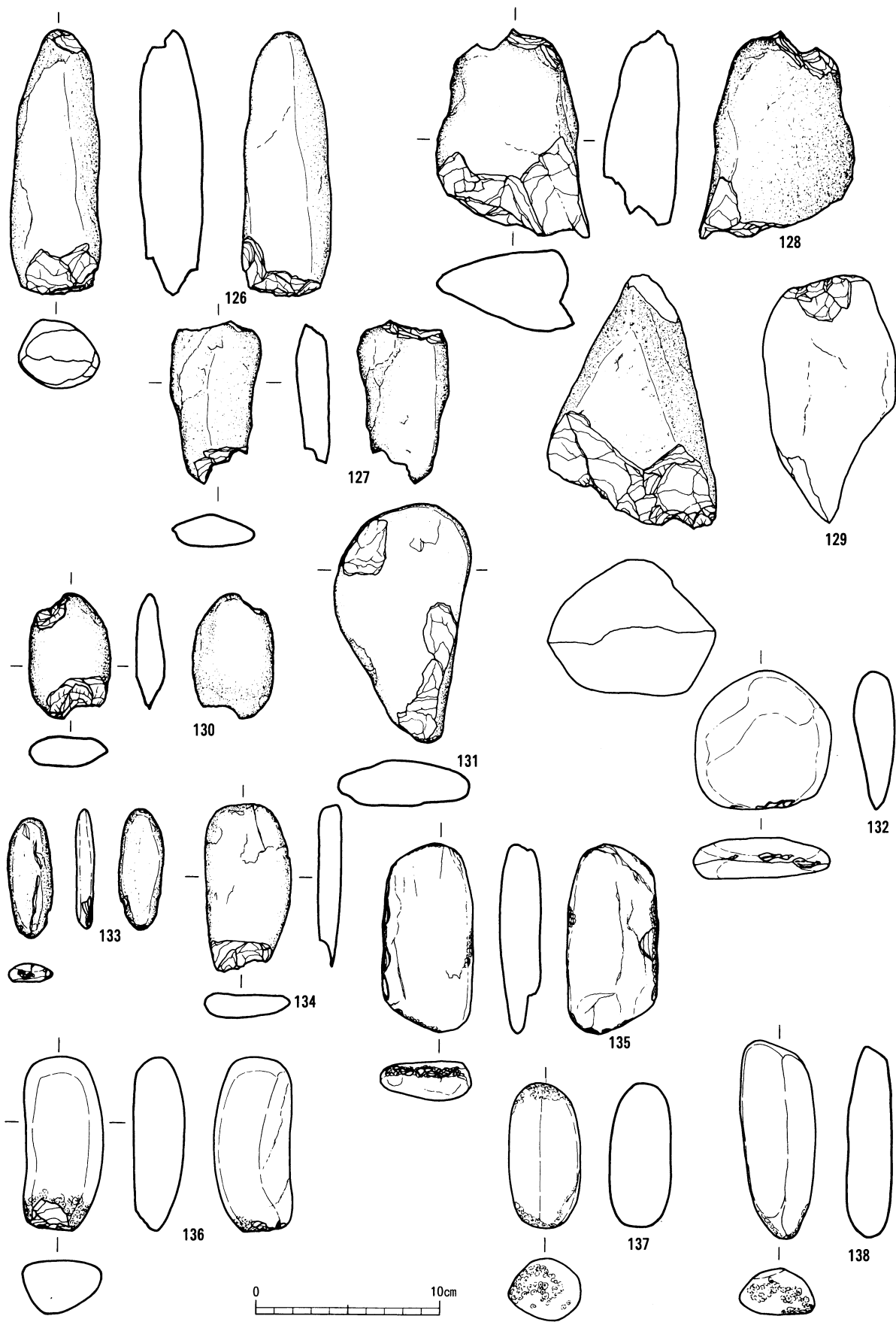
第75图 V層出土石器 (10)



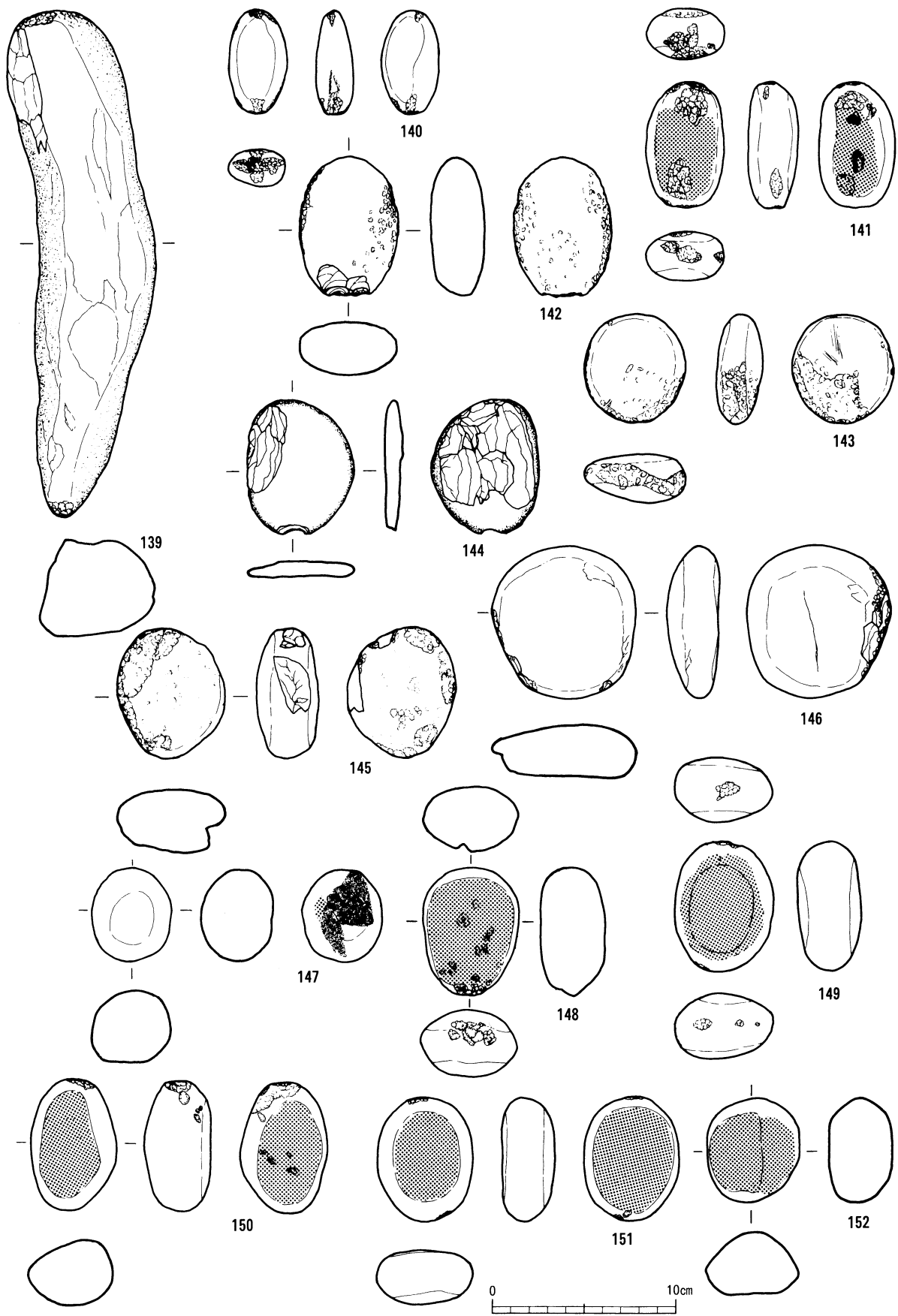
第76图 V層出土石器(11)



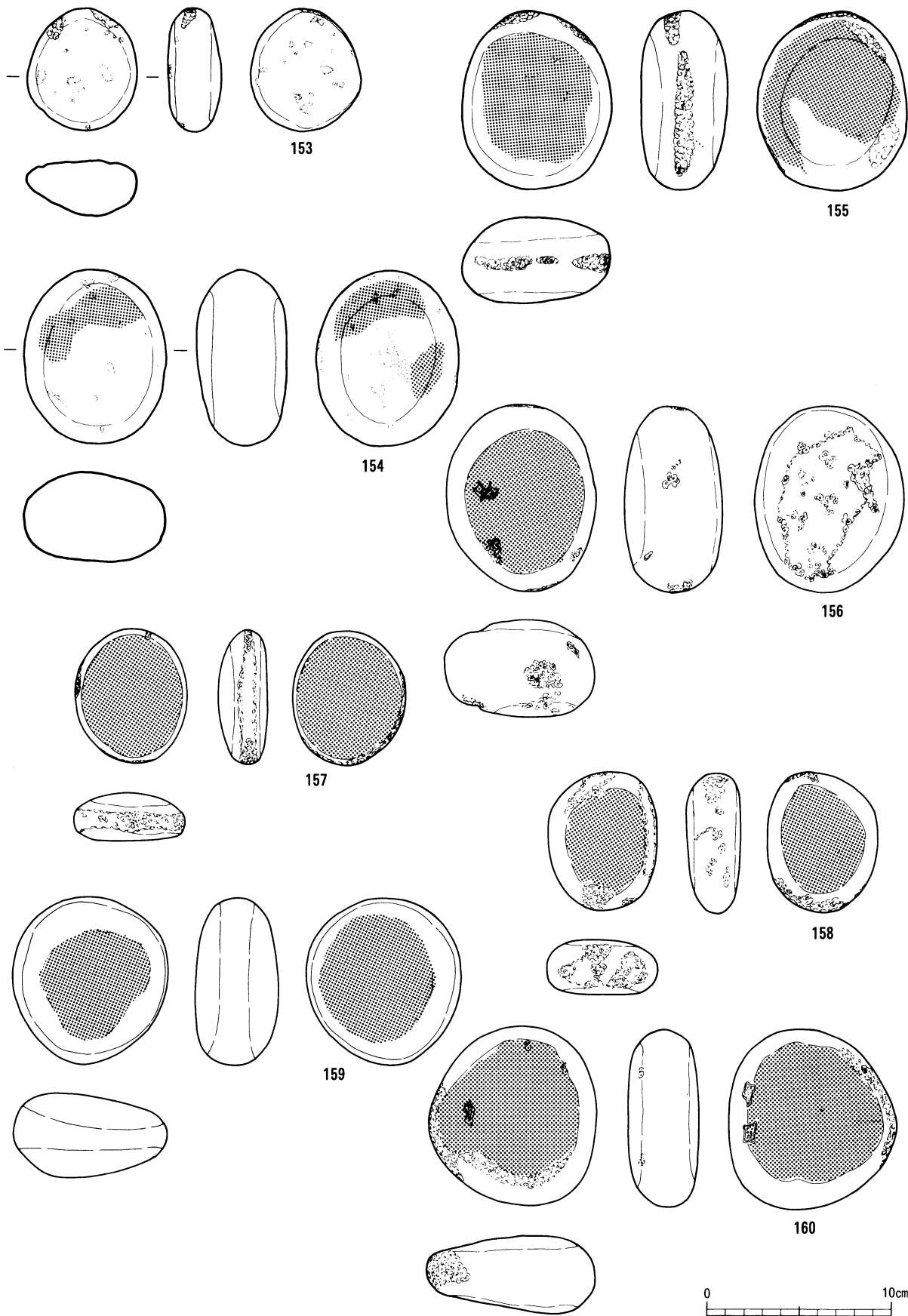
第77图 V層出土石器 (12)



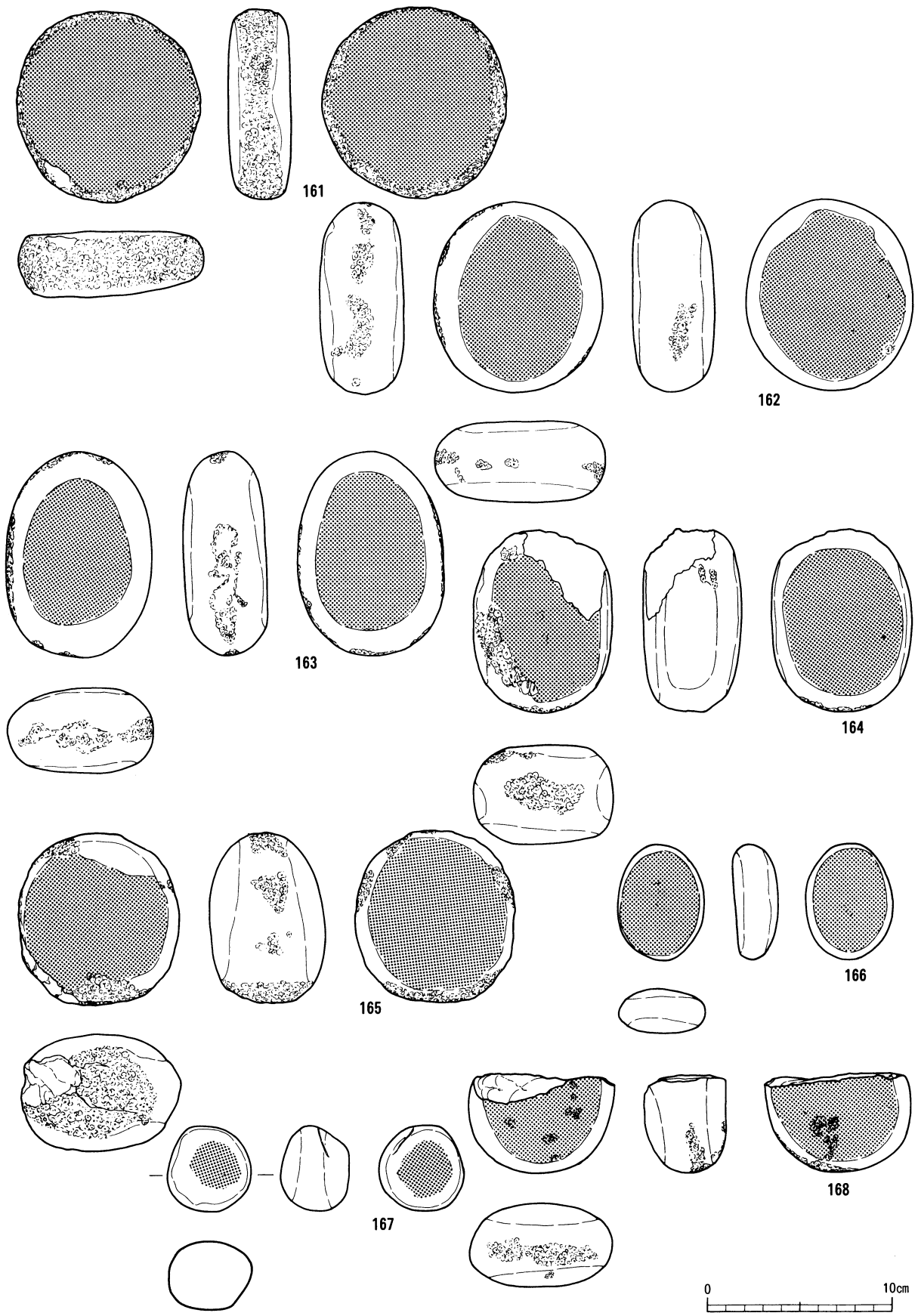
第78图 V層出土石器 (13)



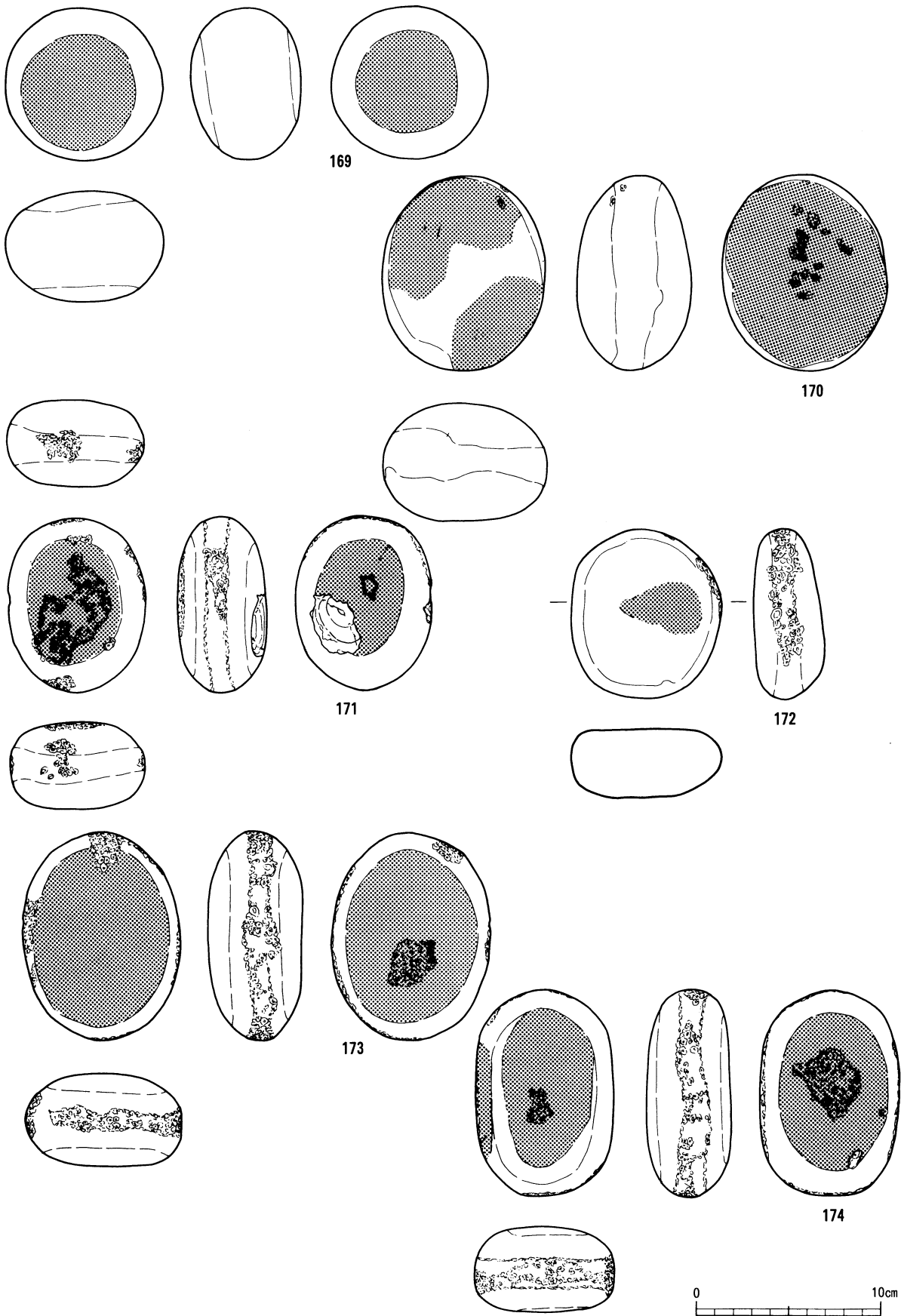
第79图 V層出土石器(14)



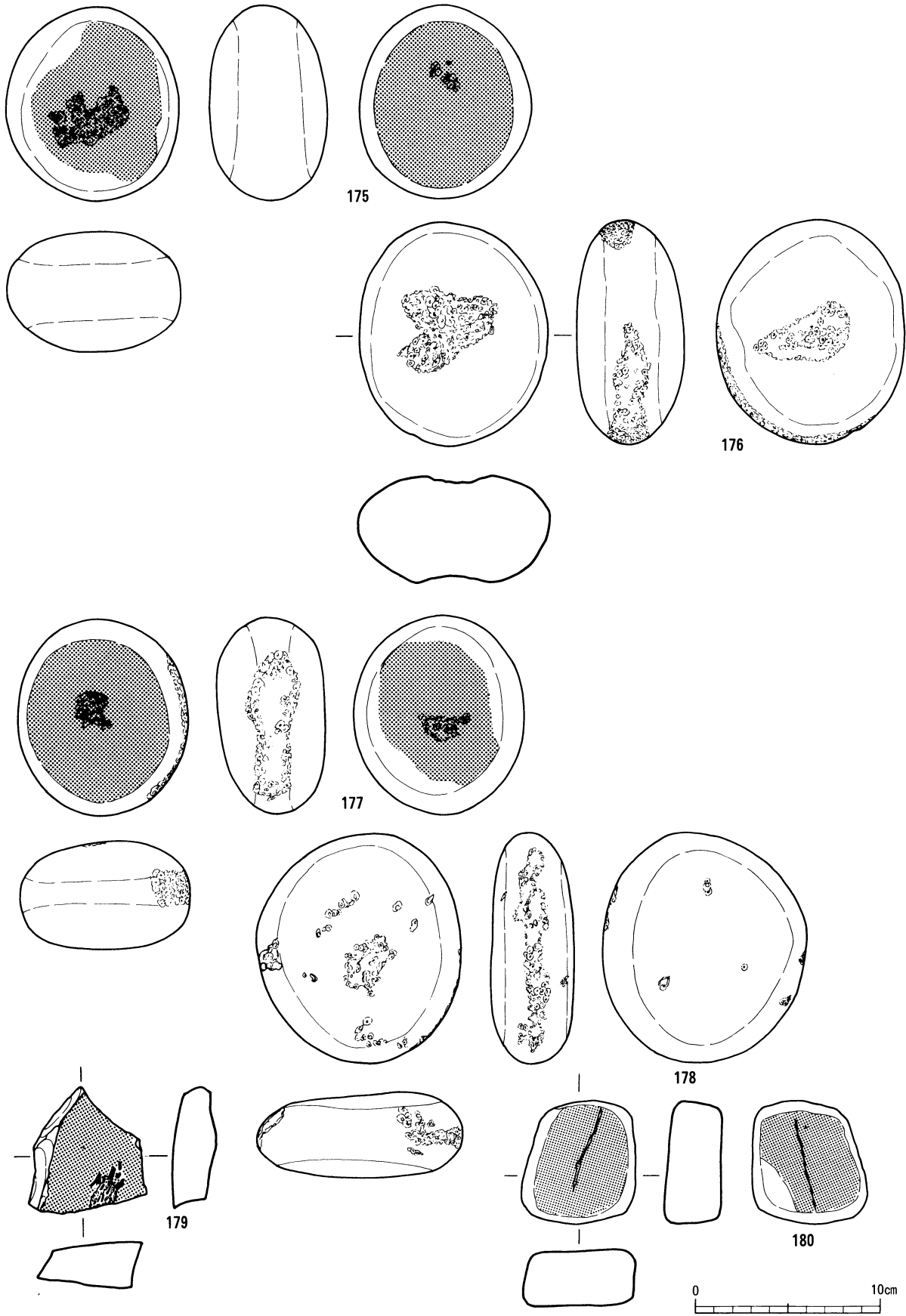
第80图 V層出土石器(15)



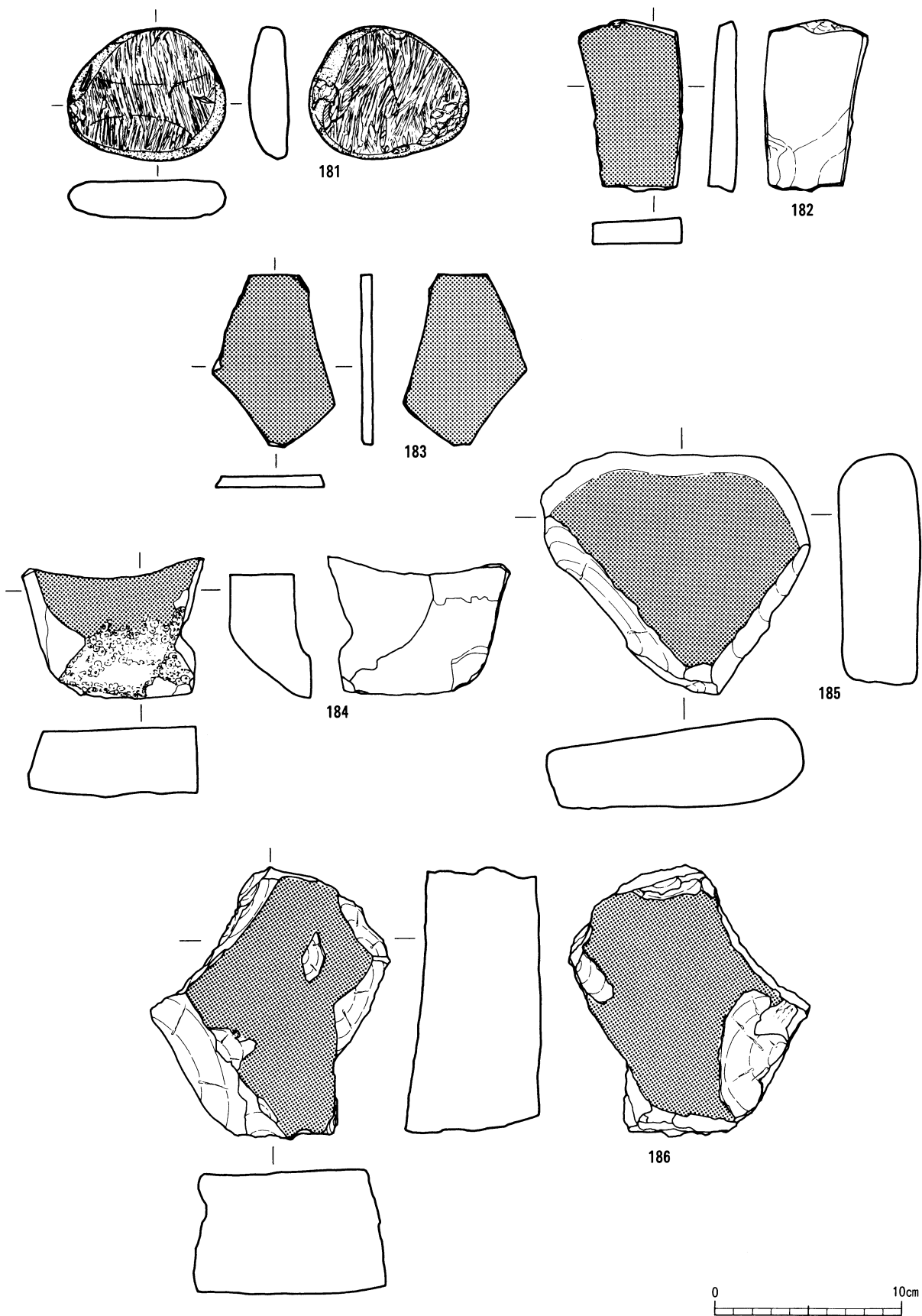
第81图 V層出土石器 (16)



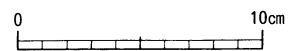
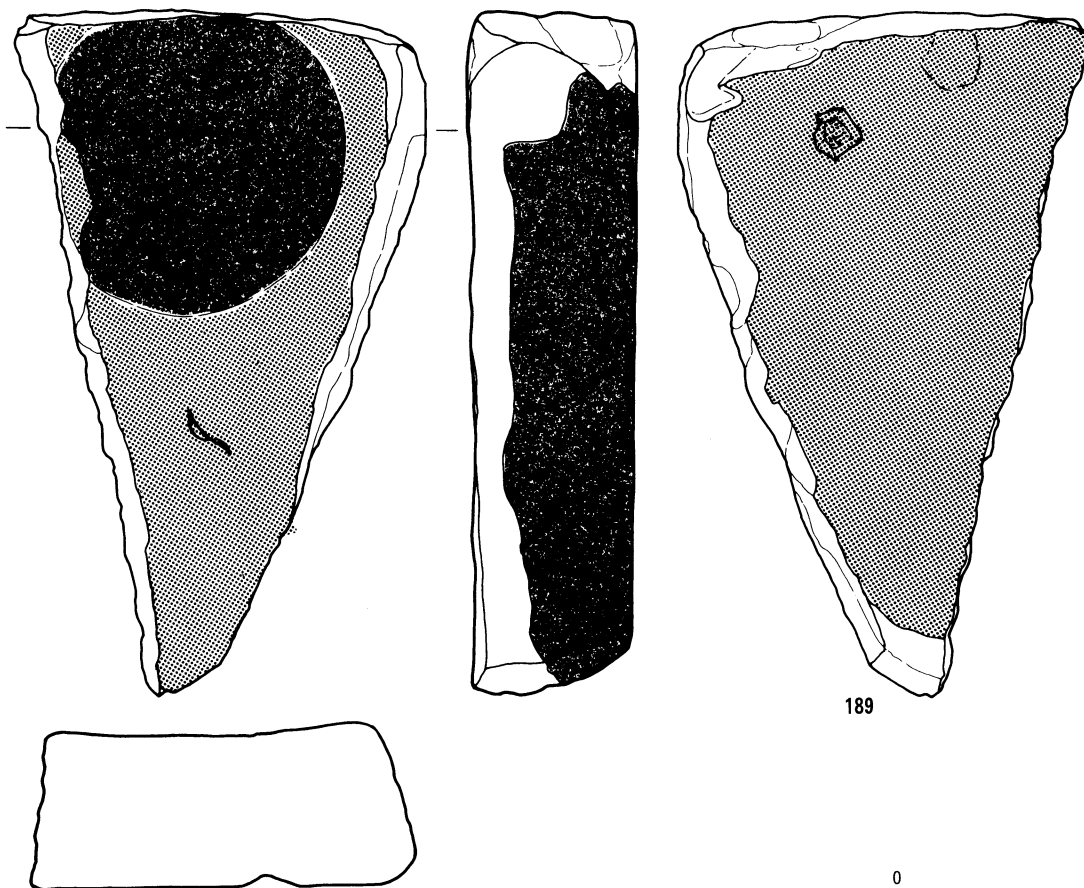
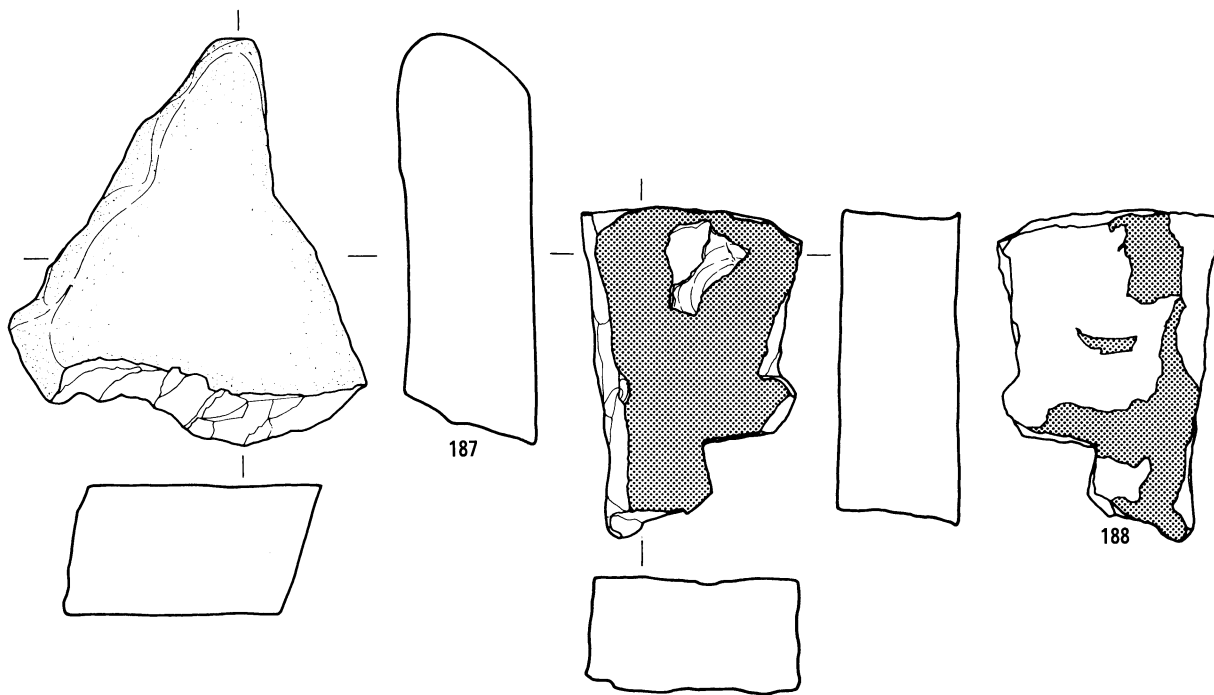
第82図 V層出土石器 (17)



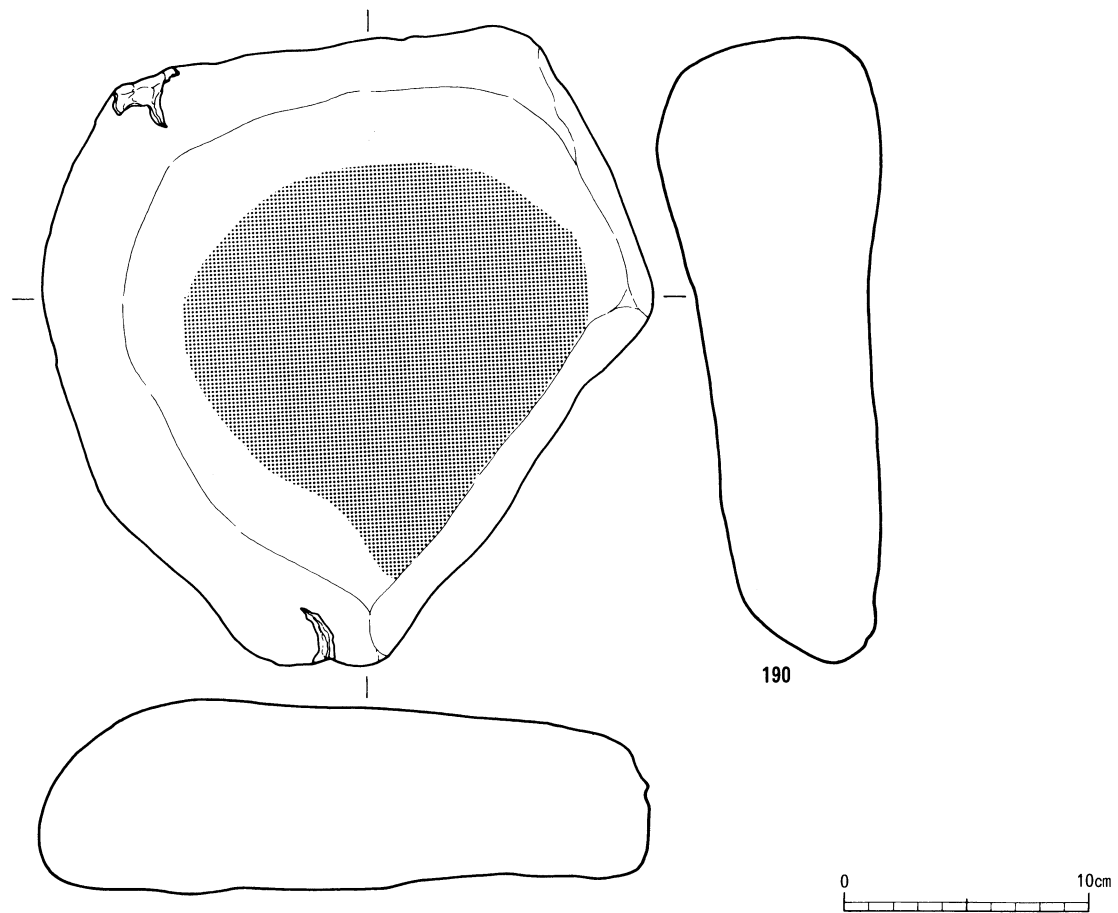
第83图 V層出土石器(18)



第84図 V層出土石器(19)



第85図 V層出土石器 (20)



第86図 V層出土石器(21)

第3節 IV層出土石器

IV層出土の石器は、石鏃及び石鏃未製品、石錐、石匙、スクレイパー(1)、ピエス・エスキーユ(破片を含む)、加工痕のある剥片・使用痕のある剥片、石核(1)、スクレイパー(2)、磨製石斧(破片含む)、礫器、磨石・敲石類、砥石類、石皿(破片を含む)、石核(2)、線刻礫がある。また、石器の製作・使用に関係する資料として、石核原石(1)8点、フレーク(1)174点、碎片・裂片(1)468点、剥片(2)83点、碎片・裂片等(2)108点の出土があり、総計1,108点の出土遺物があった。

遺物はA-10・11, B-10～12区に多く出土しているが、濃密な集中箇所は見られない。

①石鏃及び石鏃未製品(第89図 191～198)

石鏃18点、未製品と考えられる加工痕を有する剥片4点が出土している。191は透明度の低い暗灰色の良質な黒曜石で背面に自然面を有する剥片を逆位に使用する。やや縦長で、両側縁が外湾気味となる形状で、U字形の抉りが入る。鋏形鏃とした。同形の石鏃は他に2点出土している(491・492)。192は透明感の無い黒褐色の黒曜石で、先端部を欠損するが、長身の二等辺三角形を呈する凹基鏃で、直線的な側縁は鋸歯状に加工される。他に同類のものが1点出土している(492)。193は瑪瑙製で、細身で、側縁はやや外湾し、深い抉りが入り、「返し」が鋭くとがる。丁寧な加工で薄身に仕上げられており、先端部も鋭く尖る。194は黒灰色の透明度の高い黒曜石を素材とし、側縁はやや内湾気味で、両脚端からやや内側に寄った位置に半円状の小さな抉りが入る。195は透明

度の低い黒灰色の黒曜石。やや縦に長い三角鏃で、両脚端から内湾する挟りが入る。表裏とも縁辺のみの調整で、古い剥離面が残る。196は透明度の灰黒色の黒曜石製の小型の三角鏃である。挟りは両脚端からやや内寄りに半円状に小さくはいる。側縁は鋸歯状に加工される。他に鋸歯縁でない同型のものが1点出土している(493)。197は透明感の無い灰黒色の黒曜石で、幅の広い三角形を呈し、浅い挟りが入る。他に類似する資料が1点出土している(495)。198は灰黒色の黒曜石で、平基の小型三角鏃である。他に1点の同形と見られる欠損品がある(496)。

②尖頭器状石器(第89図 199)

灰黒色の不純物の多い黒曜石で、背面は左寄りに稜線が走り、右側縁に覆面方向からの剥離を行った後、腹面の左辺、右辺の順に背面方向から剥離調整を施す。1点のみの出土である。

③石錐(第89図 200・201)

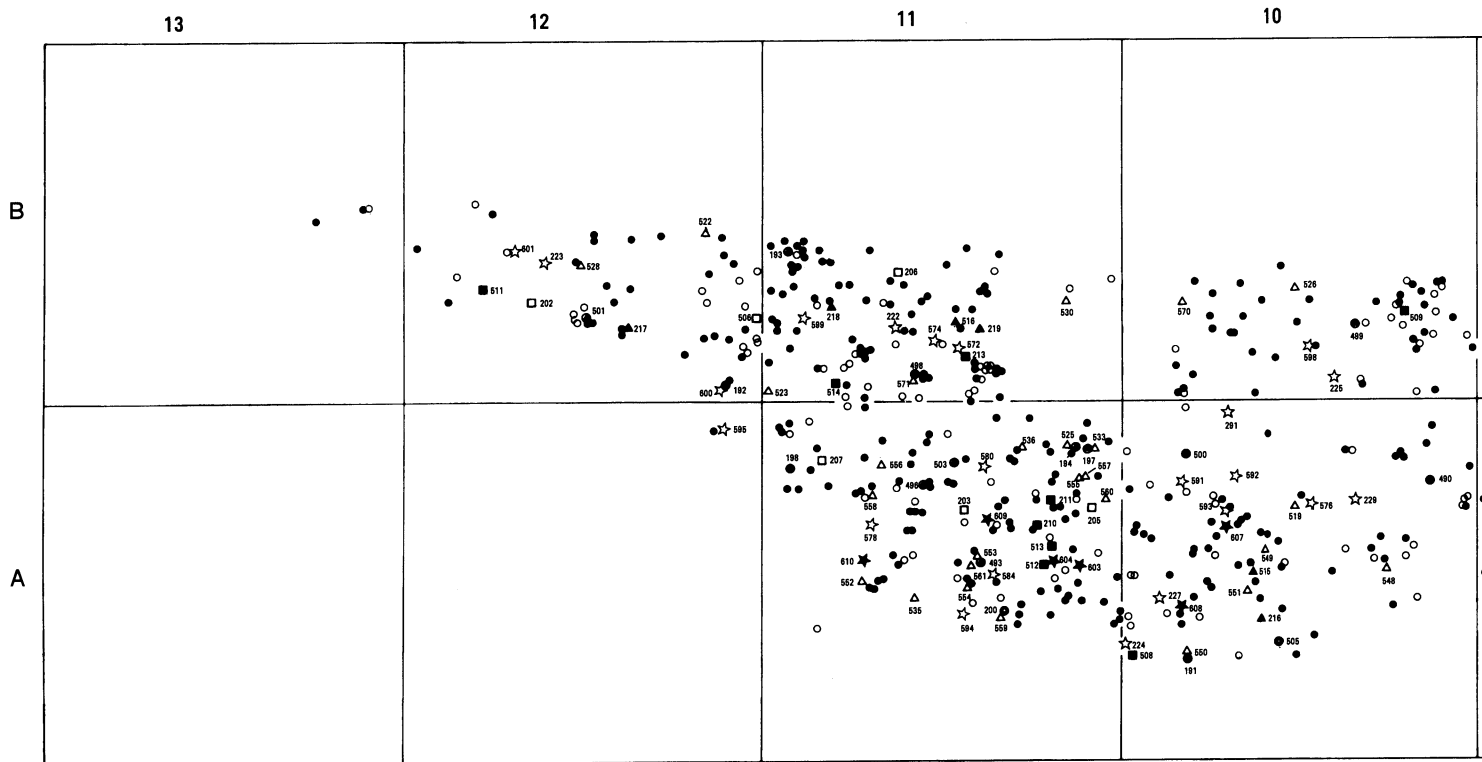
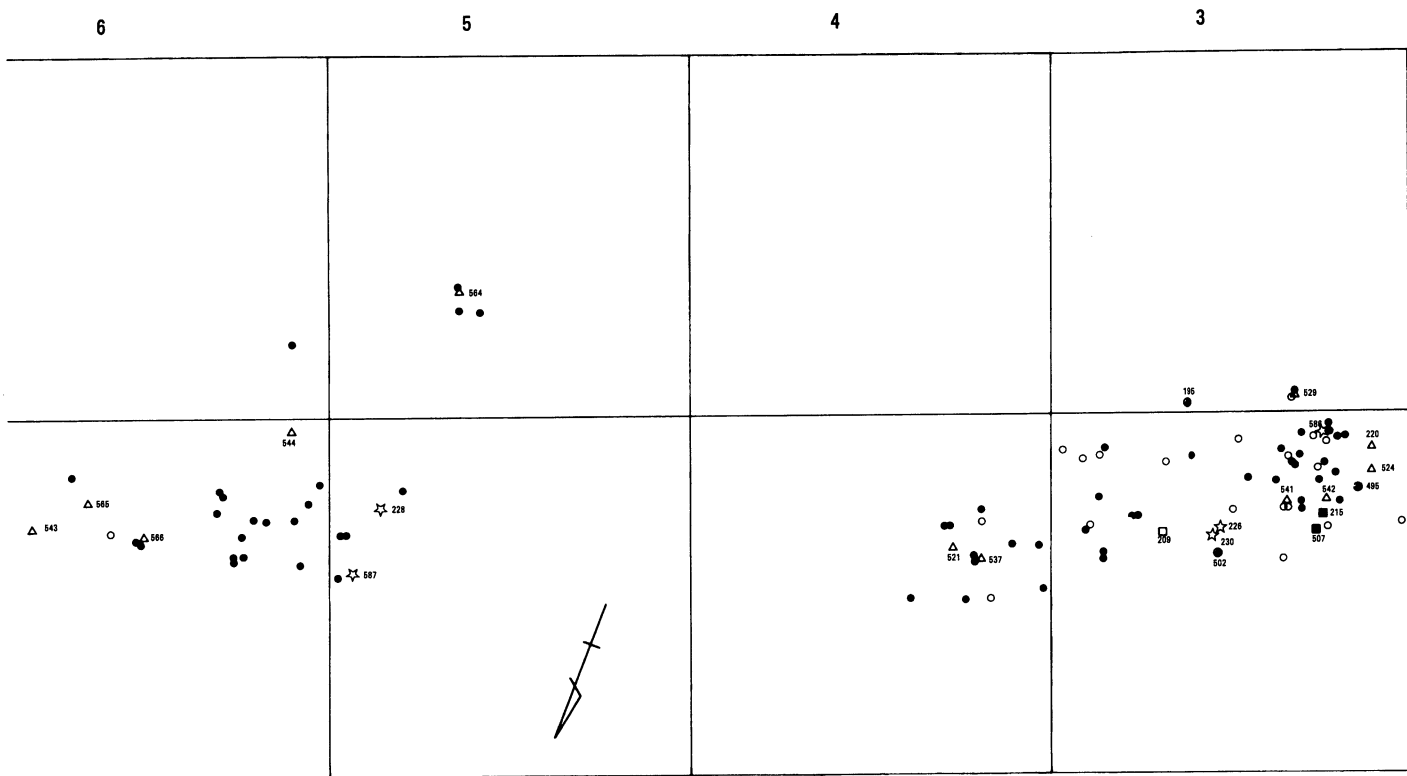
4点が出土している。200は不透明黒色の黒曜石で、頭部は部分的な調整により丸味をもち、頭部から錐部へはなだらかに移行する。錐部は背面左側縁及び背面の左右側縁の3面の剥離調整が行われ、断面形は扁平につぶれた五角形である。錐部に磨耗が見られる。201は透明感のある灰黒色の黒曜石でやや不純物を含む。逆三角形に近い形状で、頭部から錐部へなだらかに移行する。全面がよく調整されている。錐部は左辺右辺とも両面から調整され、断面形は菱形となる。錐部は磨耗・磨滅している。

④石匙(第89図 202~205 第90図 206~209)

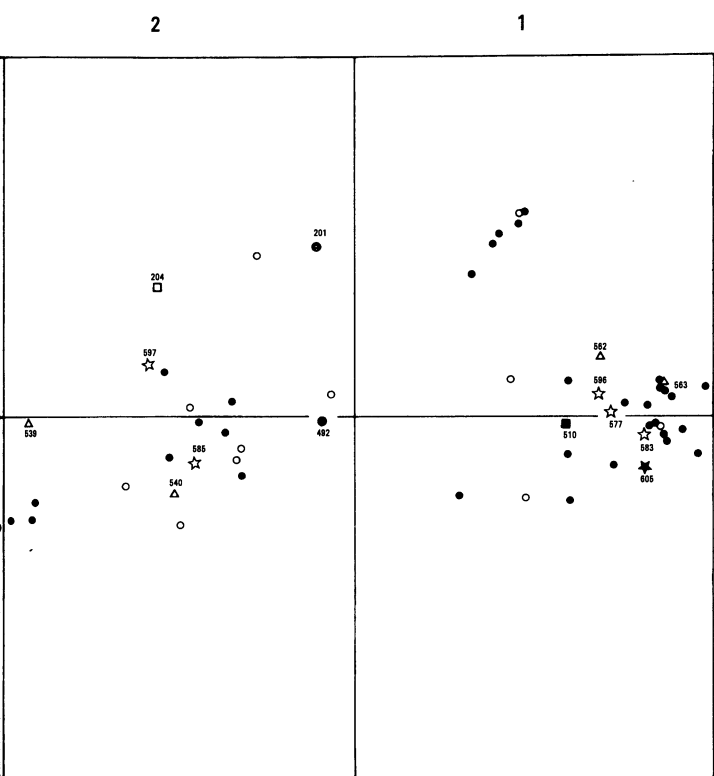
9点が出土した。202・203は縦型の石匙で、何れも縁辺のみに加工調整が行われている。202は蛋白石を素材とし、つまみ部は小さくやや丸味をもち、左右に表裏からの調整で挟りが入る。左下がりやや外湾する右側縁のみに片刃の刃部がある。203は蛋白石製で、左右の挟りは浅く、がっしりしたつまみ部をもつ。やや外湾する左右側辺に片刃の刃部を有するが、左辺は背面側から、右辺は裏面側から調整されている。204~209は横型の石匙である。石材は、204・205・207がチャート、206・208が黒曜石、209は頁岩である。204はつまみ部が小さく、身部は扁平な二等辺三角形で、底辺にわずかに外湾する両面調整の刃部をもち、加工調整は表裏全面に及ぶ。205・206は、つまみ部がやや左右にずれをもち、身部は凸レンズ形である。刃部はわずかに外湾する両刃で、加工はほぼ表裏全面に及ぶ。206は不純物の多い灰黒色の黒曜石である。207はつまみ部が左に大きく偏り、身部は不等辺の三角形である。底辺の刃部は両刃であるが、左右側辺は表裏違方向の片面調整である。表裏とも調整前の剥離面を残す。208はやや透明感のある灰黒色の黒曜石で、身部左側を欠損する。209は楕円形の身部をもち、刃部は両刃で外湾する。剥離調整は縁辺部のみに施され、表裏面とも調整前の剥離面を大きく残す。

⑤スクレイパー(1)(第90図 210・211 第91図 213~215)

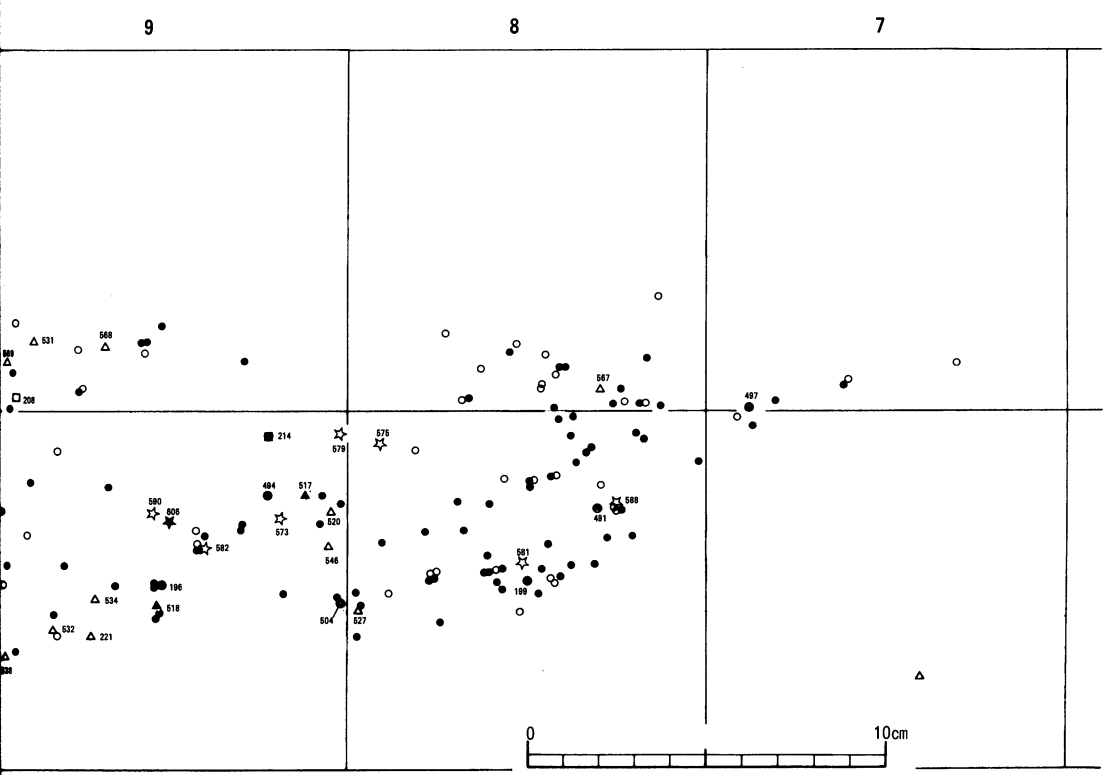
13点が出土している。210は不純物が多く、透明度の低い灰黒色の黒曜石の厚手の剥片で、腹面側から調整された片刃の刃部を有する。刃部には使用痕がみられる。211は不純物を多く含む透明度の低い灰黒色の黒曜石。厚手の剥片を素材とし、右辺に表裏から剥離を加え刃部としている。213は粘板岩の薄く扁平な剥片で、外湾する下縁に主に裏面からの調整により刃部をつくる。214は不透明黒色の黒曜石で、部位により表裏違方向から剥離調整され、図上端を除き、側縁に片刃の刃部をもち、4カ所で内湾する。215は良質な黒色の黒曜石で、腹面はバルブの膨らみをもつ。下辺の



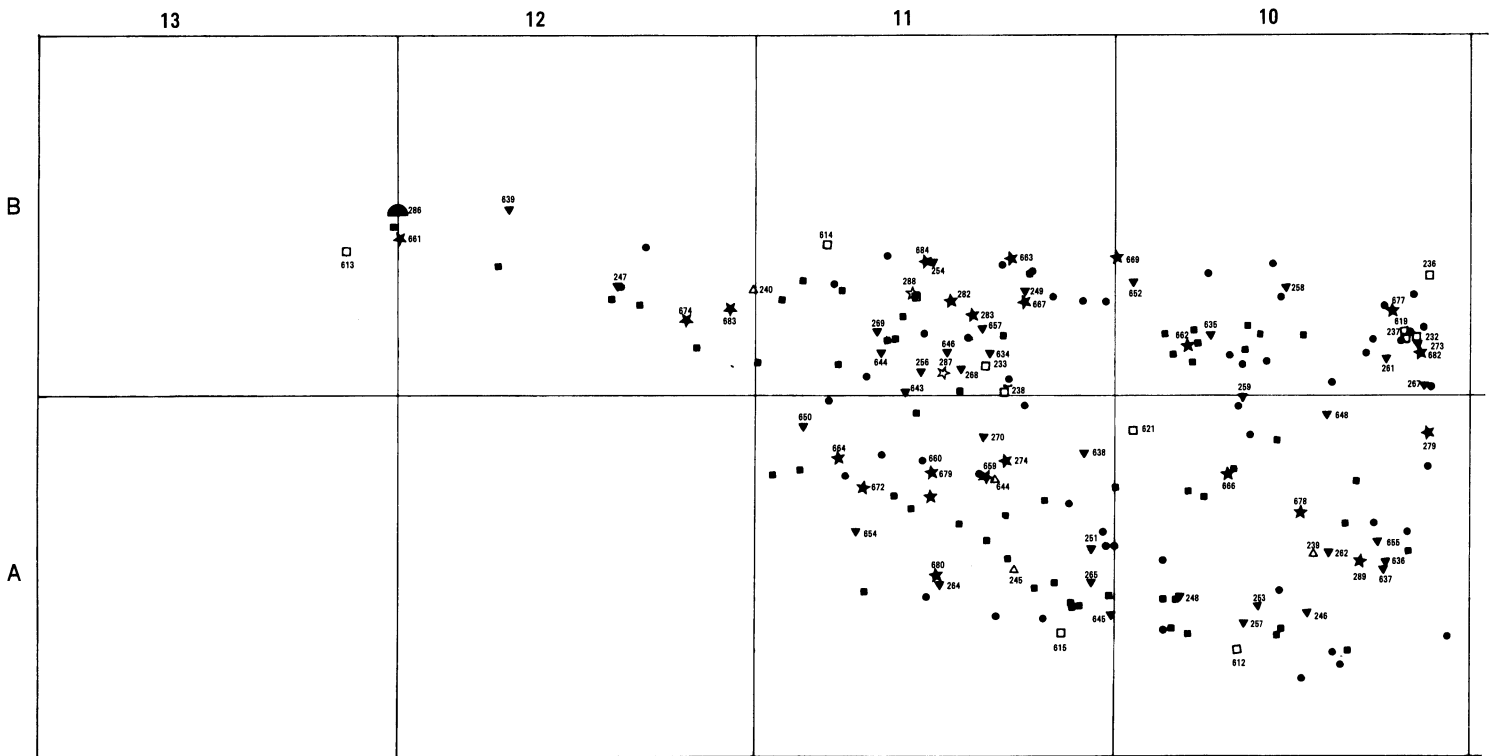
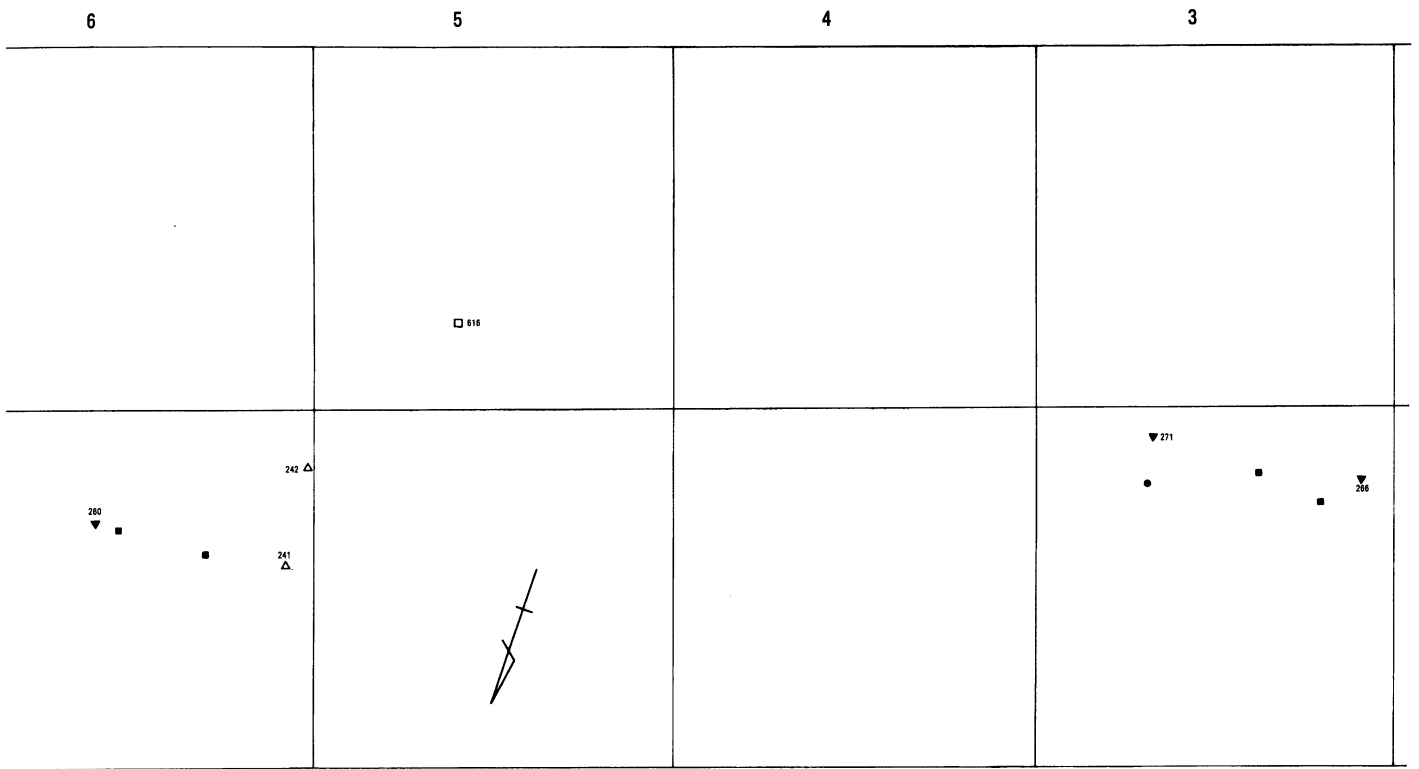
第87图 IV層石器出土状



- 石鏃(未製品)・尖頭器
- 石錐
- 石匙
- スクレイパー(1)
- ▲ ピエスエスキュー(楔形石器)
- △ 加工痕・使用痕剥片
- ☆ 石核(1)
- ★ 原石
- 剥片(1)
- 碎片・裂片(1)



況(1)



第88图 IV層石器出土状

2

1

- スクレイパー(2)
- △ 磨製石斧
- ▽ 礫器
- ★ 磨石・敲石類
- 石皿・石台
- 剥片(2)
- 碎片・裂片(2)
- ☆ 石核(2)

B

A

9

8

7

278

622

284

676

253

243

685

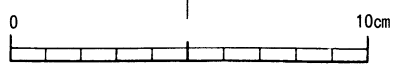
235

262

276

642

651



況(2)

剥離は新しく、発掘時の欠損と思われる。欠損は図示した範囲を大きく越えることはない。左右の挟入部を刃部とする石器と考えられる。

⑥ピエス・エスキーユ（第91図 216～219）

使用によって生じた破片を含め8点が出土している。他に、加工痕・使用痕剥片に分類した中に、ピエス・エスキーユの可能性のある資料が存する。これについては、一覧表に記した。なお、一覧表の計測値はすべて残存値である。

216は不純物を多く含む透明度の低い灰黒色の黒曜石。側面を有する不定型なやや厚みのある剥片で、上・下、左・右に対向する剥離が見られる。217は黒色不透明の黒曜石で、長さが3.5cmと本遺跡出土の資料としてはやや大きい。裏面は上辺に達する大きな剥離で、使用により生じた破片の可能性もある。218は漆黒色の黒曜石で、背面は自然面である。平面は四辺形、断面は紡錘形を呈する。上辺には「つぶれ」が見られ、上下に対向する剥離が見られる。219は不透明黒色の黒曜石で、上辺はつぶれて直線化している。側面には下端に達する剥離が見られる。

⑦加工痕のある剥片・使用痕のある剥片（第91図 220・221）

55点が出土している。図示した2点は、何れも縦長の剥片であるが、出土している資料の形状は多様であり、横長剥片の占る割合が多い。220は黒色の良質な黒曜石で、剥離面を打面とする縦長の剥片である。左右の側辺、剥片の末端に、微小な剥離が見られる。221はやや透明感のある黒色の黒曜石で、剥片の右辺に微小な剥離が見られ、背面側に線状痕がある。

⑧石核(1)（第92図 222～224 第93図 225～229 第94図 230・231）

40点が出土している。図示した10点は、227を除き、すべて不純物の多い灰黒色の黒曜石を素材とする。222は亜円礫を素材とする石核で、分割して使用されたものと思われる。石核縁辺を打点移動しながら、剥片を剥離する。正面図下辺には連続する細かい剥離痕が見られ、スクレイパーへの転用も考えられる。223は風化面のある角礫を素材とし、石核の縁辺を打点移動し、剥離痕が表裏両面に見られる。正面図の作業面は比較的平坦で、裏面の剥離は石核の側面に沿って行われる。224は90°を単位とする打面移動を繰り返す石核で、正面図上辺は、作業面と打面の入れ替わりにより両刃状を呈する。225は扁平な分割礫を素材とし表裏に作業面をもつ。226は分割された亜円礫を素材とし、180°の打面転移が見られる。227は透明感の無い暗灰色の良質な黒曜石で、上下の自然面を打面とし、1つの作業面を共有する。228・230は90°を単位とし頻繁に打面転移を繰り返す石核で、多面体の形状を呈する。229はやや不規則に打面転移を繰り返す。231は自然面を有する大型の亜角礫で、やや風化した割れ面を打面とし、石核縁辺に沿って90°の打面転移を行う。

⑨スクレイパー(2)（第94図 232～234 第95図 235～238）

16点が出土している。232は折れ面のある薄手の粘板岩剥片で、図下辺に鋸歯状の刃部がある。233は背面に自然面のある薄手のホルンフェルス剥片で、右辺の内湾する部分の背面側には細かい剥離が集中してみられる。234は背面に自然面を有するホルンフェルスの横長剥片で、末端辺に剥離調整が見られる。235は粘板岩の横長の剥片を縦位に使用する。236・237・238は何れもホルンフェルスのやや厚みのある剥片で、縁辺からの剥離が見られる。

⑩磨製石斧及び磨製石斧未製品（第95図 239～243 第96図 244～245）

磨製石斧は3点（欠損品2点を含む）が出土し、他に、未製品と考えられる加工礫（剥片）4

点が出土している。石材はすべてホルンフェルスである。239は基部のみの出土で、全面に擦痕が見られる。240は刃部断面は両凸刃、刃縁は外湾気味の直刃で、基部を欠損する。部分的に剥離調整の痕跡を残すが、擦痕は明瞭でないものの、よく研磨されている。241は断面両凸刃。刃縁は偏刃に近い。剥離調整後研磨で仕上げている。敲打調整の痕跡は見られない。基端部周辺の剥離痕は、基部加工の可能性がある。242は背面に自然面を有する剥片で、縁辺からの剥離が見られる。243は裏面はすべて自然面で、表面の3分の2近くが縁辺からの剥離で調整されている。礫器の可能性もある。244・245は背面に自然面を有する剥片で、表裏面に縁辺からの剥離が見られる。245は下縁部に小さな剥離が残り、礫器として使用された可能性もある。

①礫器類（第96図 246～251 第97図 252～257 第98図 258～265 第99図 266～271 第100図272・273）

VI層からは49点の礫器類が出土している。一覧表の標記及び分類は「V層 ①礫器類」と同じである。

I類 扁平な礫の一辺に、外湾もしくは直線的な刃部を有するもので、10点が出土している。248は表裏に剥離が見られるが、刃部に磨滅は見られず、使用により生じた剥離を含む可能性がある。250は礫端部に短い刃部をもつ。251・252は片面から剥離調整された片刃であるが、裏面に使用によると思われる小さな剥離が見られる。253は一端が広がる扁平な礫で、石核の可能性もある。

II類 扁平な礫の一端、もしくは縦長の礫の短辺に尖頭状の刃部を有するもので、4点が出土している。249は尖端の左右で異なる面から剥離される、片刃で、尖端に二次的と見られる小さな剥離がある。255は角度の鈍い凸刃で、刃部全体がやや磨滅している。

III類 礫の一端に側辺に対し斜行する刃部を有するもの。4点が出土している。246は刃先の角度の大きい斜刃で、刃部は両刃に整形されている。257・259は大きな剥離で整形されており、257は刃部に磨耗が見られ、259は先端部に集中した使用痕が見られる。

IV類 縦長の礫の短辺に、半円状、緩やかな外湾、直線的な刃部を有するもので、刃部形態は使用による経時的变化の要素が見られる。12点が出土している。247は3回の剥離が見られるが、刃部と見るには角度が大きすぎ、刃部を欠損しているものとする。254はやや扁平な礫で、片刃の刃部をもち、刃縁には小さな剥離や磨滅が見られる。256は扁平な板状の垂鉛礫で、刃部の右側辺にも加工が見られる。266の図上端の剥離は使用により生じた可能性があり、下端は階段状の複雑な剥離を示す。

V類 縦長の礫の長辺に刃部を有するもので、VI層においては出土していない。

VI類 礫の上下両端に対置する刃部を有するもので、13点が出土している。

262は扁平敲石の欠損品である可能性がある。263・264・265・272は、両端の刃部の内の一端に使用によると思われる階段状の複雑な剥離や折れが見られ、対置する刃部は比較的加工形状をとどめ、刃部にやや磨耗やつぶれが見られる。271は両端に外湾する刃部をもち、使用の痕跡はあるが、刃部の加工形状を保持している。270は片刃の斜刃と、凸刃の2カ所の刃部をもつが、下端の刃部は著しく磨耗しているが、いずれも刃部形状を保持している。269は残存する剥離からは両端の刃部が対向する位置関係にないが、ここに含めた。凸刃とした図下端に位置する刃部は、頂部を境に剥離方向の異なる片刃である。

Ⅶ類 片手での連続した使用に不適であると考えられる大型のもの。1点の出土が出土しているが、図示していない。

Ⅷ類 I～Ⅶに含まれない5点をその他の礫器とした。260・261は連続する2辺に刃部を有するもので、素材礫に対する加工の度合いが比較的大きい。260は下辺は著しくつぶれ、直線的で、右辺は両面から調整されている。左辺は側面から片面調整が行われている。また上辺左隅の剥離は右側辺に対し対置する。261は下端と左側辺に何れも両面調整が行われ、両刃の刃部を有するが、下端はやや複雑な階段状に剥離している。267は一端に凸刃に近い刃部を有するが、礫器の破片と思われる。273は粘板岩で、右辺の表裏に大きな剥離痕を残す。礫器の未製品もしくは石核と思われる。

⑫磨石・敲石類 (第100図 274～278 第101図 279～285)

形状・使用用痕等に基づく細分は、Ⅴ層の分類に基づいた。扁平敲石2点、棒状敲石9点、楕円形敲石3点、円形敲石5点、磨石3点、不定型礫を敲石として使用するもの4点、これらの破片8点の計34点が出土している。274は扁平敲石で、上端に敲打による「つぶれ」、下端に剥離が見られる。278は楕円形敲石で、側縁に敲打による「つぶれ」があり、両面に磨面がある。277・279・281・284は円形敲石に分類した。敲打による「つぶれ」の位置、磨面の有無により細分が可能である。275・280・286は磨石に分類したが、何れも弱い磨滅が見られる程度である。276・282・283は破片であり、礫形状が不明なため、細分は行わなかった。石材は、敲打痕のみが見られるものにはホルンフェルスが多く、敲打痕・磨面の両方もしくは磨面が見られるものには安山岩系、砂岩などの石材が多く、他に花崗岩・溶結凝灰岩などが見られる。

⑬砥石類

図示していないが、5点出土している。

⑭石皿 (第102図 286)

286は角閃石輝石安山岩の扁平な礫で、磨滅面が見られる。やや小型ではあるが石皿に分類した。

⑮石核(2) (第102図 287・288)

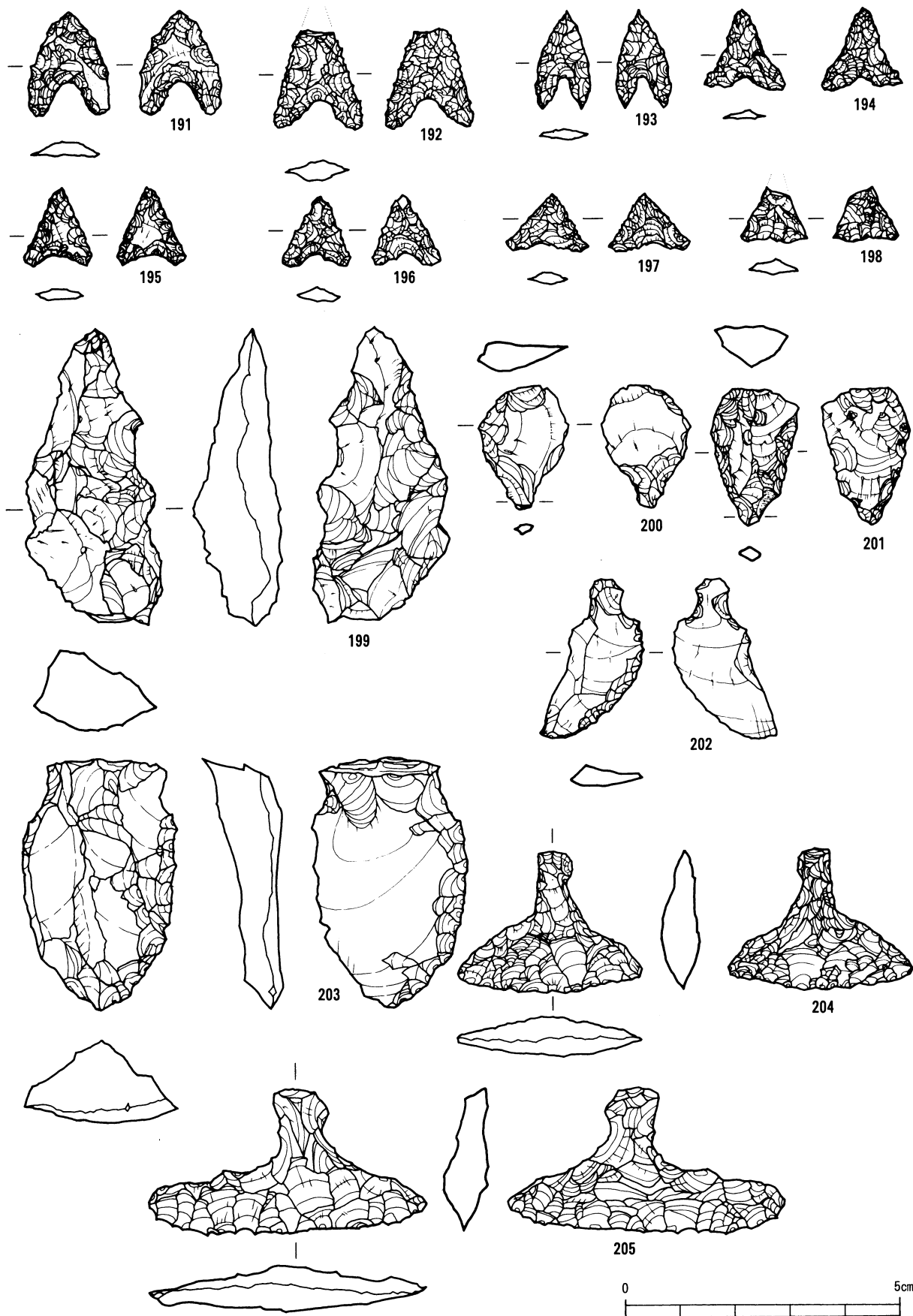
大型の剥離痕を有するホルンフェルスの礫が2点出土している。剥離は使用部位を形成するための調整剥離とは見られず、剥片およびスクレイパー(2)とした加工・使用の見られる剥片石器に、ホルンフェルスを素材とするものが見られることから、石核として利用されたものと思われる。

⑯線刻のある礫 (第102図 289)

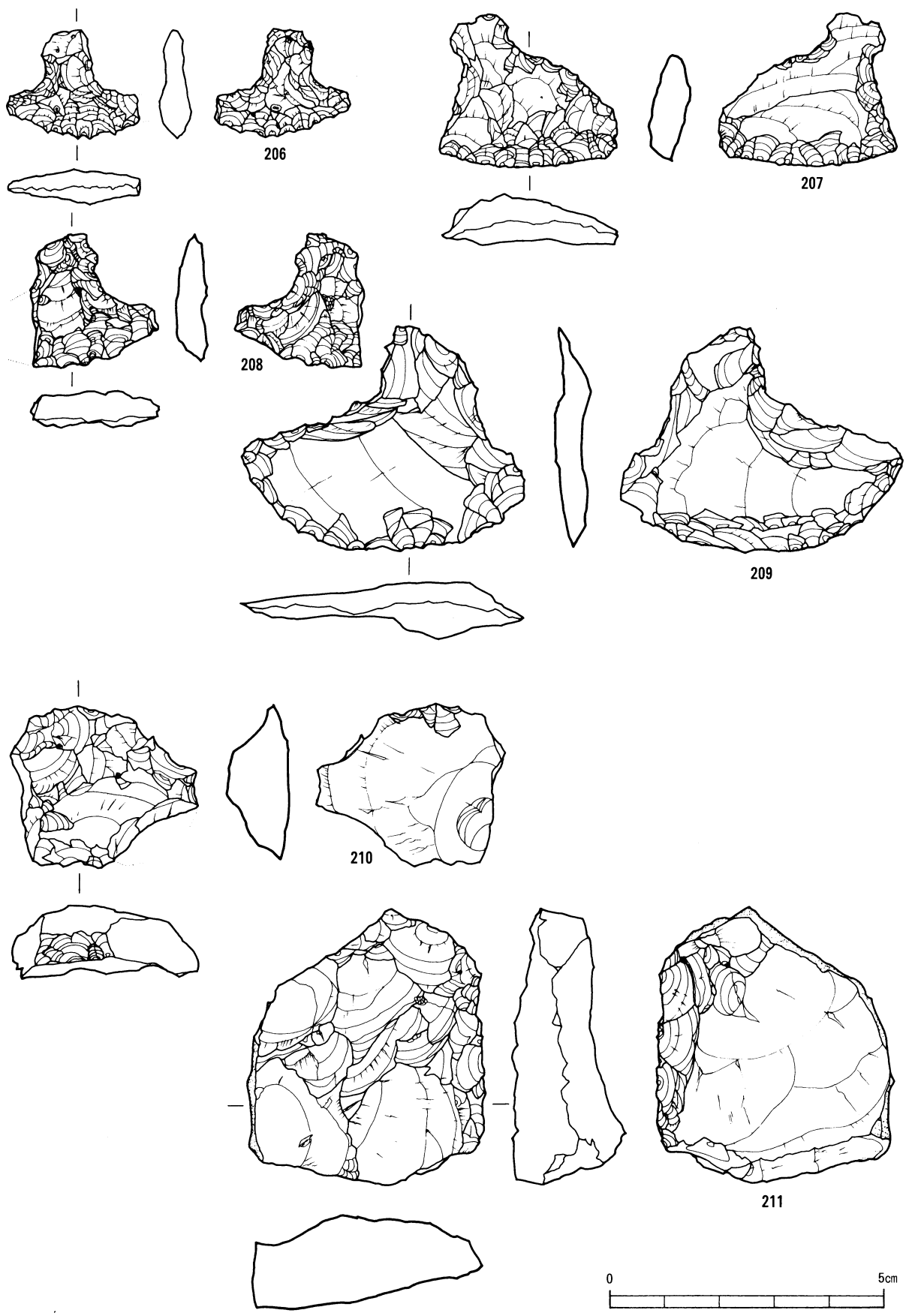
凝灰質シルト岩の扁平な礫で、左右側縁の上端付近には面取りが行われている、縁辺からの細目の線状のキズ、裏面のつぶれ状のキズはストーン・リタッチャーとしての使用痕の可能性はあるが、表面側のしっかりとした線は、意図的な線刻の可能性も否定できない。

Ⅲ層出土石器 (第103図 290～300 第104図 301)

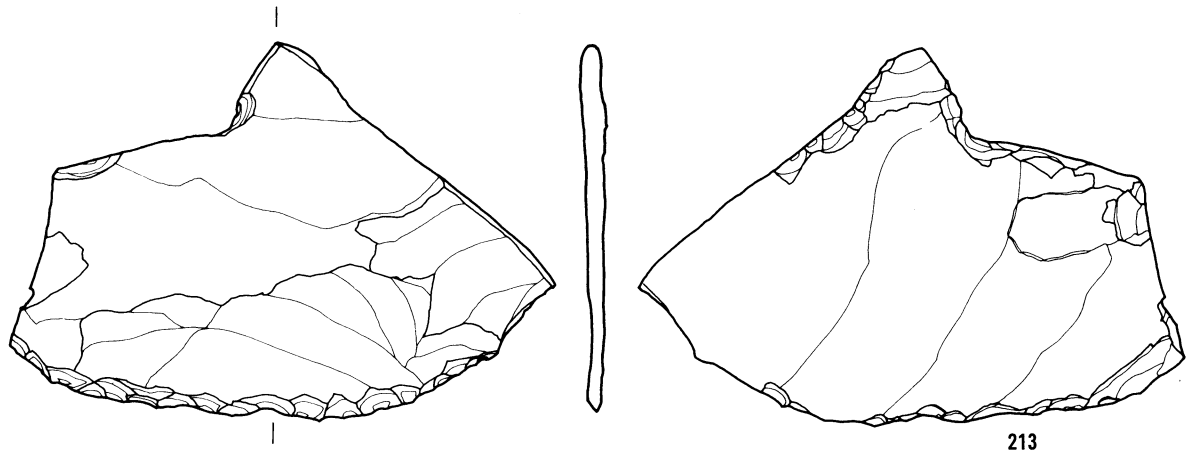
Ⅲ層出土の石器には、石鏃及び石鏃未製品2点、石匙3点、スクレイパー(1)1点、ピエス・エスキュー(破片を含む)1点、加工痕のある剥片・使用痕のある剥片7点、石核(1)8点、スクレイパー(2)5点、礫器7点、磨石・敲石類15点がある。また、石器の製作・使用に関する資料として、石核原石(1)2点、剥片(1)33点、碎片・裂片(1)48点、剥片(2)36点、碎片・裂片等(2)1点の出土があり、総計169点の出土遺物があった。



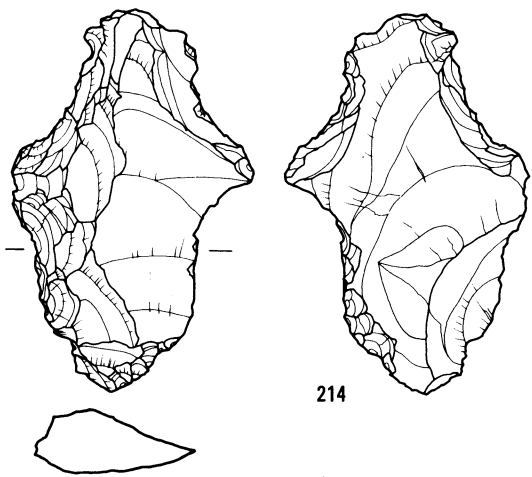
第89图 IV層出土石器(1)



第90图 IV層出土石器(2)

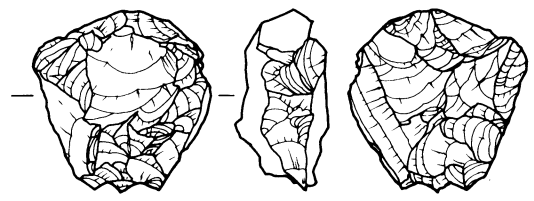


213



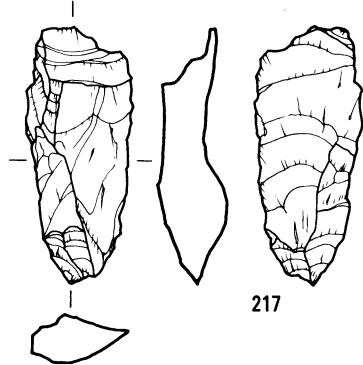
214

215



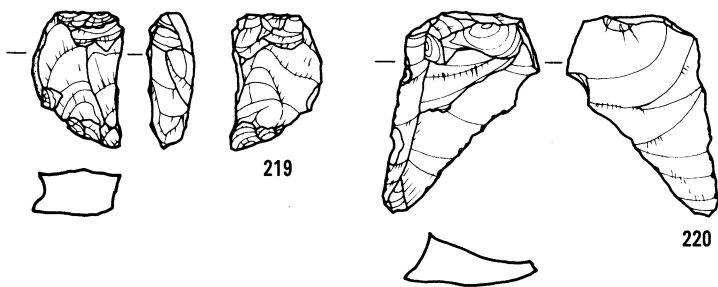
216

217



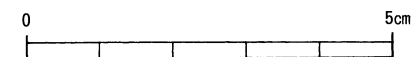
218

219

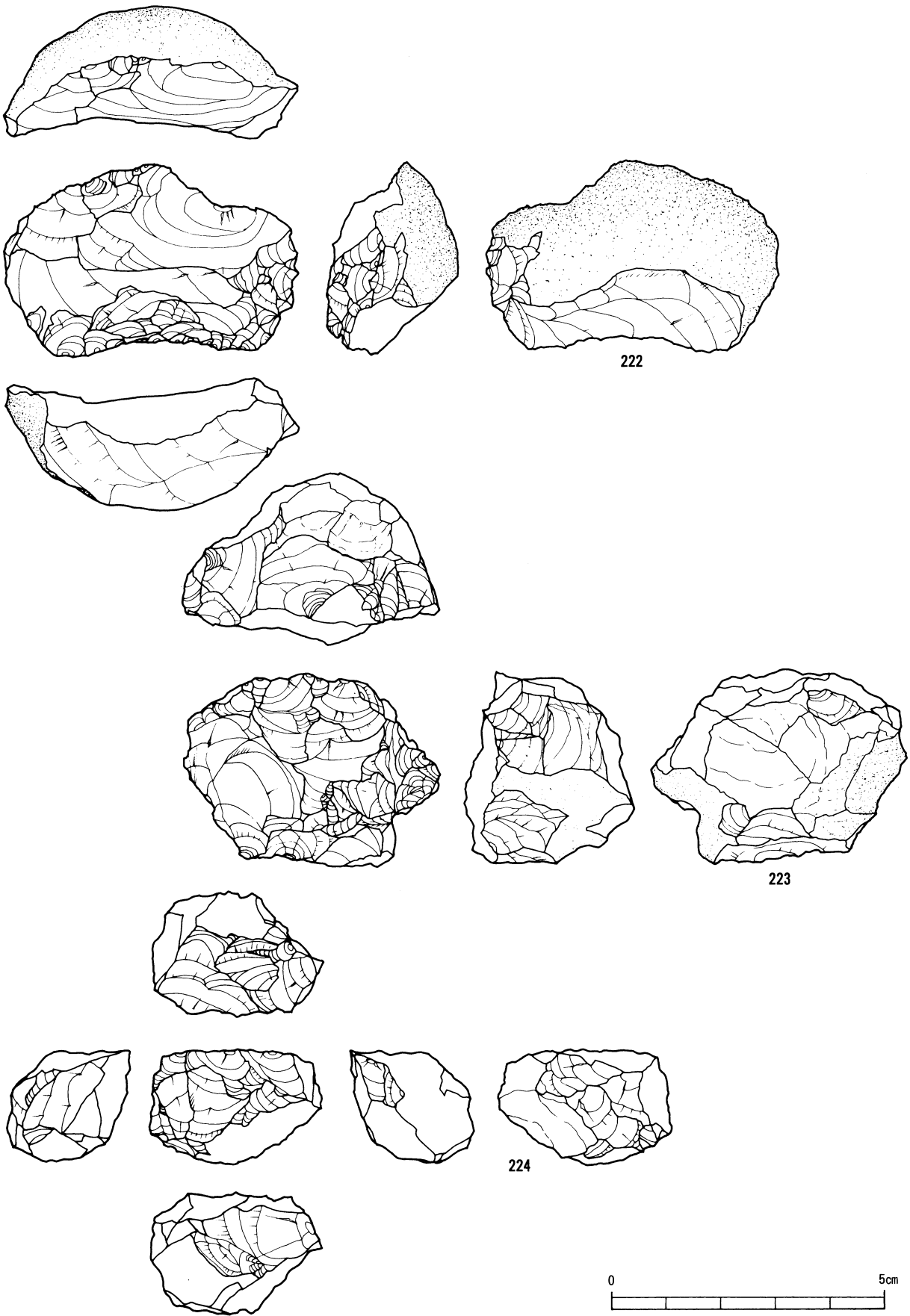


220

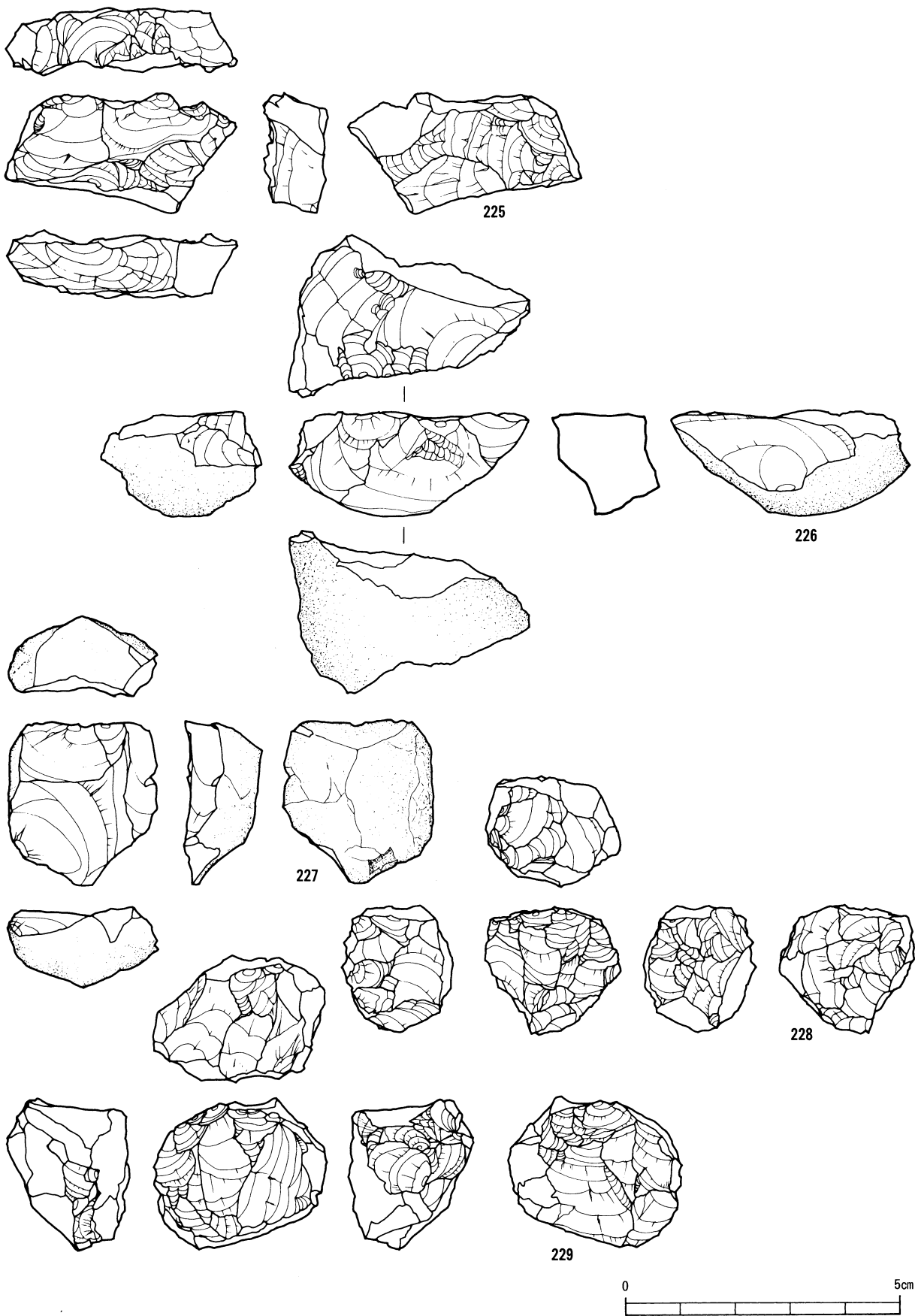
221



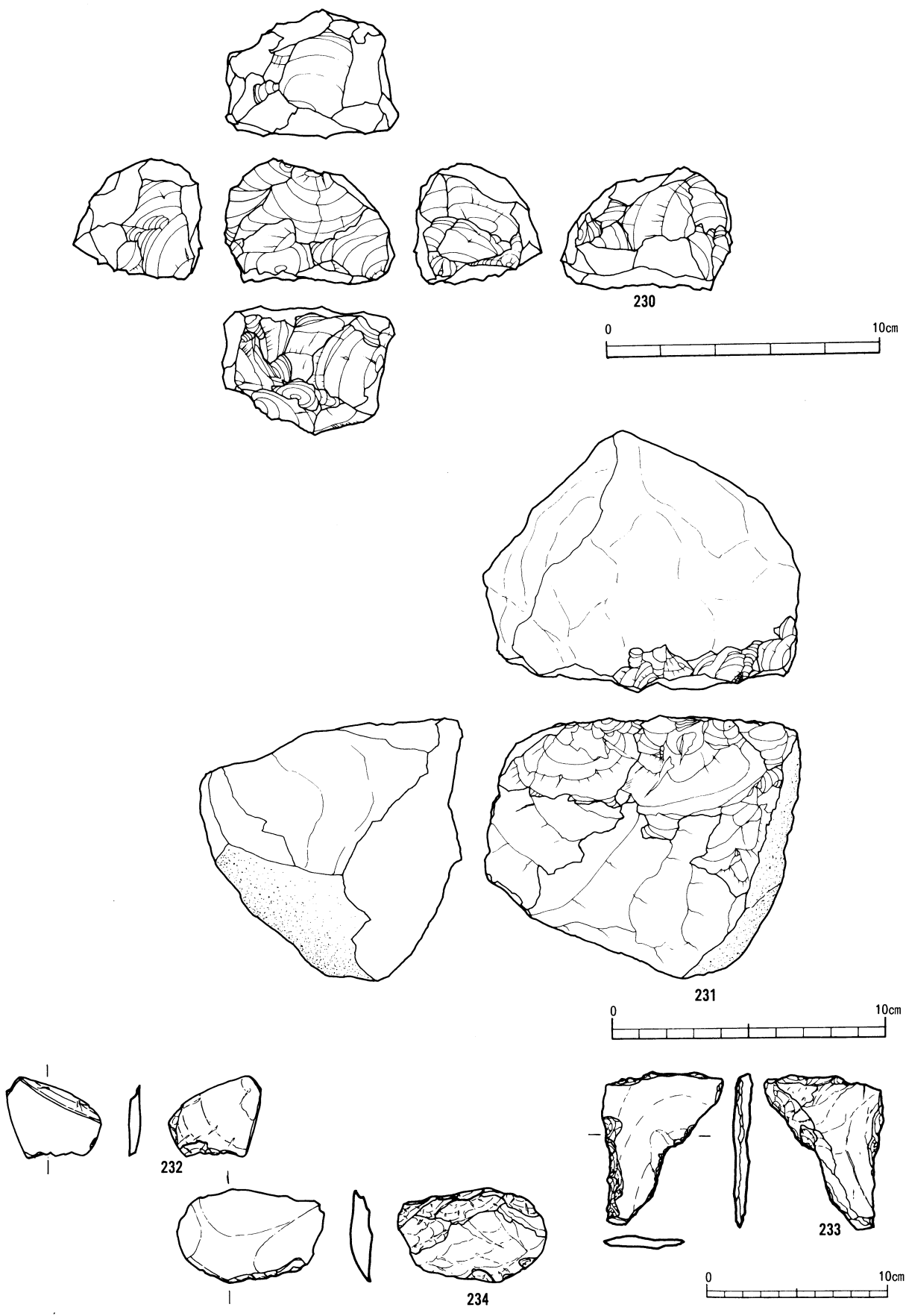
第91图 IV層出土石器(3)



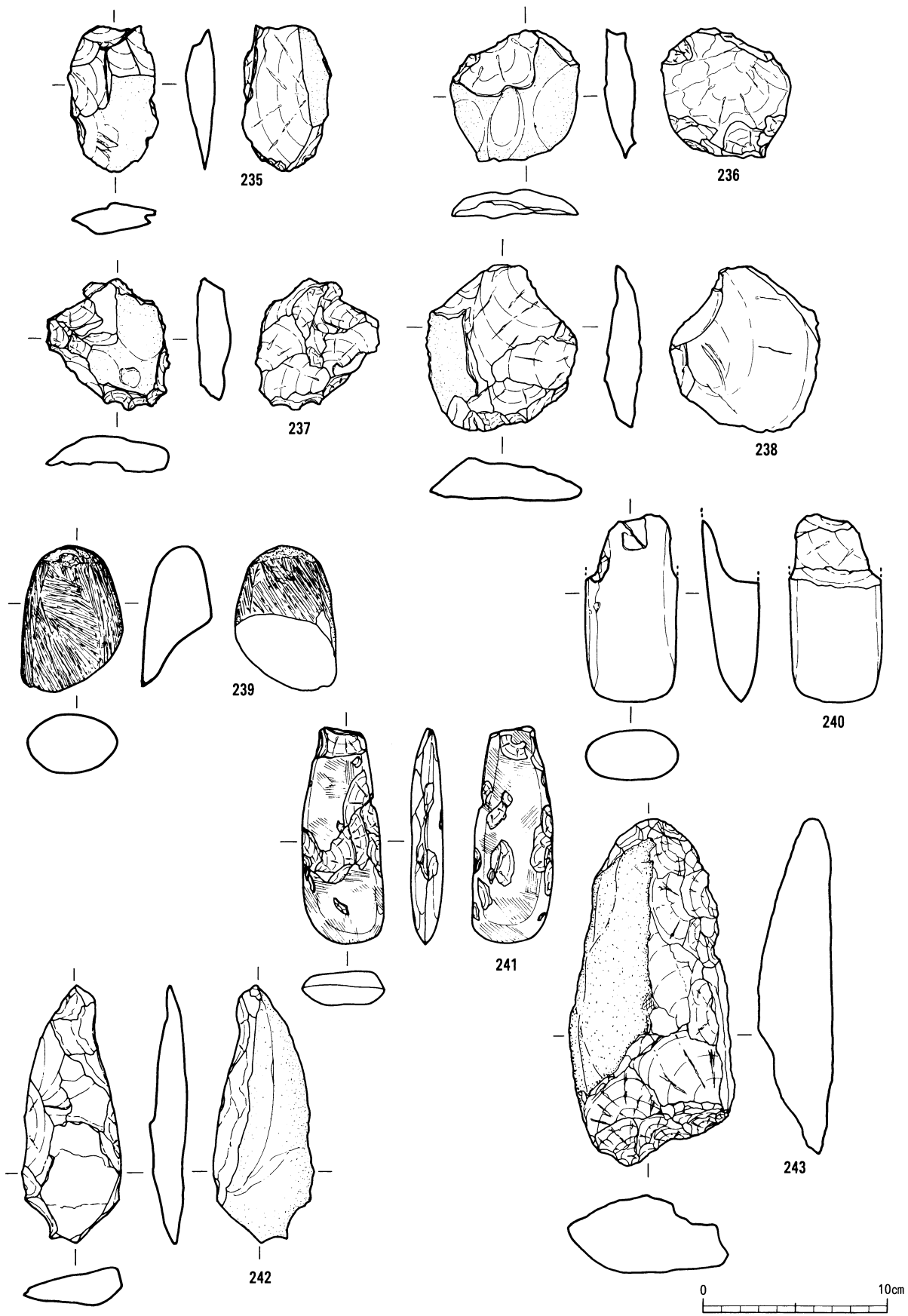
第92図 IV層出土石器(4)



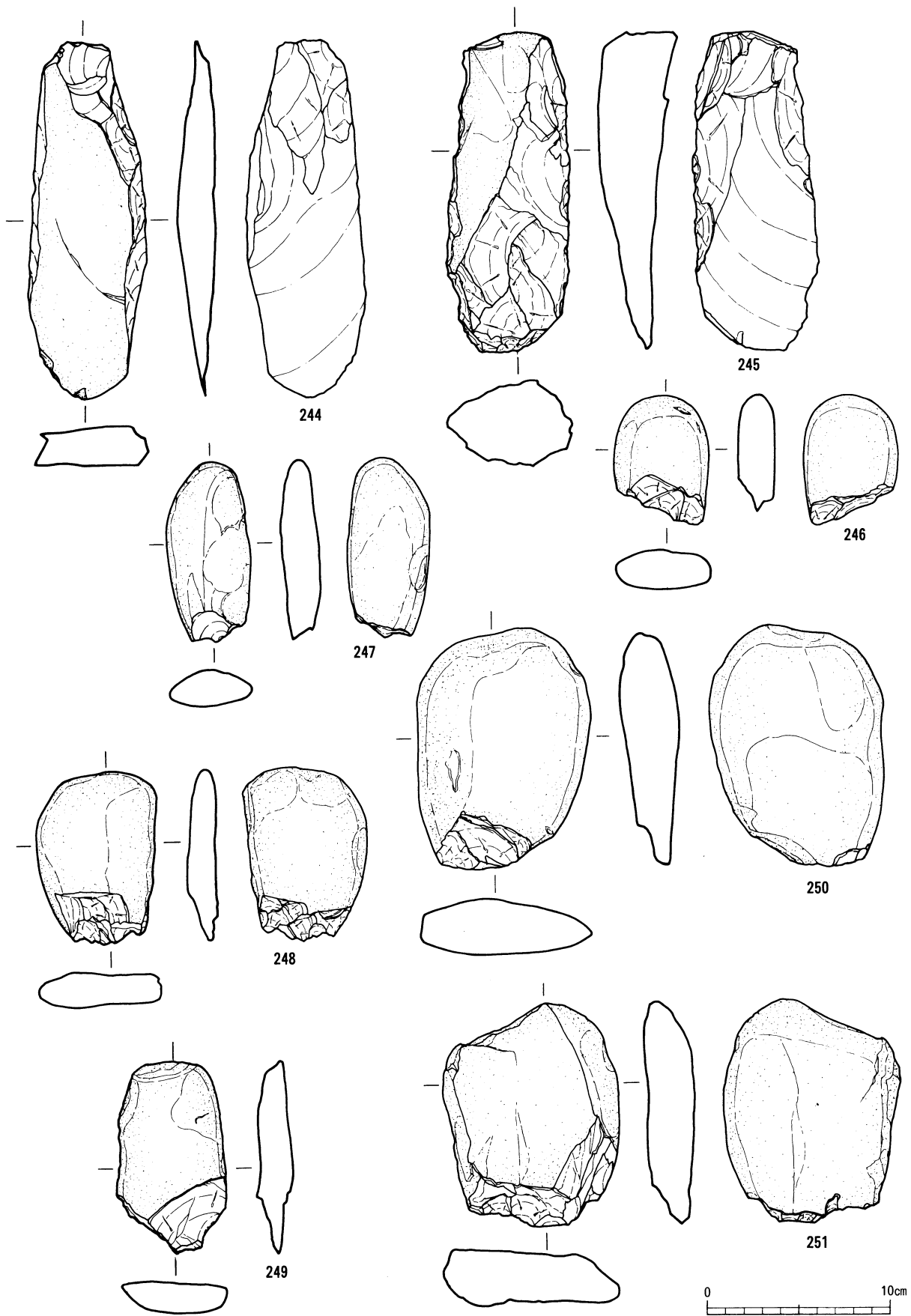
第93图 IV層出土石器(5)



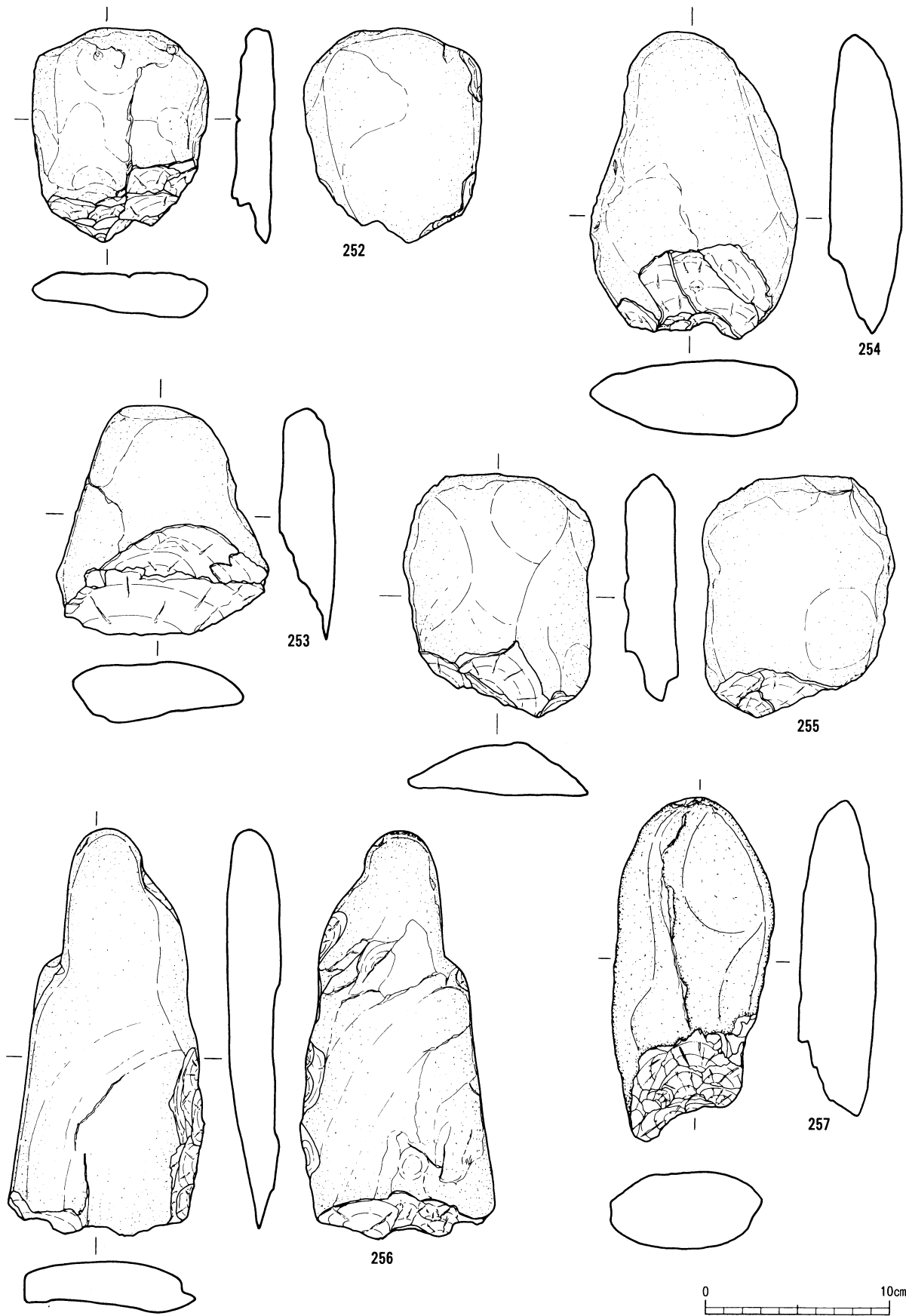
第94图 IV層出土石器(6)



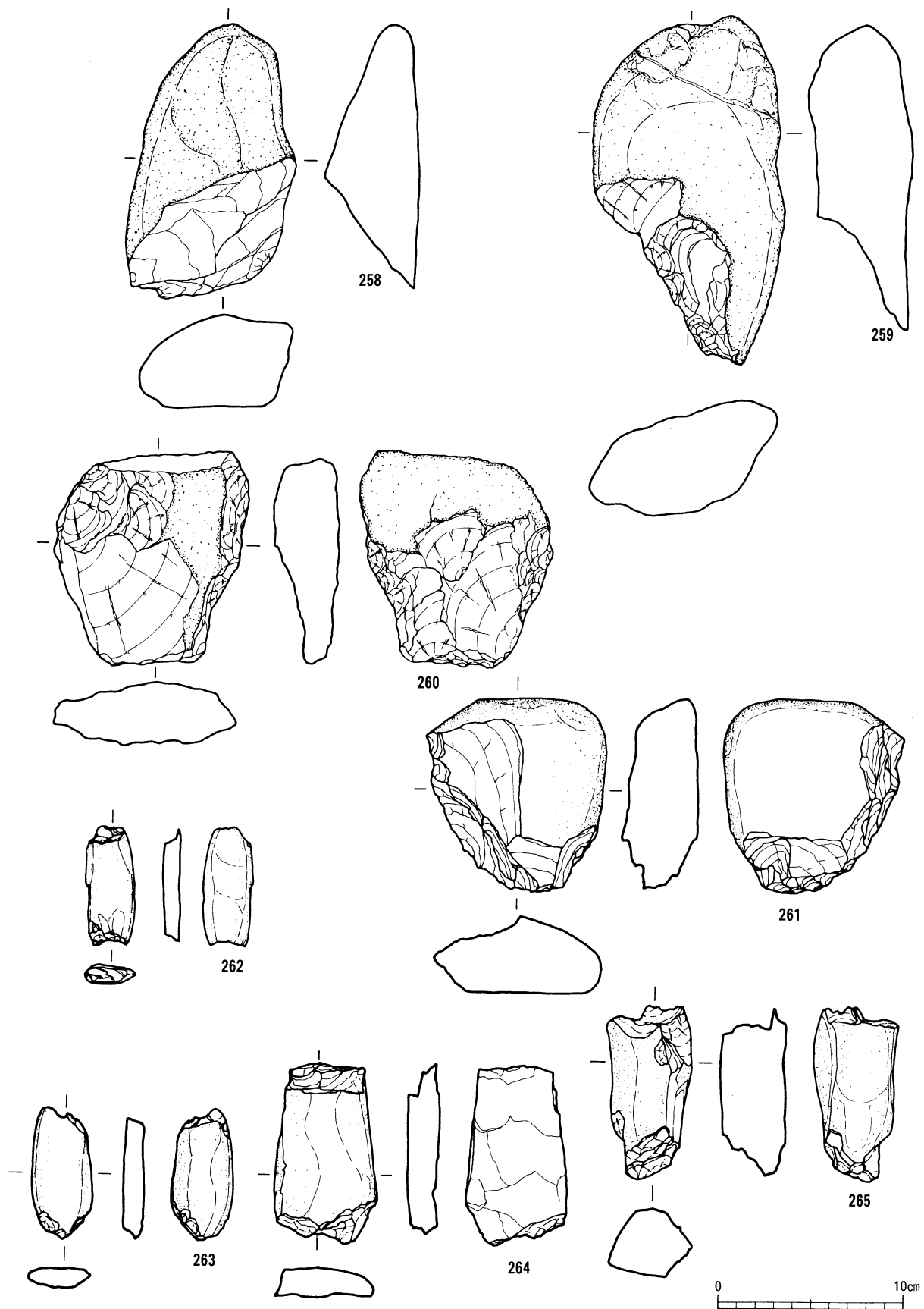
第95图 IV層出土石器(7)



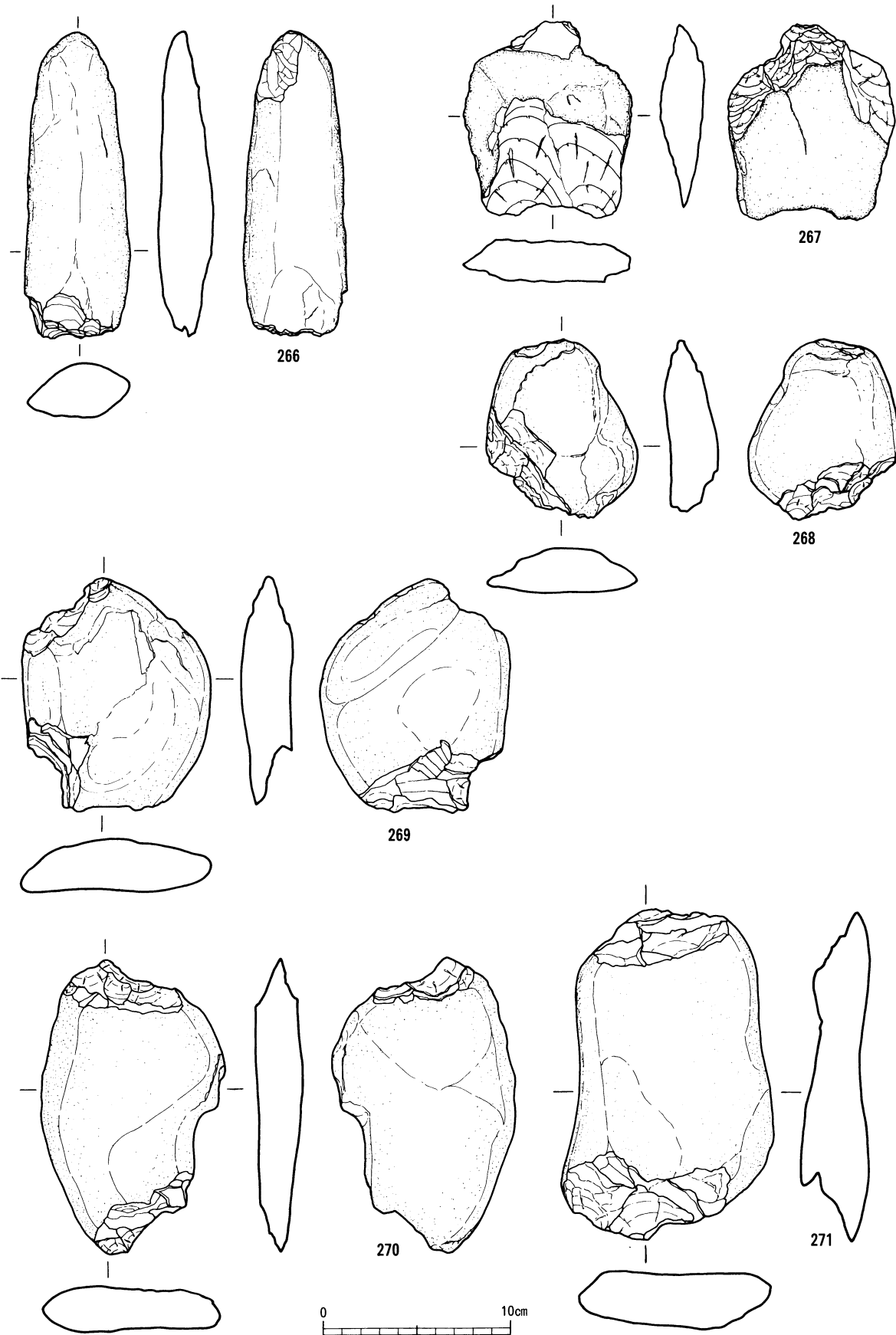
第96图 IV層出土石器(8)



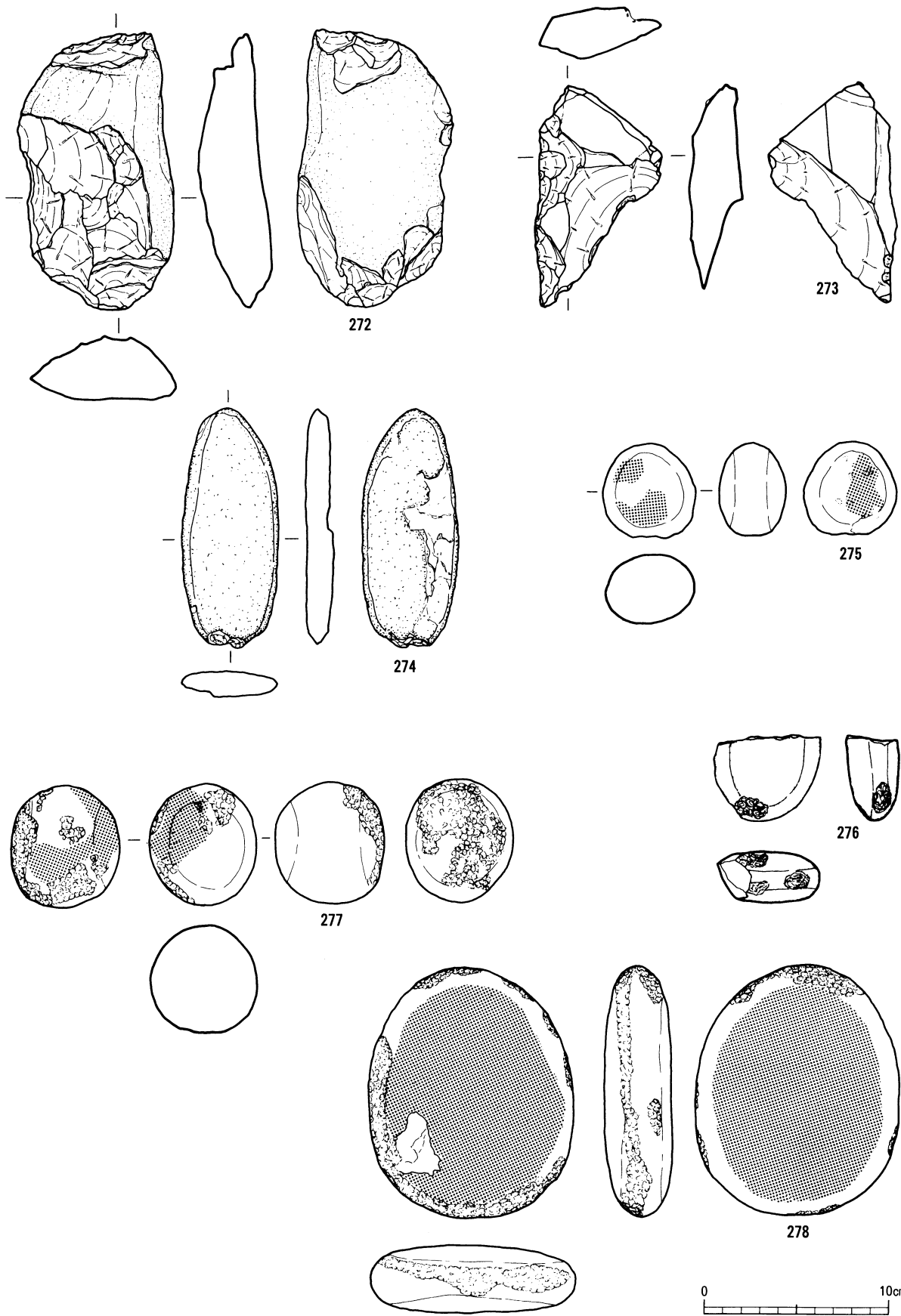
第97図 IV層出土石器(9)



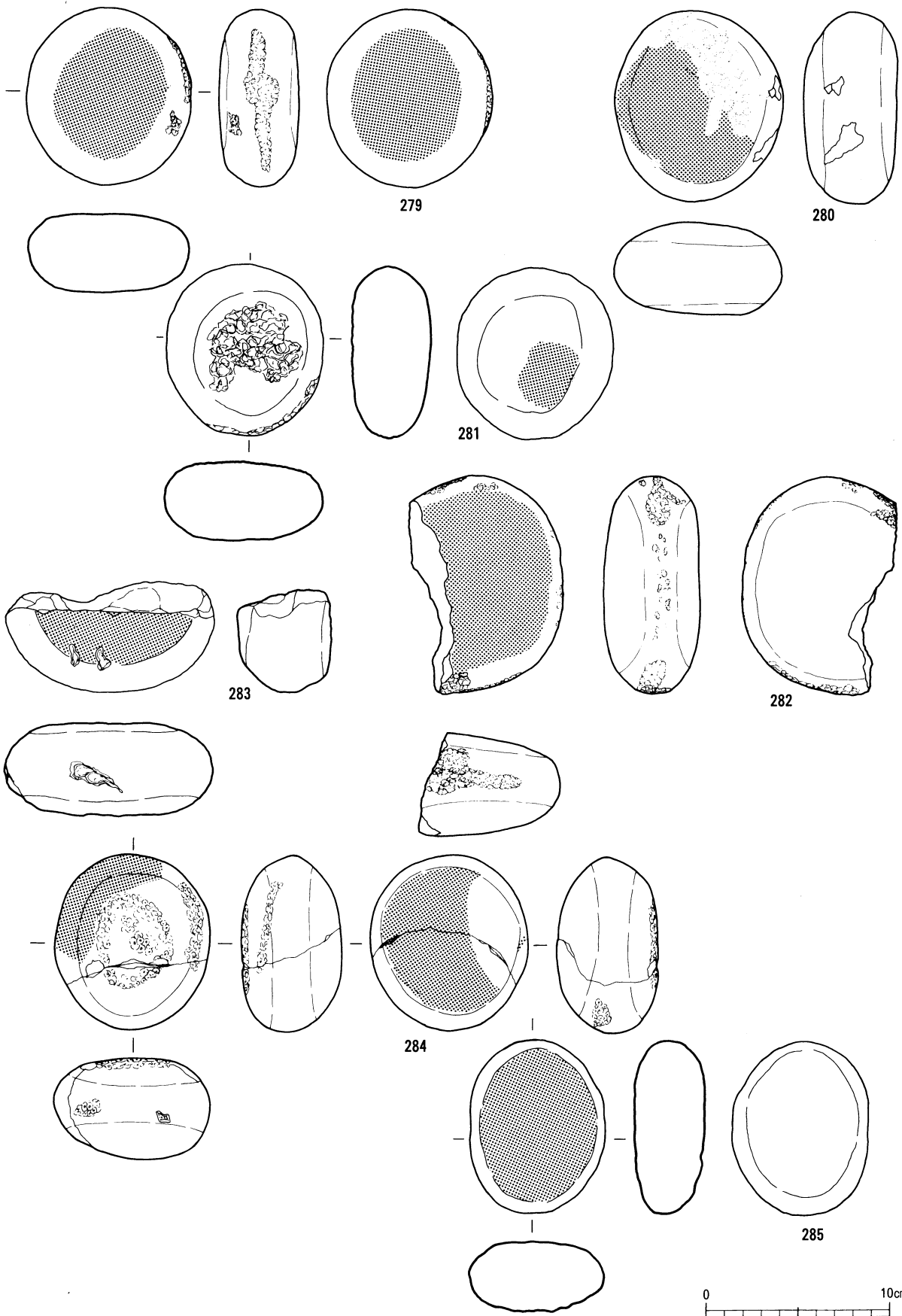
第98图 IV層出土石器(10)



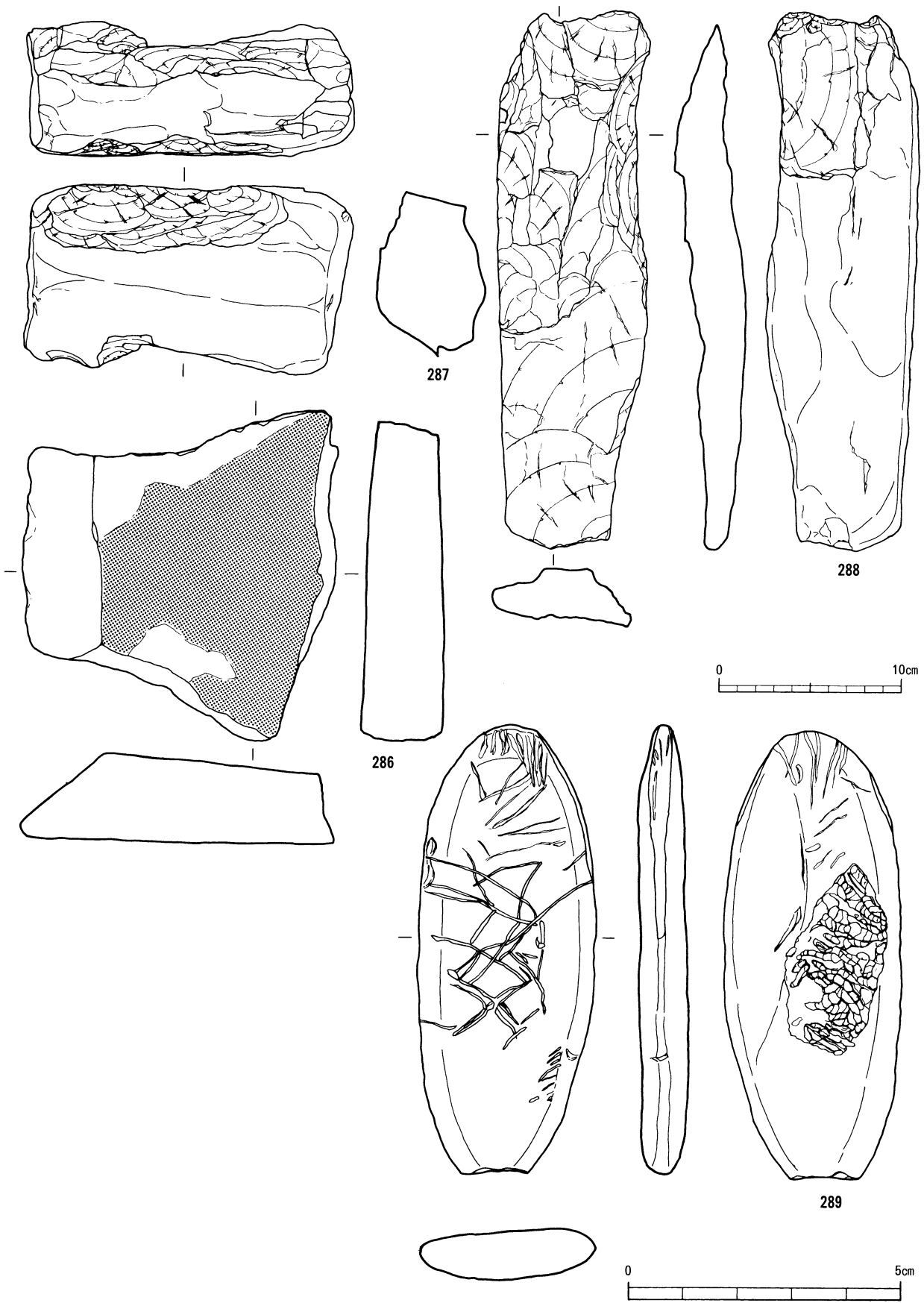
第99图 IV層出土石器(11)



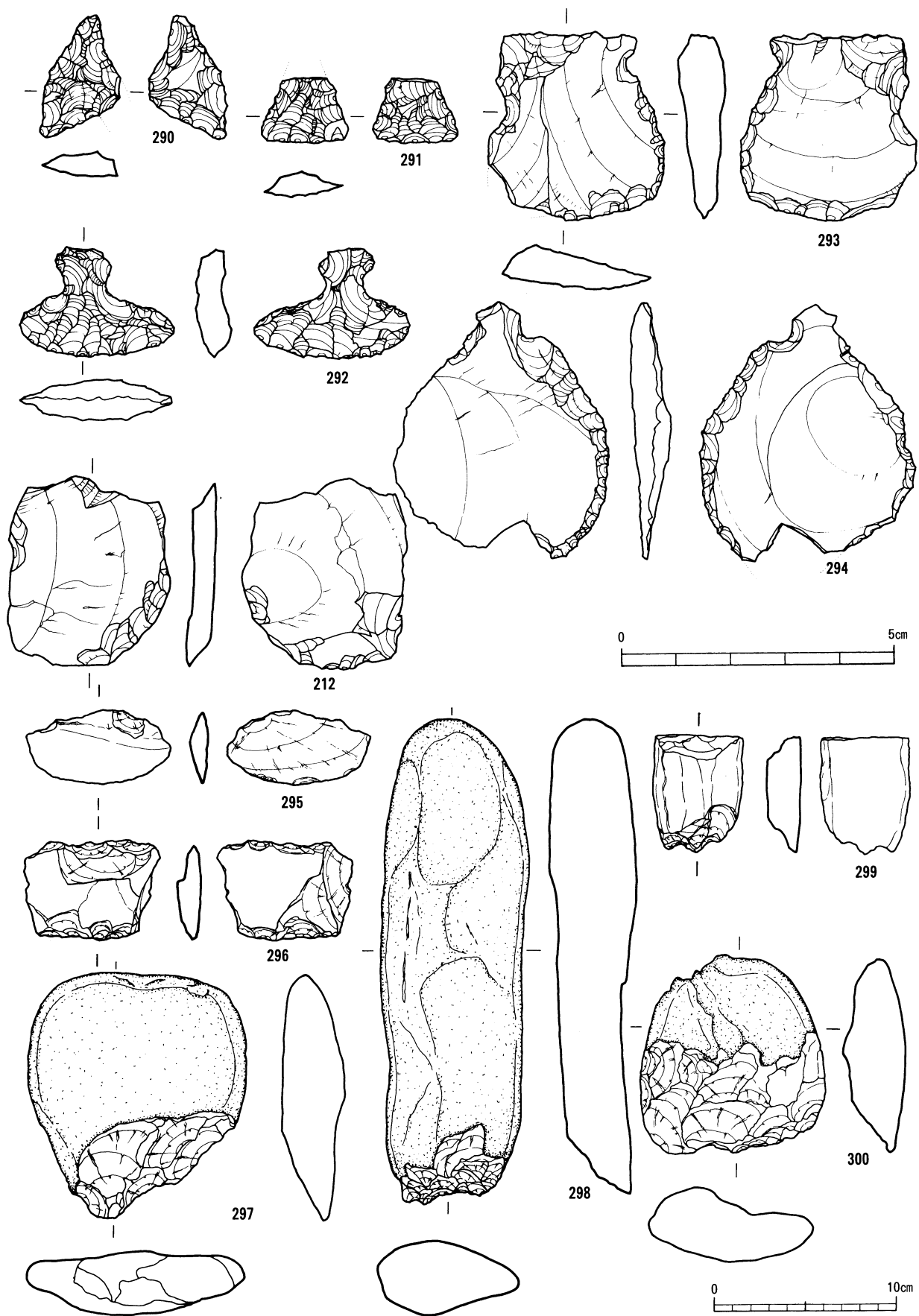
第100圖 IV層出土石器(12)



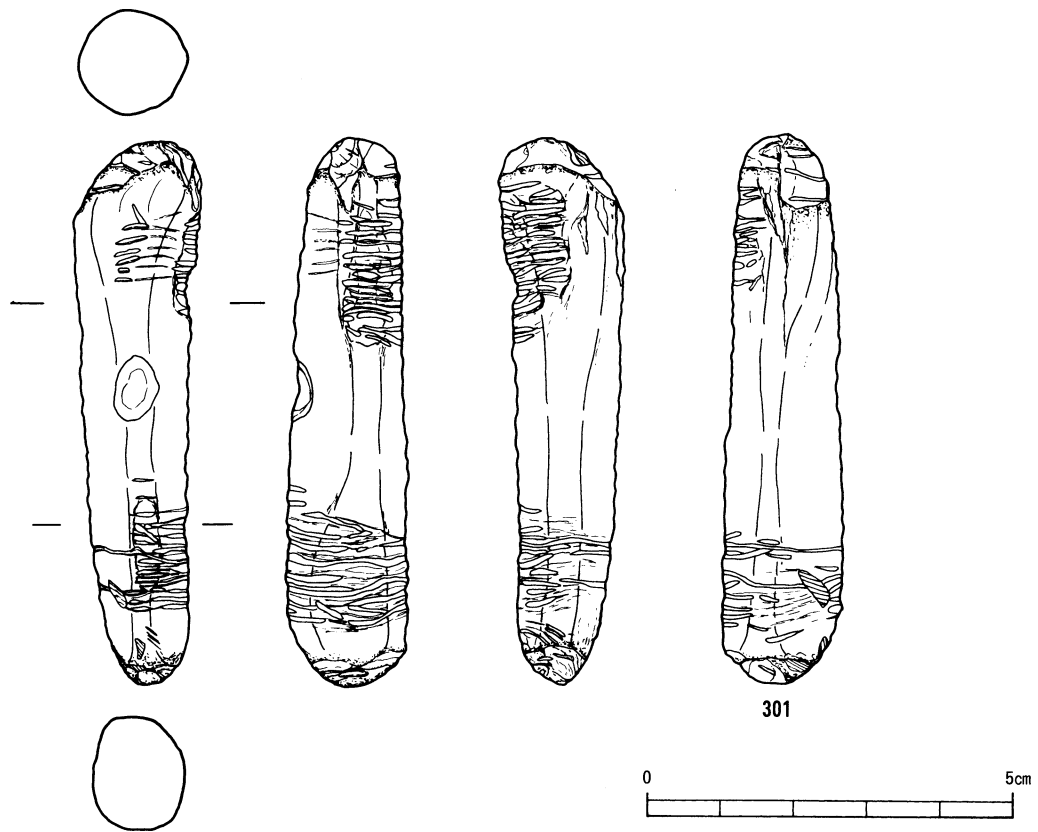
第101图 IV層出土石器 (13)



第102图 IV層出土石器(14)



第103图 Ⅲ層出土石器(1)



第104図 Ⅲ層出土石器（2）

注1 長野真一「奥木場遺跡」石器について 石鏃 枕崎市埋蔵文化財調査報告書(3)1987における石鏃製作過程についての考察を参考にした。

注2 岡村道雄「ピエス・エスキーユ, 楔形石器」『縄文文化の研究』7 雄山閣出版及び宮田栄二「鹿児島県下のピエス・エスキーユ」『南九州縄文通信』No3 1990他を参考にした。

注3 鈴木道之助「石斧」『図録 石器入門事典 縄文』柏書房を参照した。

注4 「西丸尾遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(84)1992 「榎崎B遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4)1993他の分類を参照とした。

注5 児玉健一郎他「奥ノ仁田遺跡」西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)1995の分類をを参照した。

注6 「小牧3A・岩本遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(15)を参照した。

第16表 石器観察表(1)

挿図	番号	器種	登録号	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見	
第61図	1	加工痕・使用痕剥片	5500	A-10	VIII	35.203	黒曜石	2.5	1.78	0.95	3.57	背面に自然面を有する。ピエス・エスキューの可能性あり。	
	2	加工痕・使用痕剥片	6167	A-4	VIII	38.947	ガラス質流紋岩	4.05	3.2	0.92	4.28	末端辺に自然面を有する	
	3	石 核	5483	B-1	VIII	39.807	黒曜石	2.9	3.48	1.8	9.85	姫島産黒曜石。分割礫素材。剥離面打面、打面転移。	
	4	スクレイパー(2)	5465	A-1	VIII	39.547	ホルンフェルス	9.1 ⁺	7.81	2.2	160.2 ⁺	上部欠損	
	5	スクレイパー(2)	6169	A-4	VIII	38.997	ホルンフェルス	13.2	8.25	2.15	200.5	上部欠損	
	6	礫 器	6170	A-4	VIII	38.982	ホルンフェルス	12.0	10.3	2.3	415.0	扁平な垂円礫の一端に片刃の刃部	
	7	礫 器	6063	A-6	VIII	38.64	ホルンフェルス	17.7	11.0	4.9	1030.0	縦長礫の一端に外彎する片刃の刃部	
第62図	8	礫 器	5516	A-10	VIII	34.96	ホルンフェルス	14.0	12.2	6.6	1278.0		
	9	礫 器	5515	A-10	VIII	35.005	ホルンフェルス	14.5	11.0	3.55	640.0		
	10	礫 器	5525	A-11	VIII	35.23	ホルンフェルス	14.7	12.2	5.45	1092.0		
第63図	11	磨石・敲石類	5512	A-11	VIII	35.318	粗粒砂岩	7.65	6.25	6.1	420.1		
	12	磨石・敲石類	5526	A-11	VIII	35.4	粗粒砂岩	10.1	8.8	4.3	590.4		
第66図	13	石 皿	5230	B-1	VIII	39.799	ホルンフェルス	10.0 ⁺	9.15 ⁺	4.3	510.0 ⁺		
	14	石 鏃	4802	B-2	V	40.339	黒曜石	2.0	1.4 ⁺	0.33	0.42 ⁺	凹基 二等辺三角鏃 右脚部欠損	
	15	石 鏃	6976	B-9	V	36.49	黒曜石	1.6	1.45	0.37	0.31	凹基 三角鏃	
	16	石 鏃	3852	A-11	V	36.069	黒曜石	1.95	1.75	0.3	0.61	凹基 三角鏃	
	17	石 鏃	5005	A-10	V	35.851	黒曜石	0.9 ⁺	1.6	0.3	0.32 ⁺	凹基 三角鏃 先端部欠損	
	18	石 鏃	3668	A-10	V	36.075	黒曜石	1.06	1.0 ⁺	0.4	0.26 ⁺	浅い凹基 小型三角鏃 左脚部欠損	
	19	石 鏃	4923	A-10	V	35.921	黒曜石	1.3	1.3	0.3	0.33	浅い凹基 小型三角鏃	
	20	石 鏃	680	B-7	V	38.822	蛋白石	1.7 ⁺	1.1	0.5	0.67 ⁺	凹基 二等辺三角鏃 先端部欠損	
	21	石 鏃	6567	A-9	V	37.005	黒曜石	1.15	1.54	0.3	0.31	凹基 幅広三角鏃	
	22	石 鏃	4493	A-10	V	36.346	黒曜石	1.45	1.3 ⁺	0.25	0.32 ⁺	凹基 三角鏃 右脚部欠損	
	23	石 鏃	5400	A-10	V	35.816	黒曜石	1.5 ⁺	1.1 ⁺	0.34	0.47 ⁺	平基 小型三角鏃 先端	
	24	石 鏃	3363	B-10	V	36.3	黒曜石	1.15	1.0 ⁺	0.45	0.33 ⁺	浅い凹基 小型三角鏃 右側縁下部欠損	
	25	石鏃未製品	6407	A-8	V	37.686	黒曜石	1.15	0.8 ⁺	0.3	0.16 ⁺	完成品の可能性有り 両脚部欠損	
	26	石鏃未製品	7119	B-9	V	36.415	黒曜石	1.75	1.7	0.4	1.16	形状調整工程からの移行段階	
	27	石鏃未製品	5775	A-2	V	39.99	黒曜石	1.9	1.65	0.43	0.96	形状調整工程	
	28	石鏃未製品	3975	B-10	V	36.209	黒曜石	1.7	1.8	0.6	1.42	形状調整工程	
	29	両面加工石器	3361	B-10	V	36.36	黒曜石	2.4	2.2	0.7	3.21		
	30	石 錐	5971	A-10	V	36.181	黒曜石	3.65	1.8	0.8	3.98	自然面を有する横長剥片(錐部)両面調整 断面菱形	
	31	石 錐	6745	B-2	V	40.17	黒曜石	2.75 ⁺	1.4	0.65	1.53 ⁺	横長剥片 頭部欠損(錐部)片面調整 断面三角形	
	32	石 錐	3328	B-10	V	36.27	黒曜石	2.63	1.4	6.0	1.53	自然面を有する縦長剥片(錐部)両面調整 断面三角形	
	33	石 匙	5374	A-11	V	36.371	黒曜石	2.55 ⁺	1.65	0.8	2.82 ⁺	縦型 片面調整欠損	
	34	石 匙	7317	B-9	V	36.43	黒曜石	3.2 ⁺	2.2 ⁺	0.6	3.41 ⁺	縦型(楕円形) 両面調整 欠損	
	35	石 匙	4699	B-13	V	35.118	水 晶	3.7 ⁺	2.9 ⁺	1.1	8.16 ⁺	縦型? 両面調整 欠損	
	36	石 匙	3952	B-10	V	36.174	黒曜石	3.6	3.05	0.6	6.72	縦型(逆三角形) 片面調整	
	37	石 匙	6064	A-10	V	—	蛋白石	3.9	3.2 ⁺	0.7	6.73 ⁺	(二等辺三角形) 両面調整 欠損	
	38	石 匙	2868	A-11	V	36.118	黒曜石	4.25	4.65	1.0	11.74	横型(三角形) 両面調整	
	39	石 匙	3224	A-11	V	36.075	黒曜石	4.25	5.7	1.0	22.19	横型(楕円形) 両面調整	
	第68図	40	石 匙	2981	B-10	V	36.233	黒曜石	3.4	4.22	0.7	8.16	横型(逆三角形) 両面調整
		41	スクレイパー(1)	6845	B-8	V	38.004	チャート	3.8	5.25	1.1	22.97	台形状 底辺部を両面調整
42		スクレイパー(1)	3907	A-11	V	36.064	黒曜石	5.15	5.18	1.6	35.6	台形状 上辺・下辺に片面調整	
43		スクレイパー(1)	7364	B-7	V	38.39	黒曜石	1.85 ⁺	2.0	0.45	2.10 ⁺	上部欠損? 左辺両面・右辺片面調整 石鏃未製品の可能性も有り	
44		スクレイパー(1)	7007	B-10	V	36.22	黒曜石	1.9	1.4	0.25	0.95	(下辺)バルブ部分は両面から調整 他は表裏面からの片面調整	
45		スクレイパー(1)	3374	B-10	V	36.37	水 晶	1.7 ⁺	1.9	0.6	2.02 ⁺	上部欠損 右側縁に両面調整	
46		スクレイパー(1)	6431	A-8	V	37.846	黒曜石	2.9	1.9	0.89	4.1	右側縁に片面調整	
47		スクレイパー(1)	3751	A-11	V	36.029	黒曜石	2.95	1.7	0.83	2.45	右側縁に両面調整	
第69図	48	スクレイパー(1)	3019	B-10	V	36.318	黒曜石	3.6	2.3	1.0	5.82	右側縁に片面調整 先端からの剥離	
	49	スクレイパー(1)	4137	B-12	V	36.19	黒曜石	2.65	2.1	0.8	3.11	左側縁に片面調整 先端からの剥離	
	50	スクレイパー(1)	3689	A-10	V	36.145	黒曜石	3.2	1.3	0.68	1.85	先端部に左右側縁から片面調整	

第17表 石器観察表(2)

挿図	番号	器種	登録番号	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
第 69 図	51	スクレイパー(1)	2904	A-11	V	36.343	黒曜石	2.3	2.1	0.7	2.12	左右側縁に両面調整によるノッチ
	52	ピレスエスキュー	2701	A-10	V	35.973	黒曜石	2.35	2.8	0.8	5.08	
	53	ピレスエスキュー	3099	B-11	V	36.433	黒曜石	2.05	2.25	1.15	3.83	
	54	ピレスエスキュー	5658	A-6	V	39.274	黒曜石	2.5	1.95	1.2	4.86	
	55	ピレスエスキュー	4875	A-10	V	36.091	蛋白石	3.2	1.95	1.1	5.06	
	56	ピレスエスキュー	4074	B-11	V	36.255	黒曜石	2.95	1.6	1.3	5.72	
	57	ピレスエスキュー	3478	A-10	V	35.995	黒曜石	1.85	1.15	0.7	1.16	
	58	ピレスエスキュー	4797	A-10	V	36.013	黒曜石	2.0	1.4	0.65	1.93	
	59	ピレスエスキュー	6387	A-8	V	37.366	水 晶	2.75	1.15	0.8	2.74	
第 70 図	60	加工痕・使用痕剥片	5333	A-11	V	36.001	黒曜石	4.3	2.2	1.2	10.25	
	61	加工痕・使用痕剥片	6118	A-3	V	39.9	黒曜石	3.3	1.9	0.9	5.33	
	62	加工痕・使用痕剥片	4095	B-12	V	36.39	黒曜石	3.1	1.5	0.68	2.43	
	63	加工痕・使用痕剥片	3845	A-11	V	36.084	黒曜石	2.9	2.62	1.2	6.46	
	64	加工痕・使用痕剥片	3013	B-10	V	36.383	黒曜石	4.8	2.0	1.1	7.12	
	65	加工痕・使用痕剥片	2803	A-11	V	36.148	黒曜石	2.88	7.3	6.1	0.77	
	66	加工痕・使用痕剥片	4968	A-10	V	35.906	黒曜石	6.15	4.45	1.1	20.40	
	67	加工痕・使用痕剥片	6034	A-10	V	35.96	黒曜石	5.25	3.8	1.7	29.58	
	68	加工痕・使用痕剥片	5988	A-10	V	36.025	黒曜石	1.43	2.35	0.5	1.08	
第 71 図	69	加工痕・使用痕剥片	4007	B-10	V	36.129	黒曜石	2.7	2.65	0.75	5.09	
	70	加工痕・使用痕剥片	5102	A-11	V	35.916	黒曜石	2.45	1.9	0.75	3.02	
	71	加工痕・使用痕剥片	6707	B-2	V	40.355	黒曜石	3.95	2.85	1.3	10.33	
	72	加工痕・使用痕剥片	7170	A-9	V	36.085	黒曜石	1.5	1.85	0.4	0.78	
	73	加工痕・使用痕剥片	3819	A-11	V	36.319	黒曜石	2.4	1.5	0.52	1.72	
	74	加工痕・使用痕剥片	3108	A-10	V	36.015	黒曜石	2.7	1.32	0.79	2.31	
	75	加工痕・使用痕剥片	4582	A-10	V	36.001	黒曜石	2.35	2.3	3.5	1.81	
	76	加工痕・使用痕剥片	3461	B-11	V	36.14	黒曜石	1.4	1.85	0.3	0.96	
	77	加工痕・使用痕剥片	4127	B-12	V	36.28	黒曜石	2.6	2.5	0.8	4.81	
第 72 図	78	加工痕・使用痕剥片	4837	A-3	V	40.039	黒曜石	2.3	0.95	0.3	0.42	
	79	石 核(1)	3398	B-11	V	36.42	黒曜石	3.9	4.7	1.68	16.83	剥片素材 剥離面打点 打点移動 作業面3
	80	石 核(1)	2627	A-10	V	36.068	黒曜石	2.2	3.0	2.2	12.29	分割礫素材 剥離面打面 頸繫に打点を移動する 多面体の石核
	81	石 核(1)	3483	A-10	V	35.915	黒曜石	2.8	4.2	2.71	22.3	分割角礫素材 剥離 自然面 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	82	石 核(1)	3727	A-11	V	35.944	黒曜石	3.5	3.1	2.15	21.9	角礫素材 自然面打面 90°・180°の打面転移 多面体
	83	石 核(1)	7331	A-9	V	36.04	黒曜石	3.1	3.75	1.25	13.49	(扁平)角礫 自然・剥離面 石核縁辺を打点移動 作業面2
	84	石 核(1)	2743	A-10	V	36.243	黒曜石	1.65	3.72	1.1	6.17	扁平角礫素材 自然・剥離面 90°の打面転移 作業面2
	85	石 核(1)	3533	A-10	V	36.015	黒曜石	2.4	5.1	1.71	21.7	角礫素材 自然面打面 単設打面 単設作業面
	86	石 核(1)	4978	A-10	V	35.856	黒曜石	1.2	3.1	2.7	8.3	扁平角礫素材 自然面打面 単設打面 単設作業面
第 73 図	87	石 核(1)	4454	A-11	V	36.016	黒曜石	1.4	3.65	2.05	7.64	(扁平)角礫 自然・剥離面 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	88	石 核(1)	5342	A-11	V	36.061	黒曜石	2.6	4.0	1.7	19.21	亜角礫素材 自然・剥離面 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	89	石 核(1)	4526	A-10	V	36.021	黒曜石	2.4	3.4	1.4	10.0	亜角礫素材 自然面打面 対向する180°の打面転移 単設作業面
	90	石 核(1)	3642	A-10	V	36.015	黒曜石	2.25	3.1	1.4	8.64	亜角礫素材 自然面打面 対向する180°の打面転移 単設作業面
	91	石 核(1)	5311	A-10	V	35.661	黒曜石	2.45	2.4	1.9	8.2	分割礫素材 剥離面打面 90°の打面転移 作業面2
	92	石 核(1)	4086	B-12	V	36.39	黒曜石	2.65	2.4	2.25	14.96	円礫素材 自然面打面 礫面上を打点移動 作業面3
	93	スクレイパー(2)	7303	B-9	V	36.78	安山岩	7.78	8.7	1.5	105.2	
	94	スクレイパー(2)	4503	A-10	V	36.260	ホルンフェルス	6.25	8.85	1.6	87.96	
	95	スクレイパー(2)	2895	A-11	V	36.178	ホルンフェルス	7.8	15.0	3.65	287.91	
第 74 図	96	スクレイパー(2)	6892	A-8	V	37.371	ホルンフェルス	7.2	5.3	1.1	43.32	
	97	スクレイパー(2)	4663	B-10	V	36.013	ホルンフェルス	8.9	5.1	1.55	79.8	
	98	スクレイパー(2)	3858	A-11	V	36.044	ホルンフェルス	9.4	5.75	2.6	139.0	
	99	スクレイパー(2)	5712	A-3	V	39.99	ホルンフェルス	10.6	8.0	1.9	145.59	
	100	スクレイパー(2)	5293	A-10	V	35.976	ホルンフェルス	9.38	6.9	2.5	94.0	

第18表 石器観察表(3)

挿図	番号	器種	登録号	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
第 75 図	101	スクレイパー(2)	2992	B-10	V	36.338	ホルンフェルス	7.65	6.8	2.4	132.4	
	102	スクレイパー(2)	5959	A-10	V	36.056	ホルンフェルス	6.2	6.7	1.3	62.3	
	103	スクレイパー(2)	4758	A-10	V	36.003	ホルンフェルス	0.9	2.8	1.3	43.2	
	104	磨製石斧	6376	A-8	V	37.144	ホルンフェルス	11.1	5.4	2.5	236.8	
	105	磨製石斧	3690	A-10	V	36.215	ホルンフェルス	13.0	6.0	2.6	281.1	
	106	磨製石斧	5364	A-11	V	36.36	ホルンフェルス	12.7	5.3	3.2	319.8	
	107	磨製石斧	5690	A-2	V	40.14	ホルンフェルス	12.55 ⁺	8.7	2.8	451.0 ⁺	
第 76 図	108	磨製石斧	4078	B-11	V	36.265	蛇紋岩	13.3	5.65	3.6	337.5	
	109	磨製石斧	4077	B-11	V	36.4	ホルンフェルス	8.2 ⁺	4.35	2.7	117.4 ⁺	
	110	磨製石斧	4759	A-10	V	35.963	ホルンフェルス	9.8 ⁺	5.4	3.0	233.3 ⁺	
	111	磨製石斧	4590	A-10	V	36.086	砂 岩	11.0	5.0	2.2	173.3	
	112	磨製石斧	4591	A-10	V	36.066	細粒砂岩	8.5 ⁺	4.45	1.4	68.4 ⁺	
	113	磨製石斧	2774	A-10	V	36.353	ホルンフェルス	7.65 ⁺	4.9	1.9	97.5 ⁺	
	114	磨製石斧	3761	A-11	V	35.989	ホルンフェルス	8.1 ⁺	3.9	1.3	69.8 ⁺	
	115	石斧未製品	3072	B-11	V	36.538	ホルンフェルス	15.9	5.9	3.85	422.0	
	116	石斧未製品	7274	A-9	V	36.24	ホルンフェルス	13.4	6.7	3.2	430.0	
	117	礫 器	3817	A-11	V	36.209	ホルンフェルス	10.9	5.5	3.0	316.0	Ⅳ類 b エ 片刃
118	礫 器	4877	A-10	V	36.181	ホルンフェルス	10.4	4.9	3.8	217.5	Ⅳ類 b カ (片刃)	
第 77 図	119	礫 器	4791	A-10	V	36.023	ホルンフェルス	9.1	10.7	2.4	327.0	Ⅰ類 a エ 片刃
	120	礫 器	4801	B-2	V	40.624	ホルンフェルス	12.9	11.0	3.1	580.0	Ⅱ類 a ア 片刃
	121	礫 器	3737	A-11	V	35.969	ホルンフェルス	7.2	5.4	2.3	100.0	Ⅱ類 a ア 両刃(片刃)
	122	礫 器	4824	A-3	V	40.179	ホルンフェルス	14.8	11.4	5.0	1150.0	Ⅰ類 a エ 両刃?
	123	礫 器	4416	B-10	V	36.34	ホルンフェルス	10.2	10.9	3.8	593.0	Ⅰ類 a カ 片刃
	124	礫 器	6740	B-2	V	40.095	ホルンフェルス	9.3	13.6	3.4	575.0	V類 c エ 片刃
	125	礫 器	2733	A-10	V	36.308	ホルンフェルス	21.3	11.6	7.3	2520.0	Ⅶ類 b ウ 片刃
第 78 図	126	礫 器	7260	A-9	9V	37.05	ホルンフェルス	14.45	4.9	3.75	360.0	Ⅳ類 b オ 両刃
	127	礫 器	4531	A-10	V	36.036	ホルンフェルス	9.0	4.9	1.8	96.0	Ⅵ類 d カ イ? 片刃
	128	礫 器	4380	B-10	V	36.16	ホルンフェルス	11.4	8.43	4.5	486.0	Ⅵ類 d カ カ
	129	礫 器	4498	A-10	V	36.236	ホルンフェルス	13.9	9.0	7.3	893.0	Ⅵ類 d オ 片刃 オ 片刃
	130	礫 器	2926	A-11	V	36.233	頁 岩	6.9	4.5	1.7	68.0	Ⅵ類 d イ 片刃 イ 片刃
	131	磨石・敲石類	4462	A-11	V	36.081	ホルンフェルス	13.1	7.5	2.6	330.0	扁平敲石 一端に敲打による「つぶれ」、剥離
第 79 図	132	磨石・敲石類	5243	A-10	V	36.051	ホルンフェルス	7.8	7.6	2.3	175.0	扁平敲石 底辺に敲打による剥離
	133	磨石・敲石類	2611	A-10	V	36.063	泥 岩	6.6	2.5	1.7	21.78	扁平敲石 一端に敲打による「つぶれ」
	134	磨石・敲石類	3905	A-11	V	36.114	凝灰質シルト岩	9.1	4.7	1.5	85.0	扁平敲石 一端に敲打による剥離
	135	磨石・敲石類	5000	A-10	V	35.921	ホルンフェルス	10.3	5.0	2.3	180.0	扁平敲石 両端及び側縁に「つぶれ」、剥離
	136	磨石・敲石類	4850	A-10	V	36.131	ホルンフェルス	9.5	4.5	3.0	180.6	棒状敲石 一端に敲打による「つぶれ」、剥離
	137	磨石・敲石類	5331	A-11	V	36.076	ホルンフェルス	7.95	4.0	3.45	136.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	138	磨石・敲石類	4785	A-10	V	35.983	ホルンフェルス	10.6	4.15	2.6	180.0	棒状敲石 一端に敲打による「つぶれ」
	139	磨石・敲石類	6003	A-10	V	36.31	ホルンフェルス	27.9	8.2	6.4	1554.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	140	磨石・敲石類	4773	A-10	V	36.053	石 英	5.8	3.3	2.1	53.16	楕円形敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	141	磨石・敲石類	3679	A-10	V	36.075	角閃石輝石安山岩	7.0	4.4	2.8	120.0	楕円形敲石 両端・及び端部近くの表裏面等に「つぶれ」
第 79 図	142	磨石・敲石類	4122	B-12	V	36.32	砂 岩	7.7	5.5	3.0	168.8	楕円形敲石 一端に敲打による剥離、側縁に「つぶれ」
	143	磨石・敲石類	3702	A-10	V	36.245	凝灰質シルト岩	6.1	5.7	2.65	100.0	ストーンリッター 側縁から面上に「つぶれ」、片面磨面、線状痕
	144	磨石・敲石類	4995	A-10	V	35.811	凝灰質シルト岩	7.4	5.9	1.1	55.0	扁平敲石 一端に剥離、側縁から面上に及ぶ平坦な剥離
	145	磨石・敲石類	3713	A-10	V	36.28	輝石安山岩	7.2	6.0	3.5	196.0	楕円形敲石 両端及び側縁に「つぶれ」
	146	磨石・敲石類	3915	A-11	V	36.104	ホルンフェルス	8.3	8.0	2.9	265.0	円形敲石 側縁の一部に敲打による「つぶれ」、剥離
	147	磨石・敲石類	5687	A-2	V	40.1	黒雲母角閃石安山岩	5.1	4.5	4.1	126.0	磨石(円形)部分的磨面・黒化
	148	磨石・敲石類	3393	B-11	V	36.44	石英安山岩	7.0	5.3	3.6	179.0	楕円形敲石 一端に敲打による「つぶれ」、片面に磨面
	149	磨石・敲石類	4507	A-10	V	36.031	角閃石輝石安山岩	7.2	5.4	3.6	210.0	楕円形敲石 両端に敲打による「つぶれ」、片面に磨面
	150	磨石・敲石類	4506	A-10	V	36.096	ホルンフェルス	7.2	4.8	3.7	180.0	楕円形敲石 一端に敲打による「つぶれ」、両面に磨面

第19表 石器観察表(4)

挿図	番号	器種	図録	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
第79図	151	磨石・敲石類	2790	A-11	V	36.013	角閃石輝石安山岩	6.8	5.3	3.0	159.0	楕円形敲石 両端に敲打による「つぶれ」、両面に磨面
	152	磨石・敲石類	3720	A-10	V	36.085	輝石安山岩	5.7	5.2	3.5	152.0	磨石(円形)断面山形、片面に磨面
第80図	153	磨石・敲石類	6004	A-10	V	36.23	輝石安山岩	6.8	6.1	3.0	146.0	円形敲石 側縁の一部に敲打による「つぶれ」
	154	磨石・敲石類	3079	B-11	V	36.463	輝石安山岩	9.6	7.9	4.9	458.0	磨石(楕円形)両面に部分的磨面
	155	磨石・敲石類	7112	B-9	V	36.345	輝石安山岩	9.8	8.2	4.8	530.0	円形敲石 両端及び側縁に「つぶれ」、両面に磨面
	156	磨石・敲石類	3884	A-11	V	36.174	角閃石輝石安山岩	10.2	8.3	5.4	630.0	楕円形敲石 両端及び裏面に「つぶれ」、片面に磨面
	157	磨石・敲石類	3712	A-10	V	36.255	中粒砂岩	7.4	6.2	2.7	181.0	円形敲石 側縁に敲打による「つぶれ」、両面に磨面
	158	磨石・敲石類	5329	A-11	V	35.761	角閃石輝石安山岩	7.7	6.1	3.0	214.0	楕円形敲石 両端・側縁に敲打によるつぶれ、両面に磨面
	159	磨石・敲石類	4522	A-10	V	36.071	角閃石輝石安山岩	9.1	8.5	4.7	00.0	磨石(円形) 両面に磨面
	160	磨石・敲石類	6965	B-9	V	36.57	角閃石輝石安山岩	9.7	9.3	4.2	538.0	円形敲石 一端から側縁にかけて敲打によるつぶれ、両面に磨面
第81図	161	磨石・敲石類	7373	B-8	V	37.66	角閃石輝石安山岩	10.5	10.2	3.5	595.0	円形敲石 側縁敲打による「つぶれ」両面に磨面
	162	磨石・敲石類	6686	B-1	V	40.352	砂岩(含頁岩)	10.5	9.3	4.6	695.0	円形敲石 側面に敲打による「つぶれ」、両面に磨面
	163	磨石・敲石類	3739	A-11	V	35.984	中粒砂岩	11.2	8.0	4.65	620.0	楕円形敲石
	164	磨石・敲石類	2784	A-11	V	36.393	花崗岩	10.0*	7.7	5.5	686.0*	磨石(楕円形) 加熱破碎、表裏・両側面磨面
	165	磨石・敲石類	3754	A-11	V	36.004	輝石安山岩	9.4	8.7	6.4	717.0*	円形敲石 側縁に「つぶれ」「くだけ」、両面磨面
	166	磨石・敲石類	4796	A-10	V	36.013	角閃石輝石安山岩	6.35	4.8	2.5	111.0	磨石(楕円形) 両面に磨面
	167	磨石・敲石類	6894	A-8	V	37.051	角閃石安山岩	4.7	4.7	3.8	119.0	磨石(扁球状) 部分的な磨面
	168	磨石・敲石類	3113	A-10	V	36.05	溶結凝灰岩	5.5*	8.05	4.6	300.0*	敲石 一端に敲打による「つぶれ」両面に磨面上半部欠損
第82図	169	磨石・敲石類	2749	A-10	V	36.218	角閃石輝石安山岩	8.4	8.6	6.1	565.0	磨石(円形) 両面に磨面
	170	磨石・敲石類	4026	B-10	V	36.124	角閃石輝石安山岩	10.75	9.0	6.5	910.0	円形敲石 裏面に敲打による「つぶれ」、両面磨面
	171	磨石・敲石類	6972	B-9	V	36.45	角閃石安山岩	9.5	7.6	4.9	525.0	楕円形敲石 両端側縁表面上に「つぶれ」、両面に磨面
	172	磨石・敲石類	3375	B-10	V	36.36	角閃石安山岩	9.3	8.3	4.0	395.0	円形敲石 側縁の一部に「つぶれ」、片面の一部に磨面
	173	磨石・敲石類	6971	B-9	V	36.465	角閃石輝石安山岩	11.5	8.7	5.1	744.0	楕円形敲石 両端側縁裏面上に「つぶれ」、両面に磨面
	174	磨石・敲石類	3917	A-11	V	36.049	中粒砂岩	11.35	7.75	4.6	665.0	楕円形敲石 両端側縁表裏面上に「つぶれ」、表裏磨面
第83図	175	磨石・敲石類	7360	B-8	V	37.98	角閃石輝石安山岩	10.7	9.5	6.6	933.0	円形敲石 表裏面に磨面、表裏面に敲打根による「つぶれ」
	176	磨石・敲石類	7295	B-10	V	36.035	輝石安山岩	12.3	10.5	5.9	516.0	凹石 表裏に凹み側縁に「つぶれ」、表裏面はわずかに磨滅か?
	177	磨石・敲石類	2875	A-11	V	36.158	角閃石安山岩	10.8	9.4	5.95	900.0	凹石 側面に「つぶれ」、表裏面に浅い窪み、両面磨面
	178	磨石・敲石類	7100	B-9	V	36.245	角閃石輝石安山岩	12.5	11.3	4.6	900.0	凹石 側面に敲打による「つぶれ」、表面上に浅い窪み
	179	砥石類	4980	A-10	V	35.906	砂 岩	6.9*	6.5*	2.8*	130.0*	
第84図	180	砥石類	4623	B-10	V	36.001	ホルンフェルス	6.7	6.3	3.25	258.0	
	181	砥石類	2944	A-11	V	36.248	ホルンフェルス	7.1	8.5	2.0	170.0	
	182	砥石類	4753	A-10	V	36.183	輝石安山岩	9.2	5.45	1.75	144.0	
	183	砥石類	6793	B-3	V	39.89	砂 岩	9.3	6.7	0.7	63.0	
	184	砥石類	4798	A-10	V	36.053	砂 岩	7.2*	9.9*	5.1*	427.0*	
	185	石 皿	4121	B-12	V	36.335	輝石安山岩	13.1*	14.5*	4.5*	1140.0*	
第85図	186	石 皿	4595	A-10	V	36.041	角閃石輝石安山岩	14.2*	13.0*	7.2*	1750.0*	
	187	石 皿	2886	A-11	V	36.268	ホルンフェルス	16.9*	14.8	5.5	1620.0*	
	188	石 皿	4363	B-10	V	36.21	角閃石輝石安山岩	13.5*	9.1*	5.1*	1057.0*	
	189	石 皿	3836	A-11	V	36.179	角閃石輝石安山岩	28.3	17.0	6.8	4400.0	
	190	石 皿	3049	B-10	V	36.528	輝石安山岩	26.4	25.1	9.4	8100.0	
第89図	191	石 鏃	2715	A-10	IV	36.093	黒曜石	1.9	1.4	0.3	0.65	凹基 鏃形鏃
第89図	192	石 鏃	1906	B-12	IV	36.539	黒曜石	1.8*	1.6	0.42	0.92*	凹基 二等辺三角鏃 先端部欠損
	193	石 鏃	3097	B-11	IV	36.653	瑪 瑙	1.8	1.0	0.22	0.30	凹基 (細身)
	194	石 鏃	1435	A-11	IV	36.409	黒曜石	1.5	1.45	0.21	0.24	浅い凹基 三角鏃
	195	石 鏃	4251	B-3	IV	40.279	黒曜石	1.5	1.2	0.21	0.29	浅い凹基 小型三角鏃
	196	石 鏃	6319	A-9	IV	36.579	黒曜石	1.3	1.25	0.3	0.28	浅い凹基 小型三角鏃
	197	石 鏃	1431	A-11	IV	36.394	黒曜石	1.1	1.5	0.25	0.22	浅い凹基 幅広三角鏃
	198	石 鏃	1655	A-11	IV	36.299	黒曜石	1.05*	1.21	0.3	0.26*	平基小型 小型三角鏃 先端部欠損
	199	石 槍	9	A-8	IV	37.959	黒曜石	5.4	2.5	1.6	13.13	両側縁からの両面調整
	200	石 錐	1497	A-11	IV	36.289	黒曜石	2.3	1.6	0.55	1.58	表裏の剥片剥離軸の異なる剥片(錐部)両面・片面調整 五角形

第20表 石器観察表(5)

挿図	番号	器種	登録	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
第 89 図	201	石 錐	6712	B-3	IV	40.44	黒曜石	2.5	1.55	0.8	2.43	厚手の縦長剥片(錐部)両面調整 菱形?
	202	石 匙	1134	B-12	IV	36.32	蛋白石	3.2	1.9	4.0	1.73	縦型 片面調整
	203	石 匙	2329	A-10	IV	36.219	蛋白石	4.6	2.7	1.55	15.82	縦型 片面調整
	204	石 匙	6747	B-3	IV	36.219	チャート	2.6	3.35	0.7	3.78	横型(扁平二等辺三角形)両面調整
	205	石 匙	0755	A-11	IV	36.345	チャート	2.65	5.05	0.45	5.88	横型(凸レンズ型)両面調整
第 90 図	206	石 匙	1791	B-11	IV	36.479	黒曜石	2.0	2.45 ⁺	0.6	1.86 ⁺	横型(凸レンズ型)両面調整 右端部欠損
	207	石 匙	1654	A-11	IV	36.334	チャート	2.8	3.24	0.96	6.25	横型(三角形)両面調整
	208	石 匙	6534	B-9	IV	36.605	黒曜石	2.45	2.35 ⁺	6.8	2.91 ⁺	横型 両面調整 左側欠損
	209	石 匙	5568	A-3	IV	40.114	頁 岩	4.1	5.1	1.1	15.15	横型(楕円形)両面調整
	210	スクレイパー(1)	1462	A-11	IV	36.244	黒曜石	2.95	3.4	1.4	11.4	
第 91 図	211	スクレイパー(1)	787	A-11	IV	36.325	黒曜石	5.0	4.3	2.1	37.72	
	213	スクレイパー(1)	1735	B-11	IV	36.53	粘板岩	5.15	7.45	0.4	16.85	
	214	スクレイパー(1)	7408	A-9	IV	36.87	黒曜石	5.2	3.63	0.29	11.02	
	215	スクレイパー(1)	6145	A-3	IV	40.015	黒曜石	2.3	2.45	0.64	3.07	
	216	ピュエスキュー	2671	A-10	IV	35.998	黒曜石	2.5	2.45	1.31	6.72	
	217	ピュエスキュー	1949	B-12	IV	36.324	黒曜石	3.5	1.45	0.98	3.48	
	218	ピュエスキュー	1870	B-11	IV	36.524	黒曜石	2.9	1.9	1.3	6.83	
	219	ピュエスキュー	547	B-11	IV	36.62	ハリ質安山岩	1.85	1.22	0.65	1.85	
	220	加工痕-使用痕剥片	5713	A-3	IV	36.87	黒曜石	2.75	2.15	0.75	2.87	
	221	加工痕-使用痕剥片	6601	A-9	IV	40.015	黒曜石	2.6	2.4	0.35	1.84	
	第 92 図	222	石 核(1)	993	B-11	IV	36.565	黒曜石	5.3	3.5	2.45	34.7
223		石 核(1)	1975	B-12	IV	36.254	黒曜石	3.6	4.7	3.1	46.37	角礫素材 自然-剥離面 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
224		石 核(1)	1391	A-10	IV	38.905	黒曜石	2.05	3.1	2.25	14.93	剥離面打面 90°の打面転移、両刃状に剥離
225		石 核(1)	1224	B-10	IV	36.395	黒曜石	2.2	4.3	1.22	10.51	分割剥片素材 剥離面打面 90°の打面転移 表裏に作業面
226		石 核(1)	6111	A-3	IV	39.9	黒曜石	4.35	2.95	1.9	18.93	分割礫素材 自然-剥離面 180°の打面点移 表裏に作業面
227		石 核(1)	2734	A-10	IV	36.248	黒曜石	2.9	2.7	2.4	11.22	亜角礫素材 自然面打面 対向する80°の打面点移 単設作業面
228		石 核(1)	5627	A-5	IV	39.494	黒曜石	2.3	2.5	2.0	11.52	剥離面打面 90°単位の打面転移 多面体石核
229		石 核(1)	2321	A-10	IV	36.149	黒曜石	2.8	3.2	2.3	20.68	剥離面打面 不規則な打面転移
230		石 核(1)	6112	A-3	IV	39.93	黒曜石	2.35	3.2	2.2	18.0	剥離面打面 90°単位の打面転移 多面体石核
第 94 図	231	石 核(1)	2094	A-10	IV	36.264	黒曜石	9.6	11.5	9.55	983.0	大型亜角礫素材 剥離面打面 90°の打面転移 単設作業面
	232	スクレイパー(2)	4314	B-10	IV	40.279	粘板岩	4.45	5.3	0.71	16.2	
	233	スクレイパー(2)	1737	B-11	IV	36.53	ホルンフェルス	8.45	6.7	1.0	40.51	
	234	スクレイパー(2)	1374	A-2	IV	40.555	ホルンフェルス	5.2	8.2	1.3	68.48	
第 95 図	235	スクレイパー(2)	6300	A-9	IV	36.945	粘板岩	7.91	5.0	1.8	59.3	
	236	スクレイパー(2)	501	B-10	IV	36.435	ホルンフェルス	7.3	7.2	1.8	98.98	
	237	スクレイパー(2)	474	B-10	IV	36.595	ホルンフェルス	7.2	6.8	1.9	96.5	
	238	スクレイパー(2)	1726	B-11	IV	36.595	ホルンフェルス	9.0	8.35	2.3	175.0	
	239	磨製石斧	4901	A-10	IV	36.17	砂質ホルンフェルス	7.9 ⁺	5.6 ⁺	3.5 ⁺	180.0 ⁺	
	240	磨製石斧	1925	B-12	IV	36.629	ホルンフェルス	10.2 ⁺	5.15 ⁺	2.8 ⁺	187.0 ⁺	
	241	磨製石斧	5634	A-6	IV	39.644	ホルンフェルス	11.9	4.4	1.85	147.7	
	242	石斧未製品	5640	A-6	IV	39.469	ホルンフェルス	14.1	5.5	2.2	165.0	
	243	石斧未製品	5106	A-7	IV	38.387	ホルンフェルス	18.9	8.8	4.2	765.0	
第 96 図	244	石斧未製品	834	A-11	IV	36.49	ホルンフェルス	19.6	6.62	2.3	337.0	
	245	石斧未製品	2856	A-11	IV	36.238	ホルンフェルス	17.65	6.95	4.83	550.0	
	246	礫 器	570	A-10	IV	36.375	ホルンフェルス	7.2	5.2	2.2	103.0	Ⅲ類 a イ 両刃
	247	礫 器	1954	B-12	IV	36.404	ホルンフェルス	10.0	4.6	2.25	133.0	Ⅳ類 b カ
	248	礫 器	2157	A-10	IV	36.279	ホルンフェルス	9.4	6.8	2.2	200.0	Ⅰ類 a オ 両刃
	249	礫 器	529	B-11	IV	36.64	ホルンフェルス	10.1	6.3	2.0	175.0	Ⅱ類 b(扁平) ア 片刃
	250	礫 器	4212	A-2	IV	40.669	ホルンフェルス	13.35	9.6	3.6	597.0	Ⅰ類 a エ 片刃?
251	礫 器	1994	A-11	IV	36.224	ホルンフェルス	12.3	9.3	3.4	515.0	Ⅰ類 a エ 片刃	

第21表 石器観察表(6)

挿図	番号	器種	器碼	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
第97 図	252	礫器	6570	A-9	IV	37.03	ホルンフェルス	11.8	9.7	2.7	400.0	I類 a エ 片刃
	253	礫器	2199	A-10	IV	36.294	ホルンフェルス	12.6	11.6	3.4	550.0	I類 a エ 片刃
	254	礫器	1786	B-11	IV	36.509	ホルンフェルス	16.75	11.4	4.58	1010.0	IV類 b(扁平) オ 片刃
	255	礫器	2169	A-10	IV	36.329	ホルンフェルス	13.3	10.5	3.1	575.0	II類 a ア 両刃(片刃)
	256	礫器	1823	B-11	IV	36.599	ホルンフェルス	22.1	10.1	3.1	910.0	IV類 b(扁平) オ 片刃
	257	礫器	2200	A-10	IV	36.249	ホルンフェルス	18.0	8.3	4.2	880.0	III類 b イ 片刃
第98 図	258	礫器	451	B-10	IV	36.6	ホルンフェルス	14.35	8.5	5.3	785.0	IV類 b(扁平) エ 片刃
	259	礫器	4052	B-10	IV	36.649	ホルンフェルス	18.9	10.4	6.3	1300.0	III類 b イ 片刃
	260	礫器	5667	A-6	IV	39.489	ホルンフェルス	11.3	17.0	3.5	495.0	VIII類 e カ オ 片刃
第98 図	261	礫器	475	B-10	IV	36.555	ホルンフェルス	10.1	11.2	4.3	545.0	VIII類 e カ エ両刃
	262	礫器	2361	A-10	IV	36.119	ホルンフェルス	6.6	2.7	1.1	23.43	VI類 d カ カ
	263	礫器	5131	A-8	IV	37.917	ホルンフェルス	7.15	3.5	1.2	41.0	VI類 d カ ア両刃(片刃)
	264	礫器	1584	A-11	IV	36.279	ホルンフェルス	9.9	5.7	1.9	155.45	VI類 d オ片刃 カ
	265	礫器	730	A-11	IV	36.325	ホルンフェルス	9.6	4.7	3.75	206.4	VI類 d カ イ両刃
第99 図	266	礫器	4299	A-3	IV	40.519	ホルンフェルス	16.5	5.6	3.0	34.5	IV類 b オ片刃
	267	礫器	478	B-10	IV	36.53	ホルンフェルス	10.0	9.0	2.2	240.0	VIII類(欠損) ア 片刃
	268	礫器	1828	B-11	IV	36.494	ホルンフェルス	9.6	8.15	2.48	248.0	VI類 d オ両刃 イ両刃
	269	礫器	1815	B-11	IV	36.484	ホルンフェルス	12.6	10.2	2.9	452.0	VI類 a ア平刃 オ片刃
	270	礫器	844	A-11	IV	36.535	ホルンフェルス	15.8	10.1	2.6	480.0	VI類 b(扁平) イ両刃 ア片刃
	271	礫器	4840	A-3	3IV	40.219	ホルンフェルス	17.9	11.5	3.8	986.0	VI類 d(扁平) エ片刃 エ片刃
第100 図	272	礫器	2501	B-1	IV	40.835	ホルンフェルス	14.9	8.6	3.8	575.0	VI類 d カ ウ両刃
	273	礫器	482	B-10	IV	36.505	粘板岩	7.1	12.1	3.0	167.0	VIII類 b イ片刃
	274	磨石・敲石類	1448	A-11	IV	36.324	ホルンフェルス	13.1	5.3	1.45	140.0	扁平敲石 一端に敲打による「つぶれ」、一端に剥離
	275	磨石・敲石類	6681	B-1	IV	40.402	輝石安山岩	5.1	5.1	3.7	170.5	円形敲石 側面に敲打による「つぶれ」、表裏に部分的磨面
	276	磨石・敲石類	5159	A-8	IV	37.647	粗粒砂岩	4.6 ⁺	5.8 ⁺	2.9	103.0 ⁺	敲石 一端に敲打による「つぶれ」、表面磨面
	277	磨石・敲石類	6641	B-1	IV	40.52	輝石安山岩	6.6	5.9	5.9	330.3	円形敲石 敲打による「つぶれ」、部分的磨面がある
	278	磨石・敲石類	6255	B-9	IV	37.155	輝石安山岩	13.6	11.2	3.7	955.0	楕円形敲石 両端・側縁に敲打による「つぶれ」、両面磨面
	279	磨石・敲石類	2578	A-10	IV	36.143	中粒砂岩	9.8	8.9	4.4	565.0	円形敲石 側面に敲打による「つぶれ」、両面に磨面
第101 図	280	磨石・敲石類	2478	A-1	IV	40.655	雲母角閃石安山岩	10.5	9.2	5.0	670.0	磨石(楕円形) 両面に弱い磨面
	281	磨石・敲石類	2541	A-1	IV	40.722	輝石安山岩	9.4	8.5	4.3	129.0	楕円形敲石 一端・表面に敲打による「つぶれ」、表面に磨面
	282	磨石・敲石類	1761	B-11	IV	36.55	輝石安山岩	11.55	7.8 ⁺	5.8	680.4 ⁺	敲石 側縁に敲打による「つぶれ」、片面に磨面、欠損
	283	磨石・敲石類	1749	B-11	IV	36.52	花崗岩	6.05 ⁺	11.5	5.1	460.5 ⁺	敲石 側縁に敲打による「つぶれ」、片面に磨面、欠損
	284	磨石・敲石類	7508	B-7	IV	38.785	角閃石安山岩	9.1	8.7	5.6	650.9	円形敲石 側縁・表面に敲打による「つぶれ」、裏面に磨面
	285	磨石・敲石類	6668	B-1	IV	40.433	輝石安山岩	4.4	7.5	3.9	360.5	磨石(楕円形) 片面に弱い磨面
	286	石 皿	5538	B-13	IV	36.283	角閃石輝石安山岩	18.2	17.4	4.6	2075.0	
第102 図	287	石 核(2)	1825	B-11	IV	36.599	ホルンフェルス	18.1	10.4	7.5	1850.0	
	288	石 核(2)	1797	B-11	IV	36.629	ホルンフェルス	29.7	8.4	2.9	1070.0	
	289	線刻礫	2380	A-10	IV	36.329	凝灰質シルト岩	8.25	3.3	0.95	34.46	
	290	石 鏃	1310	B-1	III	40.985	黒曜石	2.25	1.5 ⁺	0.4	1.14 ⁺	(凹基) 右脚部欠損
第103 図	291	石 鏃	362	B-11	III	36.732	黒曜石	1.3 ⁺	1.65	0.5	0.88 ⁺	平基 先端部欠損
	292	石 匙	232	B-11	III	36.752	黒曜石	1.9	2.8	0.72	2.79	横型(凸レンズ型) 両面調整
	293	石 匙	335	B-10	III	36.757	黒曜石	3.4	3.2 ⁺	0.8	9.64 ⁺	縦型 両面調整 左端部欠損
	294	石 匙	一括	A-9	III	—	チャート	3.9 ⁺	4.1	0.73	13.27 ⁺	縦型? 両面調整 下端欠損
	295	スクレイパー(1)	一括	A-9	III	36.46	黒曜石	3.5	3.0	0.55	6.37	
	295	スクレイパー(2)	390	B-12	III	36.637	ホルンフェルス	4.1	8.0	1.05	32.41	横長楕円形の剥片の下縁に、細かい剥離調整、刃部はやや磨耗
	296	スクレイパー(2)	5575	A-3	III	40.214	ホルンフェルス	5.55	7.45	1.12	64.07	横長方形の剥片の上辺・下辺に両面からの剥離調整
	297	礫器	56	A-10	III	36.757	ホルンフェルス	13.5	12.1	3.5	720.0	扁平な礫の一端に尖頭状の刃部
	298	礫器	602	A-10	III	36.57	ホルンフェルス	26.3	7.7	4.7	1380.0	縦長の棒状礫の一端に片刃の刃部
	299	礫器	一括	B-9	III	—	ホルンフェルス	6.45	5.0	1.9	73.5	扁平な小礫の両端に刃部
300	礫器	816	A-11	III	36.36	ホルンフェルス	11.1	10.2	4.1	490.0	扁平な礫の一辺に直線的な刃部	

第22表 石器観察表(7)

挿図	番号	器種	登録号	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
第103	301	磨石・敲石類	1154	B-12	Ⅲ	36.415	ホルンフェルス	7.5	1.8	1.55	24.29	ストーン・リタッチャー
	302	加工痕・使用痕剥片	6045	A-5	Ⅶ	38.715	黒曜石	1.7	1.9	1.0	2.6	表裏に二次的な剥離 ピエスエスキューの折れか
	303	加工痕・使用痕剥片	5520	A-10	Ⅶ	34.88	黒曜石	2.6	1.7	0.8	3.53	表裏に二次的な剥離
	304	加工痕・使用痕剥片	6172	A-4	Ⅶ	39.022	硅質流紋岩	2.2	1.85	0.9	6.6	平面長方形 一側縁は折れ 表裏に縁辺からの二次的剥離
	305	礫 器	6175	A-4	Ⅶ	38.732	ホルンフェルス	15.57	13.3	2.75	725.0	平面楕円形の扁平な礫 両端つぶれ
	306	磨石・敲石類	5452	B-1	Ⅶ	39.737	凝灰質シルト岩	9.9	3.7	1.1	60.0	扁平敲石 両端に「つぶれ」、側縁に「つぶれ」、キズリタッチャー
	307	磨石・敲石類	6187	A-4	Ⅶ	38.937	ホルンフェルス	3.92	3.43	3.22	54.75	円形敲石 偏球状の礫面に敲打痕
	308	石 鏃	7003	B-9	V	36.245	黒曜石	1.0 ⁺	0.95 ⁺	0.2	0.22 ⁺	下半部を欠損 未製品の可能性有り
	309	石 鏃	5299	A-10	V	35.851	黒曜石	1.3	1.25	0.45	0.58	平基 小型三角鏃
	310	石 鏃	5260	A-10	V	35.756	黒曜石	1.3	1.1 ⁺	0.4	0.34 ⁺	平基 型三角鏃 基底右側を欠損
	311	石鏃未製品	5005	A-10	V	35.851	黒曜石	1.7	1.55	0.3	0.62	形状調整工程からの移行段階?
	312	石鏃未製品	7317	B-9	V	36.43	硅質流紋岩	2.3	2.15	0.6	2.09	形状調整工程からの移行段階?
	315	石鏃未製品	5394	A-10	V	35.691	黒曜石	1.3	1.0	0.3	0.43	形状調整工程中の欠損?
	316	石 錐	6159	A-3	V	39.765	黒曜石	2.3	1.7	0.7	1.93	先細りの縦長剥片(錐部)側・片面調整 断面三角形
	317	スクレイパー(1)	3081	B-11	V	36.488	硅質流紋岩	6.1	4.2	1.4	36.13	横長の厚みのある剥片 末端辺に片面調整の粗雑な刃部
	318	ピエスエスキュー	3556	A-10	V	36.095	黒曜石	2.2	1.25	0.5	1.36	破片
	319	ピエスエスキュー	6377	A-8	V	37.071	黒曜石	1.9	1.2	0.4	0.64	破片
	320	ピエスエスキュー	3525	A-10	V	35.995	黒曜石	2.6	1.15	0.65	1.36	破片
	321	ピエスエスキュー	3535	A-10	V	35.975	黒曜石	1.9	1.9	0.9	2.85	欠損 (四辺形)
	322	ピエスエスキュー	3686	A-10	V	36.165	黒曜石	2.35	1.9	1.3	5.15	欠損 (四辺形)
	323	ピエスエスキュー	3582	A-10	V	36.155	黒曜石	1.7	1.35	0.75	2.15	欠損 (四辺形)
	324	ピエスエスキュー	6152	B-2	V	40.01	黒曜石	2.4	0.55	0.8	2.81	四辺形
	325	ピエスエスキュー	4677	B-11	V	36.15	黒曜石	2.3	0.95	0.6	1.37	紡錘形
	326	ピエスエスキュー	4938	A-10	V	35.796	黒曜石	2.3	0.9	0.4	0.61	破片
	327	ピエスエスキュー	5259	A-10	V	35.741	黒曜石	2.2	1.6	0.1	2.49	欠損 (四辺形)
	328	ピエスエスキュー	4682	B-12	V	36.395	黒曜石	0.9	0.8	0.4	0.57	四辺形
	329	ピエスエスキュー	4021	B-10	V	36.189	黒曜石	1.65	0.8	0.7	0.83	欠損 (三角形)
	330	ピエスエスキュー	5011	A-10	V	35.896	黒曜石	2.3	0.95	0.7	1.34	破片
	331	ピエスエスキュー	4100	B-12	V	36.195	黒曜石	2.3	0.9	0.35	0.75	破片
	332	ピエスエスキュー	4908	A-10	V	35.766	黒曜石	1.8	0.9	0.9	1.58	欠損 (三角形)
	333	ピエスエスキュー	3621	A-10	V	36.065	黒曜石	2.4	1.6	1.2	3.9	四辺形
	334	ピエスエスキュー	4091	B-12	V	36.435	黒曜石	2.2	1.6	0.7	1.86	四辺形
	335	ピエスエスキュー	7397	A-8	V	37.095	黒曜石	1.7	1.15	0.5	0.73	破片
	336	ピエスエスキュー	4839	A-3	V	40.399	黒曜石	1.9	1.15	0.3	0.46	破片
	337	加工痕・使用痕剥片	4206	B-13	V	35.965	黒曜石	1.4	1.85	0.6	1.79	一辺の表裏に、対辺に向かう剥離 刃部に「つぶれ」
	338	加工痕・使用痕剥片	2755	A-10	V	36.278	黒曜石	2.5	2.15	0.8	2.84	剥片側面からの一回の剥離で刃部を形成、微小剥離
	339	加工痕・使用痕剥片	6688	B-1	V	40.27	黒曜石	2.4	2.3	1.9	5.19	背面に自然面を有する剥片、側縁からの調整で四辺形に加工 欠損
	340	加工痕・使用痕剥片	7369	B-8	V	37.87	硅質流紋岩	2.6	1.7	1.0	4.95	四辺形 上下辺に階段状の剥離 ピエスエスキューの可能性あり
	341	加工痕・使用痕剥片	3427	B-11	V	36.45	黒曜石	1.35	1.5	0.6	0.96	表裏に剥離調整。スクレイパー? 欠損
	342	加工痕・使用痕剥片	5024	A-10	V	35.966	黒曜石	0.9	1.05	0.35	0.44	表裏に剥離調整。欠損
	343	加工痕・使用痕剥片	5819	A-11	V	36.26	黒曜石	1.4	1.1	0.85	1.3	対向する剥離 ピエスエスキューの可能性あり
	344	加工痕・使用痕剥片	6082	A-4	V	39.74	黒曜石	1.7	1.2	0.6	1.06	表裏に二次的な剥離痕 欠損
	345	加工痕・使用痕剥片	5676	B-5	V	39.174	黒曜石	3.65	2.0	1.05	5.41	縁辺の一部に表裏からの剥離痕 スクレイパー? 欠損
	346	加工痕・使用痕剥片	3216	A-11	V	36.065	黒曜石	1.4	1.0	0.4	0.48	剪断剥片 側面に微小剥離
	347	加工痕・使用痕剥片	5686	B-6	V	39.01	黒曜石	2.5	1.2	0.55	1.62	剪断剥片 対向する剥離 ピエスエスキュー破片?
	348	加工痕・使用痕剥片	5024	A-10	V	35.966	黒曜石	1.35	2.5	0.75	1.36	微小剥離 小剥離
	349	加工痕・使用痕剥片	2991	B-10	V	36.348	黒曜石	1.9	1.65	0.7	1.59	微小剥離 線状痕 稜上の磨耗
	350	加工痕・使用痕剥片	3432	B-11	V	36.4	黒曜石	2.3	3.1	0.9	4.61	微小剥離 線状痕(横)
	351	加工痕・使用痕剥片	7254	A-8	V	37.07	黒曜石	1.2	1.65	0.4	0.84	微小剥離
	352	加工痕・使用痕剥片	4921	A-10	V	35.931	黒曜石	1.5	1.4	0.55	0.62	微小剥離

第23表 石器観察表(8)

挿図	番号	器種	登録号	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
	353	加工痕・使用痕剥片用	4765	A-10	V	36.073	黒曜石	1.7	2.1	0.8	1.73	微小剥離 線状痕
	354	加工痕・使用痕剥片用	2731	A-10	V	36.133	黒曜石	1.3	2.3	0.65	1.34	微小剥離 小剥離
	355	加工痕・使用痕剥片用	4920	A-10	V	35.976	黒曜石	1.6	1.1	0.5	0.67	線状痕
	356	加工痕・使用痕剥片用	2531	B- 1	V	40.522	黒曜石	4.9	3.3	1.65	20.51	微小剥離 線状痕
	357	加工痕・使用痕剥片用	4908	A-10	V	35.766	黒曜石	3.0	1.2	0.9	1.89	先端部の微小剥離
	358	加工痕・使用痕剥片用	3900	A-11	V	36.109	黒曜石	2.45	1.75	1.0	3.36	上下端に使用痕剥離 微小剥離
	359	加工痕・使用痕剥片用	4365	B-10	V	36.145	黒曜石	1.3	1.7	0.8	2.07	微小剥離 線状痕 刃部の磨耗
	360	加工痕・使用痕剥片用	2704	A-10	V	36.108	黒曜石	2.9	2.25	1.35	7.12	厚手の剥離 線状痕 微小剥離
	361	加工痕・使用痕剥片用	4600	A-10	V	36.031	黒曜石	2.3	1.7	0.9	2.61	微小剥離 刃部のつぶれ 線状痕
	362	加工痕・使用痕剥片用	5291	A-10	V	35.876	黒曜石	2.25	1.25	0.7	2.19	対向する剥離, ピエス・エスキューカ?
	363	加工痕・使用痕剥片用	5389	A-10	V	35.711	黒曜石	2.2	2.3	1.15	4.36	背面に自然面 線状痕 微小剥離
	364	加工痕・使用痕剥片用	6160	A- 3	V	39.675	黒曜石	1.75	1.5	4.5	0.86	刃部に平行する線状痕 微小剥離(折れ)
	365	加工痕・使用痕剥片用	3555	A-10	V	36.095	黒曜石	1.2	1.85	0.5	0.63	線状痕 微小剥離(折れ)
	366	加工痕・使用痕剥片用	6123	A- 3	V	39.865	黒曜石	2.0	1.85	1.1	5.12	小剥離 微小剥離 線状痕刃部磨耗(折れ)
	367	加工痕・使用痕剥片用	3873	A-11	V	36.009	黒曜石	1.95	1.6	0.9	2.32	小剥離 線状痕 微小剥離
	368	加工痕・使用痕剥片用	4456	A-11	V	36.081	黒曜石	1.3	1.9	0.45	1.05	小剥離 微小剥離 ピエスエスキューの折れ
	369	加工痕・使用痕剥片用	6821	B- 7	V	38.471	黒曜石	1.8	1.95	0.8	2.0	線状痕 連続する小剥離 背面に自然面(折れ)
	370	加工痕・使用痕剥片用	5435	A-11	V	36.001	黒曜石	1.25	1.05	0.4	0.5	微小剥離 線状痕
	371	加工痕・使用痕剥片用	3427	B-11	V	36.41	黒曜石	2.05	1.05	0.45	0.83	線状痕 微小剥離 石鏃未製品・錐
	372	加工痕・使用痕剥片用	4598	A-10	V	36.076	黒曜石	1.95	1.4	0.65	1.38	微小剥離
	373	加工痕・使用痕剥片用	3429	B-11	V	36.375	黒曜石	1.7	1.2	0.9	1.61	剪断剥離 ピエスエスキューの破片か?
	374	加工痕・使用痕剥片用	4101	B-12	V	36.2	黒曜石	1.3	1.55	0.5	0.69	線状痕 微小剥離 (折れ)石鏃?
	375	加工痕・使用痕剥片用	6795	B- 3	V	39.735	黒曜石	1.95	1.5	0.8	1.67	先端から延びる線状痕 微小剥離
	376	加工痕・使用痕剥片用	4106	B-12	V	36.42	黒曜石	1.95	1.5	0.7	1.18	微小剥離 小剥離 線状痕
	377	加工痕・使用痕剥片用	4180	B-13	V	35.505	黒曜石	1.8	2.8	0.9	2.19	線状痕 微小剥離 自然面を剥片
	378	加工痕・使用痕剥片用	2854	A-11	V	36.143	黒曜石	3.05	1.5	0.85	3.05	線状痕 先端部の剥離
	379	加工痕・使用痕剥片用	5260	A-10	V	1.95	黒曜石	1.95	1.15	0.5	0.71	先端からの剥離
	380	石 核(1	6014	A-10	V	36.03	黒曜石	2.9	3.3	2.6	21.0	剥離面打面 頻繁な打点移動 多面体石核
	381	石 核(1	2681	A-10	V	36.028	ガラス質流紋岩	4.0	5.9	1.2	30.14	剥片素材 剥離面打面石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	382	石 核(1	2791	A-11	V	36.223	黒曜石	7.9	3.4	1.7	8.96	扁平角礫素材 自然面打面単設打面 単設作業面
	383	石 核(1	7489	A- 9	V	36.06	黒曜石	2.5	2.1	1.8	9.55	分割礫素材 剥離面・自然面 90°の打面転移 作業面2
	384	石 核(1	4189	B-13	V	35.935	黒曜石	1.8	1.9	1.6	5.25	角礫素材 剥離面・自然面 90°18°の打面転移 多面体石核
	385	石 核(1	4536	A-10	V	35.961	黒曜石	1.0	2.5	1.7	3.45	分割礫素材剥離面打面 90°の打面転移 作業面3
	386	石 核(1	7116	B- 9	V	36.41	黒曜石	1.25	2.1	1.9	4.36	分割礫素材剥離面打面 一端から遠方向への剥離 作業面2
	387	石 核(1	2914	A-11	V	36.263	黒曜石	2.65	3.15	1.2	11.49	扁平角礫 自然面・剥離面 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	388	石 核(1	5080	A-11	V	35.951	黒曜石	2.4	3.0	1.6	11.35	亜円礫素材自然面打面 90°の打点移動 作業面2
	389	石 核(1	3783	A-11	V	36.079	黒曜石	1.4	3.1	1.5	4.24	剥片素材 剥離面打面 180°の打面移動 作業面2
	390	石 核(1	4515	A-10	V	36.001	黒曜石	1.5	1.6	1.8	4.77	亜角礫素材 自然面打面 単設打面 単設作業面
	391	石 核(1	3774	A-11	V	36.009	黒曜石	1.3	1.9	0.95	2.66	扁平角礫素材 自然面打面 単設打面 単設作業面
	392	石 核(1	6808	B- 7	V	38.943	黒曜石	2.55	2.3	1.7	9.86	剥離面打点 頻繁な打面転移 多面体石核
	393	石 核(1	4913	A-10	V	35.951	黒曜石	1.2	2.0	1.3	2.82	分割礫素材? 自然面打面 単設打面 単設作業面
	394	石 核(1	6147	A- 4	V	39.71	黒曜石	3.1	4.1	1.9	23.87	分割礫素材 自然面・剥離面 石核縁辺を打点移動 単設作業面
	395	石 核(1	7290	A- 9	V	36.065	黒曜石	2.4	2.8	2.2	13.09	分割角礫 剥離面打面 90°単位の打面転移 多面体石核
	396	石 核(1	3010	B-10	V	36.368	黒曜石	2.7	3.3	1.6	13.67	角礫素材 剥離面打点 90°単位の打面転移 作業面4
	397	石 核(1	4944	A-10	V	35.856	黒曜石	1.8	2.4	1.0	3.84	分割礫素材 剥離面打点 90°の打面転移 単設作業面
	398	石 核(1	2903	A-11	V	36.373	黒曜石	3.1	2.2	1.9	13.42	分割礫素材 剥離面打点 単設打面 作業面3
	399	石 核(1	6531	B- 9	V	36.35	黒曜石	2.9	3.2	1.6	10.02	分割礫素材 剥離面打点 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	400	石 核(1	6720	B- 2	V	40.28	黒曜石	2.5	2.6	2.3	14.00	分割礫素材 剥離面打点 90°180°の打面転移 作業面4
	401	石 核(1	3866	A-11	V	35.999	黒曜石	2.2	3.2	2.7	15.67	角礫素材 自然面打面 石核縁辺を打点移動 片面作業面
	402	石 核(1	4016	B-10	V	36.114	石 英	1.9	2.6	1.6	7.17	亜角礫素材 自然面打面 90°の打面転移 作業面2

第24表 石器観察表(9)

挿図	番号	器種	鬺綫	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
	403	石 核(1)	6836	B-8	V	38.066	黒曜石	1.65	2.2	1.3	5.34	剥片素材 剥離面打面 90°の打面転移 作業面2
	404	石 核(1)	4079	B-11	V	36.33	黒曜石	2.3	3.9	1.9	8.89	分割礫素材 剥離面打点 90°単位の打面転移 作業面2
	405	石 核(1)	4073	B-11	V	36.29	黒曜石	1.7	2.8	1.6	6.91	分割礫素材 剥離面打点 90°単位の打面転移 作業面3
	406	石 核(1)	4075	B-11	V	36.385	黒曜石	1.85	2.2	1.6	4.0	自然面・剥離面 90°単位の打面転移 多面体石核
	407	石 核(1)	5620	A-5	V	39.434	黒曜石	2.1	2.1	1.7	8.24	分割礫素材 剥離面打面 90°の打面転移 作業面2
	408	石 核(1)	3053	B-10	V	36.518	黒曜石	2.6	3.1	1.6	9.43	分割礫素材 剥離面打点 石核縁辺を打点移動 片面作業面
	409	石 核(1)	4134	B-12	V	36.2	黒曜石	2.5	2.6	3.0	19.45	分割礫素材 剥離面・自然面 90°の打面転移 作業面2
	410	原 石	4603	B-10	V	35.961	黒曜石	5.0	6.7	4.5	163.32	風化した自然面を有する角礫
	411	原 石	5423	A-11	V	36.031	黒曜石	3.8	5.68	3.4	61.18	風化した自然面を有する角礫
	412	原 石	5424	A-11	V	36.036	黒曜石	2.7	4.8	2.0	27.13	風化した自然面を有する角礫
	413	原 石	5343	A-11	V	36.051	黒曜石	3.5	2.35	2.4	13.1	風化した自然面を有する角礫
	414	原 石	3433	B-11	V	36.39	黒曜石	3.7	3.8	2.61	42.42	水磨された亜円礫
	415	原 石	5422	A-11	V	36.011	黒曜石	3.5	3.2	2.39	28.02	自然風化面を有する亜角礫
	416	原 石	4754	A-10	V	36.093	黒曜石	2.3	3.2	1.69	13.53	自然風化面を有する亜角礫
	417	原 石	3849	A-11	V	36.034	黒曜石	4.0	5.45	2.8	37.38	自然風化面を有する扁平な角礫
	418	原 石	6002	A-10	V	36.1	黒曜石	2.65	2.55	1.9	10.99	自然風化面を有する角礫
	419	原 石	4419	A-11	V	36.001	黒曜石	2.39	3.3	1.68	11.45	自然風化面を有する角礫
	420	原 石	4696	B-13	V	35.353	黒曜石	2.1	1.75	1.35	5.28	風化の進んだ小角礫
	421	原 石	4797	A-10	V	36.013	石 英	4.2	5.72	3.8	100.77	亜角礫 水晶の結晶体を含む
	422	原 石	4810	B-3	V	40.189	石 英	4.69	6.3	3.12	121.74	水磨された亜角礫 水晶を含む
	423	原 石	5383	A-10	V	35.996	石 英	5.11	7.69	3.95	167.22	水磨された亜角礫
	424	原 石	3397	B-11	V	36.43	黒曜石	3.0	2.2	1.9	10.48	自然風化面を有する扁平な角礫
	425	原 石	4034	B-10	V	36.069	黒曜石	2.75	3.0	1.75	14.95	水磨された亜角礫
	426	原 石	5661	A-6	V	39.134	石 英	2.89	2.4	1.08	11.36	扁平な角礫
	427	原 石	5340	A-11	V	36.046	黒曜石	2.6	4.71	2.3	24.33	風化面を有する角礫
	428	原 石	5252	A-10	V	36.041	黒曜石	2.9	3.2	2.55	13.56	風化面を有する扁平な角礫
	429	原 石	5088	A-11	V	35.911	黒曜石	2.55	3.0	2.4	19.51	風化の進んだ亜角礫
	430	原 石	4896	A-10	V	35.861	石 英	5.1	5.45	2.75	73.37	扁平な亜角礫
	431	原 石	4733	A-10	V	36.183	石 英	5.68	8.9	5.08	328.82	水晶の結晶体を含多孔質の亜角礫
	704	原 石	7092	B-9	V	36.195	石 英	4.6	3.7	3.3	76.43	水晶の結晶体含む水磨された亜角礫
	432	スクレイパー(2)	4087	B-12	V	36.49	ホルンフェルス	4.73	9.0	1.25	38.0	横長剥片, 左半欠損, 右側縁背面に剥離調整
	433	スクレイパー(2)	4856	A-10	V	36.171	粘板岩	4.85	5.3	1.22	43.2	横長剥片, 左半欠損, 末端辺右辺に片刃の刃部
	434	スクレイパー(2)	4524	A-10	V	36.086	ホルンフェルス	6.8	9.65	2.45	144.5	背面が自然面の横長剥片, 左辺腹面に縁辺からの二次的な剥離
	435	スクレイパー(2)	6757	B-2	V	39.975	ホルンフェルス	9.7	6.25	4.0	255.0	逆台形, 左辺に刃部, 上辺に平坦な磨面, 礫器とすべきか
	436	スクレイパー(2)	2927	A-11	V	36.163	ホルンフェルス	9.4	5.5	3.2	152.0	平面三角形で厚み有り, 右辺表裏に縁辺からの剥離, 礫器とすべきか
	437	スクレイパー(2)	3218	A-11	V	36.075	ホルンフェルス	5.22	3.6	0.9	10.0	三角形の剥片, 左辺を使用か
	438	磨製石斧	4518	A-10	V	36.126	ホルンフェルス	3.4 ^{±0}	3.4	3.7 ^{±0}	68.0 ^{±0}	刃部の破片
	439	礫 器	5440	A-11	V	35.996	ホルンフェルス	7.8	11.5	3.3	398.0	Ⅲ類 b イ 片刃
	440	礫 器	6804	B-3	V	39.83	ホルンフェルス	8.75	9.3	3.7	360.0	I類 a カ 片刃
	442	礫 器	7245	A-8	V	37.22	ホルンフェルス	17.75	9.15	5.3	1160.0	Ⅲ類 b イ 片刃
	443	礫 器	5256	A-10	V	35.921	ホルンフェルス	17.05	7.75	4.25	738.0	Ⅱ類 b ア 片刃
	444	礫 器	4577	A-10	V	35.991	ホルンフェルス	8.75	5.45	1.5	85.0	Ⅳ類 a カ
	445	礫 器	2532	B-1	V	40.597	ホルンフェルス	17.8	9.95	6.6	1868.0	Ⅶ類 b エ 片刃
	446	礫 器	2887	A-11	V	36.233	ホルンフェルス	13.2	5.8	5.8	400.0	Ⅱ類 b ア 両刃
	447	礫 器	4993	A-10	V	35.906	ホルンフェルス	11.7	10.6	5.3	960.0	I類 a オ 片刃
	449	礫 器	5243	A-10	V	36.051	ホルンフェルス	12.6	5.25	1.9	175.0	Ⅵ類 d ウ 片刃 カ
	451	礫 器	2877	A-11	V	36.133	ホルンフェルス	7.5	6.9	2.2	140.0	Ⅵ類 d カ エ片刃
	453	礫 器	2788	A-11	V	36.328	ホルンフェルス	10.1	22.1	5.4	1460.0	V類 c エ 片刃
	454	礫 器	6149	A-4	V	39.76	ホルンフェルス	9.2	17.503	4.3	710.0	V類 c オ 片刃
	455	磨石・敲石類	3112	A-10	V	36.025	輝石安山岩	6.6	5.0	3.8	173.0	楕円形敲石

第25表 石器観察表 (10)

挿図	番号	器種	登録	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
	456	磨石・敲石類	2680	A-10	V	36.068	ホルンフェルス	18.4	7.9	2.7	506.0	扁平敲石 両端に敲打による「つぶれ」、一端に剥離
	457	磨石・敲石類	4169	B-13	V	35.56	ホルンフェルス	7.8	2.59	1.7	50.0	棒状敲石 一端に敲打による「つぶれ」
	458	磨石・敲石類	4668	B-10	V	35.733	輝石安山岩	6.45	3.0	2.1	59.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	459	磨石・敲石類	3714	A-10	V	36.225	ホルンフェルス	7.2	5.35	3.5	188.0	楕円形敲石 表面から側縁にかけ敲打による「つぶれ」
	460	磨石・敲石類	4602	B-10	V	35.721	ホルンフェルス	10.8	3.98	2.0	110.0	棒状敲石 一端に敲打による「つぶれ」
	61	磨石・敲石類	5440	A-11	V	35.996	凝灰質シルト岩	8.7	5.15	3.6	195.0	楕円形敲石 両端・側縁に敲打による「つぶれ」
	462	磨石・敲石類	572	A-10	V	36.38	ホルンフェルス	14.21	3.95	1.85	139.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	463	磨石・敲石類	3932	A-11	V	36.189	ホルンフェルス	26.8	9.7	5.6	1800.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	464	磨石・敲石類	6779	B-23	V	40.14	ホルンフェルス	16.49	5.7	4.6	505.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	465	磨石・敲石類	5246	A-10	V	35.876	ホルンフェルス	12.6	4.88	3.5	270.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	467	磨石・敲石類	3806	A-11	V	36.119	ホルンフェルス	14.0	8.5	2.4	434.0	扁平敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	468	磨石・敲石類	4378	B-10	V	36.075	シルト質頁岩	8.6	5.8	1.2	85.0	扁平敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	469	磨石・敲石類	4627	B-10	V	35.941	ホルンフェルス	7.7	5.12	1.7	86.0	扁平敲石 一端から側縁部にかけ敲打による「つぶれ」
	470	磨石・敲石類	4030	B-10	V	36.179	ホルンフェルス	8.12	2.45	1.9	100.0	扁平敲石 一端に敲打による「つぶれ」、剥離
	471	磨石・敲石類	4432	A-11	V	35.996	ホルンフェルス	8.6	5.1	1.9	108.0	扁平敲石 一端及び側縁の一部に敲打による「つぶれ」
	472	磨石・敲石類	6161	A-3	V	39.945	ホルンフェルス	12.65	6.95	2.6	305.0	扁平敲石 一端に敲打による「つぶれ」、剥離
	473	磨石・敲石類	7256	A-9	V	37.025	ホルンフェルス	12.5	11.3	5.5	806.0	扁平敲石 下辺部に連続する剥離、「つぶれ」
	474	磨石・敲石類	4463	A-11	V	36.036	ホルンフェルス	6.6	4.9	3.2	141.0	楕円形敲石 一端から側縁、表・裏面に及ぶ「つぶれ」
	475	磨石・敲石類	3842	A-11	V	36.059	ホルンフェルス	12.0	3.0	1.78	104.0	棒状敲石 一端に階段状の剥離、敲打による「つぶれ」
	476	磨石・敲石類	4762	A-10	V	36.103	凝灰質シルト岩	10.15	5.5	1.92	111.66	ストーン・リタチャー 側縁面上の「つぶれ」、面上の線状痕
	477	磨石・敲石類	4490	A-10	V	36.181	硬質砂岩	8.8	8.2	5.5	686.0	円形敲石 表面の一部に敲打による「つぶれ」
	478	磨石・敲石類	4323	B-10	V	35.995	輝石安山岩	11.3	10.7	5.35	765.0	磨石(円形) 片面に磨面
	479	磨石・敲石類	6023	A-10	V	36.14	輝石安山岩	5.08	4.4	4.5	123.0	磨石(円形)
	480	磨石・敲石類	4929	A-10	V	35.791	角閃石輝石安山岩	6.2	4.7	3.5	152.0	楕円形敲石 両端に「つぶれ」、両面にくぼみ、両側縁剥離
	481	磨石・敲石類	6117	A-3	V	39.945	輝石安山岩	4.5	4.85	3.2	99.0	磨石(円形) 両面の一部磨面
	482	磨石・敲石類	3202	A-11	V	36.05	輝石安山岩	5.7 ⁺	4.18 ⁺	4.5 ⁺	94.0 ⁺	破片 形状等不明
	483	磨石・敲石類	3767	A-11	V	35.979	輝石安山岩	14.7	14.3	10.3	3400.0	磨石(円形)
	484	砥石類	6592	A-9	V	36.42	花崗岩	8.8	6.35	2.8	305.0	扁平な角礫 片面に磨滅面
	485	砥石類	5023	A-10	V	35.976	角閃石輝石安山岩	10.4	13.6	3.9	640.0	扁平な角礫 片面が部分的に磨滅
	486	砥石類	5074	A-11	V	35.976	角閃石輝石安山岩	7.8 ⁺	7.9 ⁺	2.7 ⁺	225.0 ⁺	(扁平な角礫) 破片 片面が部分的に磨滅
	487	砥石類	4734	A-10	V	36.163	角閃石輝石安山岩	6.2 ⁺	5.0 ⁺	2.05 ⁺	110.0 ⁺	(扁平な角礫) 破片 両面に磨滅面
	488	石 皿	4368	B-10	V	36.175	角閃石輝石安山岩	9.0 ⁺	6.9 ⁺	4.2 ⁺	413.0 ⁺	破片 片面に磨滅面
	489	石 皿	5247	A-10	V	36.046	角閃石輝石安山岩	11.2 ⁺	11.35 ⁺	9.4 ⁺	1320.0 ⁺	破片 片面に磨滅面、裏面に敲打痕
	490	石 鏃	2452	A-10	IV	36.299	黒曜石	2.0 ⁺	1.6 ⁺	0.35	0.75 ⁺	凹基 鋏形鏃 先端部・右脚部欠損
	491	石 鏃	5119	A-8	IV	38.067	黒曜石	1.8	1.4 ⁺	0.35	0.62 ⁺	凹基 鋏形鏃 左脚部欠損
	492	石 鏃	1363	A-2	IV	40.7	黒曜石	2.45	1.3 ⁺	0.25	0.46 ⁺	凹基 二等辺三角鏃 左脚部欠損
	493	石 鏃	2862	A-11	IV	36.178	黒曜石	1.45	1.3	0.25	0.38	凹基 小型三角鏃
	494	石 鏃	6302	A-9	IV	36.73	黒曜石	1.35	1.2	0.3	0.39	浅い凹基 小型三角鏃
	495	石 鏃	5789	A-3	IV	40.01	黒曜石	1.1	1.25	0.2	0.22	浅い凹基 小型三角鏃
	496	石 鏃	850	A-11	IV	36.51	黒曜石	0.9 ⁺	1.5	0.35	0.39 ⁺	平基 小型三角鏃 上部欠損
	497	石 鏃	7438	B-7	IV	38.345	黒曜石	0.97	1.0 ⁺	0.24	0.16 ⁺	小型三角鏃 右脚部欠損
	498	石 鏃	1820	B-11	IV	36.549	黒曜石	1.35	1.1 ⁺	0.29	0.32 ⁺	右下端欠損
	499	石 鏃	464	B-10	IV	36.565	黒曜石	1.2	1.28 ⁺	3.2	0.4 ⁺	小型三角鏃 左下端欠損
	500	石鏃未製品	2124	A-10	IV	36.344	黒曜石	1.3 ⁺	1.8	0.5	0.99 ⁺	凹基 上部欠損
	501	石鏃未製品	1967	B-12	IV	36.164	黒曜石	2.1	1.8	0.45	1.31	形状調整工程
	502	石鏃未製品	6114	A-3	IV	39.94	黒曜石	1.6	1.3	0.4	0.67	形状調整工程からの移行段階 下部折れ欠損 石鏃の可能性も有り
	503	石鏃未製品	1546	A-11	IV	36.309	黒曜石	1.75	1.5	0.5	0.95	形状調整工程で放棄?
	504	石 鏃	6339	A-9	IV	37.316	黒曜石	3.0	2.65	1.0	6.98	厚手の剥片(鏃部)片面調整 断面三角形
	505	石 鏃	2182	A-10	IV	36.224	黒曜石	2.65	1.7	0.85	2.94	自然面を有する厚手の剥片(鏃部)片面調整断面平行四辺形
	506	石匙・つまみ	1919	B-12	IV	36.434	黒曜石	1.35	1.35	0.39	0.68	

第26表 石器観察表 (11)

挿図	番号	器種	登録番号	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
	507	スクレイパー(1)	6143	A-3	IV	40.0	黒曜石	2.0	2.45*	0.67	1.94*	残存部は方形、一隅部分に片刃の刃部 折れ
	508	スクレイパー(1)	2723	A-10	IV	36.223	ガラス質流紋岩	2.25*	3.25	0.72	4.55*	自然面のある不定形剥片、一辺に両刃の刃部 折れ
	509	スクレイパー(1)	1214	B-10	IV	36.415	蛋白石	1.27	2.05	0.5	0.7	平面長方形、一方の長辺に両刃
	510	スクレイパー(1)	2546	A-1	IV	40.862	蛋白石	5.68	3.0	0.57	8.04	平面長方形、一方の長辺に両刃
	511	スクレイパー(1)	1970	B-12	IV	36.219	黒曜石	2.3	3	1.25	7.62	平面三角形、一辺に両刃
	512	スクレイパー(1)	1470	A-11	IV	36.239	石 英	3.1	2.3	0.4	3.59	平面平行四辺形、一辺に両刃
	513	スクレイパー(1)	807	A-11	IV	36.265	黒曜石	1.4	2.8	0.6	1.56	横長剥片、末端辺に急角度の調整
	514	スクレイパー(1)	1853	B-11	IV	36.539	蛋白石	2.2	2.0	0.65	2.84	平面三角形、細かい剥離調整による抉り状の刃部
	515	ピエスエスキュー	2212	A-10	IV	36.214	黒曜石	2.4	1.1	0.75	1.51	破片
	516	ピエスエスキュー	1751	B-11	IV	36.535	黒曜石	1.9	1.4	0.8	2.02	三角形
	517	ピエスエスキュー	6304	A-9	IV	37.01	黒曜石	2.8	1.7	0.95	5.24	背面自然面 上辺は直線状、下端は丸くなる
	518	ピエスエスキュー	6317	A-9	IV	36.496	黒曜石	2.5	1.05	0.9	2.27	三角形
	519	加工痕・使用痕剥片	2248	A-10	IV	36.214	石 英	1.85	2.1	0.85	3.84	ピエス・エスキューの破片か?
	520	加工痕・使用痕剥片	6347	A-9	IV	37.066	黒曜石	2.1	2.1	1.3	5.47	腹面に縁辺からの剥離 スクレイパー?
	521	加工痕・使用痕剥片	5610	A-4	IV	40.044	黒曜石	1.8	2.9	0.9	4.66	横長剥片、右側縁に剥離調整 スクレイパー?
	522	加工痕・使用痕剥片	1072	B-12	IV	36.63	蛋白石	4.2	2.9	0.75	6.96	不定形な剥片、一辺の表裏に粗い剥離 スクレイパー?
	523	加工痕・使用痕剥片	1902	B-11	IV	36.514	黒曜石	1.65	1.5	0.55	2.3	末端辺の表裏に剥離、両側辺は対辺に達する剥離で折れ ピエス?
	524	加工痕・使用痕剥片	5711	A-3	IV	40.07	黒曜石	2.15	1.95	0.7	2.4	両側辺に折れ、末端辺の表裏に調整 スクレイパー?
	525	加工痕・使用痕剥片	1439	A-11	IV	36.469	蛋白石	2.3	1.65	0.6	2.05	背面自然面、腹面に二次的剥離折れ
	526	加工痕・使用痕剥片	450	B-10	IV	36.595	蛋白石	2.7	1.6	0.95	2.9	背面に側縁からの剥離 折れ
	527	加工痕・使用痕剥片	6367	A-8	IV	37.266	黒曜石	1.7	1.8	0.65	1.97	横長剥片、右側面自然面、上下に対向する剥離 ピエスエスキュー?
	528	加工痕・使用痕剥片	1115	B-12	IV	36.42	黒曜石	1.5	2.0	0.8	2.05	自然面打面、左側辺に自然面 折れ 表裏に二次的な剥離
	529	加工痕・使用痕剥片	4832	B-3	IV	40.279	黒曜石	1.6	3.0	0.95	3.53	横長剥片、右側面に二次的剥離 左辺・末端辺付近に使用痕
	530	加工痕・使用痕剥片	1725	B-11	IV	36.55	黒曜石	2.2	1.6	0.5	1.43	左辺を欠く、右辺に剥離調整
	531	加工痕・使用痕剥片	6215	B-9	IV	36.635	黒曜石	2.85	2.0	1.05	4.83	先端部を欠く、左辺背面に階段状の剥離、右辺から左辺への剥離
	532	加工痕・使用痕剥片	6602	A-9	IV	36.44	黒曜石	2.9	2.7	0.9	5.38	左辺の一部に使用痕剥離
	533	加工痕・使用痕剥片	1431	A-11	IV	36.394	黒曜石	1.2	0.9	0.35	0.29	縦長剥片、先端を欠く、左辺・右辺に微小な剥離
	534	加工痕・使用痕剥片	6315	A-9	IV	36.446	黒曜石	1.8	1.8	0.5	0.93	横長剥片、末端辺に使用痕剥離
	535	加工痕・使用痕剥片	2871	A-11	IV	36.173	黒曜石	2.6	1.9	0.65	2.06	打点側を欠く、右辺及び末端付近に使用痕剥離
	536	加工痕・使用痕剥片	1444	A-11	IV	36.394	水 晶	2.3	2.1	0.5	1.97	扇形状の剥片、右辺に使用痕剥離
	537	加工痕・使用痕剥片	5599	A-4	IV	35.705	蛋白石	1.8	1.65	0.8	2.72	打点・左辺側を欠く、方形の剥片(分割?) 末端辺に剥離
	538	加工痕・使用痕剥片	6264	A-9	IV	36.42	チャート	2.0	2.1	0.6	1.40	逆三角形の剥片、末端辺に微小剥離
	539	加工痕・使用痕剥片	1390	A-2	IV	40.345	蛋白石	1.9	2.2	0.6	1.8	三角形の剥片 右辺に微小剥離
	540	加工痕・使用痕剥片	1376	A-2	IV	40.48	黒曜石	1.45	2.2	0.4	1.08	線状痕 微小剥離
	541	加工痕・使用痕剥片	4264	A-3	IV	40.259	黒曜石	1.9	2.4	0.85	3.08	微小剥離 線状痕
	542	加工痕・使用痕剥片	5799	A-3	IV	40.01	黒曜石	2.7	1.75	0.95	1.37	微小剥離 線状痕
	543	加工痕・使用痕剥片	5669	A-6	IV	39.289	黒曜石	2.35	0.3	1.1	4.12	微小剥離 線状痕
	544	加工痕・使用痕剥片	5641	A-6	IV	39.349	黒曜石	2.1	2.35	9.05	3.66	線状痕(折れ)
	545	加工痕・使用痕剥片	7415	A-7	IV	39.01	黒曜石	1.65	2.4	1.0	1.54	微小剥離
	546	加工痕・使用痕剥片	6346	A-9	IV	37.156	黒曜石	1.4	1.4	0.7	2.42	左辺に微小剥離
	547	加工痕・使用痕剥片	自然流路	A-9	IV	-	黒曜石	2.9	2.8	1.15	0.79	微小剥離 線状痕
	548	加工痕・使用痕剥片	2382	A-10	IV	36.059	黒曜石	1.0	2.1	0.5	8.92	微小剥離 線状痕 厚手の剥片
	549	加工痕・使用痕剥片	2227	A-10	IV	36.194	黒曜石	2.1	1.4	0.8	1.03	微小剥離 線状痕(折れ)
	550	加工痕・使用痕剥片	2717	A-10	IV	36.033	黒曜石	3.0	3.0	0.9	4.19	微小剥離 小剥離
	551	加工痕・使用痕剥片	2206	A-10	IV	36.119	黒曜石	2.1	1.4	0.9	1.96	微小剥離 線状痕
	552	加工痕・使用痕剥片	922	A-11	IV	36.255	硅質流紋岩	4.1	2.95	1.0	13.79	微小剥離
	553	加工痕・使用痕剥片	2862	A-11	IV	36.178	黒曜石	2.9	1.85	0.7	2.42	微小剥離 線状痕 背面自然面
	554	加工痕・使用痕剥片	1578	A-11	IV	36.289	黒曜石	2.0	4.3	1.1	7.47	微小剥離 線状痕 背面に自然面
	555	加工痕・使用痕剥片	791	A-11	IV	36.39	黒曜石	1.6	1.4	5.05	0.76	微小剥離 線状痕
	556	加工痕・使用痕剥片	1632	A-11	IV	36.344	黒曜石	2.1	1.7	0.8	2.52	微小剥離 刃部の「つぶれ」

第27表 石器観察表 (12)

挿図	番号	器種	登録番号	出土区	層	標高m	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観察所見
	557	加工痕・使用痕剥片	791	A-11	IV	36.39	黒曜石	1.4	1.6	4.8	0.91	微小剥離
	558	加工痕・使用痕剥片	1642	A-11	IV	36.344	黒曜石	2.6	2.4	1.02	4.2	微小剥離 線状痕
	559	加工痕・使用痕剥片	1497	A-11	IV	36.289	黒曜石	1.0	1.6	0.4	0.75	微小剥離 線状痕
	560	加工痕・使用痕剥片	756	A-11	IV	36.41	黒曜石	1.3	1.4	0.5	0.62	微小剥離
	561	加工痕・使用痕剥片	2863	A-11	IV	36.143	黒曜石	3.1	3.2	1.1	8.96	微小剥離 刃部に直行する線状痕
	562	加工痕・使用痕剥片	2508	B-1	IV	40.63	黒曜石	2.7	2.2	0.7	2.82	微小剥離 刃部に直行平行の線状痕(折れ)
	563	加工痕・使用痕剥片	2505	B-1	IV	40.9	黒曜石	2.2	1.7	1.15	3.08	微小剥離 刃部平行・斜行の線状痕
	564	加工痕・使用痕剥片	5611	B-5	IV	39.489	黒曜石	1.8	2.0	0.8	1.23	微小剥離 線状痕(折れ)
	565	加工痕・使用痕剥片	5670	A-6	IV	39.094	黒曜石	1.9	1.8	0.85	1.77	微小剥離 線状痕
	566	加工痕・使用痕剥片	5664	A-6	IV	39.594	黒曜石	3.1	3.3	0.9	5.76	微小剥離 線状痕 背面に自然面(折れ)
	567	加工痕・使用痕剥片	6857	B-8	IV	37.87	黒曜石	1.1	1.5	1.1	2.45	微小剥離 刃部に直行する線状痕 ビエスエスキュー(折れ)
	568	加工痕・使用痕剥片	6231	B-9	IV	36.575	黒曜石	2.2	1.95	0.5	1.52	微小剥離 線状痕(折れ)
	569	加工痕・使用痕剥片	6207	B-9	IV	36.51	黒曜石	2.0	2.4	0.6	1.96	微小剥離 線状痕(折れ)
	570	加工痕・使用痕剥片	1271	B-10	IV	36.61	黒曜石	1.4	2.1	0.6	1.46	微小剥離 線状痕(折れ)
	571	加工痕・使用痕剥片	1822	B-11	IV	36.549	黒曜石	1.9	1.5	0.4	0.54	微小剥離 線状痕
	572	石核(1)	1754	B-11	IV	36.49	黒曜石	4.9	7.3	2.3	85.55	扁平角礫 自然面打面 石核の縁辺を打点移動 片面作業面
	573	石核(1)	6301	A-9	IV	36.915	粘板岩	8.3	8.8	2.8	169.25	剥片素材 自然面剥離面 石核縁辺を打点移動 表裏作業面
	574	石核(1)	1804	B-11	IV	35.529	黒曜石	2.95	3.4	2.25	19.65	角礫素材 自然面剥離面 180°90°の打面転移 作業面3
	575	石核(1)	6494	A-8	IV	37.256	黒曜石	2.2	1.85	2.35	10.4	分割礫素材 剥離面打面 90°単位の打面転移 作業面3
	576	石核(1)	2300	A-10	IV	36.379	黒曜石	2.6	2.85	2.4	21.02	角礫素材 自然面打面 単設打面 単設作業面
	577	石核(1)	2496	B-1	IV	40.755	黒曜石	2.45	4.35	1.8	18.49	分割礫素材 剥離面打面 90°単位の打面転移 作業面3
	578	石核(1)	926	A-11	IV	36.295	黒曜石	2.9	2.65	2.0	13.39	角礫素材 剥離面自然面 90°単位の打面転移 作業面4
	579	石核(1)	7399	A-9	IV	37.12	黒曜石	2.45	2.2	1.15	5.45	角礫素材 剥離面自然面 180°打面転移 作業面2
	580	石核(1)	1536	A-11	IV	36.299	黒曜石	2.45	2.42	2.3	11.0	角礫素材 自然面打面 90°単位の打面転移 作業面2
	581	石核(1)	7	A-8	IV	37.979	黒曜石	1.85	2.15	1.55	4.57	角礫素材 自然面打面 90°単位の打面転移 作業面2
	582	石核(1)	6589	A-9	IV	36.4	黒曜石	2.55	2.28	1.15	6.11	角礫素材 自然面打面 石核縁辺を打点移動 片面作業面
	583	石核(1)	2493	A-1	IV	40.765	黒曜石	2.98	2.45	2.75	8.24	亜円礫素材 自然面打面 90°の打面転移 作業面2
	584	石核(1)	2859	A-11	IV	36.158	黒曜石	1.85	2.65	1.4	6.96	分割礫素材 剥離面打面 単設打面 作業面2
	585	石核(1)	4213	A-2	IV	40.629	黒曜石	2.3	3.3	1.6	10.63	角礫素材 自然面剥離面 石核の縁辺を打点移動 表裏に作業面
	586	石核(1)	5777	A-3	IV	40.22	黒曜石	1.3	3.1	1.7	6.15	扁平角礫素材 自然面打面 単設打面 単設作業面
	587	石核(1)	5630	A-5	IV	39.524	黒曜石	2.5	2.6	1.9	10.26	分割礫素材 剥離面打面 90°単位の頻繁な打面転移 多面体石核
	588	石核(1)	5117	A-8	IV	38.097	黒曜石	2.45	2.8	0.95	6.32	角礫素材 自然面打面 石核縁辺を打点移動 単設作業面
	589	石核(1)	自然流路	A-9	IV	—	黒曜石	2.2	3.1	1.85	11.76	角礫素材 自然面剥離面 90°単位の打面移動 作業面3
	590	石核(1)	7188	A-9	IV	36.42	黒曜石	2.4	3.05	1.95	11.4	角礫素材 自然面打面 180°の打面転移 作業面2
	591	石核(1)	2120	A-10	IV	36.334	黒曜石	3.5	2.1	1.6	11.88	剥片素材 剥離面打面 90°単位の打面転移 作業面3
	592	石核(1)	663	A-10	IV	36.43	黒曜石	2.1	2.6	3.4	20.8	亜角礫素材 自然面剥離面 90°単位の打面転移 作業面3
	593	石核(1)	668	A-10	IV	36.365	黒曜石	2.3	2.1	1.6	3.68	角礫素材 自然面打面 単設打面 単設作業面
	594	石核(1)	1583	A-11	IV	36.209	黒曜石	3.4	2.0	1.7	7.22	分割礫素材 剥離面打面 単設打面 単設作業面
	595	石核(1)	5816	A-12	IV	36.27	蛋白石	5.5	5.7	1.8	52.18	剥片素材 剥離面打面 石核縁辺を打点移動 片面作業面
	596	石核(1)	2519	B-1	IV	40.715	黒曜石	3.2	2.2	1.73	11.34	分割礫素材 剥離面打面 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	597	石核(1)	4222	B-2	IV	40.639	黒曜石	1.9	2.3	2.2	7.28	角礫素材 剥離面打面 90°の打面転移 作業面3
	598	石核(1)	1232	B-10	IV	36.535	黒曜石	1.9	2.85	1.4	5.51	角礫素材 自然面剥離面 90°単位の打面転移 作業面3
	599	石核(1)	1873	B-11	IV	36.574	黒曜石	1.85	2.7	2.1	8.25	円礫素材 自然面・剥離面 90°の打面転移 作業面3
	600	石核(1)	1906	B-12	IV	36.539	黒曜石	2.4	2.7	1.5	8.45	角礫素材 剥離面打面 石核縁辺を打点移動 表裏に作業面
	601	石核(1)	1144	B-12	IV	36.33	黒曜石	1.45	3.0	2.1	7.25	剥片素材 剥離面打面 90°の打面転移 作業面2
	603	原石	1988	A-11	IV	36.19	黒曜石	2.75	2.7	2.65	31.05	風化面を有する亜角礫
	604	原石	1472	A-11	IV	36.174	黒曜石	2.65	4.5	2.25	31.21	風化面を有する亜角礫
	605	原石	2474	A-1	IV	40.66	石英	1.2	9.1	4.9	279.81	水晶の結晶を含む亜角礫(水磨)
	606	原石	6291	A-9	IV	36.66	黒曜石	5.4	10.4	3.8	216.95	風化面を有する柱状の角礫
	607	原石	2214	A-10	IV	36.259	黒曜石	3.8	4.45	1.4	24.32	扁平な亜角礫

第28表 石器観察表 (13)

挿図	番号	器種	観号	出土区	層	標高m	石 材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観 察 所 見
	608	原 石	699	A-10	IV	36.395	石 英	2.0	3.0	1.4	8.5	小亜角礫
	609	原 石	827	A-11	IV	36.455	石 英	4.6	8.3	3.8	190.24	水晶を含む亜角礫(水磨)
	610	原 石	1674	A-11	IV	36.224	石 英	1.72	2.3	1.4	6.98	水磨された小礫
	611	スクレイパー(2)	6649	B- 1	IV	40.452	ホルンフェルス	4.8	7.0	2.2	92.87	横長剥片, 背面自然面, 右半を欠く, 末端辺に片刃の刃部
	612	スクレイパー(2)	2175	A-10	IV	36.309	ホルンフェルス	5.1	10.8	1.7	122.84	横長剥片, 背面自然面, 末端辺に刃部, 刃部は磨耗している
	613	スクレイパー(2)	1179	B-13	IV	36.26	ホルンフェルス	8.6	4.4	1.4	50.68	横長剥片, 末端辺を使用か?
	614	スクレイパー(2)	1879	B-11	IV	36.544	ホルンフェルス	10.7	8.55	4.2	260.0	背面に自然面を残す厚手の剥片, 末端辺を使用か?
	615	スクレイパー(2)	1486	A-11	IV	36.304	ホルンフェルス	7.15	7.55	1.5	100.0	背面が自然面の剥片, 腹面の2か所に二次的剥離, 右辺を使用か?
	616	スクレイパー(2)	5616	B- 5	IV	39.614	中粒砂岩	7.1	8.1	2.3	115.0	背面が自然面の剥片, 末端辺に刃部
	619	スクレイパー(2)	4314	B-10	IV	36.06	ホルンフェルス	10.95	8.85	3.0	270.0	背面に自然面を有する逆三角形の剥片, 末端辺に片刃の刃部
	621	スクレイパー(2)	2073	A-10	IV	36.479	ホルンフェルス	6.85	6.95	2.4	105.0	背面が自然面の剥片, 左辺腹面に剥離調整, 末端辺を使用か?
	622	スクレイパー(2)	6448	B- 8	IV	37.871	ホルンフェルス	5.65	11.0	0.9	75.0	背面が自然面の横長剥片, 左辺に剥離調整
	634	礫 器	538	B-11	IV	36.63	ホルンフェルス	15.0	8.2	4.25	485.0	IV類 b オ 片刃
	635	礫 器	1700	B-11	IV	36.645	ホルンフェルス	14.85	14.1	5.15	1460.0	I類 a ア 両刃(片刃)
	636	礫 器	599	A-10	IV	36.53	ホルンフェルス	12.8	12.3	4.2	810.0	III類 a イ 両刃
	637	礫 器	598	A-10	IV	36.5	ホルンフェルス	10.95	11.65	5.1	510.0	I類 a エ 片刃
	638	礫 器	1429	A-11	IV	36.394	ホルンフェルス	13.5	7.6	4.5	640.0	IV類 b オ 片刃
	639	礫 器	5528	B-12	IV	36.428	ホルンフェルス	17.45	8.8	4.7	900.0	II類 b イ 片刃
	641	礫 器	1358	B- 2	IV	40.61	ホルンフェルス	13.25	9.7	4.2	550.0	IV類 b オ 片刃
	642	礫 器	5109	A- 8	IV	38.387	ホルンフェルス	25.2	13.55	5.7	2700.0	VII類 b エ 片刃
	643	礫 器	1837	B-11	IV	36.634	ホルンフェルス	13.7	12.0	5.8	980.0	I類 a オ 片刃
	644	礫 器	1848	B-11	IV	36.649	ホルンフェルス	17.4	11.4	3.6	730.0	IV類 b(扁平) オ 片刃
	645	礫 器	2018	A-10	IV	36.279	ホルンフェルス	13.7	8.45	5.25	680.0	IV類 b オ 片刃
	646	礫 器	1755	B-11	IV	36.475	ホルンフェルス	14.7	7.6	5.5	783.0	IV類 b オ 片刃
	647	礫 器	1305	B- 1	IV	40.955	ホルンフェルス	14.25	9.8	4.95	723.0	IV類 b カ 片刃
	648	礫 器	2285	A-10	IV	36.364	ホルンフェルス	14.45	8.6	5.5	590.0	II類 b ア 片刃
	650	礫 器	4148	A-11	IV	36.6	ホルンフェルス	7.9	8.7	2.6	185.0	I類 a オ 片刃
	651	礫 器	5107	A- 7	IV	38.307	ホルンフェルス	12.25	12.5	2.95	495.0	I類 a オ 片刃
	652	礫 器	406	B-10	IV	36.477	ホルンフェルス	18.1	10.0	6.3	1280.0	VI類 d カ カ
	654	礫 器	1666	A-11	IV	36.324	ホルンフェルス	14.9	8.1	3.5	440.0	VI類 d カ ウ片刃
	656	礫 器	2575	B- 1	IV	40.685	ホルンフェルス	21.0	6.01	2.8	490.0	VI類 d 敲打剥離? カ
	657	礫 器	1746	B-11	IV	36.495	頁 岩	11.4	7.7	3.2	270.0	VI類 d イ片刃 ウ片刃
	658	礫 器	5113	A- 8	IV	38.117	ホルンフェルス	7.5	13.8	2.8	300.0	VIII類 c イ片刃 基部調整?
	659	磨石・敲石類	835	A-11	IV	36.475	凝灰質シルト岩	12.8	5.7	2.4	210.0	扁平敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	660	磨石・敲石類	1551	A-11	IV	36.319	ホルンフェルス	16.1	4.8	2.2	249.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	661	磨石・敲石類	1171	B-12	IV	36.305	ホルンフェルス	17.9	5.6	2.4	388.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	662	磨石・敲石類	419	B-10	IV	36.657	ホルンフェルス	19.7	6.3	2.8	400.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」, 一端に剥離
	663	磨石・敲石類	1774	B-11	IV	36.605	輝石安山岩	8.6	5.65	4.4	310.0	楕円形敲石 両端から側縁に及ぶ敲打による「つぶれ」
	664	磨石・敲石類	899	A-11	IV	36.47	ホルンフェルス	8.1	3.6	1.65	78.0	棒状敲石 一端に敲打による剥離
	665	磨石・敲石類	一括	B- 9	IV	—	ホルンフェルス	9.5	2.58	2.5	100.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	666	磨石・敲石類	662	A-10	IV	36.415	ホルンフェルス	11.4	4.89	3.22	200.0	敲石(不定形亜円礫) 一端に「つぶれ」剥離
	667	磨石・敲石類	531	B-11	IV	36.655	ホルンフェルス	17.2	5.75	4.1	511.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」, 一端に剥離
	668	磨石・敲石類	一括	B- 9	IV	—	ホルンフェルス	6.5	5.7	1.9	100.0	円形敲石 側縁部に敲打による「つぶれ」
	669	磨石・敲石類	3055	B-10	IV	36.563	ホルンフェルス	11.5	6.38	4.1	359.0	敲石(不定形亜円礫) 一端 側縁に「つぶれ」剥離
	670	磨石・敲石類	1368	A- 2	IV	40.6	ホルンフェルス	9.8	7.8	3.3	323.0	敲石(不定形亜円礫) 一端に敲打による「つぶれ」
	671	磨石・敲石類	1378	A- 2	IV	40.52	ホルンフェルス	24.08	7.49	5.7	1030.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	672	磨石・敲石類	905	A-11	IV	36.45	ホルンフェルス	24.48	6.8	5.0	1211.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」, 一端に剥離
	673	磨石・敲石類	2485	A- 1	IV	40.665	ホルンフェルス	26.72	6.9	6.5	1610.0	棒状敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	674	磨石・敲石類	1940	B-12	IV	36.389	流紋岩	5.0 ⁺	4.2 ⁺	3.9 ⁺	109.0 ⁺	破片 形状等不明
	675	磨石・敲石類	1355	A- 1	IV	40.7	角尖石安山岩	4.7 ⁺	8.0 ⁺	4.7 ⁺	220.0 ⁺	破片 形状等不明

第29表 石器観察表 (14)

挿図	番号	器種	数量	出土区	層	標高m	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	観察所見
	666	磨石・敲石類	7405	A-9	IV	36.99	角閃石安山岩	5.6 ⁺	4.0 ⁺	2.1 ⁺	60.2 ⁺	破片 形状等不明
	677	磨石・敲石類	473	B-10	IV	36.59	溶結凝灰岩	7.6 ⁺	4.5 ⁺	5.9 ⁺	220.0 ⁺	破片 形状等不明
	678	磨石・敲石類	2347	A-10	IV	36.27	角閃石安山岩	3.4 ⁺	8.0 ⁺	4.8 ⁺	180.0 ⁺	破片 形状等不明
	679	磨石・敲石類	856	A-11	IV	36.42	輝石安山岩	12.4	11.9	7.7	1670.0	敲石(不定形垂円礫) 側縁に「つぶれ」,部分的磨面
	680	磨石・敲石類	1585	A-11	IV	36.47	角閃石安山岩	9.3	7.7	6.5	560.0	磨石(不定形垂円礫) 部分的な磨面
	681	砥石類	6639	B-1	IV	40.486	角閃石安山岩	7.9	5.7	2.2	140.0	扁平な角礫 片面に磨減面
	682	砥石類	3954	B-10	IV	36.104	砂岩	8.25	5.8	0.75	50.0	扁平な角礫 片面に磨減面
	683	砥石類	1914	B-12	IV	36.484	輝石安山岩	6.0	6.6	3.45	180.0	破片 両面に磨減面
	684	砥石類	1784	B-11	IV	36.509	角閃石安山岩	8.25	6.3	3.6	245.0	破片 片面に磨減面
	685	砥石類	6284	A-9	IV	36.495	角閃石安山岩	5.75	4.65	1.7	65.0	破片 両面に磨減面
	686	ピエスエスキュー	384	B-12	III	36.787	黒曜石	1.42	1.16	0.7	0.86	三角形 左半分を欠く,欠損部は対面に達する剥離
	687	加工痕・使用痕剥片	380	B-12	III	36.732	黒曜石	2.1	1.58	0.9	1.91	表裏に剥離 ピエスエスキューの可能性有り
	688	加工痕・使用痕剥片	一括	A-9	III	—	黒曜石	3.75	3.6	0.95	9.93	末端辺に微小剥離
	689	加工痕・使用痕剥片	262	B-10	III	36.887	黒曜石	1.6	1.38	0.4	0.76	方形の剥片,右辺に微小剥離
	690	加工痕・使用痕剥片	182	A-11	III	36.672	黒曜石	1.32	2.5	0.52	1.05	扇形の横長剥片,左辺に微小剥離
	691	加工痕・使用痕剥片	216	A-11	III	36.347	黒曜石	2.4	1.6	0.61	1.77	右辺に対面に達する剥離,末端辺につぶれ ピエスエスキュー破片?
	692	加工痕・使用痕剥片	5203	A-7	III	39.277	黒曜石	2.55	2.52	1.12	6.16	背面に自然面を残す剥片 打点側及び左半を欠く,末端辺を使用か
	693	加工痕・使用痕剥片	6440	B-8	III	38.271	黒曜石	1.48	1.78	0.79	2.2	上下を欠く方形の剥片,左右の側面に使用痕 ピエスエスキュー?
	694	石核(1)	146	A-10	III	36.572	黒曜石	2.6	2.85	1.4	7.56	角礫素材 自然面打面 対向する180°の打面転移 片面作業面
	695	石核(1)	6272	A-9	III	36.595	黒曜石	2.0	3.0	1.35	8.95	垂角礫素材 自然面打面 石核の縁辺を打点移動 片面作業面
	696	石核(1)	1364	A-2	III	40.825	黒曜石	3.1	3.4	2.1	21.65	角礫素材 自然面打面 石核の縁辺を打面移動 片面作業面
	697	石核(1)	309	B-10	III	36.612	黒曜石	1.5	2.6	1.5	6.52	分割(円礫)素材 自然面・剥離面 90°単位の打面移動 作業面4
	698	石核(1)	7218	A-9	III	36.795	黒曜石	2.85	2.1	2.05	7.84	分割礫素材 剥離面打面 90°の打面転移 作業面4
	699	石核(1)	398	B-12	III	36.432	黒曜石	2.95	3.7	2.2	22.99	垂角礫素材 剥離面打点 一側縁から剥離(両刃状) 表裏に作業面
	700	石核(1)	316	B-10	III	36.637	黒曜石	3.9	2.7	1.4	14.2	分割(円礫)素材 自然面打面 石核の縁辺を打点移動 片面作業面
	701	石核(1)	1316	B-1	III	40.915	黒曜石	2.25	2.4	2.4	12.63	分割礫素材 剥離面打面 石核の縁辺を打点移動 作業面4
	702	原石	3460	A-10	III	36.64	黒曜石	2.4	3.2	1.6	12.42	水磨された垂円礫
	703	原石	866	A-11	III	36.52	石英	5.9	6.8	4.5	164.51	水晶の結晶体含む水磨された垂角礫
	705	スクレイパー(2)	85	A-10	III	36.517	ホルンフェルス	9.6	6.6	0.7	95.41	横長剥片の底辺に内彎気味の刃部,細かい刃部調整(片刃)
	706	スクレイパー(2)	687	A-10	III	36.465	ホルンフェルス	9.0	6.65	1.5	122.08	台形状の剥片の短辺に片刃の刃部,刃部の磨耗
	707	スクレイパー(2)	400	B-12	III	36.542	粘板岩	4.4	7.05	0.8	25.96	三角形の剥片の底辺部分の一部に背面側からの剥離調整がある
	708	礫器	1335	A-1	III	41.015	ホルンフェルス	23.3	11.6	4.13	1182.0	扁平な縦長礫の一端に直線的な刃部
	709	礫器	365	B-11	III	36.637	ホルンフェルス	13.7	10.2	5.2	850.0	楕円礫の一端に外彎する刃部(片刃)
	710	礫器	685	A-10	III	36.45	ホルンフェルス	12.0	9.8	4.0	485.0	扁平な礫の両端に刃部
	711	磨石・敲石類	3439	A-11	III	36.67	ホルンフェルス	6.53	6.35	2.5	145.42	円形敲石 側縁に敲打による「つぶれ」
	712	磨石・敲石類	1163	B-12	III	36.42	ホルンフェルス	9.9	4.9	1.6	110.0	扁平敲石 両端に敲打による「つぶれ」
	713	磨石・敲石類	322	B-10	III	36.642	ホルンフェルス	13.1	5.6	2.5	240.0	扁平敲石 両端一側縁に敲打によるつぶれ
	714	磨石・敲石類	一括	A-9	III	—	ホルンフェルス	10.2	6.1	2.3	189.0	扁平敲石 両端一側縁に敲打によるつぶれ
	715	磨石・敲石類	91	A-10	III	36.462	ホルンフェルス	7.45	1.5	1.1	14.0	棒状敲石 両端に「つぶれ」
	716	磨石・敲石類	243	B-11	III	36.742	ホルンフェルス	16.9	6.5	4.1	440.0	敲石 一端に敲打による「つぶれ」剥離
	717	磨石・敲石類	一括	A-9	III	—	ホルンフェルス	8.7	5.2	2.5	130.0	敲石 両端に敲打による「つぶれ」,一端に剥離
	718	磨石・敲石類	一括	A-9	III	—	ホルンフェルス	14.15	6.5	2.6	398.0	扁平敲石 一端に敲打による「つぶれ」,一端に剥離
	719	磨石・敲石類	306	B-10	III	36.607	ホルンフェルス	6.2	3.75	1.4	40.0	扁平敲石 両端に剥離
	720	磨石・敲石類	1311	B-1	III	41.075	ホルンフェルス	10.55	9.8	3.8	410.0	敲石(垂円礫) 一側縁に敲打による「つぶれ」剥離
	721	磨石・敲石類	5567	A-3	III	40.294	凝灰質シルト岩	4.7	4.1	1.0	20.0	ストーン・リタッチャー
	722	磨石・敲石類	257	B-10	III	36.742	凝灰質シルト岩	5.0	3.3	1.0	20.0	ストーン・リタッチャー
	723	磨石・敲石類	1122	B-12	III	36.47	凝灰質シルト岩	73.2	4.1	1.1	35.0	ストーン・リタッチャー
	724	磨石・敲石類	5178	A-8	III	37.627	ホルンフェルス	7.75 ⁺	5.92	2.21	122.17 ⁺	楕円形敲石 一端に敲打による剥離,側縁に「つぶれ」

*観察所見欄の標記については,本文を参照されたい。 *一覧表番号は,各層ごとの石器出土状況図の番号に一致する。 *遺物台帳との照合結果,212はⅢ層に704はⅤ層に移動した。また,分類の変更等により欠番が生じている。

*計測値は残存値を基本とし,ピエスエスキュー,スクレイパー(1)(2)を除く定型的な石器についてのみ,(+α)により欠損を標記した。

第Ⅶ章 まとめ

神野牧遺跡の出土遺物はⅧ層及びⅤ層の集石内出土遺物とⅧ・Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層の包含層出土及び表層出土であるが、そのほとんどは包含層出土遺物である。Ⅷ層以外の包含層についてはⅤ・Ⅳ・Ⅲ層出土の土器の接合例があるなど遺物の移動が見られ、特にⅣ層は不安定な堆積である。しかし、各層の大まかな時代区分を出土遺物から示せば次のとおりとなる。Ⅷ層は縄文時代早期後半、Ⅴ層は縄文時代前期、Ⅳ層は縄文時代前期から晩期となる。本遺跡で圧倒的に出土量が多いのは曾畑式土器で、その主体はⅤ層と思われる。また、Ⅴ層出土の石器についても曾畑式土器とおおまかにはあるが共時性を有すると考えられ、製作から破棄までの過程及び技術形態の一端を窺える資料ではある。しかし、限られた範囲の調査で遺跡の全容が明らかになっていないことや層位が不安定であること、また、曾畑式土器のどの時期と共時性を持つかが明確にできないことから石器組成の全体を構成する資料としては扱えない。ここではⅤ層出土遺物を中心にまとめる。

1 曾畑式土器について

本遺跡から出土の曾畑式土器は胴部破片が多く完形に復元できるのは1点で、図上復元できるものも少ない。そのため本遺跡出土の曾畑式土器の全体像を把握できない。そこで本書では各部位の主文様ごとに分類した。器面に施される文様は、横位の刺突、横位の平行沈線及び短沈線・四角文・斜位及び縦横位の沈線で構成するものである。これらの中で横位の沈線及び短沈線・四角文で文様を構成するものが圧倒的に多い。次に各部位毎にその主な文様をまとめる。

〔口縁部〕

- ・刺突を施すもの。(35~39・41~46)

出土点数が少なく、破片のため全容は不明である。刺突だけのもの、刺突の下位に横位の沈線を施すもの、刺突と横位の沈線の組合せたものがある。これらは口縁部が直行か緩やかに外反するものである。

- ・横位の沈線を施すもの。(40・47~68・70~74・76~90・96~135)

横位の沈線だけのもの、横位の沈線の上に縦位や斜位等の沈線を施すものがある。これらの口縁部は直行するものから外反するものまで様々である。

- ・折帯文を施すもの。(91~95・140~148)

横位の沈線の下位に折帯文を施すもの、折帯文だけを施すものがある。前者はしっかりした施文及び文様構成である。口縁部はやや外反するものが多い。

- ・四角文を施すもの。(165~223)

横位の沈線の下位に四角文を施すものと四角文だけのものがある。また、中には数段にわたって四角文を施すものがある。四角文を施すもので上下の文様を区画する横位の沈線を明確に断定できるものはないが、194はその可能性がある。176については文様構成の規格性は崩れるが、縦方向の区画を意識しているようにも思える。これらは直行するものから緩やかな外反、かなり外反する様々な口縁部をもつ。

・その他

224については、胎土・焼成とも他の曾畑式土器は異質な感じを受ける。楕円形の区画に刺突を充填するもので本遺跡では他に出土例はない。しかし、「区画→充填」という手法は曾畑式土器によく見られるものであり、楕円形の区画をもつものは225に見られる。また、内面に平行沈線を施し、しかも、重弧文風に端部が上がるのは215に見られる。このことから224は曾畑式土器の範疇に含まれると思われる。

〔胴部〕

- ・横位の沈線を施すもの。(228～233)
- ・折帯文を施すもの。(234～245)

横位の沈線の下位に折帯文をもつもの、折帯文を数段にわたり施すものがある。239については文様を区画する刺突をもつ。

- ・四角文を施すもの。(272～323・328・329～331・333～346)

数段にわたって四角文を施すものがあり、289・293は上下を区画する横位の沈線をもつと思われる。また、四角文の下位に他の文様をもつものの中で折帯文のもの、横位の沈線のものがあり、304と322は上下を区画する沈線と刺突をもつ。

〔底部〕(347～385)

くもの巣状の沈線を施すもの、短沈線を数角形状に施すもの、直線もしくは斜位の沈線等を施すもの、無文のものがある。

以上のように主文様毎に分類したが、次にこれまでに示されている編年に従い検討する。ここでの分類は、1995年に発掘調査を実施した一湊松山遺跡の層位的な出土状況が合致する中村愿編年に従う。これは、口縁部文様からⅠ式→Ⅱ式→Ⅲ式という編年が試案されている。

〔Ⅰ式土器〕

出土点数は少なく、35・36・37の3点である。いずれも口縁部破片であり、口縁部に刺突を数条、内面にも刺突を施すものである。36の第一文様帯は3条の刺突で、第二文様帯は僅かではあるが横位の沈線にさらに鋸歯状の沈線が施されていることが読み取れる。また、胎上には滑石の混入が見られる。

〔Ⅱ式土器〕

92～95は第一文様帯に横位の沈線、第二文様帯に折帯文が施される。内側には横位の短沈線が施される。また、168・194・202・218・220は第一文様帯に横位の沈線と第二文様帯に四角文が、内面には横位の沈線もしくは刺突が施される。69・75は、口縁部から胴部まで横位の短沈線でその下には別な文様が構成されるものである。文様構成からはⅡ式土器と思われるが、全体的に文様の規格性が失われる。また、81・87・104・128は口縁部から胴上部まで横位の沈線・短沈線で施文され、内面は無文か外面と同じ沈線で構成されるものである。これらはⅡ式土器の範疇に含まれる。

〔Ⅲ式土器〕

172・176・215は第一文様帯に刺突や沈線がなく、四角文が数段にわたって施されるものである。これらはⅢ式土器の範疇に含まれる。他にも142・146・162・184・191・209等も含まれる。本遺跡

では四角文で文様を構成する土器が多く出土しているが、Ⅲ式土器のうち口縁部から四角文が施されたもののうち、口縁部の上部のみの破片の場合は横位の沈線文か四角文かの判断は難しい。このことから本遺跡のⅢ式土器のうち四角文を施したものが多いと思われる。

神野牧遺跡の曾畑式土器は出土量の違いはあるが、文様構成で編年すれば古い段階から新しい段階まで含む。また、口縁部の形態との関係では、次のような特徴がある。「Ⅰ式土器」は直行か外反する口縁部をもつ。「Ⅲ式土器」の口縁部は緩やかに外反するものもあるが、かなり外反が強くなる。つまり「Ⅰ式土器」はほぼ直行する口縁部だが、「Ⅱ式土器」「Ⅲ式土器」の段階では様々な口縁部形態が見られるものの外反が強くなる傾向がある。ただ、口縁部形態だけで各段階を分類することは難しい。

次に「Ⅰ式土器」について述べる。「Ⅰ式土器」が出土した星塚遺跡は本遺跡と同様に内陸部の河岸段丘上に立地し、野口式土器も確認されている。これについて、一湊松山遺跡の報告書で堂込は「大口盆地内に、古手の曾畑式土器が出土し、さらに天降川水系の星塚遺跡のより古相の曾畑式土器につながる土器群の存在は、単に曾畑式土器文化が波及し、在地化したばかり、西南九州が一体化して、土器文化を形成していたことは明白である。」と述べている。従来曾畑式土器は、漁業や海との関連や土器伝播論で語られることの多かった。しかし、星塚遺跡のように曾畑式土器につながる土器群は出土していないが、曾畑式土器のⅠ式が本遺跡のように内陸部から出土したことは「……西南九州が一体化して土器文化を形成していたこと……」を追認することとなった。このことは、今後の発掘調査によってさらに資料的な裏付けがなされるものと思われる。

2 10類・11類土器について

10類・11類はⅣ層及びⅤ層の出土であるが、その主体は曾畑式土器と同じⅤ層にあると思われる。10類は上下対称の重弧文を7～11条、その周辺に添って刺突を3条施すものである。胴部片だけで口縁部及び底部の形状は不明である。調整は内外面ともナデである。他の遺跡における出土例は今のところない。調整・施文方法などは曾畑式土器との関連を窺わせる。また、数条の刺突をもって文様を構成する深浦式土器との関連性も考えられる。11類は、器面調整の条痕を残しその上に浅い沈線で施文するものである。中でも400～403及び410・411は胎土・焼成とも類似し、同タイプのものである。このタイプの土器も出土例がない。器形は直行もしくは多少外反する口縁部に僅かな湾曲をもち胴下部に至る。口唇部には刺突が施される点は曾畑式土器と類似する。また、曾畑式土器の中にも少ないながら器面調整の条痕を内面に残すものもあることからその関連性が窺われる。いずれにしても類例がなく、資料の増加を待ちたい。

3 Ⅴ層出土石器における石材利用

小型の剥片石器類のほとんどが黒曜石を素材としており、また比較的多くの石核及び石核原石の資料が得られたが、出土黒曜石の科学的分析による産地同定は行えなかった。図示した資料については、肉眼観察による、色彩・透明度・不純物の多寡について観察結果を記したが、手元の原産地資料との比較では、鹿児島湾岸に産出する黒曜石に類似する資料が主体を占めており、また「透明度の低い灰黒色の黒曜石」は比較的多く見られるが、類似のする原産地資料が見あたらない。その

他、桑ノ木津留、上牛鼻・平木場系などの県内産黒曜石に類似する資料も散見されるほか、西北九州産に類似すると思われる資料も認められる。「透明度のない」と表現した黒曜石、黒曜石に一般的に見られるガラス質の透明感や光沢の見られないもので、石匙・スクレイパーなどに利用されることが多く、硬質で比較的粘りのある石質であると思われる。原産地等は不明である。これに対し、ガラス質の強い黒曜石は、主に石鏃、スクレイパー(1)、ピエス・エスキューの素材として利用されている。この他、少量ではあるが、水晶、石英、蛋白石、チャートなどが見られる。このうち水晶・石英は近隣の鹿屋市郷之原・鳴之尾に産出する^(注1)。

スクレイパー(2)、磨製石斧、礫器、磨石・敲石類のうち敲打具としての用途の優越すると見られる扁平敲石・棒状敲石においてはホルンフェルスが多く利用されている。ホルンフェルスは遺跡の立地する河岸段丘を形成した肝属川上流の高隈山山系を形成する四万十層群が熱変性を受け形成されたもので、近隣の縄文時代の遺跡においても多用されている石材である^(注2)。磨石・敲石類のうち磨面を有するもの及び凹石、石皿の素材としては角閃石安山岩、輝石安山岩、角閃石輝石安山岩などの安山岩系の石材が多く、砂岩・花崗岩がこれに加わる。

4 小型剥片石器の製作について

神野牧遺跡V層からは石核原石(1)、石核(1)、剥片(1)及び碎片・裂片(1)、加工痕・使用痕の見られる剥片、石鏃、両面加工石器、石錐、石匙、スクレイパー(1)、ピエス・エスキューなどの小型剥片石器が出土し、未製品、欠損品も見られる。これら石材の人手から剥片剥離、加工調整、使用、破棄(放置)に至る一連の活動について貴重な資料を得たにも関わらず、これを十分活用することができなかった。以下、資料として提示出来なかった部分を含め、黒曜石製石器及びその製作に関わる資料について、若干の観察結果を記したい。碎片(1)として分類したのものには、剥離調整によって生じたと見られる小剥片を含めており、この中には押圧剥離によると思われるものもみられる。裂片として分類したものは、石核の分割、剥片の剥離の際の砕けや、割れによって生じたと見られる打点やバルブが不明確なもので、石核として利用されている程度の大きさのものも存する。

剥片はその多くが折れ(もしくは折り収によるものかもしれないが、明確には区別できなかった)などの理由で剥片の元の形状を復元できない場合が多い。剥片形状の明らかな資料もしくは推定可能な資料についてみると、基本的には多様な剥片形状が認められるが、類型性が認められるものとして台形状・扇形・半円形の横長剥片、舌状・先細りの縦長剥片、楕円形・円形・角丸方形などの長幅が近値の剥片がある。比較的横長の剥片が多く、背面の剥離痕からも縦長の剥片を連続的に剥離する状況は見られない。微小剥離・線状痕などの使用痕を認めた剥片は、剥片(1)における割合より、縦長剥片の比率が高くなる傾向が見られる。打点面は、自然面・剥離面の何れも見られるが、自然面を打点面とする剥片がやや多い。また、剥片の背面や側辺などに自然面をもつものも少なくない。剥片長が3cmを越える大きめの剥片は、バルブの発達弱い厚みのある剥片が多く、分割礫素材とした石核には、この様な比較的大きめの剥片が剥離された石核である可能性もある。比較的頻度の高い台形状・扇形などの、ややバルブが発達するが厚みが均質で、比較的二次加工に適すると思われる剥片は、最大値が2cm前後以下の小型の剥片が主体をしめる。

石核は長幅が2～3 cm程度のもが多く、石核原石においても黒曜石では、長幅が4～5 cmを越えるものが少ないことから、長幅が3 cm前後の風化した角礫・転礫が素材とされる場合が多かったものと見られる。石核からの剥片剥離は基本的には石核形状に応じて選択されるものと見られるが(第VI章第2節⑧石核参照)、扁平な(亜)角礫・剥片を素材とし、狭小な面を作業面とする剥片剥離が見られることは特徴的である。また、定型的な剥片を剥離するための石核調整は認められない。石核に残置する剥離痕の形状は、剥片に類型的に見られる形状と概ね一致し、剥離痕長(幅)2 cm前後以下のものが多い。

神野牧遺跡V層における残存石核、残存剥片には一定の相関が認められ、基本的に剥離された剥片の形状に応じた二次加工を行うことで、多様な小型剥片石器が生産されたものと考えられる。一方、類型的に見られる小型剥片の用途を遺跡出土の石器器種の中に求める場合、出土量が少ないという問題点があるが、小型かつ一定の量的消費が想定される器種であること、狩猟・漁労における捕獲具と考えられており主として遺跡外で利用される性質のものであること、未製品の存在などから、小型の三角形鏃を主体とする石鏃素材として利用された可能性が高いと考える。

5 礫器について

礫器は礫の一部に打撃を加え、簡単な加工を加えた石器で、縄文時代早期の遺跡での出土から注目され、石材・加工形状等の地域性は見られるものの、縄文時代の石器文化を構成する主要な器種であると考えられており、前期以降後期、晩期にもその出土が認められる(注3)。本遺跡ではⅧ・Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層から礫器の出土を見るが、本遺跡周辺の縄文時代の遺跡においても、水の谷遺跡(後期～晩期)、西丸尾遺跡(草創期、早期)、榎木崎A遺跡(早期)、榎木崎B遺跡(早期、晩期)、飯盛ヶ岡遺跡(早期、前期～後期、晩期)などで本遺跡と素材・加工形状等に類似性が見られる礫器の出土が報告されている。しかし、県内の出土資料で前期の礫器として本遺跡出土資料と直接対比できる資料は少ない(注4)。

本遺跡では縄文時代前期の礫器について、素材礫の形態と刃部の位置関係及び刃部形態により7類に分類した。Ⅰ類は扁平な礫の一辺に、外湾もしくは直線的な刃部を有するもの、Ⅱ類は扁平な礫の一端、もしくは縦長の礫の短辺に尖頭状の刃部を有するもの、Ⅲ類は礫の一端に側辺に対し斜行する刃部を有するもの、Ⅳ類は縦長の礫の短辺に半円状、緩やかな外湾、直線状などの刃部をもつもの。Ⅴ類は縦長の礫の長辺に刃部を有するもの、Ⅵ類は礫の上下両端に対置する刃部を有するもの、Ⅶ類が片手での連続した使用に不適な大型のものである。このうちⅡ類・Ⅲ類は、端部につぶれやなどの使用痕が集中する傾向にあり、かつその損傷度は低い。Ⅰ類、Ⅴ類、及びⅣ類では、使用痕の著しい集中は見られず、刃部全体が比較的均等に使用される傾向が伺われ、刃部の損傷は少ない傾向にあるが、Ⅰ類・Ⅳ類の一部に強い衝撃により生じたと思われる剥離が見られる場合がある。Ⅵ類は両端の刃部の一方が磨耗やつぶれは見られるものの比較的刃部の形状をよくとどめているのに対し、一方に刃部の加工形状が特定できない程度の損傷が生じ、階段状の剥離痕をもつものも少なくない。またこの場合本来明確な刃部形成が行われず、使用により生じた剥離である可能性も考慮すべきである。

これら礫器の用途については、土を掘る道具、ものを割る道具、石斧的な用途、動物の解体具な

どの想定が行われており^(注5)、また、尖頭状の刃部を有する礫器については、早期・前期における西北九州などの海辺地域での出土例から、海産物の捕獲・解体具との位置づけもなされている^(注6)。しかし、礫器は本来用途域の広い石器として発生していると考えられ、時代・地域により形態・形状的には類似するものが、用途の上では可変性をもつことも考えられる。本遺跡は内陸の河岸段丘に立地する遺跡であり、また近接する縄文時代の遺跡からも尖頭状の刃部を有する礫器が見いだせることは、こうした点からの再考を要するものと考えられる。また、礫器は主として手握して対象物に直接働きかける用具と考えられてきたが、礫器VI類及び榎崎B遺跡早期出土の礫器4類等の一部には使用形状から間接的加撃に用いられたものが含まれている可能性がある^(注7)。

6 V層出土遺物の位置づけ

V層からは曾畑式土器を中心とする大量の縄文時代前期の土器が出土し、シダ葉痕のついた焼成粘土塊なども見られることから、土器の製作も行われたものと思われる。石器についても、典型的な槌状剥離を有する彫器を欠くものの、縄文時代前期に一般的に見られる定型的な石器のほとんどが出土しており、さらに、小型の剥片石器については、原石の保有から剥片の生産・加工・使用・破棄にわたる一連の活動が認められ、磨製石斧についても同様の解釈が可能である。これらのことから、今回調査範囲内では集石以外の遺構は確認されていないが、神野牧遺跡は縄文時代前期において、狩猟サイトなどとしての短期的滞在地に限定されず、土器・石器の製作・使用・破棄（放置）が一貫して行われる生活拠点としての役割、つまり、居住地遺跡としての役割を果たした時期を有した可能性が示唆されているものと考えられる。

(注1) 早坂祥三監修 鹿児島県地学会編 『鹿児島県 地学のガイド(下)』 コロナ社 1991

(注2) 鹿児島県立博物館成尾英仁氏教授

(注3) 賀川光夫『後期旧石器文化から縄文文化への移行 礫器を主体として』

(注4) 出水市荘貝塚では轟式土器に伴い双角状石器の出土しており、西北九州の海岸立地遺跡との関係が指摘されているが、本遺跡では双角状石器は出土していない。

(注5) 賀川前掲書及び児玉健一郎「[IX章 調査のまとめ 縄文時代早期] 石器」『西丸尾遺跡』1992など

(注6) 賀川前掲書

(注7) 富田逸朗氏は上野原遺跡出土の類似の資料に基づき、木材を割るくさびであると述べている。

(引用・参考文献)

- 中村 愿 「曾畑式土器」『縄文文化の研究』第3巻 雄山閣出版 1982
- 坂田 鄭洋 『曾畑式土器に関する研究 江湖貝塚』縄文文化研究会 1973
- 木村 幾多郎 「曾畑式土器」『縄文土器大観』1 小学館 1989
- 竹岡 俊樹 『石器研究法』言叢社 1989
- 山田 昌久 「縄文時代における石器研究序説 剥片剥離技術と剥片石器をめぐって」『論集日本原史』吉川弘文館 S60
- 鈴木 道之助 『石器入門事典 [縄文]』柏書房 1991

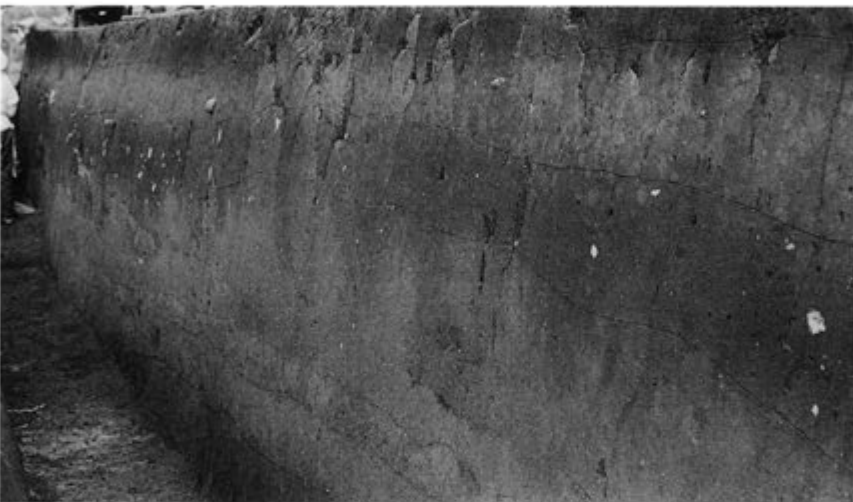
- 加藤晋平 鶴丸俊明 『石器入門事典〔先土器〕』 1991
- 加藤晋平 小林達夫 藤本強 編 『縄文時代の研究 7 道具と技術』 雄山閣出版 1995
- 鈴木道之助 「石錐」 同上所収
- 岡村道雄 「ピエス・エスキュー、楔形石器」 同上所収
- 矢島國雄 前山精明 「石錐」 同上所収
- 五味一郎 「石匙」 同上所収
- 早坂祥三監修 鹿児島県地学会編 『鹿児島県 地学のガイド（下）』 コロナ社 1991
- 水ノ江和同 「中・南九州の曾畑式土器」 『肥後考古』 第7号 1990
- 桑畑光博 「南九州における曾畑式系土器群の動態とその背景」 『鹿大考古』 第6号 1987
- 東和幸 「南九州の火山灰と土器形式 アカホヤ火山灰以降」 『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書（Ⅶ）』
名古屋大学年代測定資料センター 1996
- 宮田栄二 「鹿児島県下のピエス・エスキュー」 『南九州縄文通信No.3』 1990
- 宮田栄二 「鎌形剥片石器」 『南九州縄文通信No.4』 1991
- 賀川光夫 『後期旧石器文化から縄文文化への移行 礫器を主体として』
- 賀川光夫 「西日本における礫器の問題」 『第四紀研究』 10巻4号 1971
- 古門雅高 渡邊康行ほか 『頭ヶ浜白浜遺跡』 有川町文化財調査報告書 第1集 長崎県有川町教育委員会 1996
- 木崎康弘ほか 『狸谷遺跡』 熊本県埋蔵文化財発掘調査報告書第90集 熊本県教育委員会 1987
- 安楽勉 町田利幸 『福江・堂崎遺跡』 福江市文化財調査報告書第5集 長崎県福江市教育委員会 1992
- 正林護 安楽勉ほか 『白浜貝塚』 福江市埋蔵文化財調査報告書第2集 福江市教育委員会 1980
- 渡邊康行ほか 『長崎市立深堀小学校校舎増築に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』 長崎市教育委員会 1984
- 池水寛治 長野真一ほか 『莊貝塚』 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 出水市教育委員会 1979
- 宮田栄二 長野真一ほか 『奥木場遺跡』 枕崎市埋蔵文化財調査報告書(3) 1987
- 山口俊博 長野真一ほか 『水の谷遺跡』 鹿屋市埋蔵文化財報告書(5) 鹿屋市教育委員会 1986
- 中村耕二 牛ノ濱修 『莊貝塚』 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(3) 出水市教育委員会 1989
- 児玉健一郎 中村和美 「奥ノ仁田遺跡」 西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(7) 1995
- 堂込秀人ほか 『一湊松山遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(19) 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1998
- 新東晃一ほか 『星塚遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(7) 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1993
- 宮田栄二 児玉健一郎ほか 『西丸尾遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(84) 1992
- 青崎和憲 大久保浩二ほか 『榎崎 a 遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(63) 1992
- 中村耕二ほか 『飯盛ヶ岡遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(3) 1993
- 井上秀文 宮田栄二ほか 『榎崎 B 遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4) 1993
- 長野真一 『小牧 3 A・岩本遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(15) 1996



遺跡遠景



作業風景



←IV層

←V層

土層断面

遺跡遠景他



下層確認トレンチ



早期 1 号集石



早期 3 号集石

早期 1・3号集石 他



早期 4 号集石



早期 5 号集石



早期 6 号集石

早期 4 ~ 6 号集石

図版 4



早期 8 号集石



早期 9 号集石



早期 10 号集石

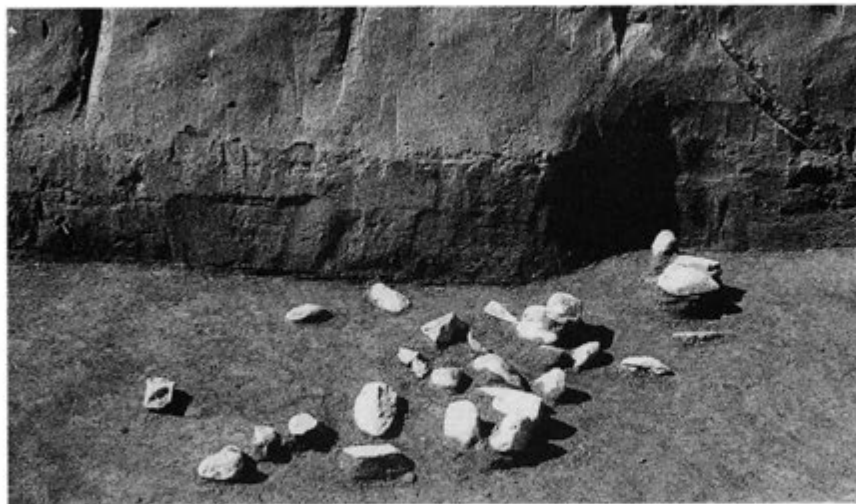
早期 8 ~ 10 号集石



早期11号集石



早期12号集石



早期14号集石

早期11·12·14号集石



早期16号集石



前期1号集石



前期2号集石

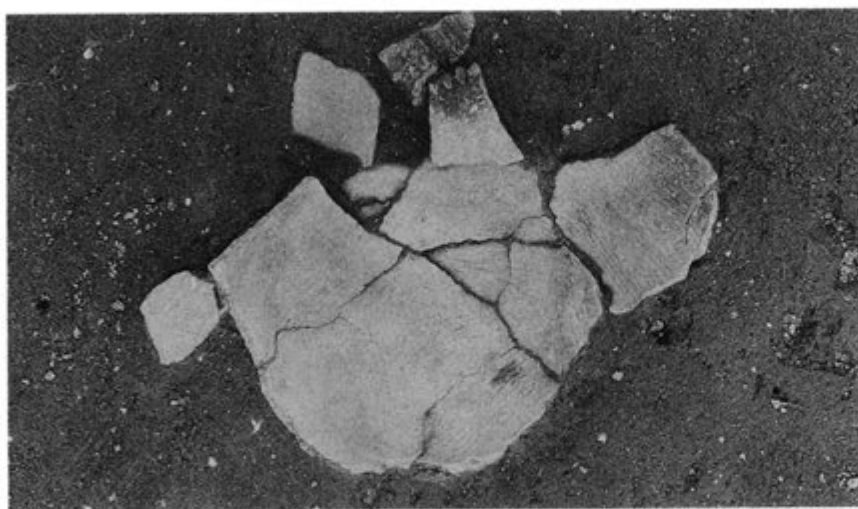
早期16号・前期1・2号集石



前期 3号集石

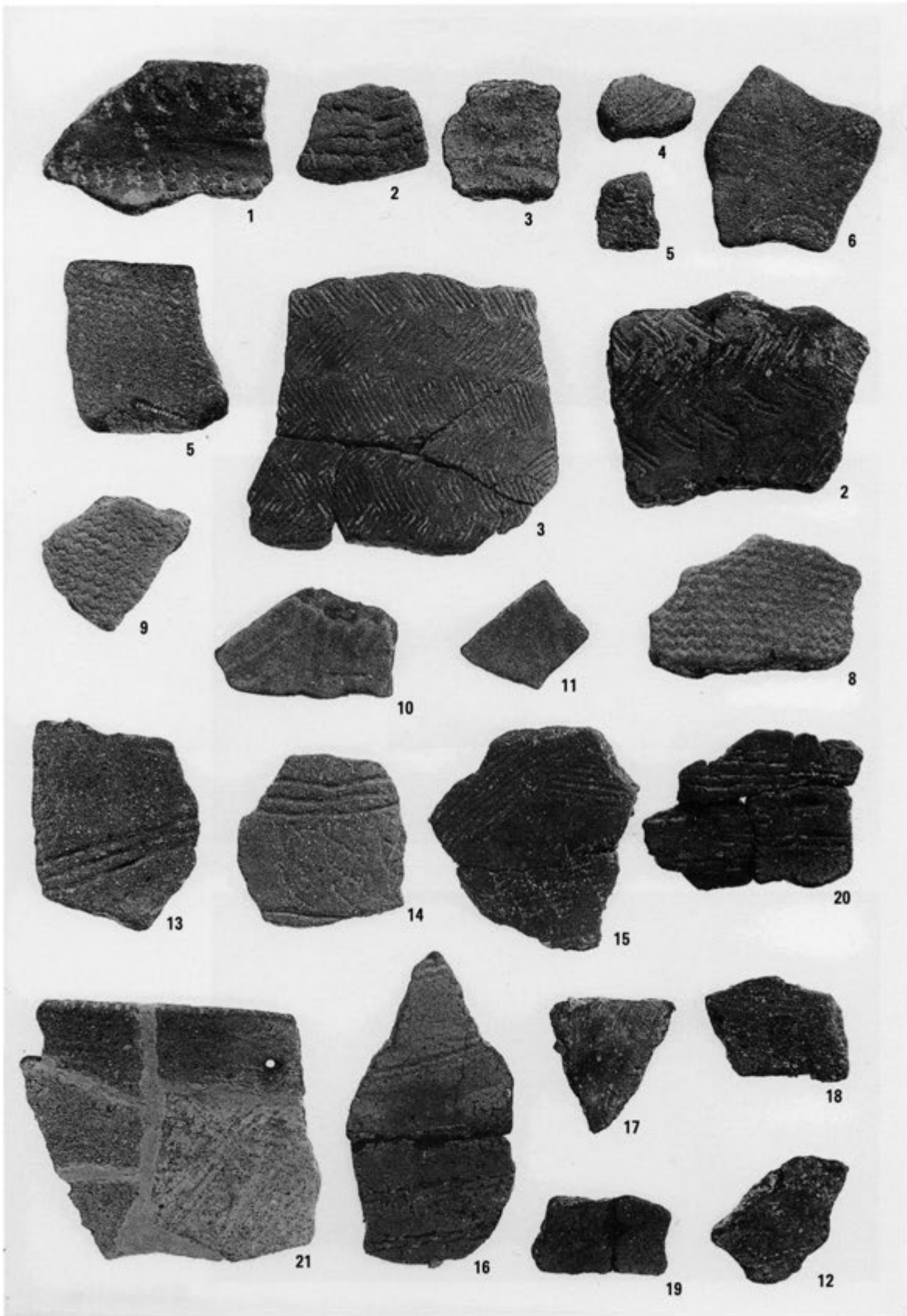


遺物出土状況

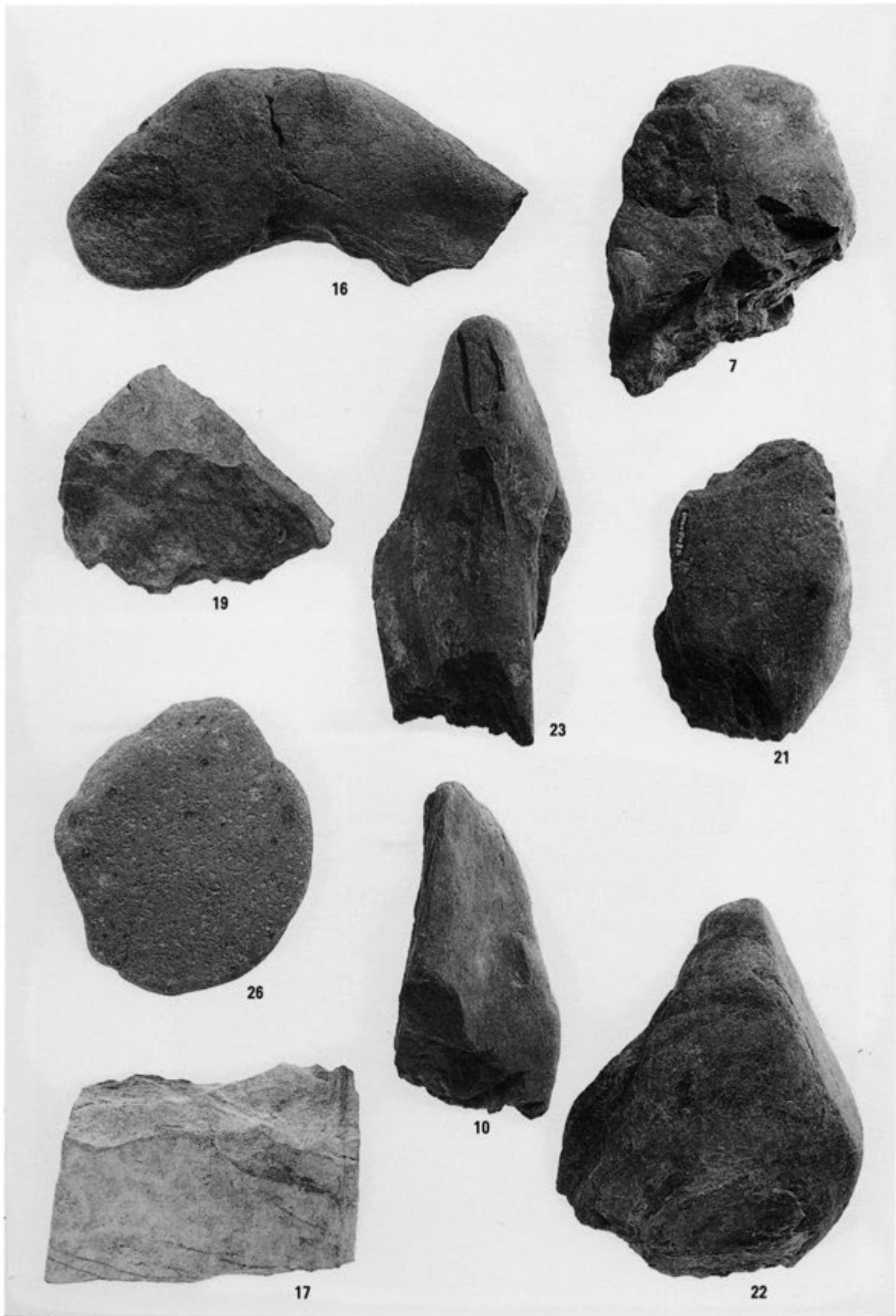


遺物出土状況

前期 3号集石・遺物出土状況



集石内遺物(1)



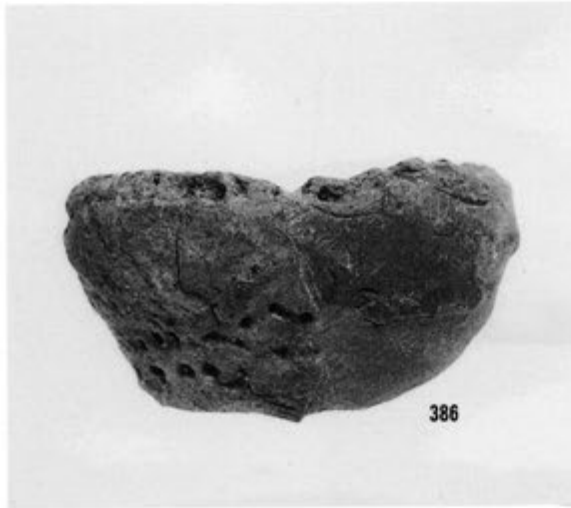
集石内遺物(2)



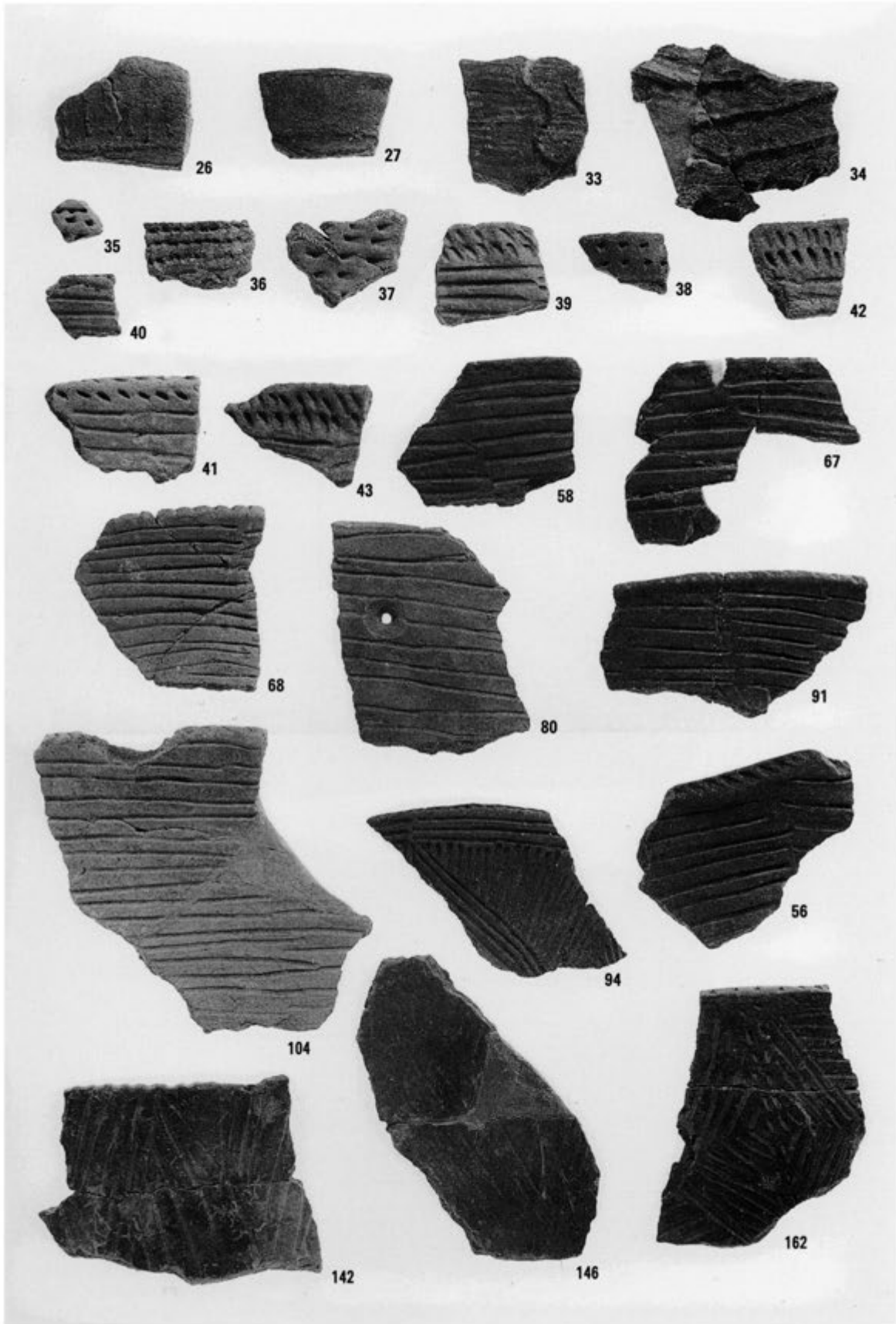
出土土器(1)



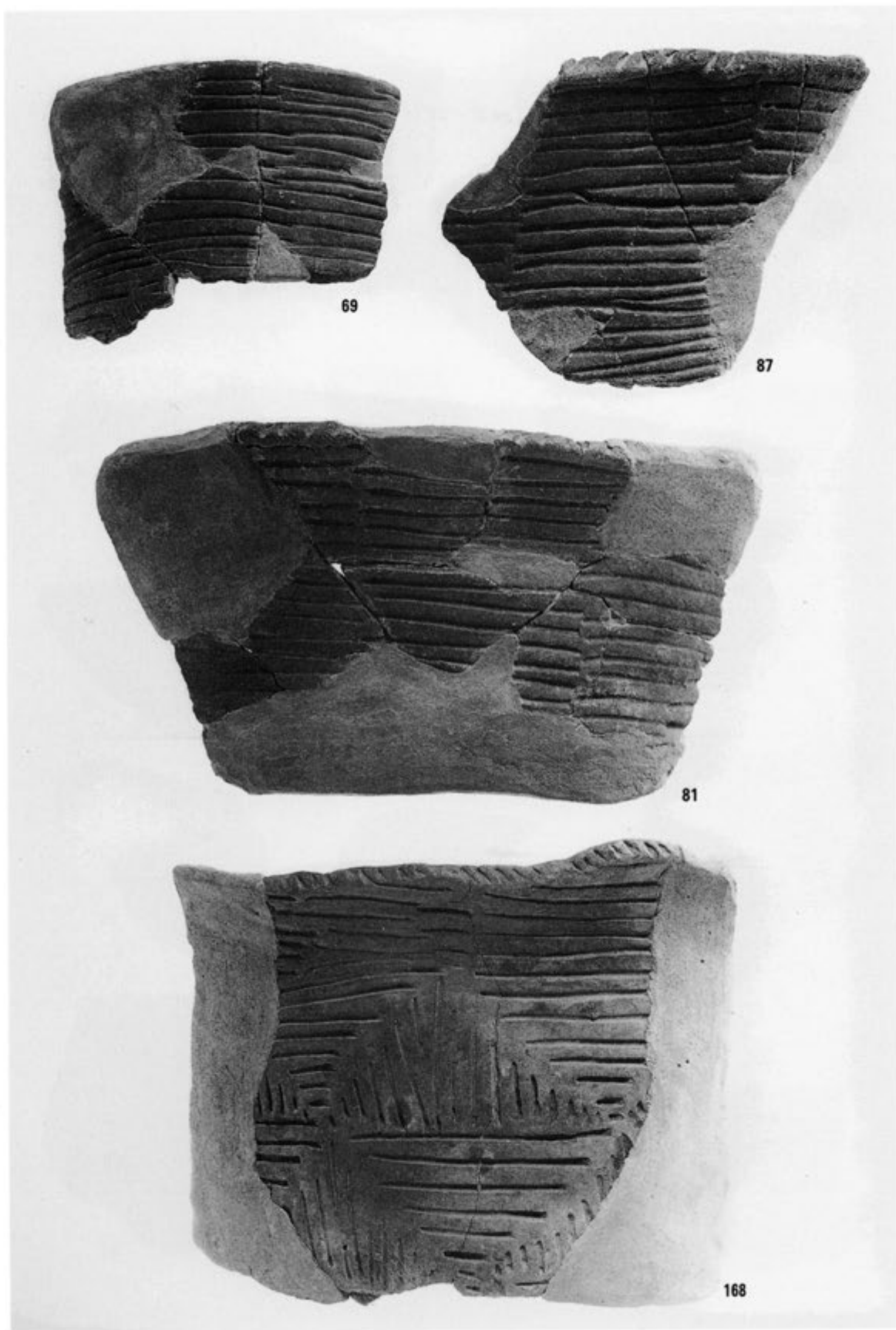
出土土器(2)及びシダ類葉痕のある焼成粘土塊



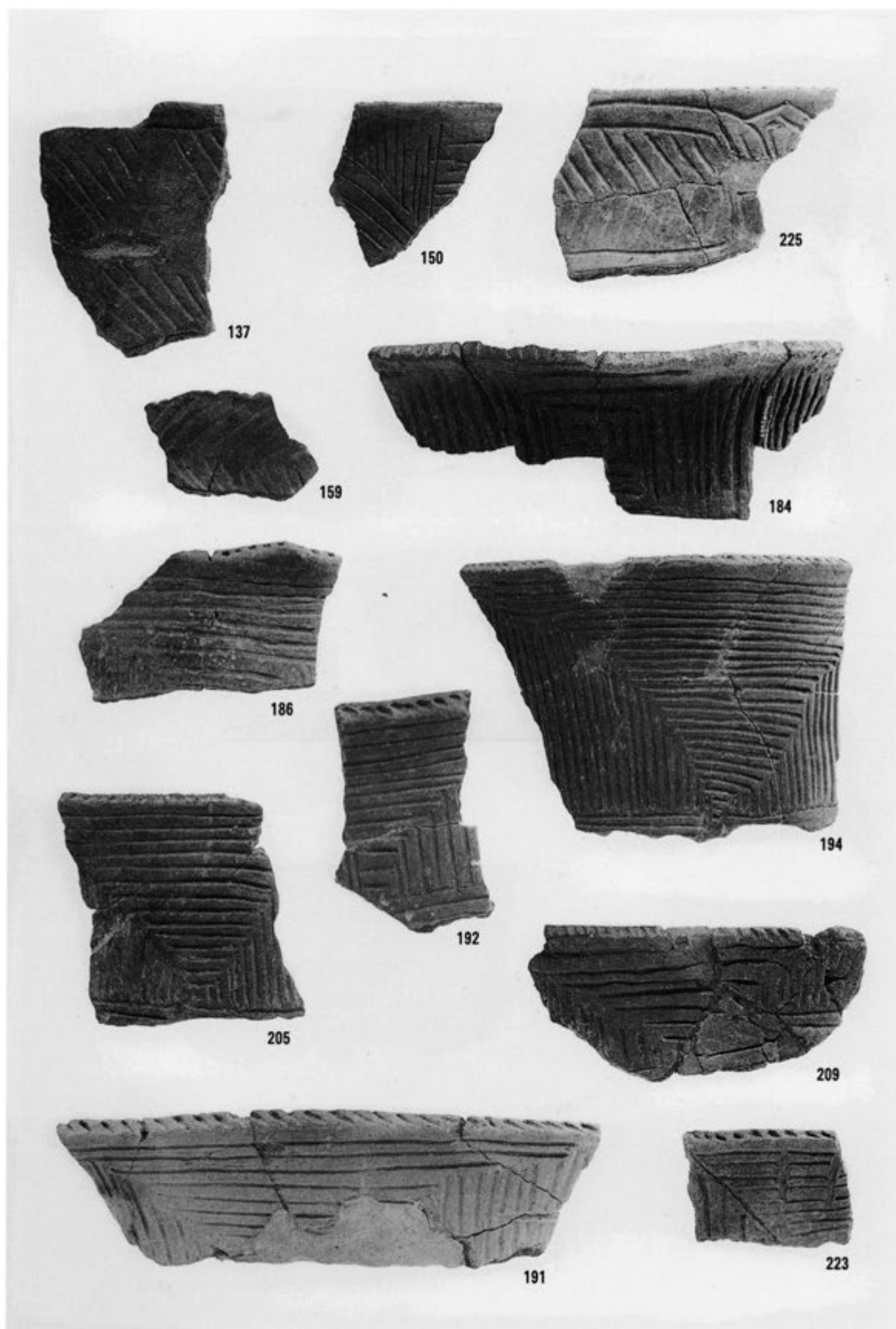
出土土器(3)



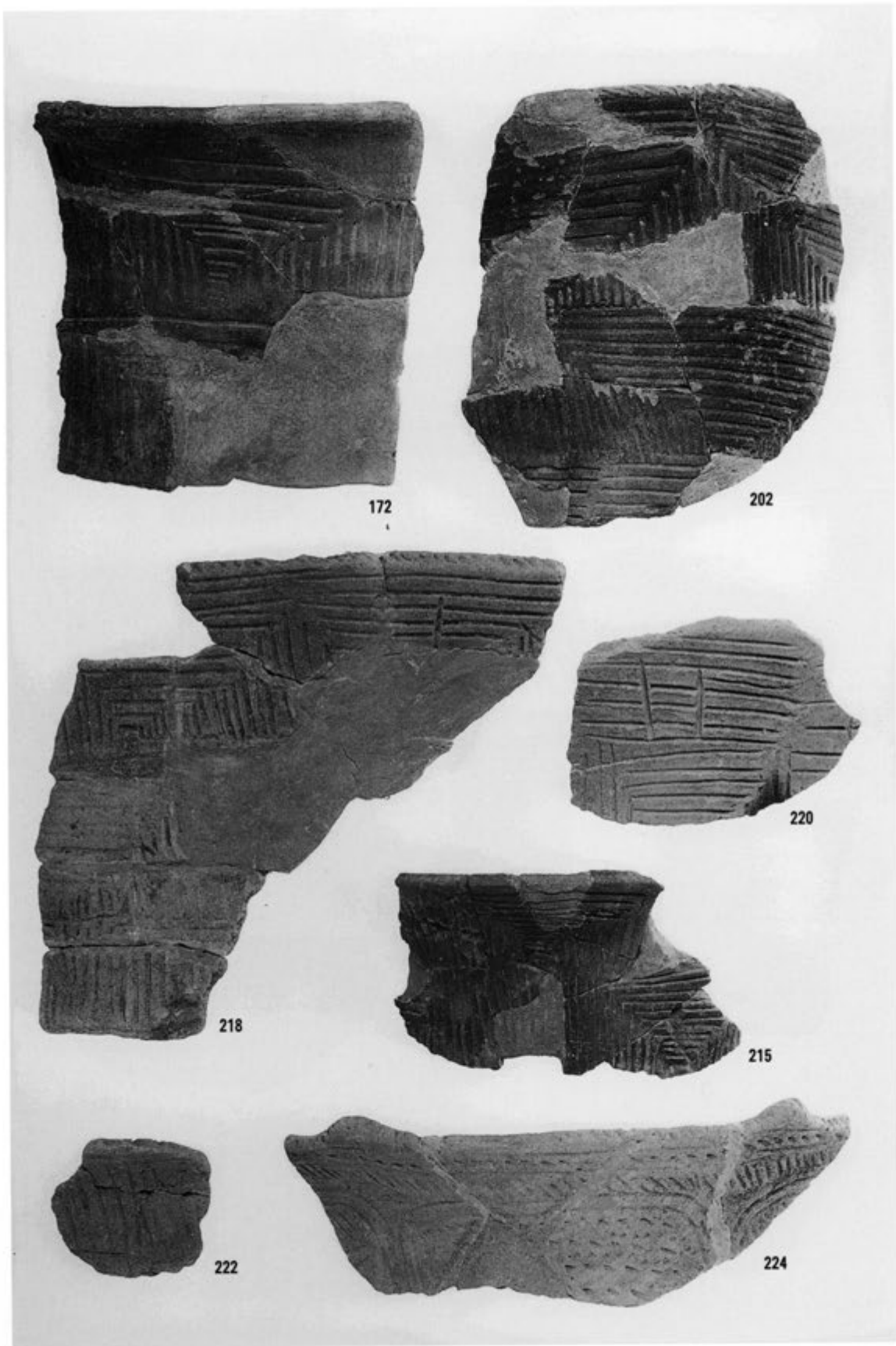
出土土器(4)



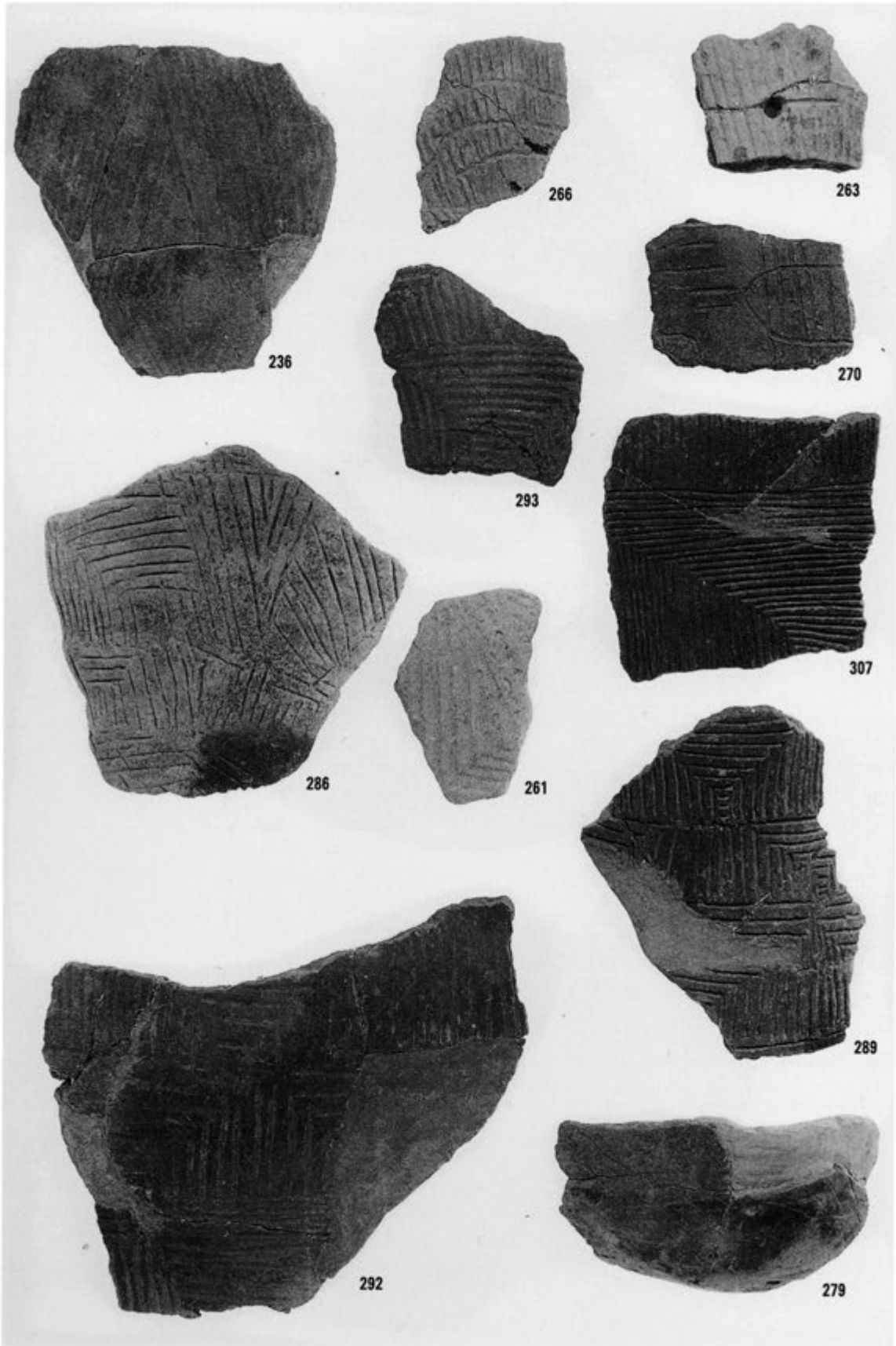
出土土器(5)



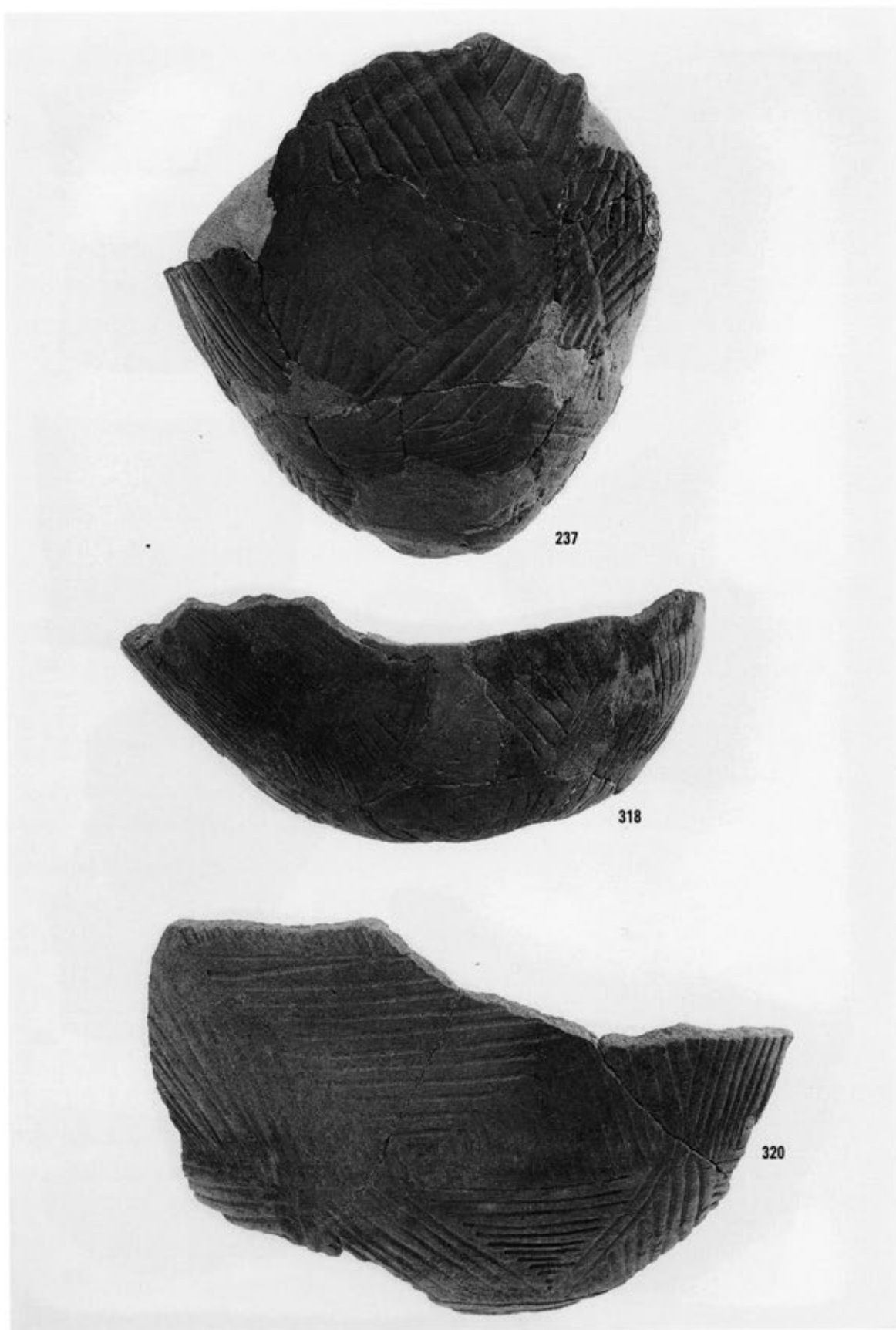
出土土器(6)



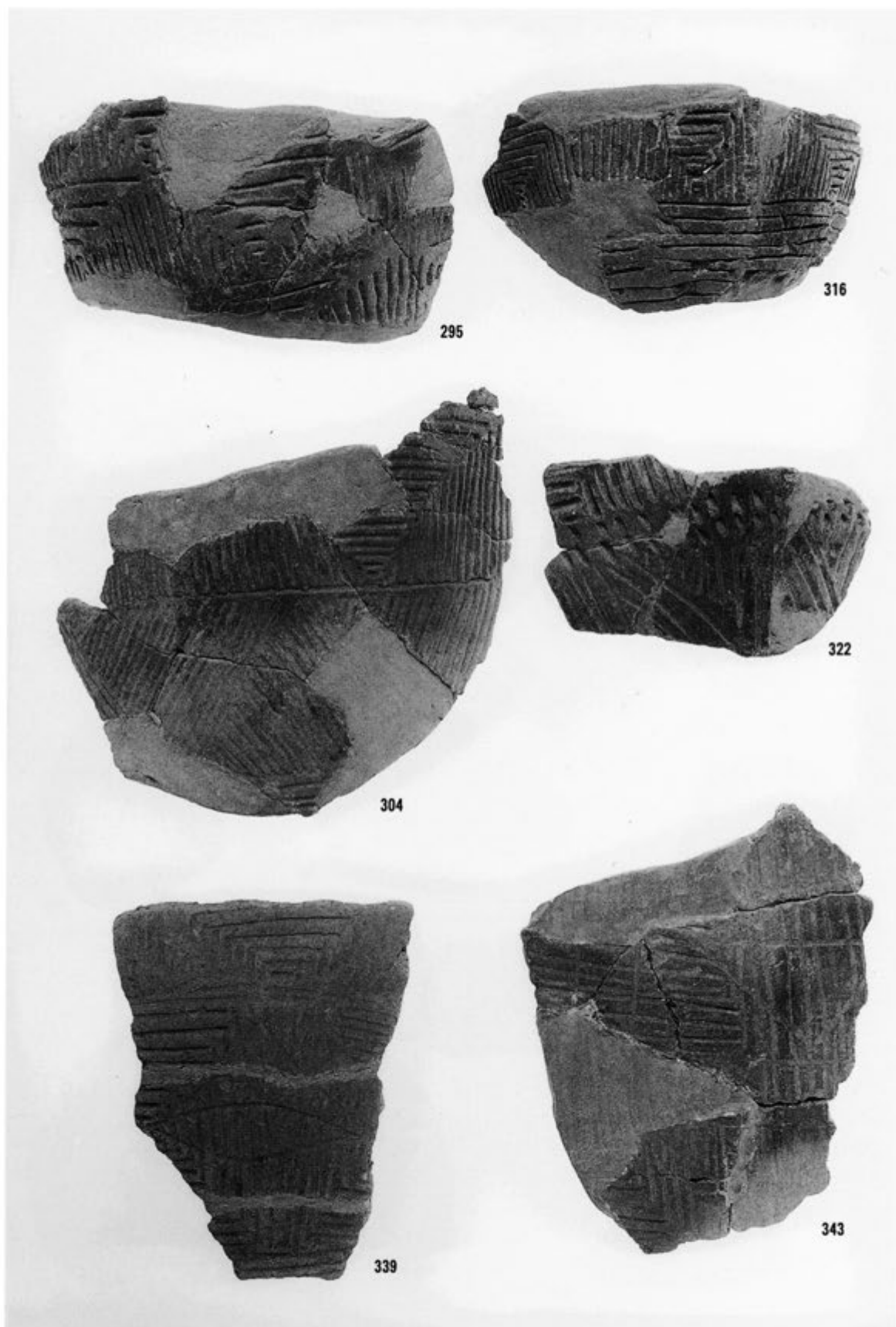
出土土器(7)



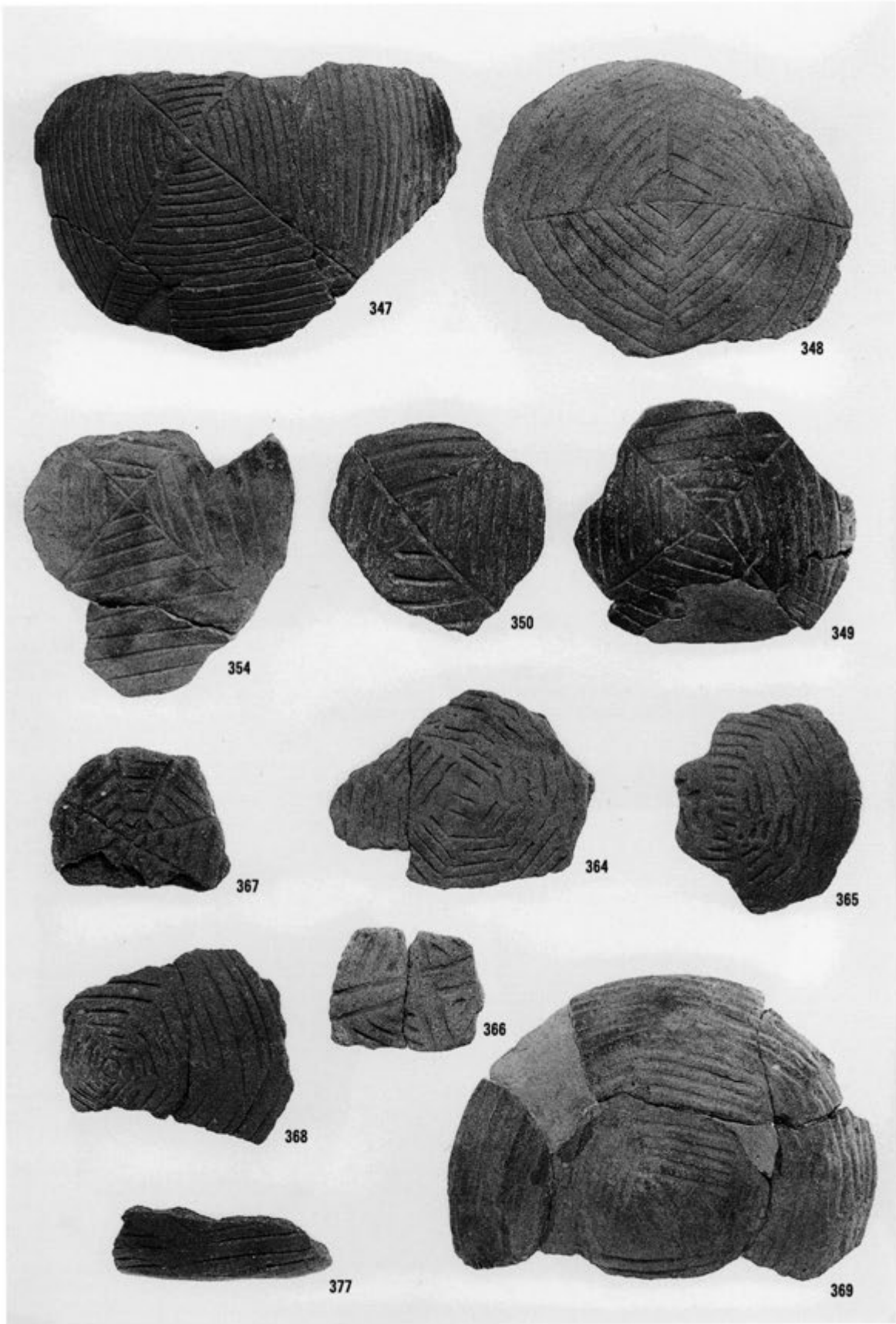
出土土器(8)



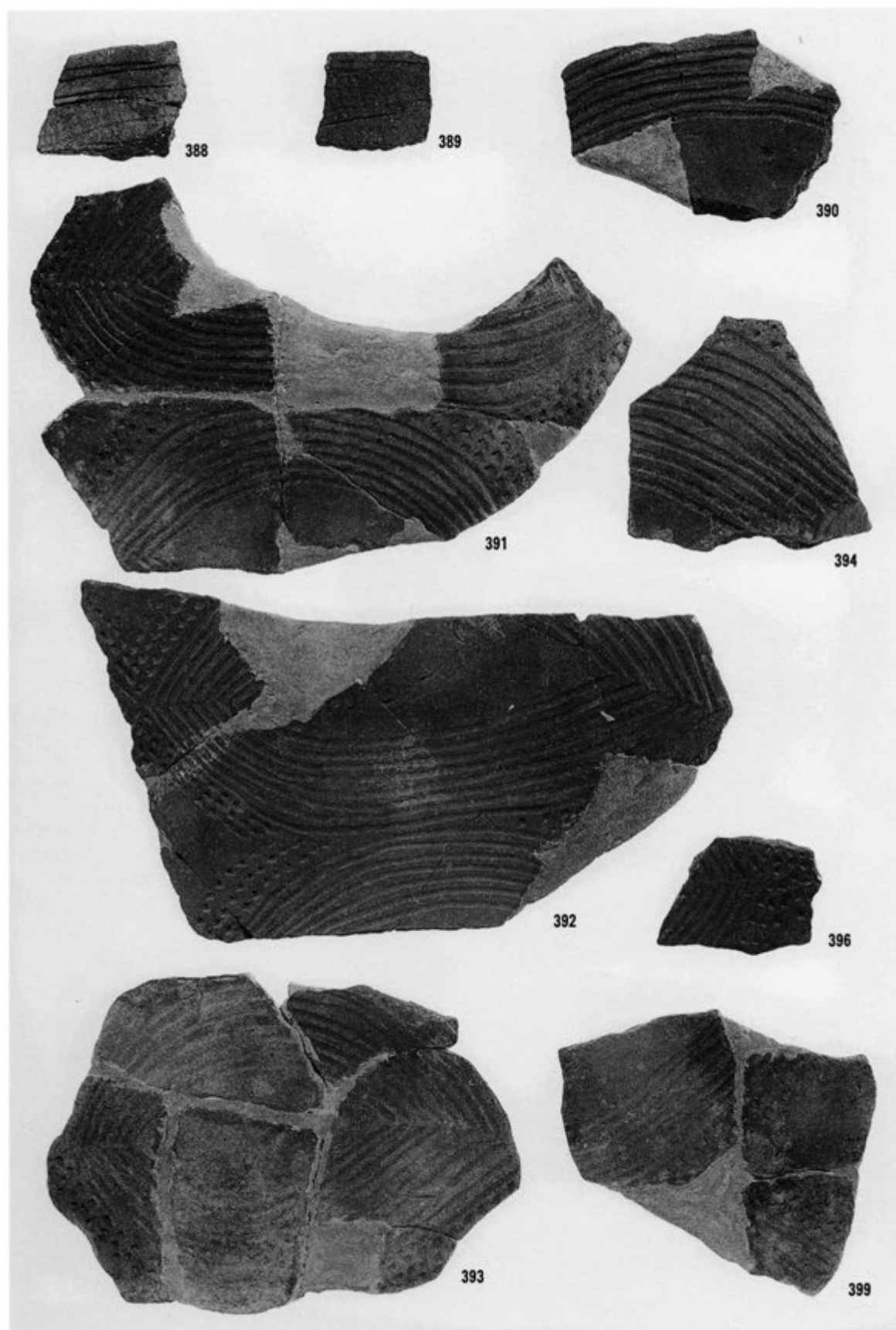
出土土器(9)



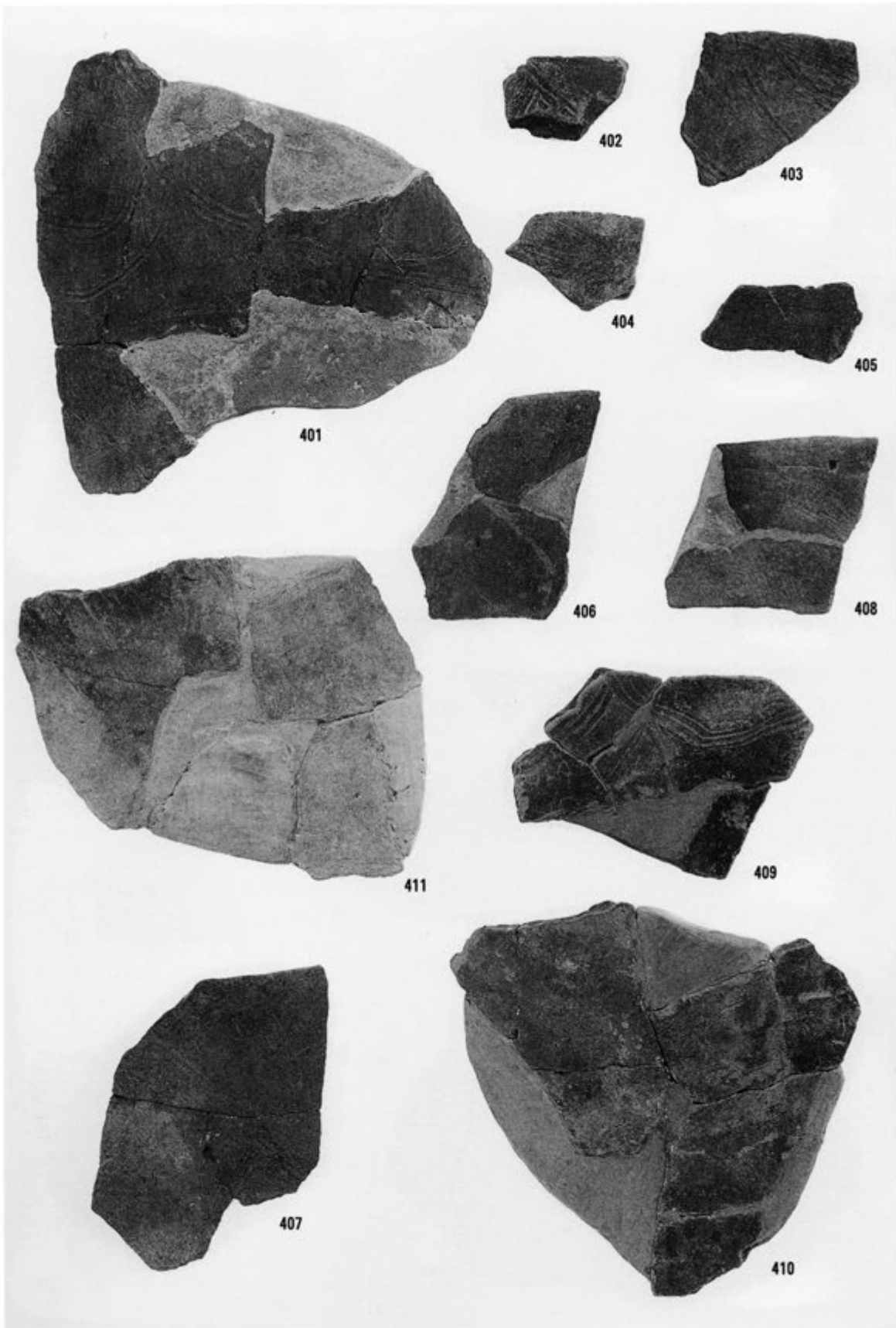
出土土器(10)



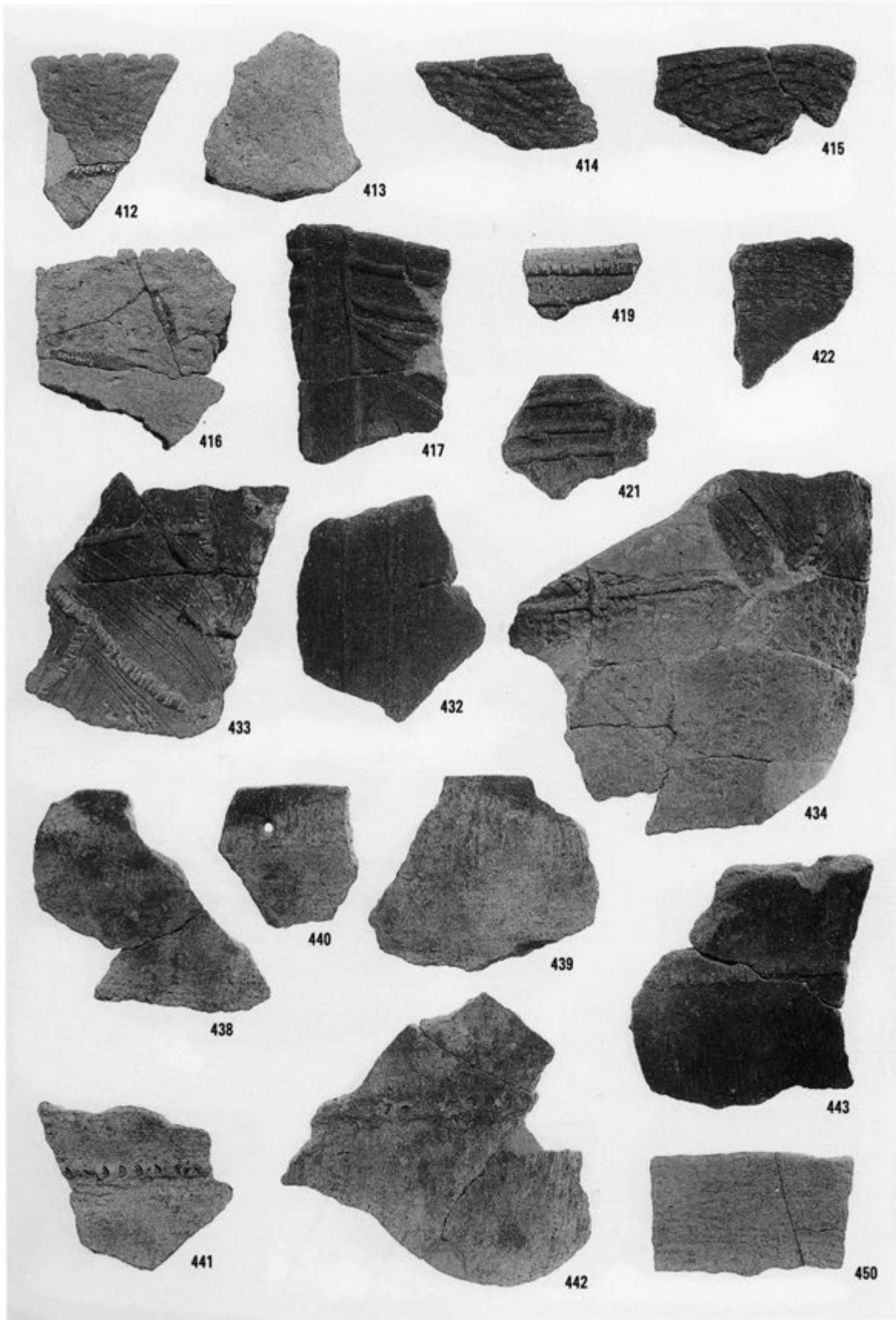
出土土器(11)



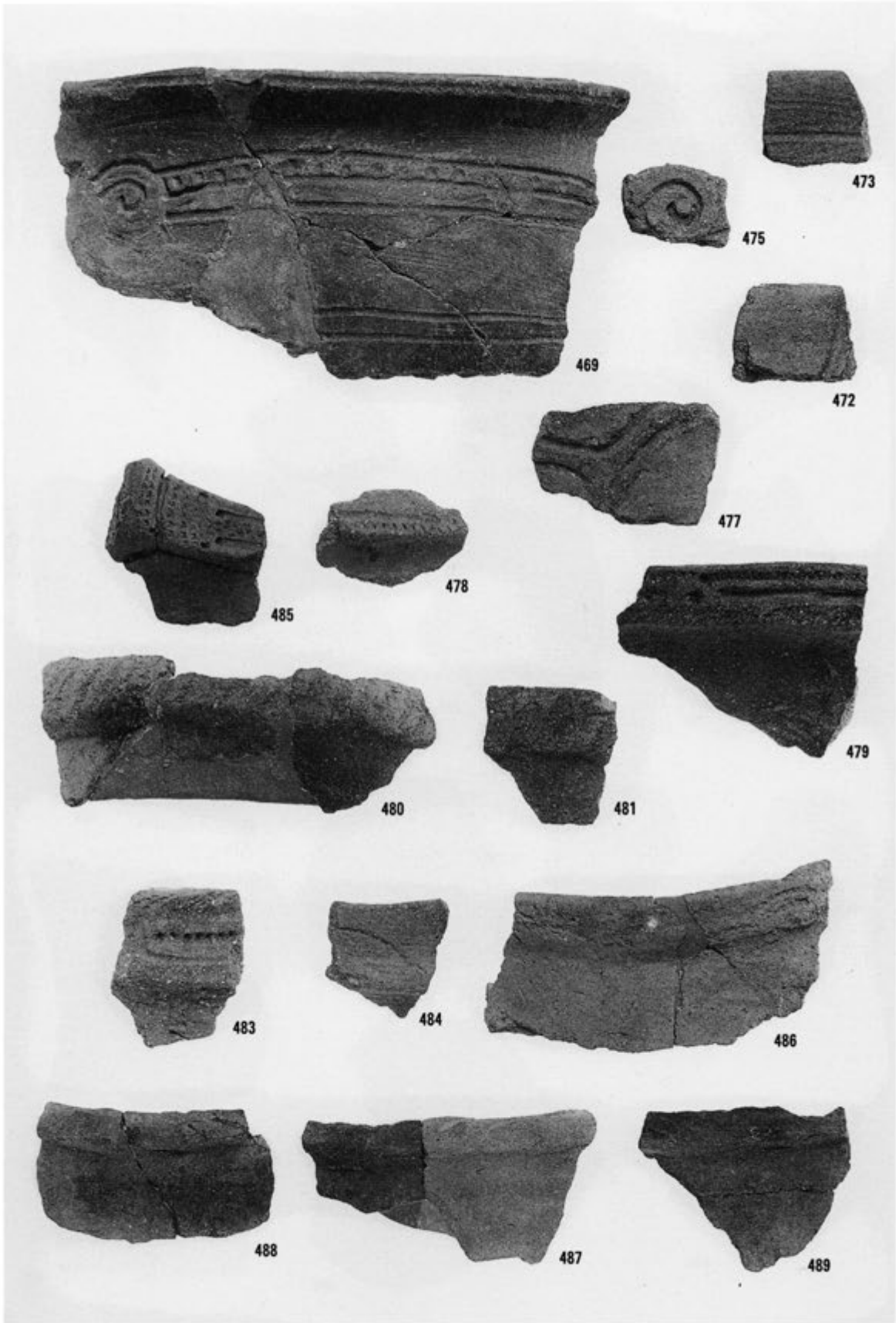
出土土器(12)



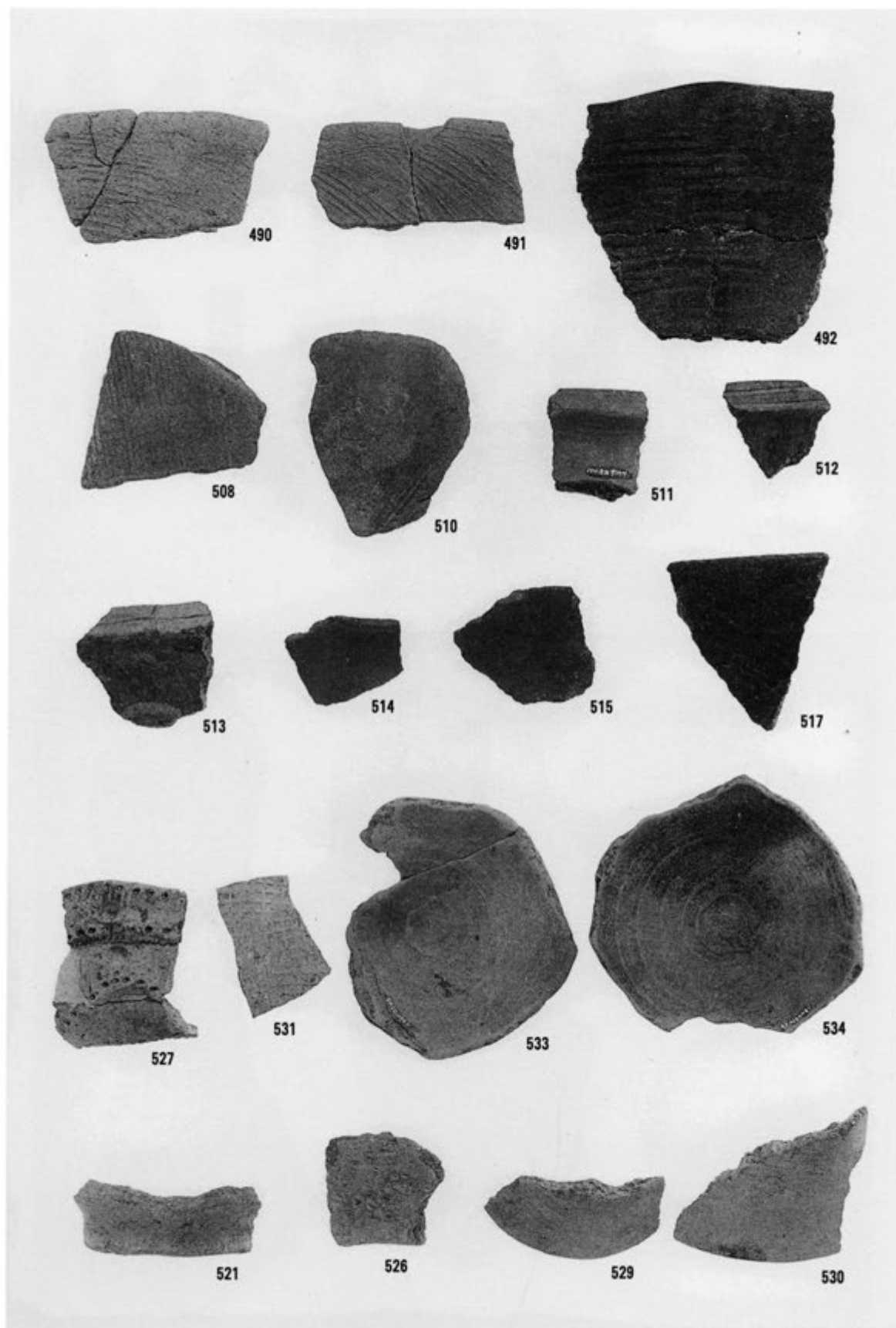
出土土器(13)



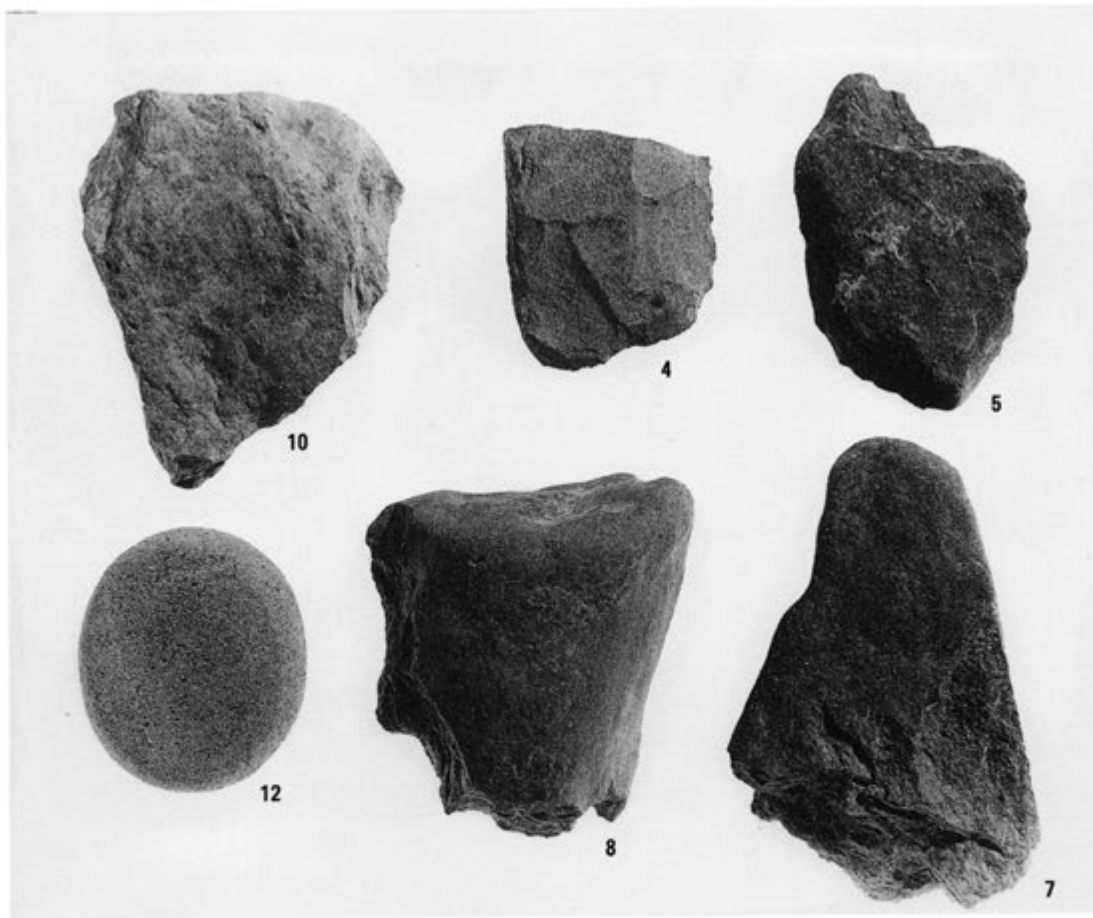
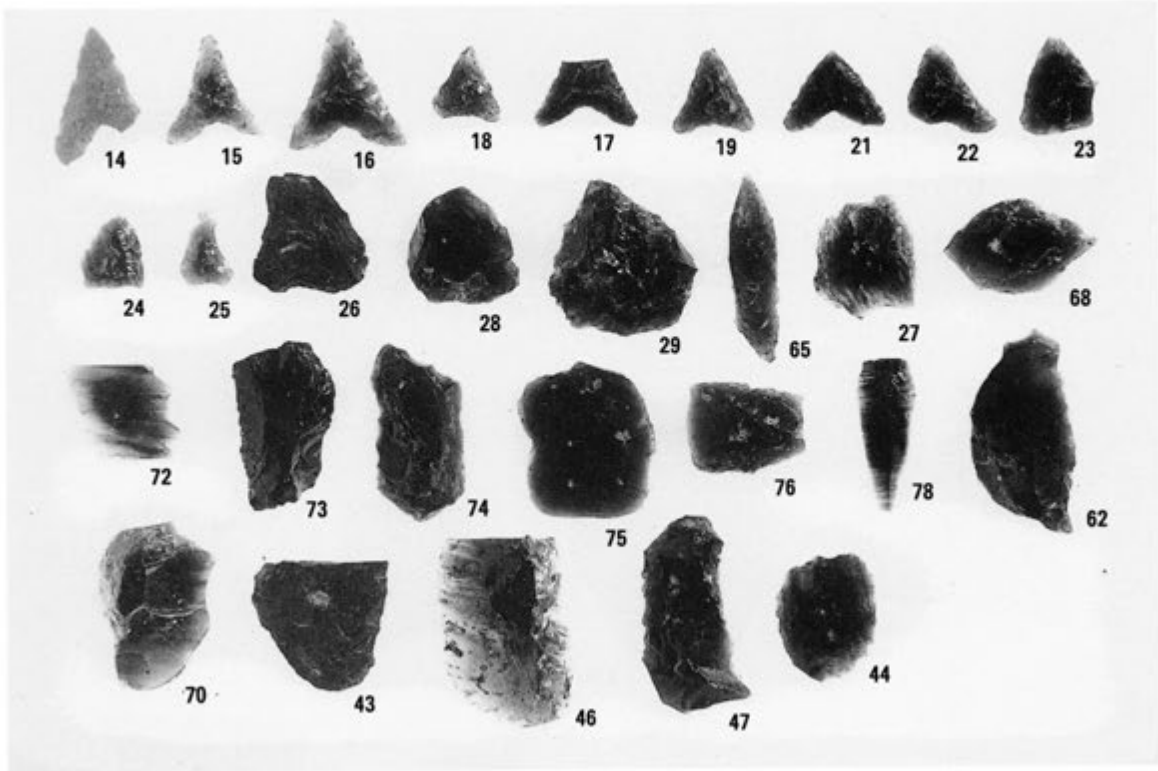
出土土器(14)



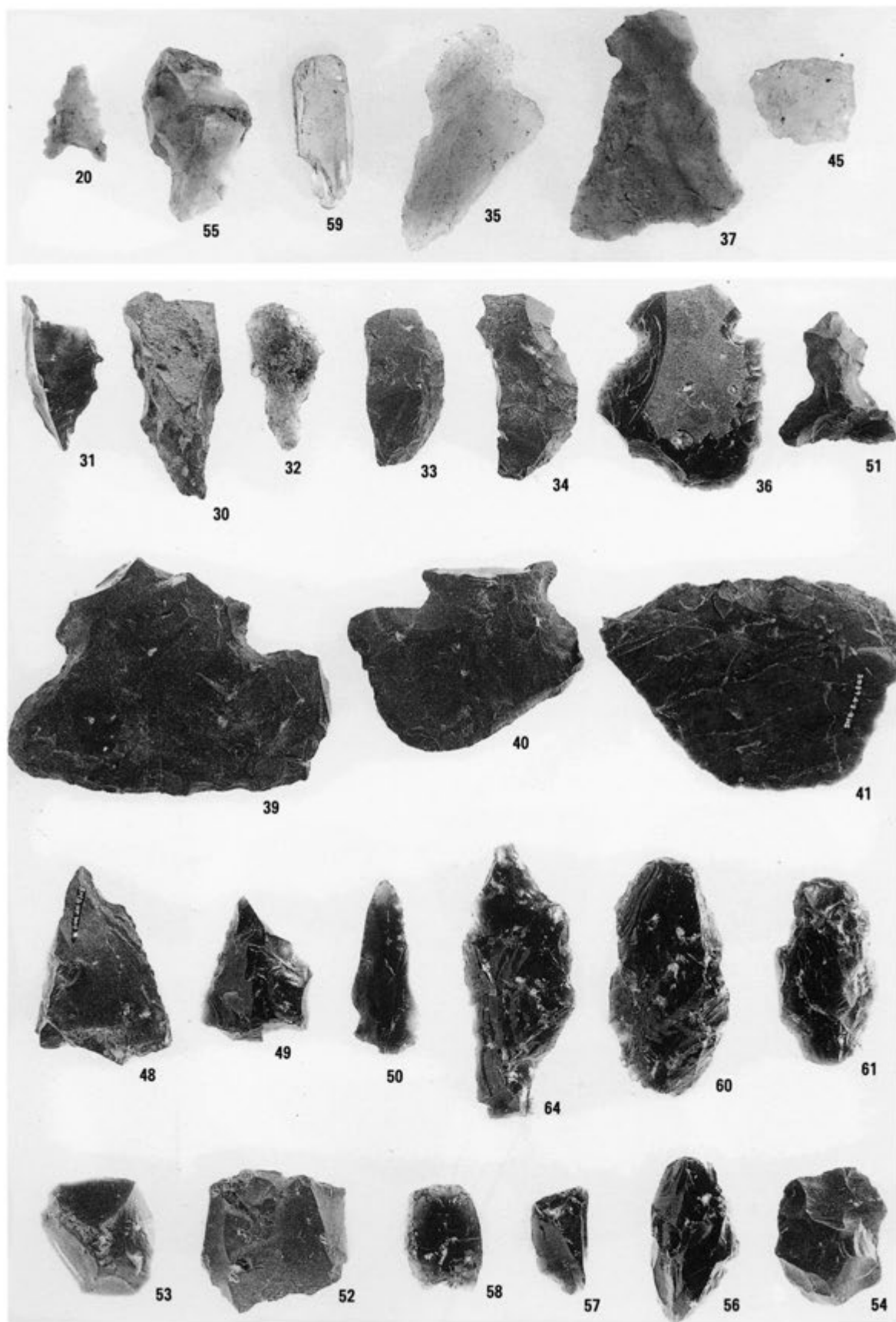
出土土器 (15)



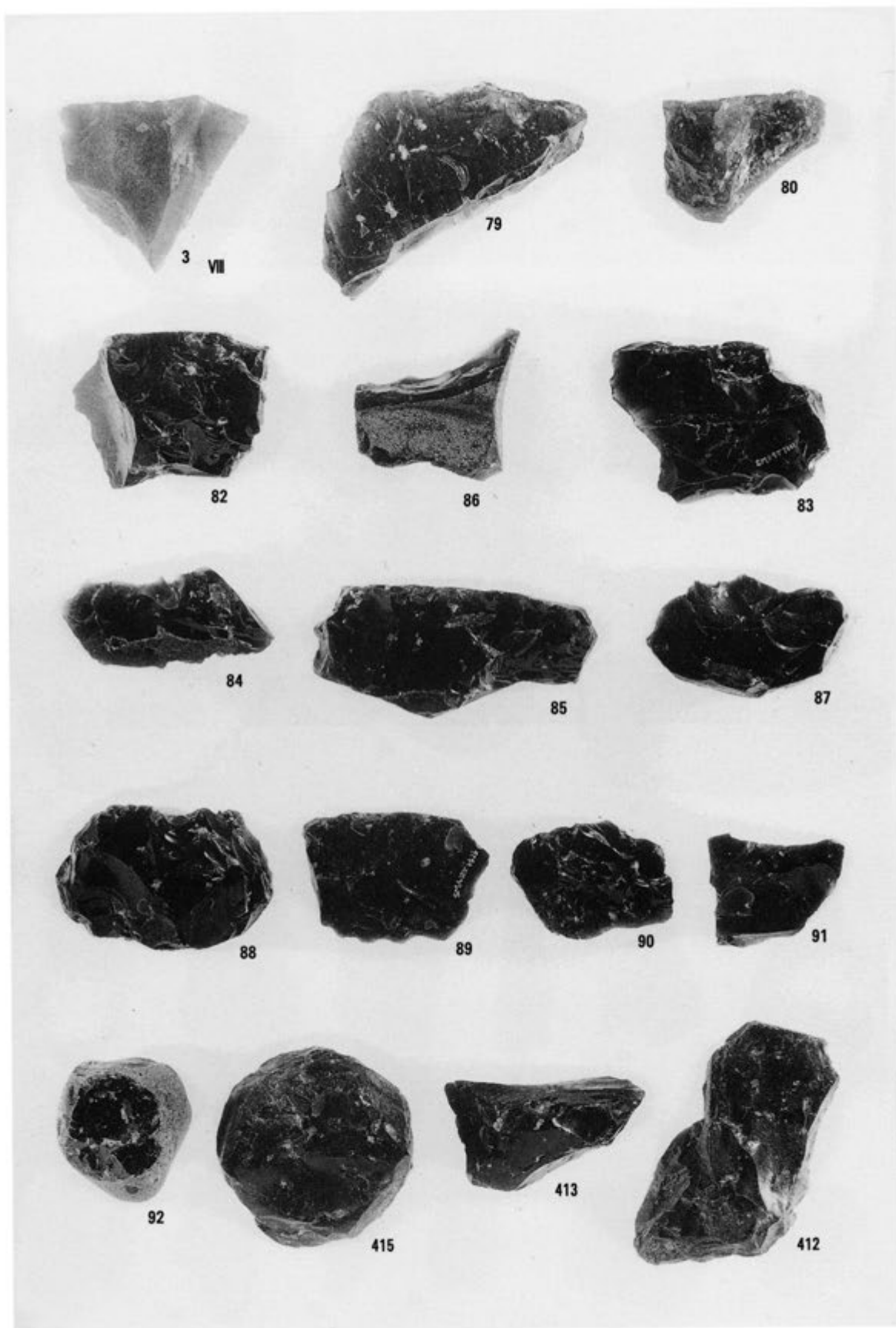
出土土器(16)



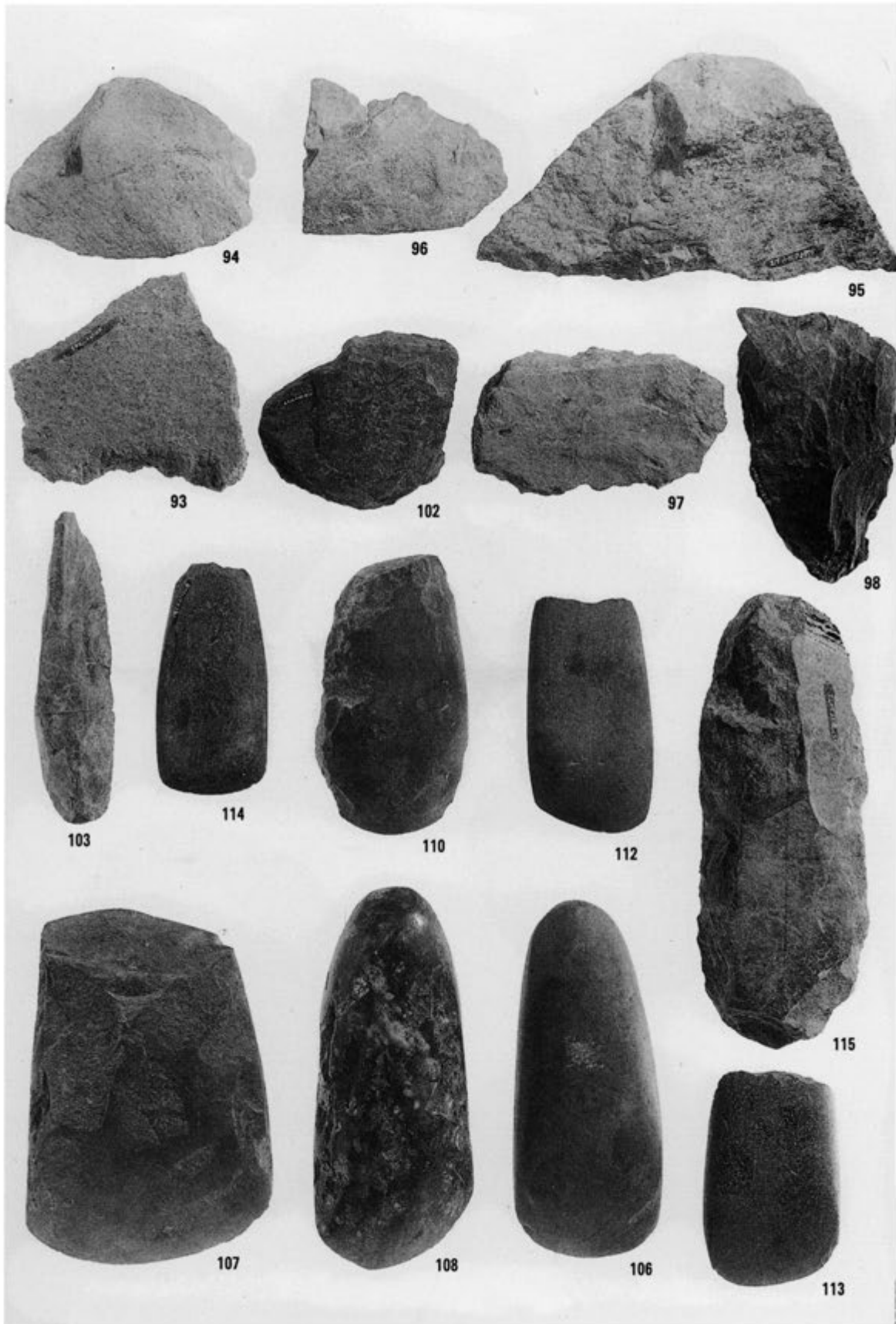
出土石器(1)



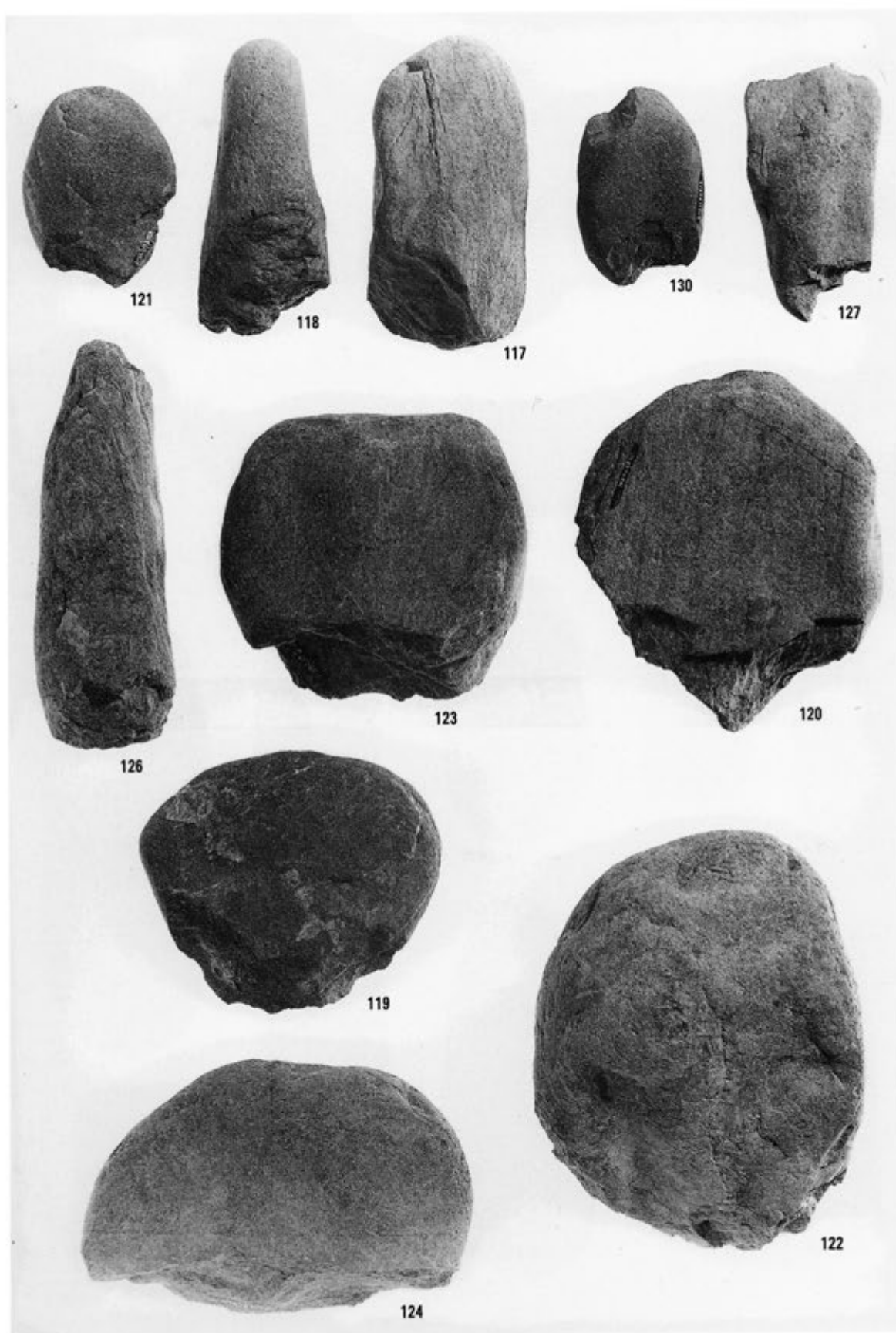
出土石器(2)



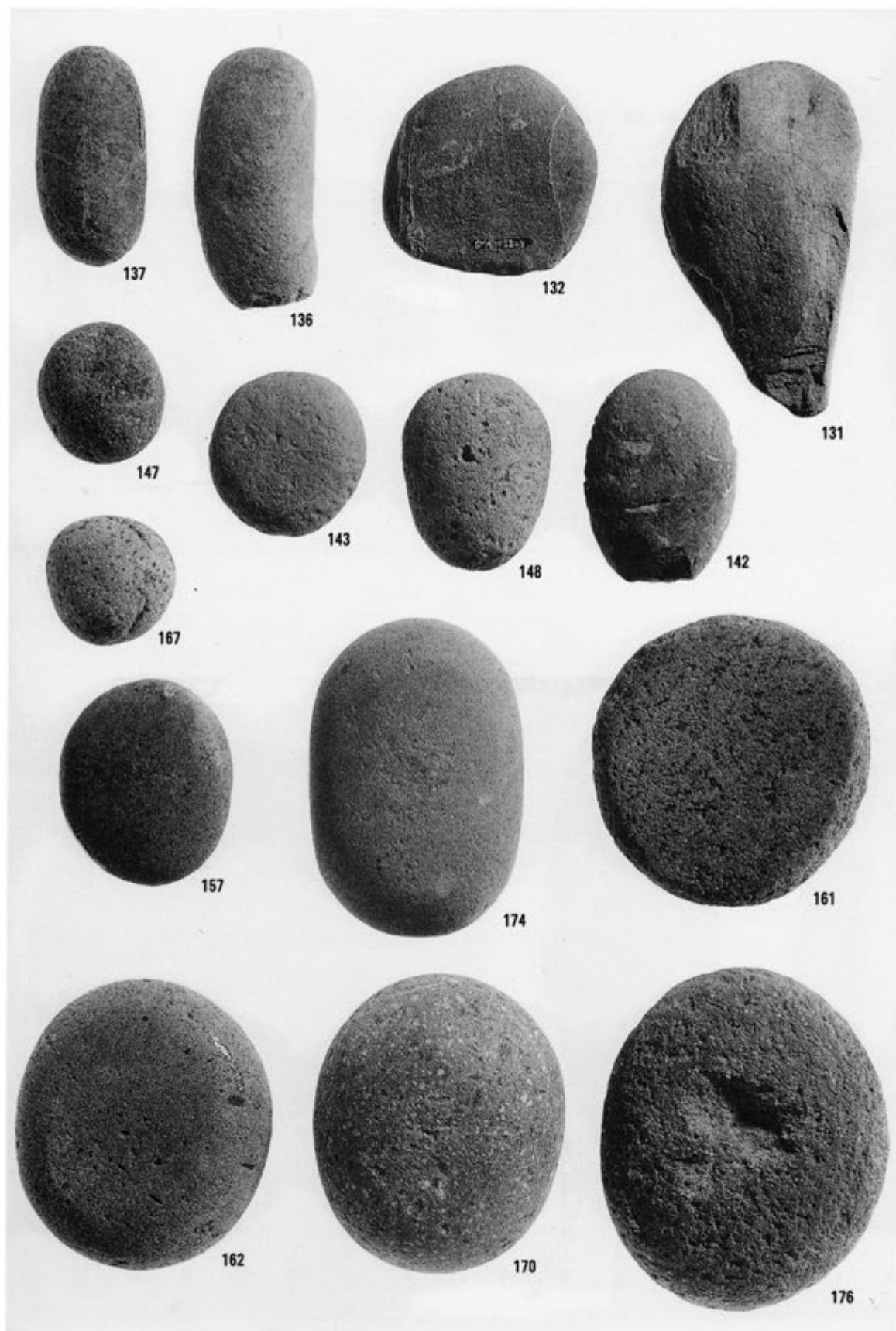
出土石器(3)



出土石器(4)



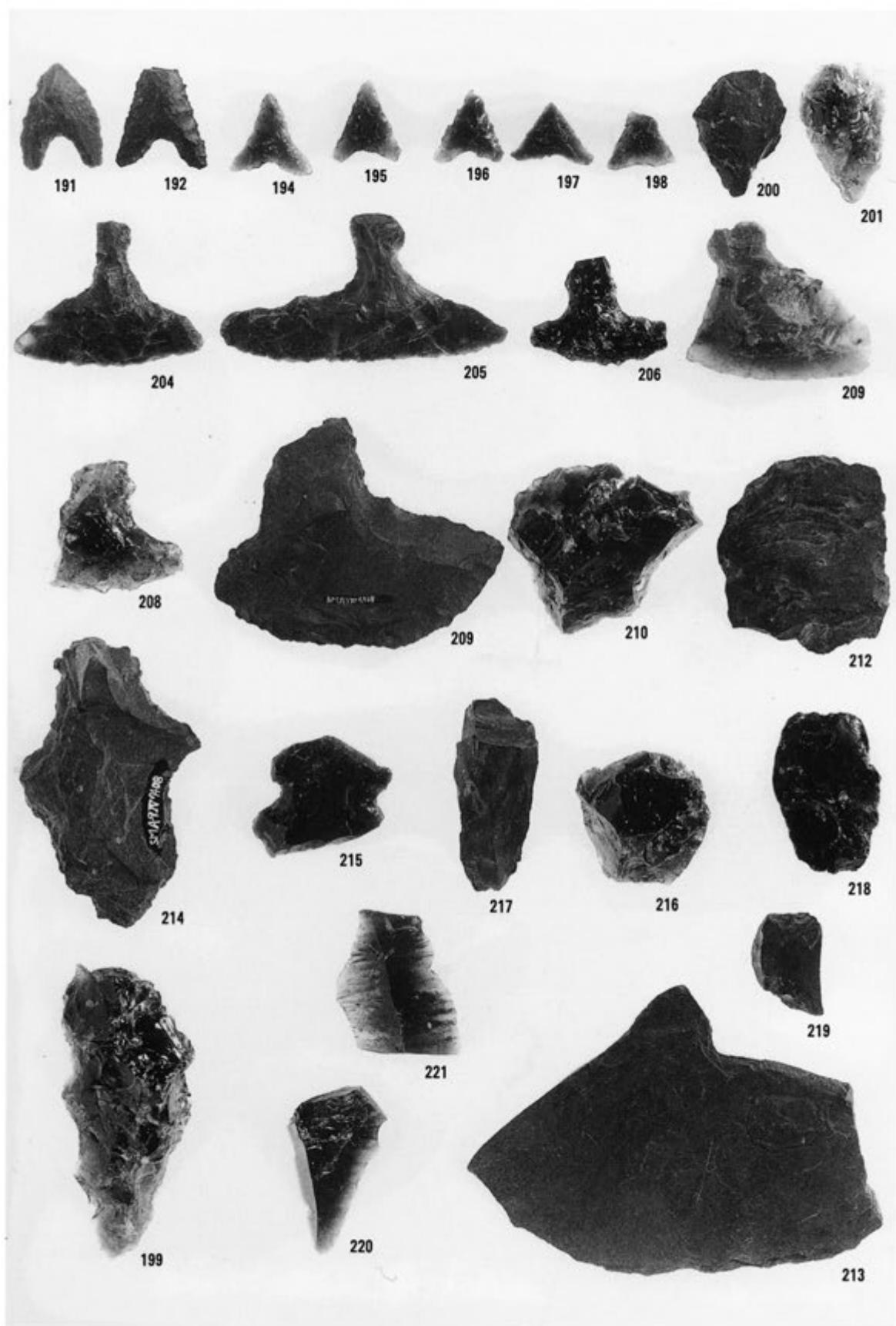
出土石器(5)



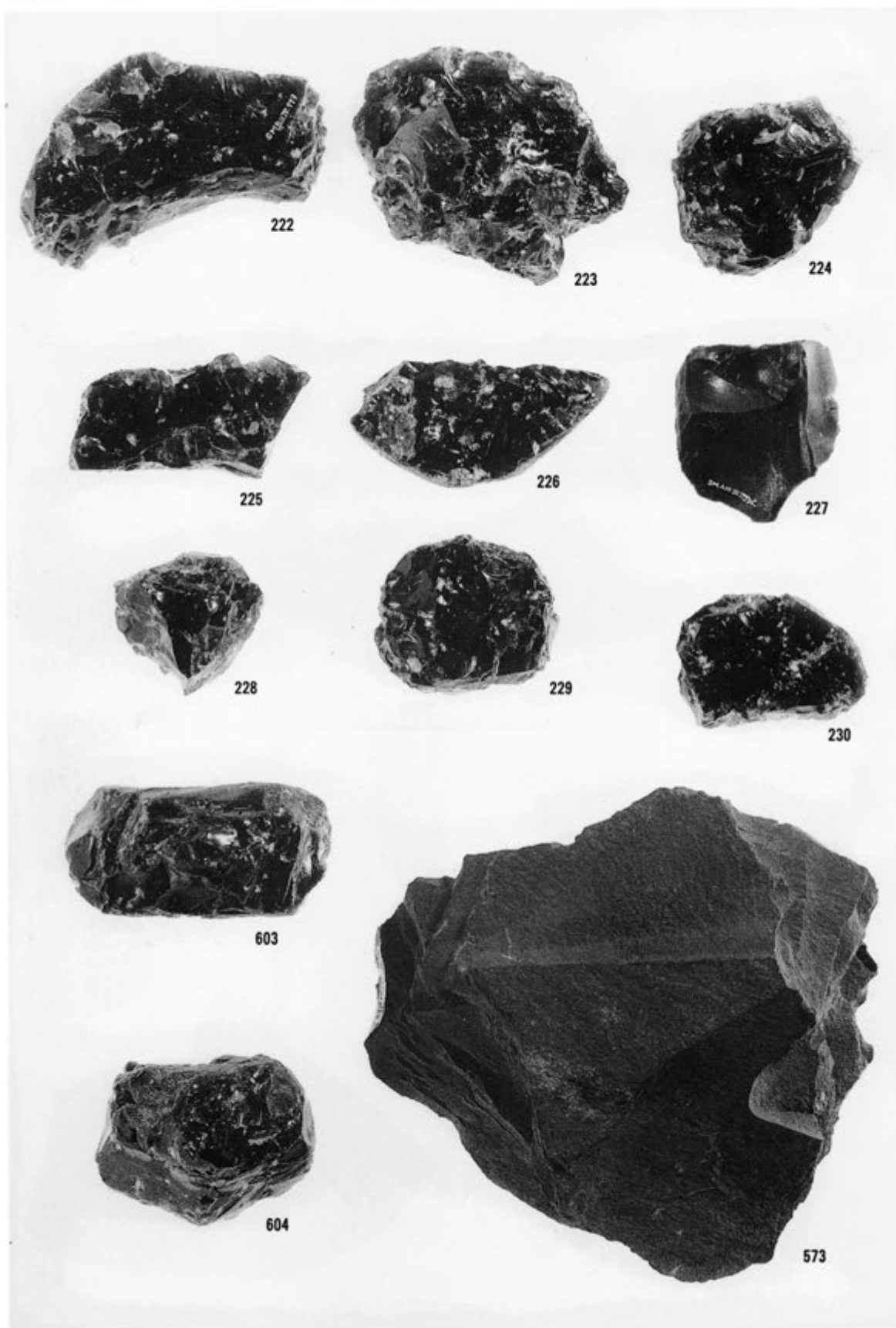
出土石器(6)



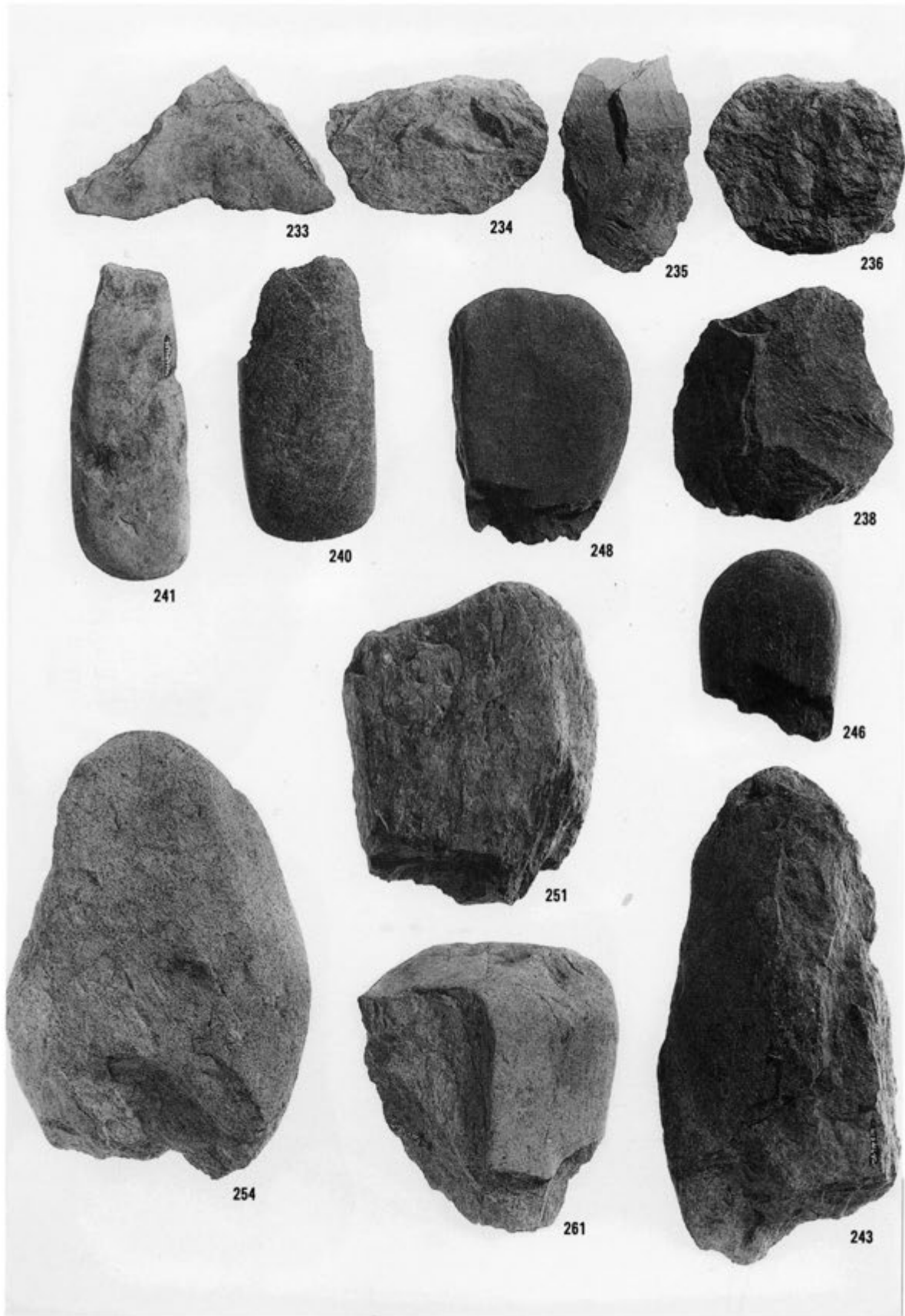
出土石器(7)



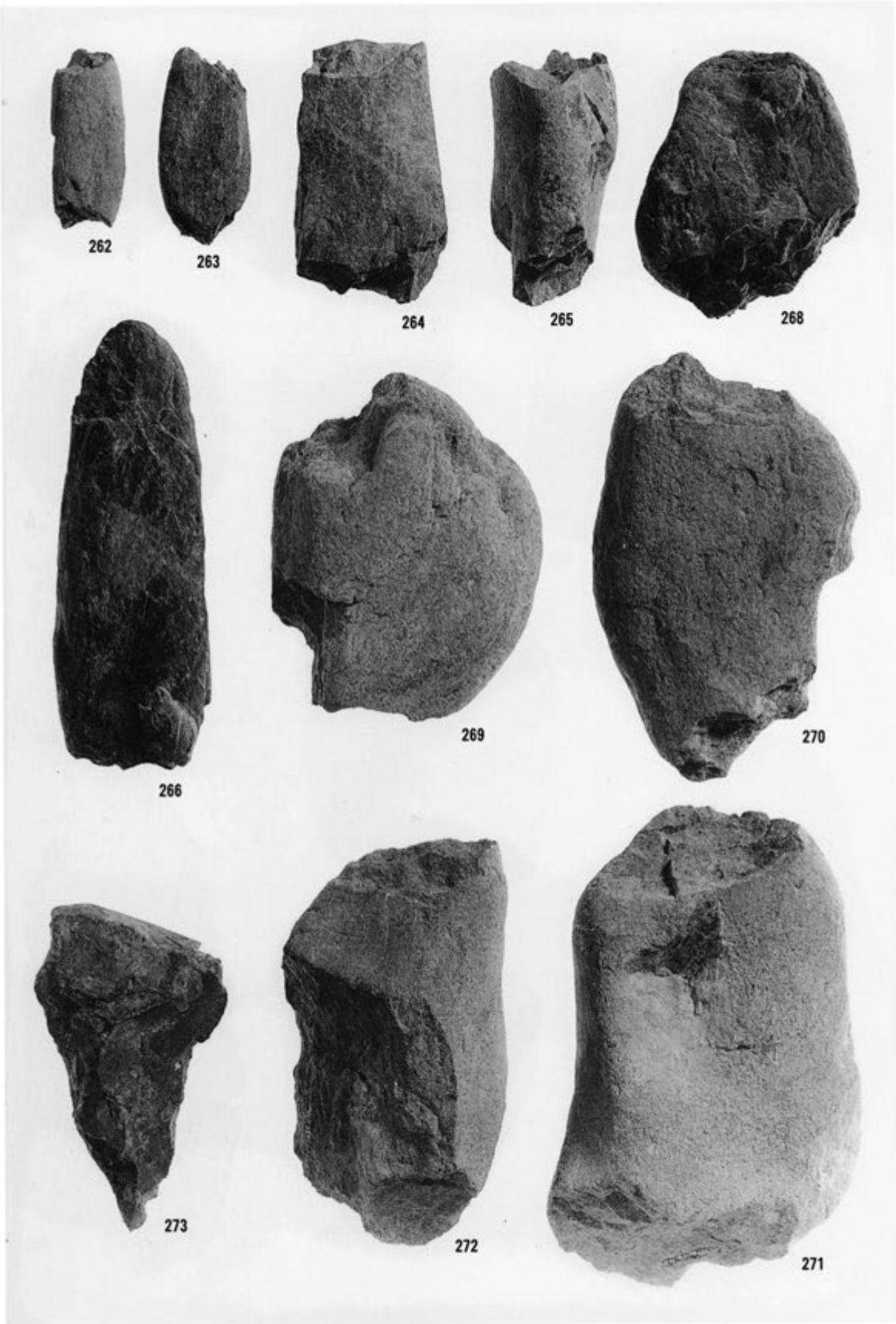
出土石器(8)



出土石器(9)



出土石器(10)



出土石器(11)

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(20)

神 野 牧 遺 跡

発行日 1997年3月31日

発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-56 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地

印刷 斯文堂株式会社
〒892 鹿児島市新屋敷町14-16
TEL 099-226-3747